

麗澤大学年報 2020

Reitaku University Annual Report

目次

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 使命・目的等 | |
| 1-1 使命・目的等 | 3 |
| 1-1-1 麗澤大学の基本理念・建学の精神 | 3 |
| 1-1-2 本学の個性・特色 | 3 |
| 1-1-3 本学の使命・目的及び教育目的の設定・反映 | 5 |
| 2. 学生 | |
| 2-1 募集広報活動 | 7 |
| 2-2 学生の受入れ | 8 |
| 2-2-1 学部 | 8 |
| 2-2-2 大学院 | 15 |
| 2-3 学修支援 | 16 |
| 2-3-1 学修支援 | 16 |
| 2-3-2 中途退学抑制 | 18 |
| 2-4 障がいのある学生への配慮 | 19 |
| 2-5 キャリア支援 | 21 |
| 2-5-1 キャリア教育 | 21 |
| 2-5-2 キャリア形成支援 | 23 |
| 2-6 学生サービス | 25 |
| 2-6-1 学生生活支援 | 25 |
| 2-6-2 経済的支援 | 29 |
| 2-6-3 課外活動支援 | 30 |
| 2-7 学生相談 | 36 |
| 2-8 学修環境の整備 | 40 |
| 2-8-1 コンピュータなどの IT 施設 | 40 |
| 2-8-2 図書館 | 41 |
| 2-8-3 課外活動施設 | 45 |
| 2-8-4 iFloor | 46 |
| 2-9 学生の意見・要望への対応 | 48 |
| 2-9-1 学生満足度調査 | 48 |
| 2-9-2 授業改善アンケート | 49 |
| 2-10 寮生活支援 | 49 |
| 2-11 外国人留学生支援 | 51 |
| 3. 教育活動 | |
| 3-1 全学共通事項 | 53 |
| 3-1-1 建学の精神・道徳に関する教育 | 53 |
| 3-1-2 日本語教育 | 53 |
| 3-1-3 教職課程 | 55 |
| 3-1-4 高大連携教育 | 58 |
| 3-2 外国語学部 | 59 |
| 3-3 経済学部 | 63 |
| 3-4 国際学部 | 65 |
| 3-5 言語教育研究科 | 69 |

| | |
|--|-----|
| 3-6 経済研究科 | 69 |
| 3-7 学校教育研究科 | 70 |
| 3-8 情報教育センター | 71 |
| 3-9 Reitaku Center for English Communication | 74 |
| 3-10 ファカルティ・ディベロップメント | 75 |
| 4. 研究活動 | |
| 4-1 全学共通事項 | 78 |
| 4-2 国際研究所 | 83 |
| 4-3 日本語教育コラボレーションセンター | 85 |
| 4-4 道徳教育推進室 | 86 |
| 5. その他の活動 | |
| 5-1 国際交流活動 | 90 |
| 5-2 社会的活動 | 94 |
| 5-3 生涯教育活動 | 95 |
| 5-4 地域連携活動 | 96 |
| 6. 経営・管理と財務 | |
| 6-1 事務組織 | 99 |
| 6-2 学内委員会 | 100 |
| 6-3 財務 | 108 |
| 資料編 | |
| 1. 教員の構成 | 114 |
| 2. 学生の構成 | 117 |
| 3. 施設・設備 | 130 |
| 4. 2020 年度入試結果及び入学状況 | 136 |
| 5. 就職支援 | 141 |

1. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1-1 使命・目的等

1-1-1 麗澤大学の基本理念・建学の精神

麗澤大学は、法学博士・廣池千九郎が昭和 10(1935)年 4 月に開設した道德科学専攻塾を出発点としている。廣池千九郎は、世界の諸聖人の思想を中心とする道德の科学的研究を行い、世界の平和と人類の幸福に貢献する総合的人間学として、モラロジー(Moralogy, 道德科学)を創建した。その研究を基礎とし、「人類間における最も有用な人間」を育成することを目的として「モラロジー大学」の設立を目指した。そこでの教育・研究の根本精神は、「大学の道は明德を明らかにするに在り」とされた。その意味するところは「人間の最高品性の完成は、純粹正統の学問と正統の教育によってのみ達せられる。すべての人類に普遍的な道德の最高原理に基づいた教育を行い、その精神の上に現代の科学と知識を十分に修得させる知徳一体の人材の養成を使命とする」というものである。

すなわち麗澤大学は、創立者廣池千九郎が提唱したモラロジーに基づく知徳一体の教育を基本理念とし、学生の心に仁愛の精神を培い、その上に現代の科学、技術、知識を修得させ、国家、社会の発展と人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人材を育成することを目的としている。

この理念は現在も引き継がれており、麗澤大学学則第 1 条には「麗澤大学は、廣池千九郎の教学の精神に基づき、教育基本法に則り大学教育を通じて世界の平和と人類の幸福の実現に貢献するため、この学則の定めるところによって研究・教授を行い、円満な知徳と精深な学芸、特に世界的・国際的識見を備えた有能な人材を養成することを目的とする」と定められている。

現在ではそれを「小規模であること。国際性豊かであること。それにこだわり続けること。」という学長メッセージに籠めている。これは小規模だからこそ、学生を主人公とし、自立力を育て、きめ細かい就職活動・キャリアサポートを通じてそれぞれの人生を実現する手助けをすることや、留学生との交流や世界とつながることによって、タフで変化に立ち向かうグローバルマインドを養うことができるという考え方に基づいている。

1-1-2 本学の個性・特色

本学の個性・特色は、知識と道德はひとつに調和すべきであるという「知徳一体」の理念の下、国際性にこだわり、小規模にこだわる教育により、高い専門性と道德性を有し、自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる国際的教養人の育成にある。

本学は、創立以来、上述した基本理念・建学の精神に基づき、使命・目的の達成に努め、「品性教育・人格教育に重点を置いた知徳一体の教育」と「実生活に益する学問・実地的な専門技能の尊重」の 2 点を教育の柱としてきた。

「品性教育・人格教育に重点を置いた知徳一体の教育」の面では、「師弟同行同学」による人格的感化を目指し、広大な自然環境の中での「全寮制」、「教職員の学園内共住」、「少人数教育」の方法を伝統的にとってきた。教職員の学園内共住及び全寮制こそ廃止したものの、自然豊かなキャンパスの中に日本人学生・留学生共住の国際寮(Global Dormitory)を有するとともに、小規模だからこそ実現できる「少人数教育」等にその特徴を受け継いでいる。

更には、創立者廣池千九郎が確立を試みた学問体系としての「道德科学」を共通の基盤として、「知徳一体」の教育理念に基づき、「道德科学 A・B」(各 2 単位)を全学で必修科目としていることも本学の大きな特色と言

える。

「実生活に益する学問・実地的な専門技能の尊重」の面では、創立当初より外国語教育に重点を置き、独自の集中的少数教育を進めてきた。これは、職業活動に直接役立つという実践的な観点もさることながら、人間を偏狭な知識や独善的な文化観から解放するという観点からも外国語を学ぶことが極めて有効であると考えた創立者の理念の表れである。

例えば、国際的な教養を身近に学ぶ取組みとして、令和元(2019)年にはラーニングコモンズの一つとして“iFloor”という自主的に自由に外国語のスキルを磨くフロアをリニューアルした。また、「Conversation Partnership」というプログラムをスタートさせ、学内での国際交流の場を増やした。自立力を育てる教育としては、「自主企画ゼミナール」にて、学生自らが学ぶテーマと担当する教員を選び、学習計画を立て、学びを進める独自の制度を採用しており、「麗澤・地域連携実習」では PBL を実践し、麗澤大学ウェブサイトや入学案内パンフレットで活動を紹介している。

社会情勢などの変化への対応としては、2011年に、本法人が設置する各校の更なる充実・発展を目指した将来像を構想する委員会を設置し、学園創立100周年(2035年)に向けて、創立時の理念に立ち返った上で、教職員全員でビジョン、使命の再確認を行い、2013年には、中期計画を策定し、2017年度までの中期計画の具体的なアクションプランを掲げ、様々な見直しと取組みを行っている。また、2013年にはグローバル戦略会議を設置し、カリキュラムにおける留学・短期研修等の位置付け等をはじめとするグローバル人材育成のための戦略も検討した。そして、2019年7月には使命・目的及び教育目的を反映させた Reitaku University Vision 2035 を策定した。

以上とおり、本学は社会情勢などの変化に対応しながら、学部・研究科の増設など、表1に示すような発展を遂げてきた。

表1 沿革

| | |
|--------------|---|
| 昭和 10(1935)年 | 道徳科学専攻塾 開塾 |
| 昭和 17(1942)年 | 東亜専門学校 開校 |
| 昭和 19(1944)年 | 東亜外事専門学校に改称 |
| 昭和 22(1947)年 | 千葉外事専門学校に改称 |
| 昭和 25(1950)年 | 麗澤短期大学(英語科)開学 |
| 昭和 34(1959)年 | 麗澤大学(外国語学部イギリス語学科、ドイツ語学科)開学 |
| 昭和 35(1960)年 | 中国語学科 設置 |
| 昭和 47(1972)年 | 麗澤日本語学校 開校 |
| 昭和 51(1976)年 | 別科日本語研修課程 設置 |
| 昭和 61(1986)年 | イギリス語学科を英語学科に改称 |
| 昭和 63(1988)年 | 日本語学科 設置 |
| 平成 4(1992)年 | 国際経済学部(国際経済学科、国際経営学科)設置 |
| 平成 8(1996)年 | 大学院 設置(言語教育研究科日本語教育学専攻 [博士課程(前期)]) (国際経済研究科経済管理専攻、政策管理専攻 [修士課程]) |
| 平成 10(1998)年 | 大学院博士課程 設置(言語教育研究科日本語教育学専攻[博士課程(後期)]) (国際経済研究科経済・政策管理専攻[博士課程]) |
| 平成 11(1999)年 | 国際経済学部国際産業情報学科 設置 |
| 平成 13(2001)年 | 言語教育研究科比較文明文化専攻 [博士課程(前期・後期)] 設置 |
| 平成 18(2006)年 | 言語教育研究科英語教育専攻 [修士課程] 設置、麗澤オープンカレッジ開校 |
| 平成 20(2008)年 | 外国語学部英語学科、ドイツ語学科、中国語学科、日本語学科を外国語学科に改組、 国際経済学部(国際経済学科、国際経営学科、国際産業情報学科)を経済学部(経済学科、経営学科)に改組 |
| 平成 24(2012)年 | 国際経済研究科(経済管理専攻 [修士課程]、政策管理専攻 [修士課程]、経済・政策 |

| | |
|--------------|---|
| | 管理専攻 [博士課程])を経済研究科(経済学専攻 [修士課程]、経営学専攻 [修士課程]、経済学・経営学専攻 [博士課程])に改組 |
| 平成 30(2018)年 | 麗澤大学大学院学校教育研究科(道徳教育専攻 [修士課程])設置 |
| 令和 2(2020)年 | 国際学部(国際学科、グローバルビジネス学科)設置、言語教育研究科英語教育専攻[修士課程]及び比較文明文化専攻[博士課程(前期)]廃止、経済研究科経済学専攻[修士課程]廃止 |

1-1-3 使命・目的及び教育目的の設定・反映

本学は、上述した使命を受け継ぎ、「麗澤教育の理念」を次のとおり定めている。

<麗澤教育の理念>

麗澤教育は、創立者廣池千九郎が提唱した「道徳科学」(モラロジー)に基づく「知徳一体」の教育を基本理念とし、学生生徒の心に仁愛の精神を培い、その上に現代の科学、技術、知識を修得させ、国家、社会の発展と人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人物を育成する。

更に、「麗澤教育のめざす人間像」を次のとおり定めている。

<麗澤教育のめざす人間像>

1. 大きな志をもって真理を探求し、高い品性と深い英知を備えた人物
1. 自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物
1. 自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物

上述した教育理念を果たすために、「学校法人廣池学園寄附行為」第3条(目的)には、「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、かつ道徳科学の教育理念に基づき学校教育を行い、国家、社会の発展と人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人材を育成することを目的とする。」と定めている。

また、上述したとおり 2019 年には、使命・目的及び教育目的を反映させた Reitaku University Vision 2035 を策定した。ありたき姿として「世界と地域から真に存在が期待されるコンパクトだがキラリと光大学」を掲げ、「経営戦略」「教育戦略」「出口戦略」「募集・広報戦略」「グローバル戦略」「研究戦略」を定めた。2020 年には、各戦略の具現化のため、中期計画として 2021 年度から 2022 年度までの 3 年間の具体的なアクションプランを策定し、「小規模にこだわる。国際性にこだわる。」をスローガンに、国際学部新設を契機に、グローバル教育の更なる強化・推進を打ち出している。

内部質保証のためのチェックリスト

使命・目的及び教育目的に大学の個性・特色を反映し、明示しているか

・ 令和 3 年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書 P5

<https://www.reitaku-u.ac.jp/reitaku-campus/dormitory/>

<http://cpap01.adntd1.ds.reitaku->

[u.ac.jp/SystemD/CPlan/IntegratedMenu/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensakuTogoMenu.aspx](http://www.reitaku-u.ac.jp/SystemD/CPlan/IntegratedMenu/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensakuTogoMenu.aspx)

<https://www.reitaku-u.ac.jp/global/ifloor/>

<https://www.reitaku-u.ac.jp/global/conversation-partnership/>

<https://www.reitaku-u.ac.jp/campuslife/leader-seminar/>

☑社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか

- ・社会情勢などの変化への対応として改組を実施してきた。沿革を参照。

<https://www.reitaku-u.ac.jp/about/history/>

☑使命・目的及び教育目的を中長期的な計画に反映させているか

- ・ Reitaku University Vision2035
- ・ 麗澤大学中期計画(2020-2022)

2. 学生

2-1 募集広報活動

2-1-1 目的・目標

- (1) 入試区分に応じたきめ細かい施策により、志願者増加と適正な入学者確保を図る。
- (2) ブランディング戦略の効果を把握し、合理的な広報施策を展開する。

2-1-2 本年度の活動

(1) 学部志願者を対象とするもの

1) 知名度向上の取り組み

① プレスリリースの計画的実施

「教育」「国際」「道徳」「地域貢献」を配信強化資源と位置づけ、その他に各種イベントなど配信対象とし実施した。総配信数は31件。

② インターネット広告実施

③ 受験情報誌に大学ページ掲載

④ 受験情報サイトに大学ページ掲載

2) 集客力(募集力)向上の取り組み

① コンテンツ(紙媒体)制作

入学案内、入試ガイド、入試問題集、Make One、Reitaku Journal など

② コンテンツ(WEB媒体)制作

大学公式サイト、受験生用サイト「Reitaku Journal」

③ 動画コンテンツの制作

④ DM 発送による大学紹介・イベント周知

⑤ SNS による情報発信

⑥ 高校訪問実施：ターゲットとする高校を2期訪問。対象校は231校。

⑦ 塾訪問実施：募集中心エリアのターゲットとする塾を2期訪問。対象校は54校。

3) 満足度向上の取り組み

① 来場型オープンキャンパス実施：6回、WEBオープンキャンパス実施：6回

② 合格者向け個別相談実施(合格者向け専用ダイヤル、専用サイトの設置)

4) その他

① 大学公式サイト及びReitaku Journalのアクセスログ解析を実施

② Web出願時に入学者へのアンケートを実施し、受験生に影響を与えているリソース分析を実施

③ 入試結果と施策の効果測定を実施

④ 日本語学校・専門学校等への訪問説明を実施：18校

(2) 大学院志願者を対象とするもの

- ①言語教育研究科志願者対象の入学説明会を実施：1回
- ②経済研究科志願者対象の入学説明会を実施：2回
- ③学校教育研究科志願者対象の入学説明会を実施：6回

2-1-3 評価

上述のとおり、多様な募集施策や新たな入試を実施したが、募集定員には及ばなかった。

2-1-4 課題及び改善・向上方策

知名度の向上が課題であり、より一層メディアリレーションやPR活動による情報発信の強化が必要である。特に教育内容、入試情報に関してはHPだけでなく、プレスリリース等で年内(12月までに)配信し、コロナ禍におけるメディアリレーションの強化として、ウェブ上でのコンタクトなど試みるなど、PRセンターにて検討する。

2-2 学生の受入れ

2-2-1 学部

2-2-1-1 目的・目標

アドミッション・ポリシーに基づき、国際人を育成するために多様な学生の受入れを目的とする。

2-2-1-2 本年度の活動

学生募集の受入れについては総合型選抜(課題プレゼン型、基礎学力型、マニフェスト型、スポーツ、麗澤会・維持員子女、帰国子女)、学校推薦型選抜(公募推薦、指定校推薦)、一般選抜(一般2月、一般3月、共通テスト利用、共通テストプラス、英語4技能プラス)、外国人留学生入試、編入学試験を行った。

また、受験生の学びの選択肢を広げるため、一般2月入試A日程は学部を跨いで3学部12専攻から3専攻出願可能とした。異なる経験・多様な価値観や背景を持つ学生を受入れることにより、学力の3要素を育てる教育活動を展開していく。

各入学者選抜それぞれについての詳細は以下のとおりである。

<入学者選抜方法について>

1) 総合型選抜

「総合型選抜」の「課題プレゼン型」は、外国語学部、国際学部では出願条件を設け、一定の語学力を備えた者を対象とする。

選抜方式は専攻単位に課題テーマを設定し、問題意識を問うレポートを課した。一次選考では、課題テーマに対するレポート及び高校時の正課・課外活動の内容を基に書類審査にて選抜を行った。二次選考では課題テーマに対するレポートに基づいたプレゼンテーションと個人面接にて選抜を行った。

「基礎学力型」は、基礎学力を評価し、英語と国語による総合問題により選抜を行った。

「マニフェスト型」は、入学後に何を学び、何を実現したいのか、受験生の意欲・計画を評価するもので、学修計画書に基づいたプレゼンテーションと個人面接にて選抜を行った。

「スポーツ型」は、経済学部経営学科スポーツビジネス専攻を対象に、高校在籍時の課外活動を評価し、入学後に指定された部活動の部へ入部を希望する者を対象に、面接により選抜を行った。

「麗澤会員子女」、「モラロジー研究所維持員子女」は、本学の建学の精神や理念、教育内容に共感する卒業生や維持員の子女に対し、本学の理解や志望度合いを評価し、面接(調査書等による提出書類の評価を含む)により選抜を行った。

「帰国子女」は、英語または中国語、小論文、面接(提出書類による評価を含む)により選抜を行った。

2) 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜の「公募推薦」、「指定校推薦」は、高校在籍時の学習成績や諸活動等を評価し、「公募推薦」は、小論文と面接(調査書による評価を含む)により選抜を行った。「指定校推薦入試」は、面接(調査書による評価を含む)により選抜を行った。

3) 一般選抜

「一般2月」は本学独自の問題を作成し、A日程(2月2日)・B日程(2月4日)で行った。

受験方式は2科目型と3科目型から選択とし、2科目型では、外国語学部は英語と国語、国際学部では英語及び国語・数学・社会(日本史、世界史、政治・経済)から1科目を選択、経済学部は英語、国語、数学・社会(日本史、世界史、政治・経済)から2科目を選択して選抜を行った。3科目型では3学部ともに英語、国語及び数学・社会(日本史、世界史、政治・経済)から1科目を選択の計3科目で選抜を行った。

志望専攻の選択は、A日程は学部を跨いで3学部12専攻から3専攻、B日程は1学部を選択し学部内で3専攻とした。また、A日程、B日程共に試験会場は本学のみで行った。

「一般3月」は、外国語学部と国際学部で面接型と筆記型の2つの型で選抜を行い、経済学部は筆記型のみで選抜を行った。外国語学部、国際学部の面接型では、一定の語学力を備えた者を対象とし、個人面接にて選抜を行った。筆記型では外国語学部と国際学部は英語と国語の2科目、経済学部では英語・国語・数学から2科目選択で選抜を行った。

「大学入学共通テスト利用入試Ⅰ～Ⅲ期」は、3学部ともⅠ期は2科目型又は3科目型で、Ⅱ期とⅢ期は1科目で選抜を行った。

「大学入学共通テストプラス入試Ⅰ・Ⅱ期」は、大学入学共通テストの高得点科目1科目の成績と「一般2月」の高得点科目1科目もしくは「一般3月」の成績を併用して選抜を行った。

「英語4技能プラス入試」では、大学入学共通テストの高得点科目2科目もしくは3科目の成績と、英語4技能資格検定試験のスコアを得点換算した成績を併用して選抜を行った。

4) 外国人留学生入試

「外国人留学生入試」は、11月と2月の計2回、日本国内外から指定校推薦を含めた外国人留学生の入学選抜を行った。

5) 編入学試験

「編入学試験」は、2月に日本国内外の日本語学校、短期大学及び専門学校を含めた、2年次・3年次の入学選抜を行った。また、外国語学部では共同学位プログラム(ダブルディグリー制度)に基づき、釜山外国語

大学校と淡江大学からの受入制度を設置している。

各学部についての詳細は以下のとおりである。

<外国語学部>

外国語学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

語学力・コミュニケーション能力・多文化理解能力を備えた、国際的教養人を育成するという本学部の教育目標を達成させるため、以下の知識・能力・態度を身に付けている者を求め、受け入れます。

- (1) 本学外国語学部の学習内容を理解し、関心を持つ者
- (2) 外国語学部での学習に必要な基礎的知識を持つ者
- (3) 外国語の基礎的な運用技能を持つ者
- (4) 外国語学部で学ぶ目的意識の強い者
- (5) 高等学校時代の学習及び諸活動において成果を挙げた者

入学定員に対して、2021年度入試における各募集人員は次表のとおりであった。

【外国語学科 入学定員：220名】

| 入試区分 | | 外国語学部 | | | | 合計 |
|----------------|--------------------|---------------|--------------|--------------|----------------------|-----|
| | | 外国語学科 | | | | |
| | | 英語コミュニケーション専攻 | 英語・リベラルアーツ専攻 | ドイツ語・ヨーロッパ専攻 | 中国語・グローバルコミュニケーション専攻 | |
| 年内 実施 入試 | 総合型選抜：課題プレゼン型（専願型） | 40 | | | | 40 |
| | 総合型選抜：課題プレゼン型（併願型） | 若干名 | | | | 若干名 |
| | 学校推薦型選抜：公募推薦 | 10 | | | | 10 |
| | 総合型選抜：基礎学力型 | 20 | | | | 20 |
| | 総合型選抜：麗澤会維持員子女 | 若干名 | | | | 若干名 |
| | 総合型選抜：維持員子女 | 若干名 | | | | 若干名 |
| | 総合型選抜：帰国子女 | 若干名 | | | | 若干名 |

| 入試区分 | | 外国語学部 | | | | 合計 |
|----------------------------------|--|---------------|--------------|--------------|----------------------|----|
| | | 外国語学科 | | | | |
| | | 英語コミュニケーション専攻 | 英語・リベラルアーツ専攻 | ドイツ語・ヨーロッパ専攻 | 中国語・グローバルコミュニケーション専攻 | |
| 年 明 実 施 入 試 | 一般選抜：大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期 (2科目型、3科目型、英語4技能資格検定試験併用型) | 10 | 10 | 5 | 5 | 30 |
| | 一般選抜：一般2月A・B日程 (2科目型、3科目型、共通テスト併用型) | 20 | 20 | 10 | 10 | 60 |
| | 一般選抜：大学入学共通テスト利用入試Ⅱ期 (2科目型、英語4技能資格検定試験併用型) | 20 | | | | 20 |
| | 一般選抜：大学入学共通テスト利用入試Ⅲ期 (2科目型) | | | | | |
| 一般選抜：一般3月 (2科目型、面接型、共通テスト併用型) | | | | | | |

【外国語学部 編入学試験】

| 編入区分 | 学科／専攻 | 募集人員 |
|------|----------------------|------|
| 2年次 | 英語コミュニケーション専攻 | 若干名 |
| | 英語・リベラルアーツ専攻 | |
| | ドイツ語・ヨーロッパ専攻 | |
| | 中国語・グローバルコミュニケーション専攻 | |
| 3年次 | 英語コミュニケーション専攻 | 若干名 |
| | 英語・リベラルアーツ専攻 | |
| | ドイツ語・ドイツ文化専攻 | |
| | 中国語・グローバルコミュニケーション専攻 | |

【外国語学部 指定校編入学試験】

| 編入区分 | 学科／専攻 | 募集人員 |
|------|----------------------|------|
| 2年次 | 英語コミュニケーション専攻 | 若干名 |
| | 英語・リベラルアーツ専攻 | |
| | ドイツ語・ヨーロッパ専攻 | |
| | 中国語・グローバルコミュニケーション専攻 | |
| 3年次 | 英語コミュニケーション専攻 | 若干名 |
| | 英語・リベラルアーツ専攻 | |
| | ドイツ語・ドイツ文化専攻 | |
| | 中国語・グローバルコミュニケーション専攻 | |

<経済学部>

経済学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

国際性と倫理性を備え国際社会に貢献し得る人材を育成するという理念のもとに、経済学・経営学に関する基礎的専門力を備えた人材、すなわち国際公共人を育成するという本学部の教育目標を達成させるため、以下の知識・能力・態度を身に付けている者を求め、受け入れます。

- (1)「知徳一体」の教育理念を理解し、関心を持つ者
- (2)経済学部の学習内容を理解し、関心を持つ者
- (3)経済学部の学習に必要な基礎的知識を持つ者
- (4)外国語・簿記等の基礎的な運用技能を持つ者
- (5)経済学部で学ぶ目的意識の強い者
- (6)高等学校時代の学習及び諸活動において成果を挙げた者

経済学部の具体的な学習内容とは、5つの専攻での学び、特別プログラム(道経一体・ファミリービジネスプログラム、データサイエンスプログラム)での学びなどのことです。

経済学部で学ぶ目的意識が強いとは、以下に示した内容を学ぼうとする意欲があることです。

1. 情報技術、数理的手法、コミュニケーション能力などを活用して、問題の解決に取り組む意欲
2. 探究心を持って情報収集し、自らの考えを論理的に構成し、適切な表現で発表したり論述したりする意欲
3. 他の人々と協調してグループワークやボランティア活動を行い、相互理解を図ろうとする意欲
4. スポーツを通じて、豊かな活力のある社会を形成する意欲
5. 独創性があり、新しいことに挑戦しようとする意欲

【経済学部 入学定員：220名】

| 入試区分 | | 経済学部 | | | | | 合計 |
|--------|--------------------|------|-----------|------|-----------|------------|-----|
| | | 経済学科 | | 経営学科 | | | |
| | | 経済専攻 | 観光・地域創生専攻 | 経営専攻 | AI・ビジネス専攻 | スポーツビジネス専攻 | |
| 年内実施入試 | 総合型選抜：課題プレゼン型（専願型） | 20 | | 20 | | | 40 |
| | 総合型選抜：課題プレゼン型（併願型） | 若干名 | | 若干名 | | | 若干名 |
| | 学校推薦型選抜：公募推薦 | 5 | | 5 | | | 10 |
| | 総合型選抜：基礎学力型 | 10 | | 10 | | | 20 |
| | 総合型選抜：スポーツ型Ⅰ期 | | | | | | 10 |
| | 総合型選抜：麗澤会維持員子女 | 若干名 | | 若干名 | | | 若干名 |
| | 総合型選抜：維持員子女 | 若干名 | | 若干名 | | | 若干名 |
| | 総合型選抜：帰国子女 | 若干名 | | 若干名 | | | 若干名 |

| 入試区分 | | 経済学部 | | | | | 合計 |
|---------|-----------------|------|-----------|------|-----------|------------|----|
| | | 経済学科 | | 経営学科 | | | |
| | | 経済専攻 | 観光・地域創生専攻 | 経営専攻 | AI・ビジネス専攻 | スポーツビジネス専攻 | |
| 年内留学生入試 | 外国人留学生11月入試（国内） | 2 | | 3 | | | 5 |
| | 外国人留学生11月入試（国外） | | | | | | |

| 入試区分 | | 経済学部 | | | | | 合計 |
|--------|--|------|-----------|------|-----------|------------|-------|
| | | 経済学科 | | 経営学科 | | | |
| | | 経済専攻 | 観光・地域創生専攻 | 経営専攻 | AI・ビジネス専攻 | スポーツビジネス専攻 | |
| 年内実施入試 | 一般選抜：大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期 (2科目型、3科目型、英語4技能資格検定試験併用型) | 10 | 10 | 5 | 5 | 5 | 35 |
| | 一般選抜：一般2月A・B日程 (2科目型、3科目型、共通テスト併用型) | 15 | 10 | 10 | 10 | 10 | 55 |
| | 一般選抜：大学入学共通テスト利用入試Ⅱ期 (2科目型、英語4技能資格検定試験併用型) | 7 | | 8 | | | 15 |
| | 一般選抜：大学入学共通テスト利用入試Ⅲ期 (2科目型) | | | | | | |
| | 一般選抜：一般3月 (2科目型、共通テスト併用型) | | | | | | |
| | 総合型選抜：スポーツ型Ⅱ期 | | | | | | Ⅰ期に含む |

| 入試区分 | | 経済学部 | | | | | 合計 |
|---------|---------------------|------|-----------|------|-----------|------------|----|
| | | 経済学科 | | 経営学科 | | | |
| | | 経済専攻 | 観光・地域創生専攻 | 経営専攻 | AI・ビジネス専攻 | スポーツビジネス専攻 | |
| 年内留学生入試 | 外国人留学生指定校推薦入試Ⅱ期（国内） | 3 | | 2 | | | 5 |
| | 外国人留学生指定校推薦入試Ⅱ期（国外） | | | | | | |
| | 外国人留学生2月入試（国内） | | | | | | |
| | 外国人留学生2月入試（国外） | | | | | | |

【経済学部 2年次・3年次編入学試験】

| | 経済学科 | | 経営学科 | | | 合計 | 備考 |
|--|------|-----------|------|-----------|------------|----|----|
| | 経済専攻 | 観光・地域創生専攻 | 経営専攻 | AI・ビジネス専攻 | スポーツビジネス専攻 | | |
| | 若干名 | | | | | | |

<国際学部>

国際学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

グローバル社会で生き抜くコミュニケーション能力と人間力を身につけ、地球規模で生ずる様々な問題を把握し、それに対処していける人材、すなわち高い志と倫理観を備えたグローバルリーダーを育成するという本学部の教育理念を達成させるため、以下の知識・能力・態度を身につけている者を求め、受け入れます。

- (1)「知徳一体」の教育理念を理解し、関心を持つ者
- (2)国際学部の学習内容を理解し、関心を持つ者
- (3)国際学部での学習に必要な基礎的知識を持つ者
- (4)英語の基礎的な運用技能を持つ者
- (5)国際学部で学ぶ目的意識の強い者
- (6)目標に向けて継続的な努力を続けられる者

【国際学部 入学定員：160名】

| 入試区分 | | 国際学部 | | | |
|----------------|--------------------|-------------------|-------------|-------------|-----|
| | | 国際学科 | | グローバルビジネス学科 | 合計 |
| | | 日本学・国際コミュニケーション専攻 | 国際交流・国際協力専攻 | グローバルビジネス専攻 | |
| 年内 実施 入試 | 総合型選抜：課題プレゼン型（専願型） | 10 | | 10 | 20 |
| | 総合型選抜：課題プレゼン型（併願型） | 若干名 | | 若干名 | 若干名 |
| | 学校推薦型選抜：公募推薦 | 2 | | 2 | 4 |
| | 総合型選抜：基礎学力型 | 5 | | 5 | 10 |
| | 総合型選抜：麗澤会維持員子女 | 若干名 | | 若干名 | 若干名 |
| | 総合型選抜：維持員子女 | 若干名 | | 若干名 | 若干名 |
| | 総合型選抜：帰国子女 | 若干名 | | 若干名 | 若干名 |

| 入試区分 | | 国際学部 | | | |
|-----------------------------|---------------------|-------------------|-------------|-------------|----|
| | | 国際学科 | | グローバルビジネス学科 | 合計 |
| | | 日本学・国際コミュニケーション専攻 | 国際交流・国際協力専攻 | グローバルビジネス専攻 | |
| 年内 留 学 生 入 試 | 外国人留学生指定校推薦入試Ⅰ期（国内） | 6 | 若干名 | 8 | 14 |
| | 外国人留学生指定校推薦入試Ⅰ期（国外） | | | | |
| | 外国人留学生11月入試（国内） | | | | |
| | 外国人留学生11月入試（国外） | | | | |

| 入試区分 | | 国際学部 | | | |
|----------------------------|--|-------------------|-------------|-------------|----|
| | | 国際学科 | | グローバルビジネス学科 | 合計 |
| | | 日本学・国際コミュニケーション専攻 | 国際交流・国際協力専攻 | グローバルビジネス専攻 | |
| 年 明 実 施 入 試 | 一般選抜：大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期 （2科目型、3科目型、英語4技能資格検定試験併用型） | 4 | 4 | 8 | 16 |
| | 一般選抜：一般2月A・B日程 （2科目型、3科目型、共通テスト併用型） | 9 | 9 | 16 | 34 |
| | 一般選抜：大学入学共通テスト利用入試Ⅱ期 （2科目型、英語4技能資格検定試験併用型） | 8 | | 8 | 16 |
| | 一般選抜：大学入学共通テスト利用入試Ⅲ期 （2科目型） | | | | |
| | 一般選抜：一般3月 （2科目型、面接型、共通テスト併用型） | | | | |

| 入試区分 | | 国際学部 | | | 合計 |
|---------------------------------|------------------------|-------------------|-------------|-------------|----|
| | | 国際学科 | | グローバルビジネス学科 | |
| | | 日本学・国際コミュニケーション専攻 | 国際交流・国際協力専攻 | グローバルビジネス専攻 | |
| 年 明 留 学 生 入 試 | 外国人留学生指定校推薦入試Ⅱ期（国内） | 6 | 若干名 | 8 | 14 |
| | 外国人留学生指定校推薦入試Ⅱ期（国外） | | | | |
| | 外国人留学生2月入試（国内） | | | | |
| | 外国人留学生2月入試（国外） | | | | |
| | 外国人留学生指定校推薦入試（秋入学） | 若干名 | 若干名 | 若干名 | |
| | 総合型選抜：麗澤会員子女等推薦入試（秋入学） | 若干名 | 若干名 | 若干名 | |

国際学部 2年次編入学試験】

| | 国際学科 | | グローバルビジネス学科 | 合 計 | 備 考 |
|--|-------------------|-------------|-------------|-----|-----|
| | 日本学・国際コミュニケーション専攻 | 国際交流・国際協力専攻 | グローバルビジネス専攻 | | |
| | 若干名 | | | | |

※編入学試験は全学部、2年次3年次ともに実施時期は2月である。また、同時期に指定校編入学試験も募集を行った。

2-2-1-3 評価

上記の方針に基づき行われた本年度の入試結果は、136頁の表4-1から表4-6を参照。

(1) 教育目的を踏まえたアドミSSION・ポリシーの周知

高大接続の実現を目指して、教育目的を踏まえたアドミSSION・ポリシーを入学案内書、Webサイト及び入試ガイドにて周知した。

(2) APに沿った入学者受入れの実施とその検証

アドミSSION・ポリシーを示して入学前までに培ってきた力を多様な入学者選抜方法によって評価して入学者を受入れた。引き続き各学部運営委員会及び入学試験委員会で検証を実施し、各入試の評価を継続する。

(3) 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

入学定員は、外国語学部が外国語学科1学科220名、経済学部は経済学科110名、経営学科110名、国際学部は国際学科80名、グローバルビジネス学科80名であるが、2020年度の実際の学生受入れ数は外国語学部199名、経済学部218名、国際学部126名と全体では定員を1割ほど割ってしまう形となった。

2-2-1-4 課題及び改善・向上方策

3学部ともに入学定員を割った入学者数という結果となった。各学部の各種入試単位においては志願者数及び入学者数において想定から大きく乖離した入試もあり、最終的に入学者数が入学定員から1割ほど減少してしまった。これは新型コロナウイルス感染症の影響が大きい。

外国語学部と国際学部は、海外への渡航禁止など「国際」「グローバル」というワードが将来の不安からも受験生に敬遠されてしまい、2020年度の大学入試は全国的に「外国語学部」「国際学部」への志願者が昨年対

比で約 80%と、大きく減少し、本学もその影響を強く受けてしまった。海外からみた日本に対する視点にも同様の影響があり、本学の場合、外国人留学生入試の志願者が減少、イコール外国人留学生の受入れ者数も減少、となった。今後、受験生や高校に対して本学の教育プログラムを広く認知していただき、年内実施の入試の強化はもとより、年明け実施の入試においても今以上に志願者を確保するため工夫が求められる。

経済学部は全体的には想定した入学者数を受入れる結果になった。昨年度と比べると、一般選抜、大学入学共通テスト利用入試では、志願者数が昨年の反動から大きく減少した。しかし、年内に実施した総合型選抜、学校推薦型選抜等を通して受入れることになった人数は若干ではあるが想定以上の数となった。

今後は、学校推薦型選抜の指定校推薦、公募推薦といった年内入試を中心に学生数を、定員を割ることなくしっかりと確保し、適切な人数にして行くことが課題である。適正な学生数確保の為、総合型選抜や学校推薦型選抜の内容、指定校推薦枠の見直し、年明け入試の設置方式の見直し及び募集定員数の厳格化を見直す。具体的には総合型選抜・学校推薦型選抜の出願・受験条件の緩和及び年明け入試の方式新設などである。

内部質保証のためのチェックリスト

- AP に沿って入学者選抜を公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用しているか
- AP に沿って入学者選抜を実施したかを検証しているか
- 入学定員に沿って学生を適切に確保しているか
- 入試問題の作成は、大学が自ら行っているか

2-2-2 大学院

2-2-2-1 目的・目標

各研究科の目的を実現するために必要な資質を備えた学生を受入れる。

2-2-2-2 本年度の活動

言語教育研究科について、2020 年度より開始した学部と大学院の連携による「学士課程＋修士課程 5 年コース」に所属する学部生 1 名が志願し、入学した。

経済研究科について、より資質が高い学生を獲得するために一般選抜の入試をⅡ期入試にも設けた。

学校教育研究科について、志願者のほとんどが現職教員であることから、新型コロナウイルスによる教職現場のひっ迫により出願を断念する志願希望者もいるなど志願者・入学者は 0 名であった。

2021 年度入学試験は新型コロナウイルス流行の影響で留学生の受験者も減り、留学生の割合が大きい言語教育研究科・経済研究科について定員を確保できなかった。

2-2-2-3 評価

本年度の入試結果は、138 頁の表 4-7 から表 4-10 を参照。

各研究科のアドミッション・ポリシーに沿って、必要な資質を判定するために試験を実施し、総合的に入学者として相応しいと認められた入学者を確保できた。

2-2-2-4 課題及び改善・向上方策

言語教育研究科について、「学士課程＋修士課程 5 年コース」を通しての学内進学者の定着化を進める。

経済研究科について、学内進学を意識を高められるよう学部生と大学院生と一緒に学修できる環境を通して育成できるよう環境を整える。

学校教育研究科について、志願対象となる学校教育現場に広く認知させ志願者確保に努める。

内部質保証のためのチェックリスト

- AP に沿って入学者選抜を公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用しているか
- AP に沿って入学者選抜を実施したかを検証しているか
- 入学定員に沿って学生を適切に確保しているか
- 入試問題の作成は、大学が自ら行っているか

2-3 学修支援

2-3-1 学修支援

2-3-1-1 目的・目標

本学では DP 及び CP に基づき、学科毎に、到達目標と身につく能力を示したカリキュラムマップを作成している。学習支援は、カリキュラムマップで示している学年進行段階における能力獲得目標について、学生が修得し、卒業までに満たすことを目的に教職協働で実施している。また、単位認定・進級・卒業認定・修了認定及び成績評価基準を、麗澤大学学則、各学部の「授業科目の履修及び単位認定に関する規程」「編入学生の既修得単位等の認定に関する規程」で定め、毎学期の履修オリエンテーションで学生に周知の上、履修指導を実施している。教務・教育企画室では、各学部の教育課程の円滑な実施を通して、本学の教育理念を実現するために、以下の目標で学修支援に取り組んでいる。

- (1) DP に基づいたカリキュラムの編成
- (2) 各学期前に履修オリエンテーションを実施し、各年次における教育課程の確認と進級要件や卒業要件を確認できるようにする。
- (3) 担任制を生かし、教員と職員が連携した履修及び学修活動の指導を行う。
- (4) SA、TA を用いた学習支援の実施
- (5) コロナ禍における学修環境の整備

2-3-1-2 本年度の活動

(1) DP に基づいたカリキュラムの編成

2020 年度の全学にわたるカリキュラム改定により、カリキュラムはかなりスリム化された。これにより各学科・専攻カリキュラムは、それぞれの学科・専攻の DP を反映した CP と、より密接に関係するものとなり、各学科、各専攻におけるカリキュラムマップ及び授業科目ナンバリング・システムで体系的に編成している。併せて、各授業科目において教育効果をあげられるよう、適正定員を設けている。履修希望の多い科目は抽選を実施し、履修人数を制限することもある。

①授業のナンバリング

2020 年度は特筆する活動無し。

参考：

平成 25 (2013) 年度より授業科目には学部・大学院を通じてナンバリングを施している。授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みとしている。対象とするレベル(学年等)や学問分野を示すことで、学生が適切に授業科目を選択する助けとしている。与えられるナンバー番号を見てすぐに履修年次や授業レベルがイメージできるよう、番号はアルファベット 3 文字と数字 3 文字から構成している。アルファベットは科目分類等を示し、数字は配当年次又は履修推奨年次を示している。基礎や入門的な科目を表示するために 0 番台を設けて運用している。

②シラバス

シラバスは、到達目標、講義内容、毎回の授業計画(事前学習・事後学修の内容と時間を含む)、教科書・参考文献、成績評価方法・基準、試験・課題に対するフィードバック、履修条件、受入可能な範囲(聴講生・科目等履修生、他学科・他専攻生、他学部生の区分など)、使用言語などを示し、麗澤大学ポータルシステム上で学生に周知している。

(2)履修オリエンテーションについて

1 学期の履修オリエンテーションは、学部別にオンラインで実施し、オンライン授業の開始に向けた注意事項等を説明した。履修に関する内容については動画で作成し、学生が何度でも見直せるようにすることで、履修登録における不明点の解消に努めた。また、オンライン授業の受け方や各学部で注意すべき点についても、教務・教育企画室主導で、説明動画を作成し学生の学修活動の支援をおこなった。

2 学期については、一部対面授業を再開することとし、授業再開に向けたオリエンテーションを実施した。オリエンテーションにおいては、1 年生は学部・専攻別に対面及びオンラインのハイブリッド形式とし、上級生については、学部・専攻別にオンラインで科目履修上の注意点などを説明した。

(3)履修指導について

- ①授業科目の履修登録については、新型コロナウイルス感染防止対策のために対面式のオリエンテーションや履修相談の実施ができなかったため、2020 年度 1 年生 1 学期の必修科目に限り、教務・教育企画室で履修登録の代行を実施し、履修登録漏れが無い様にした。また、大学に来られない中での不安や授業に対する質問等様々な問い合わせについて、メールで受け付け、学習活動がスタートできるように支援した。
- 2 学期については 1 学期同様、学生からの科目履修上の質問を常に受け付け、教育課程の趣旨を踏まえた間違いのない履修ができるように支援した。

- ②各学部とも基礎専門科目の必修科目の授業担当者が 1 年生及び 2 年生の担任を、ゼミ担当教員が 3 年生、4 年生の担任を務めるシステムをとり、各学生の出席状況や成績を、担任と学部担当職員、退学者抑制担当職員が共有することで、各年次で必要な履修指導を展開できるようにしている。

(4)TA 等の活用をはじめとする学修支援の充実

ビジネスゲーム等の演習科目、PC 関連授業や英語フォローアップセミナーにおいて、上級生スタッフが下級生や障がい学生の手助けや指導を行っている。上級生は自身の学びの深化が期待され、また下級生は日々の学習における躓きが解消されている。2020 年度はコロナ禍のため、2 学期の授業より TA、SA を活用した。

(5)オンライン授業

コロナ禍による、一斉休講を受け、1 学期の業開始を 1 か月遅らせ 5 月 7 日より、全面オンラインによる授業を開始した。これにより 1 学期の授業期間は 13 週となったが、2 週分の授業を課題対応とすることで学修

を確保した。1 学期期末テストについては、各授業でオンライン対応としたため、レポートでの提出が大半となった。2 学期は、基礎必修科目を中心に 2 割の科目で対面授業を再開したが、同時に対面授業とオンライン授業を併用するハイブリッド型授業も導入し、学生が授業形態を選択できるようにした。2 学期の期末テストも 1 学期同様オンラインを中心に実施し、対面での事件実施は一部のみとなった。

また、コロナ禍で急遽実施することになったオンラインを取り入れた授業の実施については、オンライン授業を進める教員グループを組織して準備を進め、本学の IT ソリューションセンターを中心に学生への周知及び授業開始までのフォローを行った。これにより、年間を通してスムーズな授業が展開できた

2-3-1-3 評価

コロナ禍で急遽始まった授業およびオリエンテーションなどのオンライン化について、教職員協働で対応することができ、動画によるオリエンテーションを実施の上、5 月より授業を開始することができた。授業においてはオンラインの特性を生かした資料や動画の作成により、学生が必要に応じて見返せるなど、学習効果が保てたことが評価できる一方、通信環境に左右されることも多く、また双方向のコミュニケーションが必要な場合は学生の意欲に左右されるなどの課題も見出すことができた。

2020 年度については、特にオンラインによる授業のみの学生生活の中での不安を解消するため、担任による面談を進め、履修や成績に不安のある学生を職員がフォローする体制を構築できた。

2-3-1-4 課題及び改善・向上方策

コロナ禍で加速したオンラインを学修活動にどのように生かすかが今後の課題である。授業や学生生活における効果的なオンラインの導入を検討していくことが必要である。

2020 年度においては、正課外で展開する予定の教育活動が十分に行えていないことが課題であり、2021 年度以降、1 年生及び 2 年生への履修相談や担任との面談を実施し、履修指導と学校生活全般のフォロー体制を作ることが課題である。

内部質保証のためのチェックリスト

- 教職協働による学生への学修支援に関する実施体制を適切に整備・運営しているか
- 授業を行う学生数(クラスサイズなど) は教育効果を十分上げられるような人数となっているか
- 教員の教育活動を支援するために、SA(学部生)などを適切に活用しているか
- 教員の教育活動を支援するために、TA(院生)などを適切に活用しているか

2-3-2 中途退学抑制

2-3-2-1 目的・目標

2035 年を見据えた学内中期計画においては、退学率 1.8%未満(退学者 30 名未満、除籍者 18 名未満、計 48 名未満)を目標値として設定し、状況に即した対策を実施する。2020 年度目標値は、退学率 2.8%未満(退学者数 56 名未満、除籍者数 21 名未満、計 77 名未満)と設定した。

2-3-2-2 本年度の活動

コロナ禍におけるオンライン授業実施等の状況を鑑み、特に 1 年次から 2 年次に焦点を当てた施策を実施した。この対応方針は、3~4 年次に退学を決断する学生の約 9 割が、1 年次~2 年次までに、留年・修得単位不足・注意進級・仮進級等のいわゆる「つまづき」を経験していることに起因している。具体的には下記対応を通じて、要フォロー学生を効果的に発見、指導を通じた抑止策を展開した。

(1) 学部担任教員による 1、2 年生に焦点を当てた面談の実施

- (2) 担当職員による個別面談及び3者面談の実施
- (3) 専任カウンセラー(学生相談室)との連携による個別カウンセリングの実施
- (4) 出席管理システムを活用した出欠状況把握による退学予備軍の早期把握及びアプローチの実施

2-3-2-3 評価

2020年度学部全体の退学率(除籍者含む)は3.4%であり、退学者数は98名(参考:前年度比5名増:除籍者)であった。(122頁の表2-1-8参照)

コロナ禍による弊害の影響は依然として大きく、オンライン授業への不適合、精神バランスの乱れによる体調不良、就学意欲の低下など、様々な影響が残る状況にあるが、年間の退学者数は前年度比で同数(69名、退学率:2.43%)に抑えることができた。(参考:2019年度退学者数69名、退学率:2.47%)

2-3-2-4 課題及び改善・向上方策

2021年度以降、退学予備軍とされる要支援学生を判別するスケールを用いて、効果的な支援スキームを展開する。また、教員・職員・カウンセラーそれぞれが保管・管理している面談情報を統合する目的で情報共有システムを導入、学生支援に有益な情報である面談情報の集約を実施予定。

内部質保証のためのチェックリスト

中途退学予防への対応策を行っているか

2-4 障がいのある学生への配慮 CDS

2-4-1 目的・目標

障がいのある学生とない学生との間に発生する障壁をできる限り解消し、全ての学生に修学の機会を平等に提供できるようにすることを目指す。

2-4-2 本年度の活動

「麗澤大学障がい学生支援規程」に基づき、「麗澤大学障がい学生支援方針」を踏まえ、CDS(Center for Disabled Students:旧障がい学生支援室を6月1日付で改称)を中心に学内外の関連団体及び組織と連携し、障がい学生に対する具体的な支援を強化し推進した。

- (1) コロナ禍の影響により、特に1学期間は全ての授業がオンラインにて実施され、障がい学生との相談が対面ではできなかったため、これまでの「待ち受け型フォロー」から「追いかけ型フォロー」へと切り替え、定期的に電話やSNS機能、Zoom等を活用して状況把握を進めていった。
- (2) 「対応記録」及び「修学支援進行表」をより実情に合うようフォームを修正するとともに、新たに運用ルールを設定することにより、CDS内における情報共有を促進してシームレスな対応を心掛けた。
- (3) 「合理的配慮」決定までのプロセスについて、昨年度取り纏めた改善策(関係者が一堂に会する方式)をコロナ禍の影響により再度見直し、学生相談室との共有フォルダを活用して情報共有の促進と連携を強化した。
- (4) 全運用書式をUD(ユニバーサルデザイン)フォント化するとともに、押印欄を削除し運用方法を見直した。
- (5) 2020年度より運用が開始された麗澤大学後援会のホームページ内に、専用ページを設定して障がい学生支援に関する情報を掲出することにより保護者・保証人へ周知した。

- (6) 学生相談室と連携して「教職員のための障がい理解研修会」を開催し、教員 40 名(執行部 16 名)・職員 32 名(管理職 18 名)の参加を得た。また、当日参加できなかった教職員向けにオンデマンド配信を実施し、新たに教員 13 名・職員 8 名が視聴した。
- (7) 自主企画ゼミナール(担当：花田太平准教授、テーマ：公共性をめぐるオープンダイアログ～当事者研究と社会的包摂の見地から～、参加者：12 名(内 聴講 1 名、合理的配慮学生 3 名))の運営を支援することにより、麗澤大学における障がい学生支援の歴史や具体的な取り組み内容、障がいや障がい者に対する理解等を深めつつ、ピアサポート体制の礎づくりに取り組んだ。
- (8) 車いすを使用している職員からの助言を求めながら、大学ゾーンにおける「バリアフリーマップ」を作成し、大学ホームページ上に公開した。また、その過程で新たに「バリアフリー化改修要望箇所一覧」をまとめ、次年度向けの施設・設備に関する改修要望を整理した。
- (9) 障がい者支援関連の用語集をまとめ、学内イントラ(キャンパスプラン)上に公開した。
- (10) 障がい学生支援に関する他大学の情報収集活動から築きつつあるネットワークを基に、教科書電子化へのアプローチ方法等を始めとする助言を得つつ、学生ニーズにより適した方法で支援に結び付けた。
- (11) 2020 年度の対応状況は以下のとおり。(届出のあったもの 2021 年 3 月 31 日現在)

| | | | | | |
|----------|---|---------|------|----------|------|
| 総対応件数 | 337 件(相談 246 件、連絡・報告 83 件、日常的な係わり 1 件、施設・設備対応 0 件、生活支援 4 件、授業支援 2 件、試験支援 1 件) | | | | |
| 障がい学生数 * | 50 人 | 修学支援申請数 | 18 人 | 合理的配慮要請数 | 16 人 |

2-4-3 評価

2020 年度も、目指す到達点として「障がい学生に対する全学的支援体制の構築」「外部関連団体との連携と協調体制の確立」「誰でも使いやすく配慮されたキャンパスの創造」の 3 点を掲げ、諸活動に取り組んできた。しかし、年度初めから新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学生一人ひとりと対面にて相談や打合せ等を実施することができず、何らかの障がいを有する学生や、修学支援に関する実態を正しく把握することが困難な状況下にあった。

そこで、これまでの「待ち受け型」から「追いかけ型」のフォローへとシフトし、1 学期当初は 1～2 週に 1 度のペースで電話やメール、SNS 機能等を用いて障がい学生の状況把握に努めた。また、各種ツールやそれらの運用方法を見直し、各担当者が得た情報を、CDS 内は勿論のこと学生相談室や健康支援センターとの共有を促進させることにより、「合理的配慮」を昨年度より 1 ヶ月程前倒しして要請することができた。

但し、入学式も見送りになってしまった中で、学生と直接接する機会を得ることができなかったことや、1 学期間は全ての授業がオンライン方式になってしまったこともあり、特に面識のない新入生については、対面式の授業スタイルであれば顕在化していたであろう実態を、正しく把握することができていなかったものと推察される。また、コロナ禍にあっては、通常の(期末)試験に代えて、オンライン上でレポートやその他の課題等が課せられるケースが多くなり、新しいシステムへの対応遅れや、それらを効率よくこなしていけないストレス等に対する対応も、新たな課題の一つとして浮上してきている。

2-4-4 課題及び改善・向上方策

2020 年度は障がい学生支援室を経て CDS 設置 4 年目を迎え、以下の課題等を改善すべく各種向上方策に取り組む。

- (1) 障がい学生が不当な差別的取扱いを受けていると考えたり、合理的配慮を含む障がい学生支援の内容やその決定過程に対して不服があったりする場合に、本学と障がい学生間において、中立的な立場で調停ができる学内組織を設置する。
- (2) 教員と連携し、一般学生に社会における障がい者理解を深めてもらうことをねらった「自主企画ゼミ」OBと、対話ファシリテーターとしての力を身につけることを目標の1つに掲げている「専門ゼミナール」履修学生と共に、ソーシャルアクションとしてのピアサポート体制構築に向けた体制を整えていく。
- (3) 教職員の、障がい学生支援に対する理解促進と、全学的な協力体制構築に向け、教職員研修会を開催する。
- (4) 昨年度内まとめた「バリアフリー化改修要望箇所一覧」を基に、優先順位をつけて施設・設備の改修を進める。特に、点字ブロックや自動ドアの最適配置を重要課題として検討する。
- (5) 「バリアフリーマップ」の全キャンパス展開を進め公開する。
- (6) 障がい者支援関連用語集の鮮度管理と、効率的な管理方法を見直す。

内部質保証のためのチェックリスト

障がいのある学生への配慮を行っているか

- ・ 麗澤大学公式サイト内 CDS 紹介ページ

<https://www.reitaku-u.ac.jp/campuslife/support/specialneeds/>

- ・ 麗澤大学障がい学生支援規程

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/326.html>

2-5 キャリア支援

2-5-1 キャリア教育

2-5-1-1 目的・目標

建学の精神に基づく「真の国際人」育成を目指し、キャリア形成を幅広く支援し、社会との接続を支援することを目的とする。

2-5-1-2 本年度の活動

現在、「ジェンダーとキャリア形成(グローバルキャリア形成)」「麗澤スピリットとキャリア」「キャリア形成入門」「キャリア形成研究」「キャリア形成演習」の5科目をキャリア教育科目として開講している。

開講以来現在まで、目的である『建学の精神に基づく「真の国際人」』を育成すべく、本学の理念を踏まえた授業を実施してきた。また、社会で働くことを具体的にイメージするために、インターンシップへ参加するための準備や選考に必要な基礎学力、社会人基礎力、表現力といった人間力の育成を図ることに注力した。

| 科目名 | 開講時期 | 履修推奨年次 | 履修者数 |
|--------------|------|--------|------|
| 麗澤スピリットとキャリア | 第2学期 | 1～4年次 | 453名 |
| ジェンダーとキャリア形成 | 第1学期 | 1～4年次 | 59名 |
| キャリア形成入門 | 第1学期 | 2～4年次 | 434名 |
| キャリア形成研究 | 第2学期 | 2～4年次 | 370名 |

| | | | |
|----------|------------|-------|------|
| キャリア形成演習 | 第2学期(秋期集中) | 3～4年次 | 402名 |
| 基礎・学際演習A | 第1学期 | 2～3年次 | 37名 |
| 基礎・学際演習B | 第2学期 | 2～3年次 | 44名 |
| 基礎・学際演習C | 第1学期 | 3～4年次 | 16名 |
| 基礎・学際演習D | 第1学期 | 3～4年次 | 7名 |
| 基礎・学際演習E | 第2学期 | 3～4年次 | 16名 |
| 基礎・学際演習F | 第2学期 | 3～4年次 | 7名 |

ジェンダーとキャリア形成(グローバルキャリア研究)

キャリア科目の目的である「真の国際人」を育成すべく、今年度より一部内容を変更し、グローバルに活躍するための知識や力を付けることを目的とした内容に変更した。このクラスはグローバルを意識した意欲のある学生で形成するため、学生に授業内容と目的を伝え、指定の選考に通過した学生のみで構成した。グローバル企業で働く海外勤務経験のある卒業生を招聘した講義では、自分自身のキャリアや学生生活の過ごし方について考えさせ、真の国際人として必要な教養を養うために、世界の未来や宗教などについて学んだ。また、チームで働く力、仕事観の醸成、プレゼンテーション能力を高めるために、企業から提示された課題を解決するための企画提案をチームで取り組み、チーム毎に発表させた。

麗澤スピリットとキャリア

今年度は、オンデマンド型授業での実施となった。麗澤大学へ入学したことへの不安や、不本意入学者が抱くネガティブなイメージを払拭し、この大学で学ぶことへの期待感を醸成すべく、本学の歴史や環境、創立者の建学の精神を学ぶこと等に最も重点を置く。また、身近な家族への社会人インタビューを課題とし、自分自身の育った環境やお金のことを理解し感謝をすること、そして夢や目標を見つけるきっかけになることを目的とした。新たな表現力を養うため、インタビュー内容を動画に作成して提出させるなど、新たな取り組みも取り入れた。

キャリア形成入門

就活シミュレーションを軸に、就職活動で必要となる筆記試験の対策、自己分析、履歴書の記入方法、企業の見方などを通じて、自分自身のキャリアについて考え、選考に必要な基礎学力や知識を身に付けさせることを目指した。オンデマンド型での実施となったが、一部、模擬面接の回では、Zoomを利用して学生と教員のコミュニケーションができるようにしたり、不慣れなオンライン環境で不安を抱えている学生のために、オンライン相談窓口や問い合わせフォームを設けたりした。

キャリア形成研究

将来の就業場所を考えるべく、様々な業種について学ぶことで視野を広げる。特に各業界において様々な立場の企業を招聘し、各業界の仕組みや今後の展望について学んだ。今年度はオンデマンド型授業のため、事前に各企業の講義を公開収録し、参加希望の学生のみオンラインでの参加型授業とし、収録した内容を参加学生の質疑応答も含め授業で配信した。

キャリア形成演習

書類選考や面接試験で発揮できる表現力を実践的に養う。模擬面接によってプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高め、就職試験のためだけでなく、卒業後の社会人としてのキャリアまでを見据えて、能力の向上を図る。1クラス40人前後のクラスを10クラス設け、少人数制のきめ細かい指導を全てオンライン授業で実施。ブレイクアウトルームを使用して、グループ・ディスカッションをするチームと個人指導を受ける学生に分けたり、チャットで質問事項を集めてその場で解説したりするなど、オンラインの特性を活かし例年以上にきめ細やかな指導が行き届いた。

2-5-1-3 評価

全ての科目がオンラインでの実施となり、オンラインの特性を活かし学生への理解を深める内容にするための工夫として、授業動画を配信する傍らで、Zoomの相談室や問い合わせフォームを設置するなど、学生の疑問や質問に瞬時に対応できるように配慮した点は評価に値する。運営目的であるキャリア形成の幅広い支援として、様々な業種の企業を学生に見せることができた点、また、人間力の育成としてのプレゼンテーションや社会人基礎力を低学年から意識させて自身の学生生活を見直させることができた点は評価ができると考える。また、オンラインでのグループワークに挑戦させたり、動画で課題を提出させたりするなど、今後のキャリア支援を模索するために有意義な事であり、大きく評価できると考える。

2-5-1-4 課題及び改善・向上方策

キャリア教育の履修者増加に伴い、多くの学生が早期からインターンシップに参加し、自身のキャリアを模索する活動を始められるようになった一方で、学生一人一人に合わせた教育が容易ではなくなった。学生は、自身に必要な情報や行動を考え、判断する力がますます求められるようになった。今後のキャリア教育では、早期に自身のキャリアをイメージさせるだけでなく、主体的に動き、考える力や、内面的成長も含めて様々な備えができるよう、その成長をサポートしていく内容に構成していくことが重要であり、それが大きな課題といえる。

なお、キャリア教育の企画・改善・向上方策の主体はキャリアセンターで実施している。

2-5-2 キャリア形成支援

2-5-2-1 目的・目標

入学初年次からの「キャリア形成支援」、更には卒業生との「関係強化」に関する業務を行い、学生の社会的・職業的な自立に向けたキャリア形成に寄与することを目的としている。また、「建学の精神に基づくキャリア支援体制の確立」と「麗澤大学の社会的評価を向上させる就職実績の長期安定化」を目標に、本学に在籍したすべての人が、自己の能力や適性を活かして国際社会で活躍するとともに、生涯を通じて自身のキャリアを主体的にデザインできる人材を輩出すべく、生涯教育の視点から支援することを目指している。

2-5-2-2 本年度の活動

(1) キャリア教育活動

- ①「キャリア教育科目」として、11科目の運営を支援した。(21頁の2-5-1-2 本年度の活動を参照)

②キャリアセンターを中心に、次のとおりインターンシップとインターンシップ関連のセミナーを行った。

(141 頁の表 5-1 参照)

a. 短期インターンシップ：夏期及び冬期休暇を利用し、本学と協力関係にある企業・団体で行った。

③上級生による下級生のための就職活動支援を後援した。(141 頁の表 5-2 参照)

a. 就活サポーター(RUCS)：就職活動を終えた 4 年生が、自身の就職活動の体験をもとに下級生の就職支援や、キャリアセンターの運営サポートを行った。特に今年度はコロナ禍ということもあり、完全オンラインで相談を行った。

(2) 就職指導・ガイダンス関連活動

キャリアセンターを中心に、次のとおり就職支援活動を行った。

①就職指導・ガイダンス関連活動(141 頁の表 5-3 参照)

a. 留学生対象就職ガイダンス：日本国内で就職を希望する外国人留学生のために必要となる手続きや、進路に関わる情報の提供、現在の状況の確認を行った。

b. 職業適性検査(GPS【3 年次】)：自分のパーソナリティや職業に対する興味等を客観的に把握し、就職活動へ向けてのきっかけとヒントを掴む機会を提供した。2020 年度はコロナ禍のため自宅受検で対応。

c. 合同企業セミナーの歩き方：2 月実施の合同企業セミナーへの参加を促すための企画。コロナ禍のためオンデマンドで提供

d. グローバル企業研究会：将来海外勤務やグローバル企業への就職を希望する学生を集めて、卒業生がグローバルに活躍している企業等を紹介・研究する研究会を実施した。

②業界・企業・職種研究関連活動(141 頁の表 5-4 参照)

a. 個別企業説明会：企業の採用に関する説明会及び選考会を学内で実施した。

b. 合同企業セミナー：学内の会場に多数の企業が集合し、各企業の採用に関する説明会を実施した。

c. 埼玉県警国際捜査官セミナー：埼玉県警察本部の担当者による国際捜査官の仕事についてのセミナーを実施した。今年度はコロナ禍のためオンラインで実施。

③就職試験対策関連活動(142 頁の表 5-5 参照)

a. SPI 対策講座：SPI3 対策を中心に 11 月 17 日～1 月 26 日に開講。

④就職先開拓(企業・団体訪問)：1 年間で延べ 931 件の企業・団体を電話とオンラインツールで連絡を取る
コロナ禍のため直接訪問なし。

⑤特定活動ビザ取得者支援：ハローワークと協働して月 1 回は活動報告を受け、状況確認と求人紹介を行う等の支援を実施した。

⑥YouTube を利用して各種情報配信を行った。(142 頁の表 5-6 参照)

2-5-2-3 評価

1. 2020 年度は新型コロナウイルスの流行に伴い、全科目をオンラインで実施することが当面の目標となった。オンデマンド形式の科目も多く、それらのやり方に慣れ、工夫をすることに時間が費やされた。履修人数については「ジェンダーとキャリア形成」改め「グローバルキャリア研究」のみ、厳選した人数で行うことを目的としたため減少。それ以外は増加した。就職や進路に関する関心の高さが伺えるためかと思われる。
2. 就職指導・ガイダンス活動関連は新型コロナウイルスの流行に伴いほぼ中止。

3. 業界・企業・職種研究関連活動においては、これまで同様人事採用担当者を招いた業界研究のための講義を正課科目である「キャリア形成研究」内で実施し、昨年度よりも多くの学生に多様な業界の話聞かせることができた。また、職種研究関連に関してもその他のキャリア教育科目内で実施し、同様の効果を得た。ただ、昨年との相違点はそれらをオンデマンド形式で実施したことである。結果として学生が何度も自分のタイミングで見返すことができ、この実施方法自体は良かったと思われる。
4. 就職試験対策関連活動においてはオンデマンド化したので、授業同様好きなタイミングで見返したり、何度でも見られるようになった。平常時になってもこのやり方が復習という意味では良いかと思われる。
5. 就職先開拓においては新型コロナウイルスの流行に伴い、直接訪問することができなくなった。代わって電話やオンラインによる企業担当者との情報交換が増え、結果として件数だけで言えば過去最高となった。
6. 特定活動ビザ取得者支援ではハローワークと協働して状況確認と求人紹介をすることが出来た。

2-5-2-4 課題及び改善・向上方策

2020年度は新型コロナウイルスの流行により、新しいやり方を余儀なくされ、目標数を達成するというより、環境を整えることが重要な年となった。今後の課題としては、対面環境が戻ってきた時に、せっかく培ったノウハウをどこまで残すか。また、対面が無くなって失った学生との関わりをどのように取り戻すか、その辺りが大きな課題となる。

なお、キャリア形成支援の企画・改善・向上方策の主体はキャリアセンターで実施している。

内部質保証のためのチェックリスト

- キャリア教育のための支援体制を整備しているか
- 就職に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか

2-6 学生サービス

2-6-1 学生生活支援

2-6-1-1 目的・目標

「安全で健康的な学生生活」と、キャンパスライフにおける「学生の満足度を高めること」を目的としている。この目的を実現するために、次のとおり目標を設定している。

- (1) 学生生活の充実と安全なキャンパスライフの支援(窓口満足度 90%以上)
- (2) 学生の父母(後援会)との連携による学生生活支援
- (3) 学生の健康管理と予防衛生の支援(定期健康診断の実施と新型コロナウイルス対策)

2-6-1-2 本年度の活動

1. 学生生活の充実と安全なキャンパスライフの支援

2020年度はコロナ禍により、授業を始め、例年行っていた年度当初の各種オリエンテーションや対面を基本とする行事がオンライン開催または中止となった。学生支援に関しても、このような学生生活の変化を考慮した活動となった。

- (1) 全学生を対象とする学生満足度調査の実施(12~1月)及びニーズ対応

① 学生が窓口に来訪せずに各種申請を行えるオンライン窓口の強化とオンラインFAQの充実

- ②対面が必要な場合に、密を避けて窓口を利用できる予約制窓口の設置
 - ③学生が希望する食事提供体制(キッチンカー導入によるメニューの多様化)への変更
- (2)新型コロナウイルス感染拡大防止策の実施
- ①校舎入口への検温器及び消毒液の設置
 - ②教室及び学生食堂のレイアウト変更(席の間引き)
- (3)学生保険の加入奨励と事務支援
- ①学生教育研究災害障害保険付帯総合保険加入の促進

2. 学生の父母(後援会)との連携による学生生活支援

(1)後援会による本学諸活動への援助

| | |
|----------|--|
| 教育活動援助 | TOEIC 検定料補助、大学院研究活動、卒業祝い品、 <u>語学試験受験料補助</u> 、 <u>公務員コース実習費</u> 、 <u>寮生イベント補助</u> |
| 道徳教育活動援助 | 全国モラロジー研究会参加費援助、 <u>皇居奉仕団参加費援助</u> 、 <u>道徳教材費援助</u> 、 <u>モラロジー講座受講援助</u> |
| 課外活動援助 | 学生・顧問・監督等の部活動補助(公式戦交通費・合宿参加費等)、学生・顧問・監督等の保険料、課外活動懇談会、自主活動支援制度、学生表彰、 <u>大学祭・リーダーセミナー支援</u> 、 <u>同好会・非公認団体支援</u> 、 <u>課外活動施設移転援助</u> 等 |
| 学生生活援助 | 学生食堂等清掃代、ロータリー花壇整備代、新入生メッセージ、公用車維持費、学生チャレンジ奨励制度、 <u>学生食堂小鉢</u> 、 <u>学食の品質向上支援</u> 、校舎 Wi-Fi 整備費援助 等 |
| 進路指導援助 | 職業適性検査代、キャリアカウンセラー派遣代、My Career Note 代、 <u>筆記試験対策講座実習費</u> 、 <u>卒業生と在学生との情報交換会</u> 、 <u>企業開拓用大学総合パンフレット購入代</u> 、 <u>キャリアセンター整備費</u> |
| 医療厚生援助 | 学生教育研究災害傷害保険加入料(付帯賠償責任保険加入)、定期健康診断検査料 |
| 外国人留学生援助 | 外部試験成績優秀者助成(日本語検定 N1 合格(漢字圏・非漢字圏別)、BJT ビジネス日本語検定 J1 合格以上) |
| 機器・設備援助 | IC 認証型学生食堂券売機リース料、証明書自動発行機リース料、入退寮カードリーダーメンテナンス、J:COM 費(CNN 放映)、卒業記念品、学生寮 Wi-fi 環境の整備、キャリアセンター内改装 |

※下線は、コロナ禍により執行されなかった項目

(2)弔慰金・見舞金

| | 会員 | 特別会員 |
|-----|-----|------|
| 弔慰金 | 4 件 | 0 件 |
| 見舞金 | 1 件 | 0 件 |

(3) 父母懇談会の開催(後援会と共催)

※集会を中止し、代替行事にて開催

| | |
|----------|----------------------------------|
| 9月5日 | 保護者向け Q&A 集公開(9/5)、専門スタッフによる個別相談 |
| 9月18・26日 | 受付、教員とのオンライン面談(9/18・26) |

(4) 後援会定期総会の開催

※集会形式は中止し、メール配信による委任決議

| | |
|-------|--|
| 4月25日 | 2019年度事業報告・収支報告、 2020年度事業計画・収支予算、役員選出 |
|-------|--|

(5) 後援会会員への大学情報の発信

①大学の刊行物の発送(全学年 保護者・保証人向け)(7月)

- a. 令和2年度「父母懇談会」の中止について(ご案内)
- b. 麗澤大学後援会ホームページの開設について
- c. REITAKU JOURNAL 2020 vol.14
- d. MAKE ONE「” 一歩” を踏み出す」を応援するガイドブック(2020年版)
- e. ニューモラル(7月号)No.611

②大学情報メールマガジン『後援会だより』1～7号配信(12/11開始)

(6) 後援会役員会の開催

| | |
|---------------|---|
| 4月24日 LINE 会議 | 2020年度事業計画・収支予算、役員選出 2019年度事業報告・収支決算報告 |
| 11月21日 | 2020年度収支中間報告・今期予算の有効活用、上半期学生表彰、 SDGs フォーラム後援会特別賞創設 |
| 3月13日 ZOOM 開催 | 2020年度事業報告・収支決算概算報告、下半期学生表彰 2021年度事業計画・収支予算・役員選出 |

3. 学生の健康管理と予防衛生の支援

(1) 全員受診を目指した定期健康診断の実施

2020年度の定期健康診断受検状況は、次表のとおりである。

実施日：2020年9月18日、9月19日、11月15日

| 学部・研究科 | 対象数 | 受検者数 | 未受検者 | 受検率(%) |
|---------|-------|-------|------|--------|
| 外国語学部 | 1,362 | 1,131 | 231 | 83.0 |
| 経済学部 | 1,375 | 1,090 | 285 | 79.2 |
| 小計 | 2,737 | 2,221 | 516 | 81.1 |
| 言語教育研究科 | 23 | 20 | 3 | 86.9 |

| | | | | |
|---------|-------|-------|-----|------|
| 経済研究科 | 20 | 13 | 7 | 65.0 |
| 学校教育研究科 | 15 | 7 | 8 | 46.0 |
| 小計 | 58 | 40 | 18 | 68.9 |
| 合計 | 2,795 | 2,261 | 534 | 80.8 |

※未受検者 534 名中、診断書提出者 145 名である。

(2) 健康支援センターの月別診療利用状況

2020 年度の健康支援センター診療利用状況は、次表のとおりである。一方、学生相談センターによる「心の健康」という面での、学生対応状況は、36 頁の 2-7-2 を参照。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 学部 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 3 | 37 | 56 | 62 | 19 | 11 | 193 |
| 大学院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 3 | 37 | 56 | 62 | 19 | 11 | 193 |

2-6-1-3 評価

(1) 学生生活の充実と安全なキャンパスライフの支援

2020 年度はコロナ禍で学生の窓口来訪数が激減した。学生が窓口に来訪しなくともよい、仮に来訪する場合でも密を回避すること等を目的として、各種の手続きや問い合わせをオンライン化した結果、窓口対応の満足度が 90% を超える結果となり、コロナ禍対応として一定の成果を残すと同時に、対面を含めた受付方法全体を見直し、改善に繋がった。

(2) 学生の父母(後援会)との連携による学生生活支援(学生情報の月 1 回以上の発信)

対面で行ってきた各種後援会行事はオンライン中心となったが無事実施された。父母が大学に来る機会がなく大学の情報が一層伝わりにくくなったことから、12 月以降 3 月まで、情報配信ソフトにより大学及び学生の近況やイベント等の案内を 8 回配信し、大学理解の機会を提供できた。

(3) 学生の健康管理と予防衛生の支援(定期健康診断の実施と新型コロナウイルス対策)

学生の定期健康診断は例年の 4 月ではなく 9 月に実施した。密回避の目的で実施場所を分け、広い範囲で会場を設けたが、特に混乱はなかった。

2 学期から対面授業の一部再開に伴い、検温器や消毒液等を設置して感染予防に努めた。新型コロナウイルス陽性の学生は発生したが、全て学外における私的時間において感染したものであり、学内での予防対策は一定の成果があったと評価できる。

2-6-1-4 課題及び改善・向上方策

(1) キャンパスライフの支援

窓口業務については、更なるオンライン化を促進していく。更に、2021年度は対面授業の大幅な増加に伴い、昼食提供が必須となる。学内の食事環境については、コロナ禍で感染対策をしつつ、多種多様な食事の提供が出来るよう、恒常的に学生の満足度を満たせるよう、関連業者とも連携して対策を進める必要がある。

(2) 後援会との連携

キャンパスライフをご理解いただき、より良い学生支援を実現するために、情報配信ツールである「オクレンジャー」の登録率向上の施策を検討する。

(3) 学生の健康管理

学生の健康状態把握のため、引き続き健康診断の受診率アップ(案内工夫、未受診者のフォローなど)を目指していく。また、対面授業大幅再開により、学内に滞在する学生が増加することから、パーティションの設置、見回りや啓蒙のための放送など、学生の行動に即した新型コロナウイルス対策の充実を図っていく。

2-6-2 経済的支援

2-6-2-1 目的・目標

学内外の奨学金制度を適正に活用し、支援を必要とする学生に対して必要な経済的支援を行う。あわせて周知方法や手続きを見直し、満足度85%以上を目指す。

2-6-2-2 本年度の活動

2020年度に各種奨学金の支給・貸与を受けた学生数は、次表のとおりである。

| 奨学金の名称 | | 支給者数 | 支給総額 (千円) |
|--------|---|---------------------|---------------|
| 学 内 | 麗澤大学奨学生 特別奨学生 ①日本人 58名 ②外国人 11名 | 118 | 12,360 |
| | スカラシップ生 31名 | | 18,600 |
| | 課外活動特別奨学金 2名 | | 1,200 |
| | 海外留学奨学生 13名 | | 4,700 |
| | 大規模災害に伴う学費等減免 3名 | | 1,500 |
| 学 外 | 日本学生支援機構奨学生 給付209名、 ※貸与/第1種398名、第2種672名 | 1,279 ※うち給付者数209 | 87,018 ※給付額のみ |
| | 私費外国人留学生・学習奨励費受給者 | 0 | 0 |
| | 学習奨励費特別追加採用 | 61 | 2,928 |
| | 岡本国際奨学交流財団奨学生 | 0 | — |
| | オリエンタルモーター奨学財団奨学生 | 2 | 720 |

| | | | |
|-----|---------------------|-------|---------|
| | 坂口国際育英奨学財団奨学生 | 0 | 0 |
| | 清和国際留学生奨学会奨学生 | 1 | 1,200 |
| | 長坂国際奨学財団奨学生 | 0 | — |
| | 日本国際教育支援協会(JEES)奨学生 | 0 | — |
| | 蓮見留学生育英奨学基金奨学生 | 1 | 480 |
| | 服部国際奨学財団 | 2 | 2,400 |
| | 平和中島財団 | 0 | 0 |
| | ロータリー米山記念奨学会奨学生 | 1 | 1,680 |
| 合 計 | | 1,465 | 134,786 |

2-6-2-3 評価

学外の奨学金制度を中心に、コロナ禍による家計急変学生の支援を目的とした枠が新たに設定され、例年行う奨学金業務とあわせ、窓口を使用せず郵送等で手続きを行う変則的対応だったが、特段に問題なく適切に実施された。本学独自の経済支援策も行われたが、満足度は66%に留まり、満足度の向上には繋がらなかった。

他面、従来の外国人向けの奨学金についても再編成を実施し、「外国人留学生対象奨学金」として外部試験結果を活用した制度改革を実施した。利用学生は増加傾向にあり、学生の就学意欲を掻き立てることに役立っている。

2-6-2-4 課題及び改善・向上方策

学生への奨学金制度周知方法について引き続き検討・改善を行い、対象学生へのスムーズな情報提供を追求していく。あわせて、オンライン化を中心とした、学生が理解しやすく利便性の高い申請体制を検討していく。

内部質保証のためのチェックリスト

奨学金など学生に対する経済的な支援を適切に行っているか

- ・麗澤大学奨学金規程

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/193.html>

- ・29頁の「2-6-2-2 本年度の活動」を参照。

2-6-3 課外活動支援

2-6-3-1 目的・目標

学生が、本学の目指す知徳一体の人間像に対する理解を深め、課外活動を通じて自己の魅力と課題を発見・再確認する機会を与えることを目的とする。課外活動支援の目標は次のとおりである。

- ・課外活動団体の加入率50%以上

2-6-3-2 本年度の活動

2020年度はコロナ禍により、課外活動は原則禁止となっていたが、下記支援を行った。

(1) 「課外活動リ・スタートセミナー」を開催(12月)

課外活動停止期間の長期化に伴う、学生間の課外活動に対する意欲低下を防ぎ、再開に向けた動機付けを目的として、「課外活動リ・スタートセミナー」と題した臨時セミナーを実施した。

(2) 学友会における組織改編

＜大学祭運営(2020年度はコロナ禍により中止)、学友会費など＞の再編

オンライン活動の促進、在学生による新入生支援サイトの運営サポート、学友会主体となって準備しているSNSを活用した各団体への連絡ツールの支援等、コロナ禍に伴う課外活動加入者数の停滞を防ぐための対策を実施した。

・学友会

| 名称 | 活動内容 |
|----------|---|
| 学友会本部 | ①総会(年2回・オンラインにて実施) ②学友会予算・決算審議 ③新入生歓迎会の企画・立案・運営 (コロナ禍により実施できず) ④次年度学友会会長・副会長選挙(各総会にて) |
| 麗陵祭実行委員会 | ①大学祭全般の企画・立案・運営 |
| 部長会 | ①課外活動の運営と統括 ②新入生勧誘活動の統括 (コロナ禍により実施できず) |

コロナ禍であったが、学友会本部は、学生のキャンパスライフの充実・向上のために重要な役割を果たした。まず、5月・1月に学友会定期総会を行い、学友会予算・決算審議、次年度学友会会長選挙などをオンライン開催にて行った。3月には、同好会や国際ボランティア団体等を学友会に取り込み、会員に還元できる仕組みづくりを目的として組織改編に取り組んだ。学友会会則の改定を臨時総会にて行い、2021年度より幅広く自由度の高い活動ができるようにした。なお、第57回麗陵祭は、コロナ禍の影響により中止となった。

・部活動

①運動部(14部・190名)

| 部名 | 部員数 |
|--------|-----|
| 空手道部 | 6 |
| 弓道部 | 6 |
| 剣道部 | 9 |
| ゴルフ部 | 8 |
| サッカー部 | 17 |
| 少林寺拳法部 | 1 |
| ダンス部 | 35 |

| | |
|-------------------|-----|
| 硬式テニス部(男女) | 14 |
| 馬術部 | 14 |
| バスケットボール部 (男子) | 6 |
| 武術太極拳部 | 5 |
| 硬式野球部 | 19 |
| 女子ラグビー部 | 5 |
| 陸上競技部 | 45 |
| 合 計 | 190 |

②文化部(7部・50名)

| 部 名 | 部員数 |
|-----------|-----|
| E. S. S. | 7 |
| 英語劇グループ | 11 |
| 表千家茶道部 | 9 |
| きもの・お作法の会 | 6 |
| 軽音楽部 | 14 |
| 茶道部裏千家 | 3 |
| 合 計 | 50 |

部活動については、陸上競技部のみ特例として活動を認め、他団体については、コロナ禍の影響により年間を通して原則活動禁止となった。

・同好会活動

①運動系同好会(8団体・238名)

| 同 好 会 名 | 会員数 |
|-----------------|-----|
| オールラウンド | 29 |
| ダブルダッチサークル Reib | 52 |
| バドミントンサークル | 32 |
| ビーチバレーボールサークル | 58 |
| サッカーサークル BrezeL | 28 |
| 硬式テニスサークル | 16 |
| バスケットボールサークル | 11 |
| サバイバルゲームサークル | 12 |
| 合 計 | 238 |

②文化系同好会(9 団体・128 名)

| 同好会名 | 会員数 | 同好会名 | 会員数 |
|-------------------|-----|---------|-----|
| アカペラサークル | 25 | ロック研究会 | 22 |
| 吹奏楽サークル | 4 | 韓日文化研究会 | 6 |
| 現代視覚文化研究会 | 8 | | |
| 写真サークル photo-shop | 6 | | |
| プアン | 32 | | |
| フォークソング研究会 | 22 | | |
| HANGOUT | 3 | | |
| 合計 | 128 | | |

・団体・個人の活動実績

<団体>

陸上競技部 第 97 回東京箱根間往復大学駅伝予選会 13 位

<個人>

陸上競技部 経済学部経営学科経営専攻 4 年 難波 天

第 97 回東京箱根間往復大学駅伝競走 学連選抜として 1 区出場

(3) コロナ禍の活動ガイドライン策定

2021 年 4 月からの課外活動再開に向けて、文科省やスポーツ庁等による指針を元に、活動ガイドライン「課外活動特別申請(コロナ)の手引き」を策定した。併せて再開を希望する団体の代表と活動再開に向けた面談を行い、活動再開の準備を実施した。

(4) 課外教育(正規の課外活動団体ではないが国際ボランティア等を通じて行われる学生生活動)支援

① 自主活動支援制度「あなたの夢実現しませんか」表彰 1 件

| 団体名 | 場所 | 時期 |
|----------------|----------------------|------|
| 第 10 期麗澤模擬国連団体 | 全米模擬国連大会(オンライン開催)に参加 | 11 月 |

(5) 課外活動指導者である顧問・コーチへの情報提供等(学生との橋渡し)

(6) 後援会による学生表彰(課外活動や学術的活動に顕著な活躍をした団体、個人に対して)

・後援会長賞(団体 2 件、個人 1 件)

| 所属・氏名 | 個人 団体別 | 表彰内容 |
|--------------------|-----------|--|
| 第 10 期 麗澤模擬国連団体 | 団体 | 第 10 期麗澤模擬国連団体は、2020 年 11 月 7 日から 9 日の期間、ワシントン DC で行われた全米模擬国連大会にオンラインで参加した。今 |

| | | |
|--------------------------|----|---|
| | | 年度はコロナ禍の為オンライン開催になり、他の日本の大学が参加を見合わせた中、麗澤の学生は果敢に挑戦した。初めてのオンラインでの参加で例年よりも困難な準備となったが、4つの Outstanding Position Paper Awards を受賞するという歴代最高の成績を残すことができた。 |
| 中島ゼミ 日銀グランプリチーム | 団体 | 日本銀行が主催する「第16回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～」に挑戦した。予選を通過し、全国の112チームの中から決勝進出の5チームに選ばれ、決勝大会に進出した。2020年12月19日に日銀本店で行われた決勝大会では、日銀の副総裁や政策委員会メンバーなどに対して堂々たるプレゼンテーションを行った。 発表テーマは、「株学習を楽しく分かりやすく～『スタかぶの提案』～」であり、「楽しく、実践的な投資の練習ができ、必要な投資の知識が得られるアプリ型の教材」を提案した。審査委員からは、「具体的な仕組みやビジネスモデルまで考えている点が良かった」といった評価を得て、敢闘賞を獲得した。 |
| 経済学部経営学科 経営専攻 難波 天 | 個人 | 2021年第97回東京箱根間往復大学駅伝競走の関東学生連合チームのメンバーに選出され、1月2日の往路1区(大手町～鶴見、21.3キロ)を力走した。トップとはわずか26秒差で区間10番通過の1時間3分26秒(参考記録)の好タイム。また、副キャプテンとして部をまとめるとともに勉学にも真剣に取り組み、他の陸上競技部員の模範となった。 |

・後援会賞(団体1件)

| | | |
|-------|----|--|
| 陸上競技部 | 団体 | 第97回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会において13位となり、本戦出場あと一歩のところまで進出した。陸上競技部の全員が寮生活の中で、部活と勉学の双方に全力で取り組んだ。 |
|-------|----|--|

・後援会奨励賞(団体1件、個人1件)

| | | |
|---------------------|----|--|
| 経済学部 新入生サポート2020 | 団体 | 2020年春の緊急事態宣言期間中に、不安を抱える経済学部新入生に向けて、学生生活や授業に対してのサポートをオンラインで行った。事前に公式LINEアカウントを開設し、情報を発信する場を設け、新入生にコンタクトを取れる環境を用意した。 LINEアカウントは、144名の登録者を記録した。その後、ZOOMを通して、新入生が感じる不安の種別ごとに学生なりの目線で対応した。緊急事態宣言中に、4回の相談会を開催し、最大で約50名の参加があった。そのほかにも、個人で話をしたい学生のために、個人面談を行った。新入生の希望などを事前に聴取し、その学生に合った上級生に面談に参加してもらい、個々のニーズに合わせた対応を取った。 |
|---------------------|----|--|

| | | |
|------------------------------|----|---|
| 外国語学部 国際交流・国際協力専攻 吉原美優 | 個人 | 以下の団体に参加し、地域の団体や企業と連携してまちづくりの発展に貢献した。多くの活動に参加しながらも活動のすべてに全力を注ぎ、それぞれに素晴らしい結果を残している。 (1)麗澤大学学生向け情報公開サイト「SUNRISE」 (2)音楽を用いた情操教育を支援する国際協力団体「MEALS」 (3)第10期麗澤模擬国連団体 (4)まちづくりプロジェクトチーム「カシワワカモノプロジェクト KIKAI」 |
|------------------------------|----|---|

2-6-3-3 評価

2020年度はコロナ禍という厳しい状況に見舞われ、通常通りの活動ができなかったため、加入率を評価することはできない。しかし、このような状況においても、「オンラインによる学友会総会」を開催したり、「課外活動リ・スタートセミナー」を開催したりして、活性化に努めたことは評価できる。

<https://www.reitaku-u.ac.jp/news/event/1775499/>

2-6-3-4 課題及び改善・向上方策

(1)課外活動団体のうち、麗陵祭実行委員会と部活動団体へ配分してきた学友会費の管理運用について、2019年度に実施した学生主体から学生課主体とする総合的な見直しを引継ぎ、従前は学友会費の援助対象ではなかった「サークル、同好会団体」に対しても、一定の費用援助ができる体制へと変更した。この改善に伴い、学友会会則の見直しを実施し、従前は学友会費を配分できなかった同好会についても、一定条件を満たす団体への予算配分が実現可能となった。

また、今年度開催がなかったことで、活動の停滞が予想される麗陵祭運営についても積極的に支援を進めていく。

(2)予測不能な状態で発生する課外活動団体に関連する諸問題については、都度顧問教員にも情報共有するよう努めた。場合によっては、代表学生に対し、顧問との相談・報告を依頼することで、所属学生と顧問の関係強化を促したが、顧問の役割・責任等については、今後大学として根本的な見直しが必要である。

内部質保証のためのチェックリスト

学生の課外活動への支援を適切に行っているか

- ・麗澤大学学生の課外活動等に関する規程

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/355.html>

- ・「課外活動特別申請(コロナ)の手引き」
- ・「自主活動支援募集要項」
- ・麗澤大学後援会学生表彰内規

<https://reitaku-kouenkai.com/kouenkai/kaisoku/>

- ・「2-6-3-2 本年度の活動(4)課外教育支援」表
- ・「2-6-3-2 本年度の活動(6)後援会による学生表彰」表

2-7 学生相談

2-7-1 目的・目標

学生相談は、Student Personnel Services(学生厚生補導)の一環として行われる修学支援と発達援助の教育活動である。本学では、この学生相談の理念と建学の精神を踏まえ、全人的成長を実現するための援助を提供するために、昭和 60(1985)年度に「学生相談室」を設置した。その後、平成 18(2006)年度に「学生相談センター」へと改組し、目的を「学生が当面する諸問題の相談に応じ、学生生活の充実と人間的成長を支援するとともに学生の心の健康及び修学支援の課題について研究すること」と定めた。この目的を達成するため、専門家によるカウンセリングを通じた心理的援助を中心に、学生が心を休める場所や交流の機会の提供、教育的活動、家族や教職員への助言、学内の支援体制への提言などを行っている。令和元(2019)年度に、組織名が「学生相談室」に改称された。学生の多様化により、心理面だけでなく、学業面や生活面を含む総合的な支援を必要とする学生が増加している。そのため家族や教職員との連携が増え、学生相談室の役割も多様化している。

2-7-2 本年度の活動

(1)学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談

- ①学生カウンセリング:感染症予防のため、学生からの相談に対し電話カウンセリングを中心として実施し、カウンセラーが対面の必要だと判断した場合に対面でのカウンセリングを実施した。また、諸事情によりこれらの手段が困難な場合に限り、メールでカウンセリングを行った。10月より、Zoomを用いたオンラインカウンセリングも開始した。
- ②精神科医による健康相談:月1回3時間、精神科医による学生の健康相談は、電話を中心として実施し、必要に応じて対面でも行なった。(7月14日、8月4日、9月29日、10月13日、11月10日、12月8日、令和3年1月19日、令和3年3月16日)
- ③外部機関の紹介:医療機関や外部支援機関等の案内や資料を掲示し、必要な学生には紹介を行った。紹介先との情報交換といった連携支援も行った。
- ④心理検査:例年は性格や心身の状態を知るための検査を実施していたが、感染症予防のため実施しなかった。
- ⑤ランチアワー:例年は学生同士や教職員との交流促進のため、こころの休憩室にて一緒にランチをする会を開催していたが、感染症予防のためZoomを用いたランチアワー(11月20日、12月22日)を行った。
- ⑥イベント:感染症予防のため、オンラインでできるイベントとして8~9月に「ビブリオバトル」、12~2月に「アニメーションを語ろう」を開催した。
- ⑦こころの休憩室:例年は学生相談室内の一室を学生に開放し、学生の心の休憩所や交流の場として活用していたが、感染症予防のため閉室とした。
- ⑧入学時調査・特別面接:前期入学の学部生(編入生含む)・大学院生に対しGoogle formを用いた調査を実施した。また、調査結果から抽出した学生に対して面接実施の文書の送付及びメールを送信し、返答があった学生に対し入学時特別面接(5~10分程度の聞き取り)を電話で実施した。(5月13日~29日、6月10日~26日)
不來学生に対しては改めて実施期間(6月29日~7月3日)を設け、文書を再送付した。(6月24日~28日)聞き取りの内容に応じて、カウンセリングにつなぐ、支援部署を紹介する等の対応を行った。

(2)学生支援の諸活動

- ①家族カウンセリング:学生の家族や保証人に対し、学生への関わり方についての助言や情報提供を行った。
- ②教職員コンサルテーション・連携:教職員に対し、学生対応に関する助言や情報交換、支援の依頼を行った。
- ③書籍の貸出:例年は学生、教職員への書籍の貸し出しを行っていたが、キャンパス内への入構制限があったことにより貸し出しは実施しなかった。
- ④広報・啓発:学生や教職員への周知・啓発のため、以下の活動を行った。

- a. 学生・家族に向けて:「学生相談室パンフレット 2020」、「学生相談室だより」(年 4 回、No.38~41)の発行及びメール配信、新入生を対象とした動画によるオリエンテーション実施(4 月)、Web や掲示板、学内 SNS やメールでの広報。
- b. 教職員に向けて:「学生相談室ニュース」(年 1 回 No.34)発行、『学生相談室年報』(令和元年度第 20 号)発行、学内 Web 掲載を行った。
- ⑤学生相談室・CDS 共催講演会:教職員対象の講演会をオンラインにて開催した。講師は筑波大学人間系准教授の佐々木銀河氏を招聘、テーマは「大学における障がい学生への合理的配慮について～適切な「合理的配慮」のあり方とは～」であった。参加者は教員 40 名、職員 32 名であった。(11 月 12 日(木)16:00～17:30)
- ⑥連携・協働事業:
 - a. 教務・教育企画室と協働し、退学者抑制の対応方針を個別に検討、実施した。(会議 4 月 9 日、6 月 30 日、9 月 16 日)
 - b. 学生課所管の LGBT 対応に関する会議に参加し、支援方針を検討した。(会議 12 月 8 日、令和 3 年 1 月 28 日)

(3)会議・運営委員会等

- ①学生相談室運営委員会:令和 3 年 2 月 22 日。感染症予防のため、1 回のみで開催となった。メンバーは、運営委員及び事務局(学生課長代行、専任カウンセラー、受付・事務担当者)
- ②学生相談室定例会:随時開催(4 月 7 日、6 月 16 日、12 月 14 日、令和 3 年 2 月 16 日)。メンバーは正副室長及び事務局。
- ③学生相談室スタッフ会議:令和 3 年 2 月 16 日。感染症予防のため、1 回のみで開催となった。メンバーは正副室長、学生課長代行、カウンセラー 5 名、精神科医及び受付・事務担当者。
- ④学生相談室実務者会議:令和 3 年 2 月 16 日。感染症予防のため、1 回のみで開催となった。メンバーはカウンセラー 5 名、精神科医、受付・事務担当者。

(4)スタッフの諸活動(学会・研修会等への参加、学会活動)

- ①学会・研修への参加
 - a. 日本学生相談学会第 38 回大会(5 月 16~17 日、オンライン開催)…吉原・早田(参加)
 - b. 関東地区学生相談研究会第 101 回例会(7 月 4 日、オンライン開催)…吉原(司会)・早田(参加)
 - c. 第 66 回千葉県私立大学学生支援研究協議会(7 月 17 日、オンライン開催)…吉原(参加)
 - d. 日本学生相談学会第 51 回学生相談セミナー(8 月 2 日、オンライン開催)…吉原・早田(参加)
 - e. 日本臨床心理士会主催第 22 回被害者支援研修会(10 月 24 日、オンライン開催)…吉原(参加)
 - f. 令和 2 年度心の問題と成長支援ワークショップ(10 月 30~11 月 1 日、オンライン開催)…鷺津(参加)
 - g. 第 57 回全国学生相談研修会(11 月 15~16 日、オンライン開催)…吉原・早田・寺本(参加)
 - h. ウニコットフォーラム福岡 2020(11 月 29 日、オンライン開催)…早田(参加)
 - i. 関東地区学生相談研究会第 102 回例会(12 月 6 日、オンライン開催)…吉原・早田(参加)
 - j. パンデミック状況下での精神分析的サイコセラピー(12 月 20 日、オンライン開催)…早田(参加)
 - k. メンタライジングにおける子どもと親の支援(令和 3 年 1 月 10 日、オンライン開催)…早田(参加)
 - l. 第 53 回全国学生相談研究会議(令和 3 年 1 月 25 日、オンライン開催)…吉原・早田(参加)
 - m. 甲南大学 2020 年度公開研修会(令和 3 年 2 月 18 日、オンライン開催)…吉原・鷺津・寺本(参加)
 - n. 初回面接入門(令和 3 年 2 月 21 日、オンライン開催)…早田(参加)
 - o. 第 3 回日本学生相談機関代表者協議会(令和 3 年 2 月 27 日、オンライン開催)…吉原(参加)

②学会等での諸活動

吉原：関東地区学生相談研究会幹事

(5)学生相談室利用統計

2020年度の利用者総数は延べ3,547件、前年度比65.9%と、感染症予防のために学生の入構が禁止された影響により減少した。“学生カウンセリング”の利用者実数89名、延べ数1,182件と減少したが、「コンサルテーション・連携」や「イベント」の延べ利用者数は過去最多であった。

①学生相談室の10年間の利用者延べ数(上段：延べ利用者数(件)、下段：前年度比(%))

| 活動内容 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学生 | 1182 | 1486 | 1782 | 1501 | 1444 | 1088 | 844 | 772 | 765 | 730 |
| カウンセリング | 79.5 | 83.6 | 118.7 | 103.9 | 132.7 | 135.5 | 109.3 | 100.9 | 104.8 | 102.4 |
| 家族 | 55 | 108 | 127 | 76 | 68 | 47 | 44 | 70 | 68 | 49 |
| カウンセリング | 50.9 | 84.4 | 167.1 | 111.8 | 144.7 | 123.7 | 62.9 | 102.9 | 138.8 | 119.5 |
| コンサルテーション・連携 | 1178 | 1015 | 480 | 414 | 311 | 244 | 223 | 368 | 248 | 270 |
| | 116.1 | 211.5 | 115.9 | 133.1 | 127.5 | 113.5 | 60.6 | 148.4 | 91.9 | 163.6 |
| 心理検査 | 0 | 8 | 6 | 9 | 4 | 18 | 3 | 15 | 9 | 13 |
| | 0.0 | 133.3 | 66.7 | 225.0 | 22.2 | 600.0 | 20.0 | 138.8 | 69.2 | 118.2 |
| グループ | - | - | 120 | - | 0 | 20 | 16 | 15 | 29 | 29 |
| | - | - | - | - | 0.0 | 125.0 | 106.7 | 51.7 | 100.0 | 103.6 |
| ランチアワー | 9 | 103 | 203 | 132 | 107 | 114 | 182 | 189 | 122 | 37 |
| | 8.7 | 50.7 | 153.8 | 123.4 | 93.9 | 60.4 | 96.3 | 154.9 | 329.7 | 132.1 |
| イベント | 349 | 93 | 56 | 114 | 104 | 98 | 158 | 93 | 137 | 101 |
| | 375.3 | 166.1 | 49.1 | 109.6 | 106.1 | 67.6 | 169.9 | 67.9 | 135.6 | 99.0 |
| こころの休憩室 | 0 | 1102 | 832 | 468 | 500 | 1043 | 857 | 690 | 500 | 381 |
| | 0.0 | 135.4 | 177.8 | 93.6 | 47.9 | 121.7 | 124.2 | 138.0 | 131.2 | 158.8 |
| 日常的関わり | 11 | 152 | 157 | 156 | 172 | 240 | 141 | 110 | 112 | 104 |
| | 7.2 | 96.8 | 100.6 | 90.7 | 71.7 | 173.9 | 128.2 | 98.2 | 107.7 | 56.8 |
| 申込や連絡等 | 596 | 1184 | 712 | 704 | 604 | 436 | 301 | 232 | 247 | 239 |
| | 50.3 | 166.5 | 101.1 | 116.6 | 138.5 | 156.8 | 129.7 | 93.9 | 103.3 | 79.9 |
| 図書貸出 | 0 | 8 | 20 | 13 | 26 | 24 | 29 | 17 | 35 | 10 |
| | 0.0 | 40.0 | 153.8 | 50.0 | 108.3 | 85.7 | 164.7 | 48.6 | 350.0 | 29.4 |
| 入学時特別面接 | 100 | 106 | 111 | 93 | 69 | 80 | 57 | 80 | 84 | 72 |
| | 94.3 | 95.5 | 118.3 | 134.8 | 86.3 | 140.4 | 71.3 | 95.2 | 118.3 | 104.3 |
| ワークショップ | 67 | 14 | 29 | 76 | 31 | 10 | 82 | 38 | 29 | 11 |
| 講演会 | 478.6 | 48.3 | 38.2 | 245.2 | 310.0 | 12.2 | 215.8 | 131.0 | 263.6 | 52.4 |
| 利用総数 | 3547 | 5379 | 4635 | 3756 | 3440 | 3462 | 2937 | 2689 | 2385 | 2045 |
| | 65.9 | 116.1 | 123.4 | 109.2 | 99.4 | 117.9 | 109.2 | 112.7 | 116.6 | 105.7 |

*連絡も含む/学生、家族、教職員が同席の場合は内容に応じて分類、網掛は実施せず、-は集計せず

②学生相談室の10年間の利用者実数(上段：延べ利用者数(件)、下段：前年度比(%))

| 活動内容 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 |
|---------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 学生 | 89 | 153 | 186 | 170 | 144 | 137 | 117 | 114 | 124 | 117 |
| カウンセリング | 58.2 | 83.2 | 109.4 | 118.1 | 105.1 | 117.1 | 102.6 | 91.9 | 106.0 | 107.3 |
| 家族 | 19 | 31 | 37 | 30 | 25 | 23 | 26 | 31 | 32 | 22 |
| カウンセリング | 61.3 | 83.8 | 123.3 | 120.0 | 108.7 | 88.5 | 83.4 | 96.9 | 145.5 | 115.7 |
| こころの休憩室 | 0 | 76 | 89 | 60 | 89 | 72 | 68 | 62 | 76 | 70 |
| | 0.0 | 84.4 | 148.3 | 67.4 | 123.6 | 105.9 | 109.7 | 81.6 | 108.6 | 97.2 |
| 日常的関わり | 8 | 77 | 49 | 51 | 61 | 65 | 63 | 37 | 56 | 53 |
| | 10.4 | 157.1 | 96.1 | 83.6 | 93.8 | 103.2 | 170.2 | 66.1 | 105.7 | 63.1 |
| ランチアワー | 5 | 21 | 25 | 25 | 27 | 12 | 26 | 21 | 26 | 14 |
| | 23.8 | 84.0 | 100.0 | 92.6 | 225.0 | 46.2 | 123.8 | 80.8 | 185.7 | 93.3 |

③学生カウンセリング10年間の利用者実数と全学生に占める率

| 来談学生\年度 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 実数 | | | | | | | | | | |
| 全体(人) | 89 | 153 | 186 | 170 | 144 | 137 | 117 | 114 | 124 | 117 |
| 内正規学生(人) | 88 | 151 | 181 | 162 | 138 | 126 | 113 | 102 | 114 | 103 |
| 正規学生来談率(%) | 3.0 | 5.1 | 6.3 | 6.0 | 5.4 | 5.0 | 4.4 | 3.9 | 4.3 | 3.6 |

④学生カウンセラー主な相談内容(相談者実数)

| | 勉学・進路 | 学業 | 進路 | 留学 | 転部科 | 編入 | 留年 | 休退学 | 勉学進路他 | 心理・適応 | 性格 | 人生観 | 対人関係 | 心身の健康 | 性の問題 | 適応 | 心理適応他 | 生活その他 | 経済問題 | 住居問題 | 課外活動 | 家庭問題 | トラブル | その他 | 合計 |
|------|-------|----|----|----|-----|----|----|-----|-------|-------|----|-----|------|-------|------|----|-------|-------|------|------|------|------|------|-----|-----|
| 2020 | 18 | 6 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 2 | 64 | 18 | 1 | 10 | 25 | 0 | 10 | 0 | 7 | 3 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 89 |
| 2019 | 27 | 10 | 8 | 5 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 118 | 44 | 2 | 22 | 40 | 0 | 10 | 0 | 8 | 0 | 0 | 1 | 3 | 4 | 0 | 153 |
| 2018 | 28 | 9 | 13 | 1 | 0 | 0 | 1 | 4 | 0 | 144 | 58 | 5 | 32 | 37 | 1 | 9 | 2 | 14 | 2 | 0 | 2 | 2 | 4 | 4 | 186 |

2-7-3 評価

(1)学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談などを適切に行っているか

臨床心理学や精神医学、大学における学生支援の専門家による、「2-7-2 本年度の活動」のうち、「(1)学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談」に示した直接的な支援、「(2)学生支援の諸活動」に示した間接的な支援を行っている。他大学の学生相談機関と比較して活動は多岐に渡っており、質的に適切に支援がなされているといえよう。また、利用総数は「(5)学生相談室利用統計」に示したとおり、コロナ禍の影響により減少した。ただし、ホームページや学内 SNS を用いた広報を積極的に行った効果もあり、予想されたような大幅な減少は生じなかった。感染症予防のために、電話相談が中心になりながらも相談活動を継続し、10 月からは Zoom による相談も開始したことによって、後期の相談件数(802 件)は、2019 年度(770 件)を上回った。

2-7-4 課題及び改善・向上方策

2020 年度は、感染症予防のために学生の入構が禁止されたことに伴い、4 月から 9 月まではカウンセリングを原則電話対応のみにしたことや、こころの休憩室を閉室したことにより、延べ利用者数は減少した。入学式が中止となり、各種オリエンテーションも動画配信という形で行われ、授業も前期はオンライン授業となったため、学内のサポート資源の情報を得ることが例年に比べて難しかったと考えられる。特に、1 年生は同学年のつながりを作れず、孤独を感じている学生が多かったことが推測される。例年実施していた学生相談室による授業講話といったアウトリーチ活動も実施できなかったため、大学生活への適応という課題を抱える 1 年生に対して、学生相談室の存在を周知する機会が少なかった。これらの影響により、学生カウンセリングの延べ利用者数及び実数が減少したと考えられる。

このような状況下において、ホームページや学内 SNS を用いた情報発信の頻度を増やすと共に、学生が相談をしやすい工夫として、申し込みフォームをホームページ内に新たに設置した。このように、悩みを抱えていながら相談につながっていない学生が、学生相談室の存在を知り、相談しやすい環境を整えていくことを今後も行っていく。また、1 年生以外にも支援を必要としながらも、自ら助けを求められず不適応に苦しみ、学業が滞っている学生がいると考えられる。このような潜在的なニーズに応えるべく、要支援学生の掘り上げを強化していく。具体的には、学生が抱える悩みの早期発見と対応のために、長欠学生の支援をしている教務・教育企画室との連携強化、各学部教員からの情報収集、学生課・CDS・キャリアセンターといった学生対応部署との連携体制を強化していきたい。

内部質保証のためのチェックリスト

学生の心的支援、生活相談などを適切に行っているか

- ・『学生相談室年報』
- ・学生相談室 HP

<https://www.reitaku-u.ac.jp/campuslife/support/counselling/>

2-8 学修環境の整備

2-8-1 コンピュータなどの IT 施設

2-8-1-1 目的・目標

大学 IT ソリューションセンターは、学士課程における情報教育及び情報機器を利用する教育・研究に関する FD を統括するとともに、情報教育システムの企画・運営等、また情報基盤システムの設計・運用管理等を行うことで、本学の教育・研究の向上に寄与することを目的としている。

上記の目的を実現するため、大学 IT ソリューションセンターは学修環境の整備に関し次のとおり目標を設定している。

- ① 情報教育システム環境を企画・運営・保全することによって、教育及び学術研究を支援する。
- ② 情報システム利用資格の管理を適正に行うことによって、システムのセキュリティと安定性を高める。
- ③ 廣池学園の情報ネットワーク開発・整備に協力する。
- ④ 教育・研究・地域貢献において学内外ネットワークの効果的な活用を協力する。
また中期計画の施策として、Society5.0 時代の安定した情報教育のための麗澤大学情報教育システム整備計画の推進を行う。

2-8-1-2 本年度の活動

目的・目標に基づいて、下記のとおり情報教育支援及び研究支援業務を行った。

- ①全学情報教育システム2018整備計画(PCシステム)、2019整備計画(サーバシステム)、2020整備計画(ネットワークシステム)で導入・整備したシステムの安定運用に努めた。
 - a. 教育支援としてコンピュータ教室、CALL教室及びコンピュータ自習室を安定運用した。
 - b. 研究支援として研究室PCについて運用支援した。
 - c. 学内ネットワークシステムを安定運用した。
 - d. 無線LAN環境を安定運用した。
 - e. 環境保護のため印刷枚数を制御できる仕組みを運用した。
 - f. 学外からの利用のため、VPN接続サービスを継続して提供した。
 - g. 教員及び学生用メールシステムのGmailを安定運用した。
 - h. 各種サーバ群を安定運用した。
 - i. 印刷専用端末を安定運用した。
 - j. コンピュータ教室のWebカメラを継続して運用した。
 - k. ネットワークのセキュリティ対策を継続して運用した。
 - l. 情報コンセント及び無線LANのWeb認証システムを継続して運用した。
 - m. Webのコンテンツフィルタリングシステムを継続して運用した。
 - n. 利用者が安全・快適に電子メールを利用できるようにするためのspam対策を継続して運用した。
 - o. G Suite for Educationのサービスを安定運用した。
- ②全学情報教育システム2020整備計画を実施し、2011整備計画で導入した無線環境の更新を行った。
- ③統合認証システムを安定運用した。
- ④学術ネットワークSINET5の安定運用ならびに回線の増強化を行った。
- ⑤UPKI電子証明書発行サービスに継続加入し本学のサーバ証明書を安定運用した。
- ⑥サーバ死活監視、ネットワークトラフィック、PC利用状況、無線LAN利用状況、緊急地震速報を表示するデジタルサイネージシステムを安定運用した。
- ⑦ファイル共有ソフトの不正な通信を検知する機能をファイアウォール上で有効にし、通信のブロックを行う運用を継続した。
- ⑧eduroam(国際学術無線LANローミング基盤)に加入した。
- ⑨キャリアセンターにオンライン就活用の設備として、Wi-Fi 環境はもとより、学生用 PC、A3 対応カラーブ

リンタ、スキャナを整備した。

⑩遠隔授業開始に伴いProject Studio2,3に録画及び授業のオンライン配信の環境整備を行った。また教員向けの機器貸出しの追加整備を行った。

⑪遠隔授業の受講にあたり、経済的な理由により環境整備が難しい学生へパソコン、Wi-Fiルーターを貸与するために機器の調達・整備を行った。

⑫全学におけるノートPC必携化に向けて、充電スポット環境の整備を実施した。

2-8-1-3 評価

本学の目的・目標を達成するためにコンピュータなどの IT 施設の整備・運用を行った。コンピュータなどの IT 施設の整備及び利用状況等を資料編 3.「施設・設備」の表 3-3「コンピュータ設備」に示す。またコンピュータなどの IT 施設・サービスの利用にあたり、教育研究活動の発展と本学システムの能率的運営に資することを目的に「麗澤大学コンピュータ・システム利用細則」「麗澤大学コンピュータ実習室利用ガイドライン」「麗澤大学コンピュータ・システム利用ガイドライン」「麗澤大学 授業における情報倫理ガイドライン」を策定・更新し運用方針を定めている。またこれらの情報を発信するための Web サイトを運営し、IT 施設・サービスの利用促進及び支援に努めている。

2-8-1-4 課題及び改善・向上方策

①大学そのもの及び教育の DX を念頭に置いて、各種機器の更新などを行なっていく。

内部質保証のためのチェックリスト

コンピュータなどの IT 施設を適切に整備しているか

- ・ 廣池学園規程集 麗澤大学コンピュータ・システム利用細則
- ・ 利用規程 大学 IT ソリューションセンターWeb サイト <http://cite.reitaku-u.ac.jp/rule>
- ・ 資料編 3.「施設・設備」表 3-3 コンピュータ設備、情報ネットワーク構成図
- ・ 大学 IT ソリューションセンターWeb サイト <http://cite.reitaku-u.ac.jp/>

2-8-2 図書館

2-8-2-1 目的・目標

本学図書館の基本理念は、創立者が掲げた額「以経説経」（経を以て経を説く）に集約されている。これは、学問研究は原典によるべきとの意味である。図書館は、本学創成期から教育・研究活動において重要視され、その一翼を担う組織として位置づけられ、当初より開架式が導入され、自学自修、出藍の教育を旨とする本学の伝統を具現化するものであった。

この基本理念に則り、図書館という施設が持つ基本的な資料の収集機能、保存機能、利用機能を有効に發揮して、学生や教員の教育・研究活動を総合的に支援することを主な目的としている。この目的を実現するために、次のとおり目標を設定している。

(1) 資料収集方針に従って、本学の教育・研究活動に必要な図書館資料を計画的に収集し、充実した学術情報基盤を構築する。また、安定した収容能力を確保し、快適な利用環境を実現する。

(2) 図書館の資産(施設、設備、図書館資料等)に対する保全や利用者の安全管理を徹底する。

(3) 業務環境・利用者環境の整備・充実のため、業務用・利用者用コンピュータ機器の整備に心がけ、電子図書

館的機能を備えた図書館情報管理システムを稼働させる。また、ネットワークを活用したデジタル情報の利用サービス環境を促進する。

(4) 高度で学術的な教育・研究支援に対応しうる質の高い図書館情報サービスを提供する。

(5) 業務の効率化を目指して業務組織を機能的に編成し、情報の透明化や相互協力を推進できる環境を実現する。また、図書館関係団体等の研究会・研修会等に参加して、積極的に情報収集を行うと共に高い業務資質を確立する。

2-8-2-2 本年度の活動

(1) 学術情報基盤及び資産管理

資料収集方針に基づき、教員による推薦資料、大学図書館向け新刊案内等を中心にして学生・教員に有益な図書館資料を収集した。各種資料の所蔵状況は以下のとおりである。

① 受入図書 ※製本雑誌を含む。

| 和書 | 洋書 | 中国語図書 | 合計 |
|--------|------|-------|--------|
| 3,165冊 | 579冊 | 282冊 | 4,026冊 |

② 受入雑誌

| 和雑誌 | 洋雑誌 | 中国語雑誌 | 合計 |
|------|-----|-------|------|
| 467種 | 33種 | 71種 | 571種 |

③ 受入視聴覚資料

| マイクロフィルム | マイクロフィッシュ | カセットテープ | ビデオテープ | CD・LD・DVD | レコード | スライド | CD-ROM | 合計 |
|----------|-----------|---------|--------|-----------|------|------|--------|-----|
| 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 1種 | 0種 | 0種 | 3種 | 3種 |
| 0点 | 0点 | 0点 | 0点 | 26点 | 0点 | 0点 | 25点 | 26点 |

④ 除籍図書 ※製本雑誌を含む。

| 和書 | 洋書 | 中国語図書 | 合計 |
|--------|------|-------|--------|
| 4,957冊 | 501冊 | 152冊 | 5,610冊 |

⑤ 2020年度末図書所蔵状況

| 和書 | 洋書 | 中国語図書 | 合計 |
|----------|----------|---------|----------|
| 322,149冊 | 117,175冊 | 64,753冊 | 504,077冊 |

⑥ 2020年度末雑誌所蔵状況

| 和雑誌 | 洋雑誌 | 中国語雑誌 | 合計 |
|--------|------|-------|--------|
| 2,110種 | 848種 | 817種 | 3,775種 |

⑦ 2020年度末視聴覚資料所蔵状況

| | | | | | | | | |
|--------------|---------------|-------------|------------|---------------|---------|-------|---------|----------|
| マイクロ フィルム | マイクロ フィッシュ | カセット テープ | ビデオ テープ | CD・LD・ DVD | レコード | スライド | CD-ROM | 合 計 |
| 21 種 | 4 種 | 683 種 | 829 種 | 1,550 種 | 1,178 種 | 136 種 | 150 種 | 4,551 種 |
| 1,787 点 | 239 点 | 1,153 点 | 2,316 点 | 2,896 点 | 1,958 点 | 186 点 | 1,149 点 | 11,684 点 |

(2)利用者サービス活動

新型コロナウイルス感染症の影響により、5月末まで臨時閉館、6月より学生・教職員限定で予約制での利用、後期から学生・教職員限定で短縮開館を行った。そのため、入館者数・貸出冊数は減少となった。

①サービス対象者数

| 項 目 | 人 数 |
|------|---------|
| 本学学生 | 2,693 名 |
| 教職員 | 304 名 |
| 学外者* | 39 名 |
| 合 計 | 3,036 名 |

*学外者数は当該年度の利用登録者数。

②入館者数

| 項 目 | 人 数 |
|------|---------|
| 本学学生 | 1,869 名 |
| 教職員 | 1,482 名 |
| 学外者 | 0 名 |
| 合 計 | 3,351 名 |

③館外貸出冊数

| 項 目 | 冊 数 |
|------|---------|
| 本学学生 | 2,952 冊 |
| 教職員 | 2,680 冊 |
| その他 | 3 冊 |
| 合 計 | 5,635 冊 |

④特別貸出冊数

| 項 目 | 冊 数 |
|-----------|---------|
| 卒業研究(学生) | 1,142 冊 |
| 学術研究(教職員) | 978 冊 |
| 合 計 | 2,120 冊 |

⑤グループ用施設・視聴覚施設利用件数

| 項 目 | 件 数 |
|---------|------|
| グループ学習室 | 1 件 |
| 視聴覚ブース | 6 件 |
| グループ視聴室 | 0 件 |
| 視聴覚室 | 52 件 |
| 合 計 | 59 件 |

⑥ILL(図書館間相互協力貸借)件数

| 項 目 | 件 数 |
|--------|-------|
| 図書貸出 | 76 件 |
| 図書借受 | 66 件 |
| 文献複写受付 | 145 件 |
| 文献複写依頼 | 166 件 |
| 合 計 | 453 件 |

⑦参考サービス件数

| 項 目 | 件数 |
|--------|------|
| 文献所在調査 | 41 件 |
| 事項調査 | 25 件 |
| 利用指導 | 31 件 |
| 合 計 | 97 件 |

⑧利用ガイダンス実施回数

| 項 目 | 件 数 |
|---------------|-----|
| 図書館利用ガイダンス | 1 回 |
| データベース利用ガイダンス | 0 回 |

⑨提供したデジタル情報サービス

| タイトル | |
|------|----------------------------|
| 国内 | 麗澤大学学術リポジトリ |
| | ジャパンナレッジ Lib |
| | 日経テレコン(日本経済新聞等) |
| | 日経 BP 記事検索サービス |
| | 東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー |
| | 聞蔵Ⅱ ビジュアル(朝日新聞) |
| | ヨミダス歴史館(読売新聞等) |
| | 国立国会図書館デジタルコレクション |
| 国内 | D1-Law 第一法規法情報データベース |
| | the japan times(英字新聞) |
| | WEB 労政時報(雑誌) |
| | 国立情報学研究所 論文情報ナビゲータ(CiNii) |
| | 海外 |
| 海外 | Nikkei Asian Review |
| 海外 | JSTOR 海外学術雑誌バックナンバーのデータベース |

⑩展示

新型コロナウイルス感染症の影響により、展示は行うことができなかった。

(3)その他

i) 図書館情報サービスの提供

- ①教員からの依頼により、授業内において図書館資料利用ガイダンスを1回実施した。
- ②麗澤大学学術リポジトリにて学内発行の紀要8誌と博士論文をWeb公開した。
- ③国立情報学研究所における図書及び雑誌の総合目録データベース(NACSIS-CAT)構築事業に参加し、本学図書館での図書及び雑誌受入データを所在データとして提供した。また、同研究所が運用している相互貸借システム(NACSIS-ILL)に参加し、相互貸借業務を行った。
- ④2020年10月より「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」を開始。
- ⑤電子書籍を多数購入し、新型コロナウイルス感染症対策として学生・教職員に学外から利用できるようにした。また、電子ジャーナルも同じく学外から利用できるようにした。
- ⑥「麗澤大学生に読んで欲しい100冊」を発行、コーナーを常設し多くの学生が利用した。

ii) 図書館関係団体との交流による情報収集

- ①東葛地区大学図書館コンソーシアム(Tokatsu University Library Consortium: 略称TULC)における情報交換会は、新型コロナウイルス感染症の影響により11月にWeb会議を行った。

※TULCは中央学院大学、江戸川大学、川村学園女子大学、開智国際大学、二松学舎大学、東洋学園大学、本学の計7大学図書館で構成され、相互利用及び情報の交換を目的とした組織である。

iii) コロナ禍による計画未実施の活動

- ①2020年度の「書評コンテスト」は中止した。
- ②例年実施している柏市内の中学生のインターンシップ受入は、依頼がなかった。
- ③2020年度のビブリオバトルは中止した。
- ④柏市立図書館・柏市内大学図書館合同企画は中止となった。

2-8-2-3 評価

- ①図書館は知の拠点として、教育・研究に必要な幅広い分野の学術情報を有し、他館からの相互貸借にも柔軟に対応している。
- ②学生への丁寧な利用指導、挨拶を心がけ気持ちよく利用できる環境づくりに努めている。また、就活・資格取得・心のケアに関する書籍の充実を図っている。
- ③職員の専門知識向上のため定期的に外部研修が行われており、積極的に参加している。学生・教員への研究活動の支援につなげることを目的としている。

2-8-2-4 課題及び改善・向上方策

- ①書架の狭隘化対策が課題の一つである。予算の効率的な執行に努め、図書の受入業務を進めると同時に、重複図書の除籍など資料の整理を並行して進める。2020年度は除籍作業に力を入れ、規定に従い5,610冊の図書・雑誌の除籍を行った。
- ②図書資産の管理について、図書館業務システム LIMEDIO に集約してきた。より簡便で正確な資産管理を進めていく。

内部質保証のためのチェックリスト

- 適切な規模の図書館を有しており、かつ、十分な学術情報資料を確保しているか
- 開館時間を含め図書館を十分に利用できる環境を整備しているか

2-8-3 課外活動施設

2-8-3-1 目的・目標

各団体の活動にあわせた施設の利用調整と管理を行い、学生が安全かつ安心して活動できるよう支援することを目的としている。その目的を実現するために、次のとおり目標を設定している。

- (1) コロナ禍における各施設の衛生面について留意する。
- (2) 施設使用後の消毒を徹底することにより、安心安全な施設利用及び運用を実現する。

2-8-3-2 本年度の活動

主に英語劇グループ、茶道部(裏・表)・自主企画ゼミ団体が利用してきた学生ホール(スモールシアター・茶室)及びグローバル広場の老朽化に伴う解体が実施され、それに伴う代替活動場所として、生涯教育プラザのプラザホール及び研究室 BEE 棟 1F 和室を改修・整備し、新たな課外活動施設としての運用を開始した。

2-8-3-3 評価

(1) 運動場、体育施設等の学修環境の整備と適切な運営・管理

活動原則禁止中であっても、施設課で定期メンテナンスや除草作業等を行うこととあわせ、老朽化を迎えていた施設から新たな活動場所への移転を実施することにより、活動時の学生の安全・安心をより高めることができた。

(2) 学生ホール移転及びプラザホール等課外活動施設の改修

学生視点に立った事前ヒアリングを実施し、円滑な活動場所移転を実現することができた。新たな活動場所に関するニーズを確認し、円滑な活動実現を支援することができた。

2-8-3-4 課題及び改善・向上方策

老朽化している陸上競技部の合宿所について、2021年度末を想定している移転実施に向けた調整・支援を行っていく。また、課外活動施設の予約方法は、これまでの窓口における書類提出方式から、学生の負担軽減を図るため、学内システムを利用した Web 申請による予約方式を検討する。

内部質保証のためのチェックリスト

課外活動の施設を整備し、適切に使用しているか

・2020年度用 課外活動ガイドブック

2-8-4 iFloor

2-8-4-1 目的・目標

学生がグローバル教員や留学生など多国籍なメンバーと交流を深めることで、多様な外国語や文化に触れながら国際感覚を身につけること及び英語力を向上させることを目的としている。そのために、CEC 教員間の連携を図り、学生のニーズに応じた効果的な英語教育を学生に提供できるように企画、運営を進めている。

2-8-4-2 本年度の活動

iFloor は、①外国語でのコミュニケーション力を高める iLounge、②思考力を高める個別のグループワーク・スペースである Project Studios、③個別または少人数グループで受けるグローバル教員による英作文指導を通して、④英語の表現力を高める Wwriting Center、プレゼンテーションやワークショップを通して自分の経験・体験を発信する Presentation Terrace の4つのエリアがあり、学生が言葉や文化の違いを超えて学ぶことができる場所である。また iFloor にはグローバル教員が常に常駐している他、利用者サポートのための学生スタッフ SS(Student Support)を設置し、利用者のサポートの他、語学アクティビティや文化イベントを企画・運営している。

コロナ禍に伴う、一斉休業及び全面オンライン授業のため、1学期は活動を行えなかった。第2学期よりオンライン(ヴァーチャル iFloor)で実施した。

(1) ワークショップ

| 実施日 | テーマ | 参加人数 |
|-----------|-------------------------|------|
| 10月7日(水) | Language and Perception | 84 |
| 10月14日(水) | Art to Study English | 13 |

| | | |
|-----------|---|----|
| 10月21日(水) | TOP TECH TIPS | 46 |
| 10月28日(水) | Fail to Prepare, Prepare to Fail (TOEIC) | 46 |
| 11月4日(水) | You Tube your way to Language Mastery | 46 |
| 11月11日(水) | Learning the Right Words | 24 |
| 11月18日(水) | Email Ethquette for Students and Beyond | 24 |
| 11月25日(水) | Coming up with successful ideas for assignments | 32 |
| 12月2日(水) | TOEFL Workshop | 14 |
| 12月2日(水) | English Communication & Global Citizenship | 46 |
| 12月9日(水) | TOEFL Workshop | 20 |
| 12月9日(水) | Increasing Your Vocabulary | 28 |

(2) iFloor イベント (iFloor Student Support 学生企画)

| 日程 | テーマ | 参加人数 |
|-----------|-------------------|------|
| 10月22日(木) | Travel Memories | 26 |
| 10月27日(火) | Treasurre Event | 24 |
| 10月30日(金) | Halloween Event | 53 |
| 12月24日(金) | Virtual Christmas | 51 |

(3) ライティングセンター

| 学期 | 利用人数 |
|-----|------|
| 1学期 | 37 |
| 2学期 | 54 |

2-8-4-3 評価

iFloor では、多くの学生が主体的に授業の空き時間などを活用して、語学力の強化やライティングスキル向上に励んでおり、学部によって参加学生の偏りが見受けられるものの、英語教育に対する一定のニーズがあり、参加した学生からは、満足度の高い評価を得ることができた。

2-8-4-4 課題及び改善・向上方策

iFloor の活性化に向けて、CEC(Reitaku Center for English Communication)教員間で密にコミュニケーションを図り意見交換を行っている。より一層魅力的な英語学習プログラムを学生に提供できるように、iFloor の利用状況をデータで把握し、最善策を検討していく必要がある。次年度も継続的に iFloor 満足度調査を実施し、更なる改善を図っていく。

2-9 学生の意見・要望への対応

2-9-1 学生満足度調査

2-9-1-1 目的・目標

キャンパスライフにおける学生の意識・満足度・生活実態等を把握し、学生意見を吸い上げて改善施策を検討実施することを目的としている。より幅広い意見収集のため、回答率 50%を目標とする。

2-9-1-2 本年度の活動

回答する学生にとっては、モバイル端末のみで対応できるという簡易性があり、集計する学生課としてはデータ分析が容易になるという利便性があるため、Google フォームを利用したアンケート回答方式を採用し、データ分析を早期に学内で行った。全学年を対象に実施し、併せて未回答学生へのリマインド数を昨年の 2 回から 4 回に増やすなどの回答率向上のための施策も実施した。

2020 年度は、コロナ禍の大学生活に特化した内容にて設問を構築し、「学生食堂のあり方」及び同年度から導入を開始した「麗澤大学ポータルシステム」についての調査項目を設けた。

2-9-1-3 評価

2019 年度には 3 月に実施しており、実施時期が回答率を下げた理由と推定されたため、2020 年度は 12～1 月に早めたところ、回答率は 14% 向上し 40% となった。その結果、利便性が疑問視されていた学内イントラシステムである「麗澤大学ポータルシステム」の「キャビネット」機能への満足度が低いことや、「食事環境」について「多種多様な方法の食事を選択できる環境」を学生が望んでいることが判明し、システムの改善やキッチンカー導入・弁当販売など食事提供体制を整えることを検討するなど、具体的な施策につなげることができた。毎年継続して行っている学生基点に立った窓口業務全般に関する学生評価については、コロナ禍でのオンライン対応と予約制窓口の満足度を調査した結果、いずれも高いポイントとなり、対面対応でなくとも満足度を向上させられることが実証された。

2-9-1-4 課題及び改善・向上方策

より多くの学生から回答を収集し回答率を上げることが必要である。そのためには、学生が回答しやすい環境・方法を作ることが望ましく、手段としては Google フォームを継続することが適切である。また、学生の自由時間に回答させるのではなくアンケートの回答機会をきちんと設けて回答させることが最も効果的ではないかとの仮説により、教員に協力を仰ぐことを検討する。また、回答内容に応じて、満足度向上の施策を実現する。

アンケート結果より実際に改善がなされた事例を積極的に周知し、「自分の意見が活かされた」と実感してもらえるよう学生にフィードバックする計画である。

内部質保証のためのチェックリスト

- 学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備しているか
 - 学生の意見を、学生生活の改善に反映しているか
 - 施設・設備に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備しているか
 - 学生の意見を、施設・設備の改善に反映しているか
- ・学生満足度アンケート依頼文

・学生満足度アンケートフリーコメントフィードバック資料

2-9-2 授業改善アンケート(75頁の3-10 ファカルティ・ディベロップメント参照)

2-10 寮生活支援

2-10-1 目的・目標

本学学生寮は、建学の精神である「知徳一体」の教育を実現し、学生の社会的訓練と人格形成の場として設けられた教育施設である。寮教育の目的である「自我没却神意実現の自治制」を達成するために、学生課が寮生に対する指導と助言を行う。また、2020年度は新型コロナウイルス感染症に関する対策を検討し、寮生が安心・安全に寮生活を送れるよう支援・運営を行う。

寮生活支援の目標は次のとおりである。

(1)教育寮・国際寮としての機能を一層強化する。

①寮の運営体制の変更に伴い、寮の将来構想を小規模ながらも「グローバル・ドミトリー」の理念を実現する、女子に特化したリーダー教育強化・充実のコンセプトのもと運営体制の再構築を図る。

②フロア・リーダーが中心となった「麗澤リーダー学」の自主企画ゼミナールを立ち上げ、教員との連携強化とリーダー会議やリーダーセミナー等、運営を見直し、更なる充実を図る。

③学生寮の目的別寮体制「チャイハウス(中国語寮)」について専攻の教員と連携を取りながら、構築を図る。

(2)感染症予防対策の実施と危機管理等の強化を図る。

2-10-2 本年度の活動

コロナ禍による感染予防のため、活動は最小限に留めたうえ、オンラインなども活用しながら寮生活支援に関して、次の行事等を実施した。

①新入寮生対象の寮生活オリエンテーションを開催した。(7月5日16日(オンライン開催)、9月3日)

②新入寮生外国人留学生のためのオリエンテーションを開催した。(※2020年3月30日)

③ユニット・リーダー会議を年3回開催した。(10月、12月、2月)

④フロア・リーダー会議(自主企画ゼミ)を年16回開催した。(前期はオンラインにて9回開催)

⑤ユニット・リーダー会主催行事に対する支援を行った。(4回)

⑥来年度のユニット・リーダー打合せを年3回開催した。(内2回はオンラインでの開催)

⑦新型コロナウイルス感染拡大防止策の実施

⑧2020年度の学生寮入寮状況は、次表のとおりである。

| 分類 | 学年 | 男子寮 | | 女子寮 | | 合計 | |
|---------------------------|----|-----------|----------|------------|-----------|------------|-----------|
| | | 1学期 | 2学期 | 1学期 | 2学期 | 1学期 | 2学期 |
| 外国語学部 | 1 | 10 (0) | 2 (0) | 16 (0) | 4 (0) | 26 (0) | 6 (0) |
| | 2 | 5 (0) | 0 (0) | 20 (4) | 10 (4) | 25 (4) | 10 (4) |
| | 3 | 1 (1) | 0 (0) | 19 (2) | 5 (0) | 20 (3) | 5 (0) |
| | 4 | 6 (2) | 2 (2) | 14 (0) | 4 (0) | 20 (2) | 6 (2) |
| | 小計 | 22 (3) | 4 (2) | 69 (6) | 23 (4) | 91 (9) | 27 (6) |
| 経済学部 | 1 | 14 (5) | 3 (1) | 4 (2) | 3 (2) | 18 (7) | 6 (3) |
| | 2 | 7 (4) | 2 (0) | 3 (3) | 2 (2) | 10 (7) | 4 (2) |
| | 3 | 4 (2) | 0 (0) | 10 (5) | 4 (2) | 14 (7) | 4 (2) |
| | 4 | 8 (5) | 2 (1) | 5 (3) | 3 (2) | 13 (8) | 5 (3) |
| | 小計 | 33 (16) | 7 (2) | 22 (13) | 12 (8) | 55 (29) | 19 (10) |
| 国際学部 | 1 | 6 (5) | 1 (1) | 14 (6) | 5 (1) | 20 (11) | 6 (2) |
| | 小計 | 6 (5) | 1 (1) | 14 (6) | 5 (1) | 20 (11) | 6 (2) |
| 大学院生 | | 1 (1) | 1 (1) | 3 (3) | 3 (3) | 4 (4) | 4 (4) |
| 研究生 | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 淡江大学留学生 | | 1 (1) | 0 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 2 (2) | 0 (0) |
| 特別聴講生(淡江大生除く) 教育実習 その他 | | 2 (2) | 0 (0) | 9 (9) | 0 (0) | 11 (11) | 0 (0) |
| 合計 | | 65 (28) | 13 (6) | 118 (38) | 43 (16) | 183 (66) | 56 (22) |

※()内の数字は、外国籍で内数。

出身国・地域は人数順に、韓国、中国、ベトナム、台湾、タイ、ドイツ、フィンランド、チベット、アメリカ、インド、香港、ラオスである。

※実際はコロナ禍のための1学期は閉寮。(自国に帰国できない留学生のみ在寮:5/1時点では29名)

2-10-3 評価

(1)寮の将来構想について、コロナ禍での入寮者の激減に伴い、2021年度より寮の使用施設としてA棟のみとすること、B棟とD棟は一時閉鎖とすること、C棟は陸上競技部寮として改修することを決定した。A棟入寮者は女子のみとし、少人数によるリーダー教育を行うことを方針決定し、「グローバルリーダー寮」への一歩を踏み出すことができた。

また、縮小を機に、今後使用するA棟を全面的に清掃し、衛生環境を整えることができた。

(2)2学期は開寮し、感染症対策として「特別運営」の内規を定め、寮運営を行った。リーダー会議などの運営も見直し、感染予防に努めた結果、寮における新型コロナウイルス感染は0件となり、安心安全な寮生活を提供することができた。

(3)在寮生について、コロナ禍で1学期は閉寮になったが、フロア・リーダーが中心となり「麗澤リーダー学」の自主企画ゼミナールを立ち上げた。寮教育委員会の教員とともにオンラインにて9回開催し、今後の課題解決に向けた施策を打ち出すことができた。

2-10-4 課題及び改善・向上方策

(1)小規模ながらも「グローバル・ドミトリー」の理念を実現する、女子に特化したリーダー教育強化・充実のため、会議やリーダーセミナー等の運営を見直し、更なる充実を図る。学生寮の目的別寮体制「チャイハウス(中国語寮)」においては、教員と連携しながら充実を図る。

(2)感染症予防対策の実施と衛生的な環境の維持、危機管理等の強化を図る。

(3)寮教育委員会委員(担当教員)と連携を取りながら、課題を洗い出し、改善・解決を図る。

(4)他大学学生寮への視察、交流会を通し情報交換を行う。

内部質保証のためのチェックリスト

☑学生の自治による運営が適切に行われているか

・麗澤大学ホームページ「施設紹介・学生寮” Global Dormitory” ・寮システムについて」

<https://www.reitaku-u.ac.jp/reitaku-campus/dormitory/system/>

2-11 外国人留学生支援

2-11-1 目的・目標

本学における国際交流活動は、創立者廣池千九郎が目指した「人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人材の育成」のため、世界的・国際的識見を備えた有能な人材を養成することを目的として、以下を目標として外国人留学生の支援を行っている。

- ①他部署との連携を密にし、外国人留学生の学生生活支援及び成績不良学生の指導を強化する。
- ②留学生間、日本人と留学生の異文化交流を促進する。
- ③外国人留学生による地域連携及びインターンシップ活動の充実を図る。

2-11-2 本年度の活動

(1)外国人留学生の学生生活支援

コロナ禍により制約を受けた活動もあったが、状況に応じ必要な留学生支援を行った。(118 頁の表 2-1-2 及び表 2-1-3 参照)

来日する留学生は、新型コロナウイルス対策として 2 週間の自主隔離を要した。そのため来日前に入国後の隔離場所、行動予定の確認をした。隔離期間を終えた後、入寮手続きや住民登録等のサポート等、安心して留学生生活スタートできるよう配慮した。

また、指導が必要な留学生の対応では、各学期始めに関係部署と情報を共有し、毎月実施している在籍確認(8・2・3月はなし)を利用して、対象となる留学生を学部執行部と教務・教育企画室とで連携し、退学抑制等効果的な支援につなげることができた。特に、留学生とのコミュニケーションを重視し、2020 年度はメールや SNS を活用して、常にコンタクトを取り、学生の相談を受けられるようにした。

2020 年度は以下の外国人留学生支援活動を行った。

- ①新入学特別聴講生(13 人)の入寮サポート。(3 月 31 日)
- ②新入学特別聴講生(13 人)の生活及び学業オリエンテーションの実施。(4 月 1 日)
- ③新型コロナウイルス感染予防に関する学生寮での注意指導の実施(4 月 3 日)
- ④在留管理制度に基づく各種手続きの取り次ぎ。
- ⑤学部及び大学院に在籍する外国人留学生への授業料減免。
- ⑥帰国中留学生の授業料海外送金納入サポートや特別定額給付金、年金特例等の代理申請。
- ⑦帰国中留学生の退寮にともなう荷物の発送をサポート。
- ⑧コロナ禍で帰国中にビザが切れた学部留学生の再入国ビザ、誓約書など各国日本大使館へ提出する書類作成のサポート。
- ⑨成績不良指導等を必要とする留学生に対し学部執行部及び教務・教育企画室等と連携し対応。
- ⑩コロナ禍での大学キャンパス入構禁止期間中における、メールや SNS での留学生サポート。

(2) 日本人と留学生の異文化交流

留学生との交流では、日本人学生(主に留学から帰国した学生)と留学生(主に交換留学生)との交流活動として Conversation Partnership を行い、麗澤大学生が来日したばかりの交換留学生とペアになりサポートしてきたが、2020 年度は来日できない交換留学生が多いことから、オンラインでの交流活動を行った。コロナ禍で双方に移動ができない制約がある中、本学への留学希望者であった海外協定校側からの参加者も多く、活動を継続できたことで学生の異文化交流機会の創出となった。1 学期ごとにペアまたはグループを作り、オンラインでの会話練習や交流活動を行い、学期末には協働学習発表会を開催した。

Conversation Partnership の活動実績

2019 年度 1 学期 第 3 期 留学生 18 名、麗澤大学学生 26 名

2019 年度 2 学期 第 4 期 留学生 33 名、麗澤大学学生 41 名 【合計】留学生 51 名、麗澤大学学生 67 名

2020 年度 1 学期 第 5 期 留学生 13 名、麗澤大学学生 23 名

2020 年度 2 学期 第 6 期 留学生 15 名、麗澤大学学生 20 名 【合計】留学生 28 名、麗澤大学学生 43 名

(3) 外国人留学生による地域活動

例年、高大連携の提携校である千葉県立流山おおたかの森高等学校や柏市等と連携を図りながら、本学外国人留学生と地域の方々との交流を積極的に行っているが、2020 年度はコロナ禍により交流事業を中止した。

2-11-3 評価

コロナ禍により新規の留学生の受入れを停止したが、国内に滞在している外国人留学生に対しては、状況に応じ必要な留学生支援を行うことができた。また、来日できない留学生に対しても、SNS を利用したコミュニケーションを活発化することで再入国に向けた手続きや現地でのオンライン授業の対応などのサポートを実施することができた。

2-11-4 課題及び改善・向上方策

長期欠席や成績不良の留学生に対して、注意喚起や継続的な指導を実施することに加え、コロナ禍のような非常事態に備えて、以下のサポート体制を整えていく必要がある。

①学部執行部、他部署との連携の強化

②在留期間の更新(在籍確認等)支援

入国制限下であっても、在籍確認を確実に実施し、在留期間の更新を徹底する。

③入国制限時の学修支援

入国できない場合でもオンラインで履修ができる体制を構築する。

内部質保証のためのチェックリスト

外国人留学生への支援を行っているか

3. 教育活動

3-1 全学共通事項

3-1-1 建学の精神・道徳に関する教育

3-1-1-1 目的・目標

建学の精神に関する教育の中核である道徳科学教育は、本学の創立者・廣池千九郎が確立しようと試みた学問体系としての道徳科学(モラロジー)を共通の基盤として、「知徳一体」の教育理念に基づき、大学で修得する専門的な知識や技能を社会生活において有効に活用しうる豊かな道徳性を備えた人材を育成することを目的としている。

3-1-1-2 本年度の活動

2020年度にカリキュラム改訂を行い、教養教育を可能な限り全学で共通化した。共通科目は、道徳科目、情報科目(データサイエンス科目)、外国語科目、キャリア科目、その他の共通科目で構成され、4年間の学習を通して学びを深めていけるカリキュラムとした。また、教授方法を工夫し、アクティブ・ラーニング、グループ・ワークに加え、課題発見解決型学習であるPBL(Project Based Learning)を麗澤・地域連携実習や自主企画ゼミで導入し、学生が自らを取り巻く社会に触れ、実状を知り、それに対して何ができるかを試行錯誤する活動の支援をした。

2020年度はコロナ禍のため、1学期が全面オンライン、2学期は一部対面授業を導入するも、オンライン授業が中心であった。各授業については、オンラインの特性を生かし、講義や資料を工夫し、双方向で実施の場合は、コミュニケーションツールを用いるなど、科目の特性を生かした授業を実施した。資料や授業動画を見返すことのできるため、学習を深めることが可能となった。麗澤・地域連携実習等のPBL活動もオンラインで取組んだ。

3-1-1-3 評価

カリキュラム改訂により、本学共通科目として設定したことで、旧カリキュラムで課題であった学部間の学習内容の差が解消された。

また、本学の学生に必要な建学の精神や学びの基礎となる科目を必修科目とすることで、体系的な学びを提供できた。

併せて、教授方法が工夫され、演習や講義の形式に関わらず、多くの授業でプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク、フィールドワーク等の手法を効果的に取り入れることで、教育効果を高めることができた。

3-1-1-4 課題及び改善・向上方策

カリキュラム改訂による全学共通科目の設置とコロナ禍による影響により、履修者が多い授業におけるオンラインの活用が必須課題となっている。オンラインを用いた効果的な学習の取り組みを検討している。また、今後、「留学」を実施する学生に対して、留学中でも必修科目をまなび、単位を修得し、現地での留学体験に活かすための「オンラインの導入」を検討している。

3-1-2 日本語教育

3-1-2-1 目的・目標

「日本語教育センター」から「日本語教育コラボレーションセンター」となり、今年度が実質的な始動の年となった。学部との連携強化、学部と大学院の協働、麗澤大学外部との協働(社会とのつながり)を目指した。

これまでは、外国人留学生に対し日本語教育を一元的に提供し、個々の目的に沿った日本語運用が可能となる日本語力を養成することを目的としていた。このことを土台としつつも、本年度は、学部とセンターのつながりをこれまで以上に強化することを第一の目的とし、具体的には日本語力を上げながら、学部(専攻他)レベルの授業内容を日本語で理解できること、日本語で課題を遂行できることなど統合的な力の育成を目指した。

3-1-2-2 本年度の活動

- (1) コンテンツベースの日本語授業を導入し、SDGs を含む複数のテーマについて幅広い知識を得た上で、互いに考えや意見を発信する、主体的な学習、アクティブ・ラーニングを、一部のクラスを除いて実施した。クラス編成は、①幅広い知識や教養の修得、②麗澤大学の留学生同士の交流という観点から、学部の枠を越えて行った。
- (2) 学部との連携は、海外で育ち、母語の獲得が十分ではない学生や、中高生の頃から日本に住み日本語の教育を受けた学生など、日本語学習者の背景が多様化していることから、「外国にルーツをもつ学生」に対する支援として、そのような学生を学部との協力体制のもとに、日本語の授業を履修できる仕組みを作った。
- (3) 特別聴講生は様々な学習歴・ニーズを持っているが、限られた授業コマ数の中でできるだけ効果的な学習ができるように授業内容を見直し、実践した。
- (4) 留学生と日本人の合同クラス「日本事情演習 A/B」、「異文化研究B」、「異文化研究E」を、本年度も開講し、留学生と日本人が対等な立場で互いに学ぶ実践的教育を提供した。
- (5) 国際寮とセンターのコラボレーションとしては、麗澤大学の寮で留学生と日本人学生との交流を深めながら、留学生に更に活躍してもらい、その活動を通じて大学が経済的にも支援するという企画(麗澤アンバサダー)を提案し、実現に至った。
- (6) 社会とのつながりについては、公立小学校での取り組みが 2019 年度に開始され、今後も継続して活動を行う。また、柏市国際交流協会の「外国人による日本語スピーチコンテスト」の審査委員を務めるなどして、交流を図っていく。

日本語教育コラボレーションセンターコース別履修者数

【第1学期】

| コース | 外国語学部生 | 経済学部生 | 国際学部生 | 学部特別聴講生 | 大学院生 研究生 | 合計 |
|--|--------|-------|-------|---------|-------------|----|
| 日本語・日本文化セミナー(S群) 特別聴講生 コース3 | 0 | 4 | 10 | 4 | 0 | 18 |
| 日本語・日本文化演習(A群) 特別聴講生 コース3 | 2 | 8 | 16 | 4 | 1 | 31 |
| 日本語・日本文化演習Xクラス(B群) 特別聴講生 コース2(総合日本語Ⅱ) 日本語演習(経済学部旧カリ) | 1 | 9(5) | 3 | 0 | 0 | 13 |
| 特別聴講生 コース2(総合日本語Ⅰ) | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 特別聴講生 コース1(基礎日本語Ⅰ/Ⅱ) | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 合計 | 3 | 21 | 29 | 13 | 1 | 67 |

()内の数字は再履修生の数

【第2学期】

| コース | 外国語学部生 | 経済学部生 | 国際学部生 | 学部特別聴講生 | 大学院生 研究生 | 合計 |
|--|--------|-------|-------|---------|-------------|----|
| 日本語・日本文化セミナー(S群) 特別聴講生 コース3 | 1 | 4 | 10 | - | 0 | 15 |
| 日本語・日本文化演習(A群) 特別聴講生 コース3 | 2 | 8 | 16 | - | 1 | 27 |
| 日本語・日本文化演習Xクラス(B群) 特別聴講生 コース2(総合日本語Ⅱ) 日本語演習(経済学部旧カリ) | 0 | 9(5) | 3 | - | 0 | 12 |
| 特別聴講生 コース2(総合日本語Ⅰ) | 0 | 0 | 1* | - | 0 | 1 |
| 特別聴講生 コース1(基礎日本語Ⅰ/Ⅱ) | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 |
| 合計 | 3 | 21 | 30 | - | 1 | 55 |

()内の数字は再履修生の数 *秋入学者

3-1-2-3 評価

- (1) コンテンツベースの日本語授業においては、大学入学前までに学生たちが受けてきた受動的な日本語クラスとは違い、アカデミック・ジャパニーズで必要とされる「問題発見能力」「批判的思考力」「理論的構成力」を問う活動を数多く提供した。授業を重ねるにつれ、意識の変化が見られ、自分の意見を自分の言葉で表現していく力が身についた。
- (2) 「外国にルーツをもつ学生」については、4名の学生にアカデミックな日本語力を身につける機会を提供した。個別に丁寧にヒアリングを行い、日本語力だけではなく、本人のニーズを丁寧に拾い上げることができた。
- (3) 特別聴講生に実施された留学生生活アンケートの結果で、日本語の授業数が十分ではないという声が挙がっており、授業コマ数が減ったコースについての再検討が必要であることが分かった。
- (4) 留学生と日本人が対等な立場で学び合う授業では、日本人、留学生共に多くの学びを得られたという評価を得られた。
- (5) 2学期に関してはコロナ禍により、特別聴講生の受入れができなかった。
- (6) 地域社会との連携については、予定していた公立小学校での取り組みや、柏市国際交流協会の「外国人による日本語スピーチコンテスト」がコロナ禍のため中止となった。

3-1-2-4 課題及び改善・向上方策

- (1) コンテンツベースの日本語授業については、学生の日本語レベルによって異なる課題が見つかった。下位レベルでは、日本語力のさらなる向上という課題に取り組むとともに、各テーマについての振り返りを充実させ、大学で学ぶことの意義を意識化させていく。中位レベルでは、扱うテーマをより実践的、実用的な内容のものを吟味することが課題で、個々の活動が今後の学生生活、社会生活を送るうえでどのように関係し、何に役に立つのかを丁寧に示していく。
- (2) 「外国にルーツをもつ学生」の支援については、入学時の行事が変更されるなどしたため、周知が十分に行えなかった。周知の方法や回数を検討し、日本語学習を必要とする学生に確実に情報が届くようにする。
- (3) 特別聴講生の授業コマ数の減少に対する学生の満足度は当初から懸念していたが、予想とおりの評価となったため、センターの総コマ数を変更しない範囲で授業コマ数を再検討する。
- (4) 地域との交流については、新型コロナウイルス感染症収束後すぐに活動が再開できるように備える。

3-1-3 教職課程

3-1-3-1 目的・目標

教職課程の目的は、本学の建学の精神に基づき、仁愛の精神の上に、教育についての見識と各専門教科の知識・技術をもって、我が国の学校教育に貢献できる人材を育成することにある。

この目的を実現するために、教職課程では次のとおり目標を設定している。

- (1) 教職の意義及び教育の基礎理論に関する科目を教授することによって、教職についての理解と教育についての見識を深めさせる。
- (2) 教育課程及び指導法に関する科目を教授すると共に、各学部・研究科の協力を得て教科に関する科目を教授することによって、高い授業実践能力をもった教員の卵を育成する。
 - ① 教育実習について、事前・事後指導及び訪問指導を含め円滑に実施することによって、総合的な教育実践能力を高めさせる。

- ②教育実習を終えた者が履修する「教職実践演習」において、在学中の教職課程での学びを振り返り、成果と課題を明らかにしたうえで、学級経営を土台にした生徒の人間形成に資する教育実践力の実力を診断させる。
- ③生徒指導及び教育相談に関する科目を教授することによって、仁愛の精神をもって生徒の生活上の諸問題に対応できる教員を育成する。
- ④本学の創業者である廣池千九郎が提唱した「道徳科学」をもとに、生徒に対する道徳教授法を展開する「道徳教育の研究Ⅰ」「道徳教育の研究Ⅱ」を設置し、本学教職課程履修者全てに修得を義務付け、道徳教育推進教師や道徳主任を将来的に担える教員の育成をめざす。
- (3)教員免許状の授与は大学による単位認定であることを踏まえ、学生指導及び単位認定を厳格に行うことによって、本学における教員免許状取得者の質を高める

3-1-3-2 本年度の活動

2020(令和2)年度のカリキュラム改訂によって、本年度入学者から取得可能な教科を英語のみに一本化した。本年度の本学教職課程の基礎となる学部(研究科)・学科(専攻)及び免許状の種類・教科は下記のとおりである。

| 基礎となる学部(研究科)・学科(専攻) | | 教育職員免許状の種類 | 免許教科 |
|---------------------|--------|-------------|-------------------|
| 外国語学部 | 外国語学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 英語 |
| | | 中学校教諭一種免許状 | 英語 |
| 経済研究科 | 経営学専攻 | 高等学校教諭専修免許状 | 公民 |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 社会 |
| 学校教育研究科 | 道徳教育専攻 | 小学校教諭専修免許状 | 当該校種・ 教科 社会 |
| | | 中学校教諭専修免許状 | |

(1)教職についての理解

上述(1)の目標達成を目指し、学則第52条により「教育の基礎的理解に関する科目」として開設している科目の2020年度における開講状況は次のとおりである。

| 科目分類 | | 2020年度 |
|--------------------|--------------------------------------|--------|
| | | 開講科目数 |
| 関する科目 教育の基礎的理解に | 教職基礎的理解に関する科目 | 7 |
| | 道徳・総合的な学習等の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 7 |
| | 教育実習 | 2 |
| | 教職実践演習 | 1 |
| 合計 | | |

教職課程では、学生が上記の授業科目を適正に履修できるよう、2年次生を対象とする教職課程オリエンテーションを年度初めに実施している。内容は、本学で取得できる教員免許状の種類、教員免許状を取得するために必要な授業科目の履修方法、履修にあたっての注意事項、教育実習履修の条件、2年次から4年次にかけての日程等の事項に関する説明である。2020年度はコロナ禍による一斉休講のため、資料提示によるオリエンテーションを実施した。また例年開催している、1年次生向けの教職課程オリエンテーションについても、資料提示のみとした。英語の教員免許状を希望するものに対して、一部の科目の履修条件としてTOEIC等の一定の基準を設けているため、英語の能力をより高める必要性和教職への意識付けを1年次より実施している。

(2) 高い授業実践能力をもった教員育成

i) 教育実習

教職課程における教育実習の重要性に鑑み、授業中及び授業以外の時間において、次のとおり指導を行っている。
2020年度はコロナ禍のため、ガイダンス等はオンラインで実施した。

- ①教職課程の中でも入門的科目である「教職概論」(主として2年次生が履修)の中で、教育実習に対する自覚を促して教育実習履修の条件(教育実習の前年度までに修得しておくべき単位等)を確認するとともに、教育実習希望届を提出させる。
- ②2年次2学期の終わりに、該当の学生を招集し、教育実習ガイダンスを実施する。ガイダンスの内容は、教育実習の重要性と履修条件の確認、教育実習受入れ依頼方法の説明である。
- ③教育実習を希望する学生は、上記ガイダンスを踏まえ、実習実施前年度に、中学校又は高等学校に対して教育実習受入れ依頼を行う。
- ④教育実習に不可欠な授業技術については、教科教育法の授業時に指導する。少人数教育の利点を活かして、履修者全員が模擬授業を実施し、徹底した指導を行う点が本学教科教育法の特徴である。また、学校教育の基礎となる道德教育については、理論の理解のみならず、自分ならどのような授業を行いたいのか、という観点からチームで自分の指導案を検討し合い、模擬授業も行っている。
- ⑤次年度に教育実習に参加する学生を対象に、事前準備の徹底と、教育実習の質の向上を目的として集中講義と学校現場における授業見学を実施しており、2020年度は9月26日～2月12日の期間で実施した。また期間中には本学の系列校である麗澤中・高等学校において25名授業見学を行った。
- ⑥教育実習についての直接的な事前・事後指導は、「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の授業時に行うが、通学圏内の中学校又は高等学校、及び本学教育実習の協力校において教育実習を実施する学生に対しては、教職科目担当教員が分担して訪問指導を実施する。なお、2020年度の教育実習実施者は15名(外国語学部10名、経済学部4名、科目等履修生1名)であった。

ii) 介護等体験

介護等体験の実施責任は法的には発生しないが、本学では次の事項を実施している。

- ①介護等体験実施にあたっての事前・事後指導
- ②介護等体験に際しての賠償責任保険への加入
- ③介護等体験実施に際しての公欠扱い等の措置

介護等体験の事前指導として、介護等体験実施予定者を年度初めに次の内容で介護等体験ガイダンスを実施している。2020年度はコロナ禍のため、Google classroomを作成し、オンライン上で次の内容を説明した。

内容：介護等体験の趣旨、概要、基本的注意事項、具体的注意事項等の説明

介護等体験前後に支払うべき費用、提出すべきレポート等の説明

介護等体験申込書(千葉県社会福祉協議会指定用紙)の記入の説明

介護等体験申込書に基づき、千葉県社会福祉協議会及び千葉県教育委員会から本学の介護体験実施校として指定されている千葉県立特別支援学校流山高等学園へ介護等体験受入れ依頼を行った。

2020年度中に社会福祉施設から介護等体験証明書を得た者は21名、千葉県立特別支援学校流山高等学園から得た者は21名であった。

iii) 教職シンポジウム

11月14日に、教育現場で教職に就かれている卒業生や、教育行政等に携わっている卒業生の皆様と、在学生を対象に第6回「教職シンポジウム」を開催した。教員養成は在学生だけを対象とするのではなく、卒業生への対応も含めたものとしていくことで、大学として教師の成長をともに支えるような取り組みをしていくことを目指している。

はじめに、望月正道講師による講演「妥当性の高いテストを作る」では、測定したい能力を正確にまんべんなく測定できるテストを作成する為に、先生が作成した例題を分析しながら、また学生同士で意見交換をしながら進められた。テストを作る視点からの講演は、将来教員を目指している在学生にとって有意義な内容となった。

また、事例発表では龍ヶ崎市立愛宕中学校の宮田絢海先生(外国語学科英語コミュニケーション専攻 2020年3月卒業)と、我孫子市立久寺家中学校の川本将多先生(外国語学部英語学科 2006年3月卒業)に、それぞれ教員を志したきっかけや、教育に対する想いを、実体験をもとにお話いただいた。

宮田先生は、新任のフレッシュな視点で、現在の勤務校の様子や緊急事態宣言中の休校期間の様子、部活動について、元気いっぱいに話してくださった。また英語に興味を持ってもらえる授業を行うために活用している教材資料も紹介していただき、参加者は先生のお話になんと引き込まれていた。

川本先生は、中堅教諭という立場から新型コロナウイルスの影響で行事が中止になる中、生徒のモチベーションを下げないような対応を披露し、日々研鑽しながら奮闘されている様子が見ええた。他にも香港日本人学校で職務された経験について、採用が決まるまでの流れを紹介していただき、海外で働きたい学生にとっても今後の参考となる貴重な機会となった。

(3)教員免許状の授与

①教員免許状取得状況及び教員就職状況

大学での単位修得及び介護等体験等を経て教育職員免許法に定める要件を満たした者には、中学校教諭又は高等学校教諭の普通免許状が授与される。2020年度に本学学生が取得した教員免許状件数は、中学校教諭一種免許状12件(英語11、ドイツ語0、中国語0、国語0、社会1)、高等学校教諭一種免許状11件(英語10、ドイツ語0、中国語0、国語0、公民1)、小学校教諭専修免許状3件、中学校教諭専修免許状1件、(社会1)であった。2020年度免許状取得者のうち、同年度末までに教諭として8名(公立7名、私立1名)の採用が決定しており、学校教育の現場で活躍することが期待される。

②教員免許状更新講習

2020年度はコロナ禍のため中止とした。

3-1-3-3 評価

2020年度はコロナ禍のため、ガイダンス等は対面での実施ができなかったが、オンライン上で情報を共有し学生のサポートを強化した。また2学期以降は感染防止対策を徹底しながら、イベント等も対面で開催する事ができた。

3-1-3-4 課題及び改善・向上方策

英語教員を目指す学生の英語力を向上させ、教員採用試験合格者を増大させるため、2014年度入学生より、「英語科教育法Ⅰ」、「英語科教育法Ⅱ」、「教育実習Ⅰ」の科目について、TOEIC等の英語力を履修条件として設定している。この対応のため、1年次より教員免許状取得のためのオリエンテーションを行い、教員を目指す学生の指導体制を強化した。今後も継続して英語力の向上に努める必要がある。

併せて千葉県等の教員採用試験の受験者を増やしていくことが課題である。

3-1-4 高大連携教育

3-1-4-1 目的・目標

高校生が大学の講義を受講することにより、大学という場に対する認識を深めると共に、大学での学びに対する興味関心を高め、進路意識の強化につなげることと、高校の教科の枠を超えた「学問」に触れ、時事的な問題に対する認識を深めることを目的としている。

3-1-4-2 本年度の活動

高大連携プログラムとして、麗澤高校における麗澤大学教養講座、麗澤瑞浪高校における麗澤大学出張講義を開設している。加えて、科目等履修生制度を利用して専門科目を開放し、近隣の高等学校生徒を受入れている。

コロナ禍による休校及びオンライン授業の実施のため、2020年度については、麗澤大学出張講義及び科目等履修生の受入れをすべて停止した。一方、麗澤高等学校における麗澤大学教養講座については、高大連携の実質的な展開として、①英検英語特別講座及び②教養講座を実施した。

(1) 教養講座(麗澤高等学校)

①英検英語特別講座

講師：堀内一史

日時：水曜日 13：55-14：40、14：50-15：35

1学期 7回 6/10、6/17、6/24、7/1、7/8、7/15、7/22

2学期 8回 9/16、9/23、10/7、10/21、10/28、11/4、11/18、11/25

②麗澤大学教養講座

高大連携をより実質的に進めていくために、麗澤高等学校における麗澤大学教養講座を開設し、3年生46名が受講した。

| 日時 | テーマ | 担当教員 |
|-----------------------|-----------------------------|--------|
| 11月18日(水) 13：55-14：40 | これからの社会を考える -AI・SDGsと道徳- | 大野 正英 |
| 11月18日(水) 14：50-15：35 | 日本の伝統と麗澤の道徳 | 橋本 富太郎 |
| 11月25日(水) 13：55-15：35 | 貨幣の発達の経緯とデジタル通貨 | 中島 真志 |

3-1-4-3 評価

参加した生徒からは、満足度の高い評価を得ることができた。

3-1-4-4 課題及び改善・向上方策

英検英語特別講座については、麗澤高等学校からの強い申し出により実施した。麗澤大学教養講座については、麗澤高校と定期的に打合せの機会を設けて、意見交換を行っている。高校生にとってより魅力的なプログラムを提供することが重要である。

3-2 外国語学部

3-2-1 目的・目標

(1) 学生基点に立った教育内容の充実

- ①策定された<Reitaku University Vision 2035>の具現化を推進し、専攻語の目標スコアなど、具体的な数値目標を達成するための教育計画を実行する。
- ②本年度が初年度となる「2020年度カリキュラム」を運営する。
- ③2020年度より「中国語専攻」から改称した「中国語・グローバルコミュニケーション専攻」について、

刷新されたカリキュラムでの専攻運営を行う。

- ④「ホスピタリティ入門Ⅰ・Ⅱ」「ホスピタリティ概説Ⅰ・Ⅱ」の授業運営を共同でおこなっている ANA 総合研究所との連携を更に強化し、履修(済)者むけのプログラムを追加実施しホスピタリティの精神を涵養する。
- ⑤Center for English Communication (CEC) との連携の強化をはかり、英語教育を強化する。
- ⑥校舎あすなろ 2F(通称「iFloor」)を、語学学修を中心とするフレキシブルなセルフ・アクセスラーニングの場として運用する。

(2)初年次教育

本学では、学部新生が大学での生活を円滑にスタートし、麗澤人としての礎を形成できるように支援することを目的として、初年次教育を実施している。また、この初年次教育の改善を FD 活動の柱に位置づけ、全学的な組織化・体系化を積極的に進めることにしている。初年次教育の目標は次のとおりである。

- ①建学の精神に触れ、大学で学ぶことの意味を考える。
- ②基礎的な力を身につける。
- ③専門領域を学ぶ動機を形成する。

3-2-2 本年度の活動

(1)学生基点に立った教育内容の充実

- ① <Reitaku University Vision 2035>に示された専攻言語の語学力の 3 年次終了時数値目標(語学検定試験等の平均値等)について、<中期計画 2020 年度~2022 年度>にて具体的な目標数値を各年度ごとに設定し、その実現に取り組んでいる。今年度は 1~3 年生全員を対象に語学試験を実施するとともに、その指導体制についても整備をおこなった。

まず、専攻言語による授業数は、英語 2 専攻では 51%、ドイツ語・ドイツ文化専攻では 1・2 年次 4 科目、3・4 年次では 8 科目、中国語・グローバルコミュニケーション専攻では 15%となり、概ね順調に推移している。

次に、「国際コミュニケーション英語能力テスト」(TOEIC)について、数値目標を追加し教育活動の指針としている。今年度、コロナ禍により、学生はオンラインでの短いバージョンの TOEIC 試験を受験したが、その実施結果は前年度よりも平均点が大きく上がる結果となった(例として、英語コミュニケーション専攻 3 年次生の 2020 年度の平均点は、607 点で、昨年度の 539 点よりも 70 点弱スコアが伸びた)。このスコアの上昇が、対面とオンラインという実施形態の違い、試験時間や問題数の違いなどテストの形式の違いによる一時的なものかどうかは、今後更に検証が必要である。なお、ドイツ語、中国語の検定試験はコロナ禍においてごく一部しか実施がなされなかった。

最後に、2020 年度より、従来おこなわれていた学部主催の卒業論文コンテストに英文論文の審査が初めて加わった。今年度は、教員の審査員による厳正な審査の結果、最優秀論文 2 点(日本語、英語各 1 本)、優秀論文、佳作各 2 点(佳作の 1 点は英文)が選出された。(なお、コロナ禍の感染拡大防止を図るため、卒業式で予定していた表彰は見送られた。)

- ② 「2020 年度カリキュラム」の初年度運用をおこなった。新カリキュラムとして特に、(2)の諸年次教育の新しい形としての「スタートアップセミナー」を運営することが最も重要な課題のひとつであった。しかし、今年度、コロナ禍による授業の開始時期の遅れを踏まえ、スタートアップセミナーのプログラムは計画通りの実施を断念し、前期は必要なオンライン授業の準備と学生オリエンテーションに注力した。前期に予定していた TOEIC に関する講話とパネルディスカッションは後期の学期末 1 月 28 日ようやく実施するに至った。講話には 1 年次生全員が参加し、講師と先輩学生から有益な学習アドバイスを受けることができた。
- ③ 「中国語・グローバルコミュニケーション専攻」の初年度として、新しいカリキュラムによる専攻運営をおこなった。本専攻の学習を支援する新たな寮制度「チャイハウス」は、コロナ禍でその規模を大幅に縮小することになり、またアンバサダー役の留学生が日本に入国できない状況の中、オンラインでの学生交流に切り替え、C ラウンジの活動を拡大することで学生の便宜を図った。また、3 年次以降に予定している専攻全員の中国語圏への留学の実現可能性について、コロナ禍での感染拡大の状況を見据えつつ、情報収集をおこなった。

- ④ コロナ禍により、これまで実施していたインターンシップの実施が実現不可能となったため、今年度は9月16日にANA総合研究所によるオンラインの集中講義を開催した。「ホスピタリティ入門Ⅰ」「ホスピタリティ概説Ⅰ」履修者から、学内選考を経た24名が参加し、講師として実務エキスパートを迎え、コロナ禍での航空業界の動向とそこで働く人々の生の声、考えを聞く貴重な機会を得た。特別講義に先立ち、2019年度に成田空港SPECIAの体験学習に参加した3名を迎えて事前学習会を開催したほか、後期授業にて、特別講義に参加した学生が報告会を実施し、授業履修者にその成果を共有するなど、充実した内容であった。本講義はANA総合研究所に本学のために特別に企画いただいたものであり、コロナ禍において学生活動が著しく制限されるなか、学生のホスピタリティに対する意識を大きく高める貴重なイベントとなった。
- ⑤ Center for English Communication (CEC)による英語教育を強化する為、センターの全学化にむけた調整をおこなった。また、コリン・ミッチェル講師をiFloorのコーディネータとして、語学試験対策も加味しオンラインでの語学学修支援にあたった。
- ⑥ 校舎「あすなろ」2階のiFloor(アイフロア: International Floor)はコロナ禍で利用できないことになり、オンラインのバーチャルiFloorを企画運営し(原則毎週水曜日開講)、語学学修のサポートをおこなった
- ⑦ 学部の将来構想について検討をすすめた。2021年度よりドイツ語・ドイツ文化専攻を「ドイツ語・ヨーロッパ専攻」に改称することに先立ち、カリキュラムのさらなる整備に取り組んだ。

(2)初年次教育

【目標①・②に関して】

本学部の2020年度新カリキュラムにおける初年次教育の根幹として準備していた「スタートアップセミナー」は、コロナ禍で前期授業がオンラインに移行したことを受け、前期実施予定の学部共通プログラムは全て後期に移動するとともに、内容を適宜変更しておこなった。

スタートアップセミナーの目的は、1. 大学で学ぶことの意義を問いかける、2. 大学生(半社会人)として過ごす時間について考える、3. 初歩的なスタディ・スキルズを身につける、4. 1年次の目標とアクションプランを設定する、という4点に集約される。学生は学部長講義、建学の精神と大学の学びに関する講義、TOEIC講話等の学部共通のプログラムのほか、前・後期のオリエンテーションでの講話や懇談、担任との面談と学修レポート作成、更にはOB・OGとの交流など、専攻それぞれの強みや特徴を生かしたプログラムを通じて大学生活の基礎を学んだ。各専攻は欠席学生へのフォローアップなど、コロナ禍の変則的なプログラムのなか、きめ細かな対応に努めた。

【目標③に関して】

本年度は、カリキュラム改定を踏まえ新旧カリキュラムが同居する最初の年となった。コロナ禍において、1年次むけに開講される基礎科目をいかにして面白くし、関心をもたせるか、さまざまな工夫をおこなった。英語2専攻では、「英語の基礎知識C」「グローバル・スタディーズB」を急遽英語2専攻の専任教員によるオムニバス授業に切り替え、さまざまな教師がその専門分野について語る中で、学生の専門性に対する関心を涵養することを試みた。

英語力向上のための施策として、CECが運営する英語科目(English for Communication)にTOEIC対策を組み込むシラバスは、前年度から引き続き開発がおこなわれ、今年度は更に安定したといえる。この他、バーチャルiFloorでのTOEIC対策、また英語のレベルが高いクラスについて、その履修者のTOEFL受験をサポートするシステムの運用もおこなった。その結果、1-3年次生全員を対象にオンラインでおこなった12月のTOEICでは、中期計画において2022年度に設定していた平均点の目標値を概ね達成することとなった。

3-2-3 評価

<麗澤大学 Vision 2027>の修正に伴い、専攻言語の語学試験等の目標スコアを設定するなど、本学部は具体的な数値目標を掲げて取り組みをおこなっている。スリム化、体系化された新しいカリキュラムのプログラムは概ね当初の計画通りに開始されたといえる。

コロナ禍が本学部の教育に与えた混乱と影響には無視できないものがある。前期は100%オンラインとなり、

後期も一部大学施設を用いる必要のある授業を除き遠隔での授業運営となった。そうしたなか、遠隔授業のメソッドや ICT 関連ツールの活用に関する教員、学生への周知徹底を図った結果、コロナ禍における遠隔授業が思いのほかスムーズに実施できたことは、幸いであったと言える。

一方、留学やインターンシップなど、学部での学びのなかで学生が高い関心をもつ活動が中止を余儀なくされる事態となった。留学から緊急帰国した学生の中には、留学先の大学がオンラインで提供する授業を帰国後受講しつつ、麗澤大学での授業を受けるという状況も発生した。また 2020 年度の海外への学生派遣は全面的に中止となった。このことを踏まえ、いわゆる「オンライン留学」の充実を図るための検討が 2020 年度中に活発におこなわれた。南イリノイ大学 Community Engagement Program による新規科目「Community Engagement Program A-D」の新設は、その好例である。また、ドイツ語・ドイツ文化専攻では 2 年次生全員がイェーナ大学の主催する科目を受講する「オンライン全員留学」が実現し、本学教員のフォローもあり、高い教育効果を上げた。これらのオンライン留学プログラムは、今後更に開発が期待され、留学の再開後も、日本にいながらにして留学プログラムに参加できる仕組みとして、有効活用することができると考えられる。

総じて、学部での教育活動について、オンラインによる代替は教職員の留学派遣先の開拓、留学派遣の可能性に関する情報収集の徹底、国際学部設置に向けた協力と学部内体制の見直し、専攻語学力の向上に向けた施策、インターンシップの強化など、活動目標・計画は概ね計画通りに実行できたといえる。

3-2-4 課題及び改善・向上方策

- (1)課題: <Vision 2035>で掲げた数値目標を確実に達成していくことが最も重要な課題である。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により留学が実現できなくなっている学生へのきめ細かな対応、代替策としてのオンライン留学プログラムの開発と必要な科目の新規追加をおこなった。留学制度は本学部の教育活動の大きな柱であり、今後どのように派遣が再開できるか、留学の再開時期や派遣先の検討を含め、再開を視野に入れた情報収集が必要となっている。また関連して、今後対面で実施されることになる授業に関し、外国語学部特有の発音指導やディスカッションベースの教室活動などをどのように安全に運営するか、またオンラインの授業モデルをどのように維持・発展させるのか、など、今後学部としての教育の質を保つための FD 活動が必須である。
- (2)改善・向上方策: <Vision 2035>に基づき<中期計画 2020 年度～2022 年度>を策定し、専攻別に数値目標、行動計画を掲げた。

専攻別の語学試験等の目標値、<中期計画 2020～2022>より抜粋

| | 2020 年現在値 | 2022 年度目標値 |
|--------------|--|--|
| 英語 2 専攻 | (3 年終了時) ・英語コミュニケーション専攻 TOEIC 平均 607 点 ・英語リベラルアーツ専攻 TOEIC 平均 551 点 | (3 年終了時) ・英語コミュニケーション専攻 TOEIC 平均 600 点 ・英語リベラルアーツ専攻 TOEIC 平均 550 点 |
| ドイツ語・ドイツ文化専攻 | (3 年終了時) ・TOEIC600 点以上取得率 6%(2 名) ・Goethe-Zertifikat B1 (コロナ禍により年度内未実施) ・ドイツ語技能検定試験 (コロナ禍により年度内未実施) | (3 年終了時) ・TOEIC600 点以上取得率 30%(10 名) ・Goethe-Zertifikat B1 取得率 30%(10 名) ・ドイツ語技能検定試験準 1 級取得率 30%(10 名) |
| 中国語 GC 専攻 | (3 年終了時) ・TOEIC 平均 449 点 ・新 HSK (コロナ禍により 2020 年度は 2021 年 1 月の再開まで未実施) | (3 年終了時) ・TOEIC 平均 600 点 ・新 HSK5 級 240 点以上 取得率 50%(10 名) |

数値目標の達成のため、正課・正課外指導の強化、専攻担任との面談、海外留学派遣の強化、語学試験対策の充実、上級生による下級生指導体制の整備、オンライン語学講座の導入など、様々な施策を盛り込んだアクションプラン(行動計画)を中期目標に記している。計画の進捗状況は毎年細かくモニターされ、PDCAサイクルを回すこととなる。

3-3 経済学部

3-3-1 目標

(1) 安定的な学生の定員確保

入学者を確保するための戦略を構築し実践する。

年間の退学・除籍者減を実現するために、クラス担任、ゼミ担任の強化を行う。

(2) 総合教育改革の推進

専攻毎のFDの充実を図り、カリキュラムの充実などを検討・実践する。アクティブ・ラーニング、PBL等の教育手法について検討し、導入する。

資格取得の推進。

2024年度の学部改組を検討する。

3-3-2 本年度の活動

(1) 安定的な学生の定員確保

1) 安定的な入学者を確保するため、入試広報グループと連携し、入試に関する戦略を構築し、実践した。年内入試と年明け入試の入学者比率をほぼ目標通りすることができた。2月・3月の入試においてはほぼ当初予定した合否ラインによる選抜を行うことができ、入試難易度は昨年度より向上した。

2) 年間の退学・除籍者減を実現するために、引き続きクラス担任、ゼミ担任の教育、指導、学生情報の共有を強化した。また、潜在的な退学希望者などを含めて、専門のインタビュー者を設定し、休学、退学の決定以前に有効な面談を実施した。

(2) 総合教育改革の推進

1) Reitaku University Vision 2035に掲げている文理融合型学部の設置に向けて、ワーキンググループを設置し検討を行った。

2) 経済学検定試験(ERE)の対策科目である経済実務演習は1年を通してオンライン授業であったが、31名の学生が対面での学内における団体受験に挑戦した(2019年度は64名)。全国上位の成績(A以上;偏差値60以上)を収めた学生はいなかったが、本学の受験料の半額免除(B+;偏差値55以上~60未満)の学生は1名であった。まだまだ改善の余地はあるが、全体的にみると受験者層の成績は底上げされている。

3) 観光・地域創生専攻は、2021年度(2年生対象)、2022年度(3年生対象)から、それぞれ開始される経済学基礎演習(観光・地域創生専攻向けクラス)、上級専門科目の教材開発に向け、複数回のFDを実施した。また、アクティブ・ラーニング、PBL(課題解決型学習)での外部の提携先の獲得に注力した。2020年度のオンラインでの麗澤・地域連携実習などの実績・経験から、対面での学習では不可能であった遠方の提携先を獲得できた。

4) 経営専攻は、今年度から取り組みを開始した経営学検定において、6名の合格者を出すことができた。合格した学生の学年の内訳は、4年生が1名、3年生が1名、2年生が4名であり、受験者が全員合格した。今回の学生の受験実績から、検定試験の難易度を把握することができた。また、学生へのヒアリングから、

受験勉強の方法や時間数などを検討することができた。2021 年度からは、経営専攻所属の学生だけでなく、経営学科所属の学生へと対象を広げて、経営学検定試験の受験を促し、合格のためのサポート実施する予定である。

- 5) これまで、経営専攻は、企業と連携したアクティブ・ラーニングへの取組みを積極的に行ってきた。そのカリキュラムの内容が成熟化してきた。2020 年度から基礎ゼミナールのクラス編成を専攻別に行うのではなく、経営学科のすべての専攻を混合したクラス編成を行うことになり、それに伴って、1 年次配当の基礎ゼミナール B における産学連携の授業は、経営学科全体の取組みとした。2020 年度は 3 社(金融系 1 社、食品系 1 社、スポーツ財団 1 団体)と提携し、企業の経営課題に対する解決策や新しいビジネスモデルの提案などを行った。なお、新型コロナウイルスの影響により、学生の対面参加とオンライン参加の両方によるハイブリッド的な運営を行った。他方で例年、3 年次配当のビジネスイノベーション PT において、企業と提携してより高度な課題に取り組んできたが、フィールドワークが必須の要件になるため、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮して、休講とした。
- 6) 会計ファイナンス専攻を中心として資格取得に向けた教育の充実を図った。資格取得者数(受験料補助申請者ベース)は 12 名であり、前年度の 82 名と比べて大幅に減少し、数年前の水準に戻ってしまった。内訳は、FP3 級は 8 名、簿記関連では日商簿記 3 級 3 名、2 級 1 名である。新型コロナウイルスの影響で試験自体が実施されない等の要因があるものの、オンラインのみでは、学生の動機づけが十分でないことが数字からも裏付けられた状況である。
- 7) スポーツビジネス専攻では 2 年次の「スポーツ PBL」のクラス及び本専攻の担当教員のゼミに於いて、柏レイソル、千葉ロッテマリーンズ柏後援会、ホカオネオネ(デッカーズジャパン合同会社)、全日本空手道連盟から課題提供を受けた。学生は、それらに取り組み様々な企画をし、前述のプロチーム・スポーツメーカー・スポーツ団体のスタッフの方々に対してプレゼンを行い、フィードバックを得た。日本スポーツ協会主宰のスポーツリーダー及びアシスタントマネジャーの資格を 3 名が取得した。またレクリエーション協会主催のレクリエーション指導員の資格を 5 名が取得した。
- 8) 経済学部 4 年生を対象に卒業論文優秀賞の選考を実施し、各専攻から推薦された 9 論文を優秀論文として表彰した。また、経済学部 3 年生向けに各ゼミでの研究を通じて学んだ内容を発表する「研究発表大会 2021」をオンラインで開催した。計 10 チームが参加し、実際に企業と連携しながら研究を進めたチーム、文献レビューを中心に現在の課題を深掘りし今後の展望を検討したチームなど、さまざまな研究が集まった。学生は自分たちの研究がどう評価されるのか、また互いの研究を知ることで学びを深めた。

3-3-3 評価

今年度より新しいカリキュラムが始動し、同時に新たな専攻「観光・地域創生専攻」「AI・ビジネス専攻」が設置された。2021 年度入試においては全国的な私大志願者数減少の厳しい状況の中、一定の入試難易度を保ちつつほぼ定員を確保することができた。2 つの新専攻には想定以上の志願者が集まり社会ニーズに応じた教育組織であることが確認できた。

3-3-4 課題及び改善・向上方策

- (1) 学生募集について、予定通り年内入試と年明け入試入学者の比率がほぼ 1:1 になるよう、入学者を集めることができた。しかし、総合選抜型入試と公募推薦入試の入学者は想定より少なく、来年度の改善すべき点

となった。とくに、総合選抜型入試による選抜方法を再検討し、志願者の確保に努めたい。

(2) 2020年度より観光・地域創生専攻とAI・ビジネス専攻が開始したものの、カリキュラムの充実、FD、観光やAIビジネスを専門にする教員の確保などまだ課題は多い。両専攻を経済学部の柱にすべく、来年度も徹底したFD活動を行いたい。

(3) 新型コロナウイルスの影響で資格対策授業がオンラインになったこと、資格試験が実施されなかったこともあり資格取得者が大きく減少した。資格取得は多くの保護者と学生が期待するところであり、学生募集への影響も大きい。今後は、日商簿記検定の教育を更に充実させるとともに、統計学検定、経営学検定、IT関連資格などの資格取得者のさらなる増加を目指す。

(4) 経済学部改組、文理融合型学部の設置計画を進めるなかで、教育の質的改善を行う。できることは2024年度の改組を待たずに、現カリキュラムの中に取り入れるようにする。

3-4 国際学部

3-4-1 目的・目標

2020年度に開設した新学部である国際学部にとって、当面の課題は、在籍学生の満足度と社会的知名度を如何に上げていくかである。具体的には、以下の(1)～(4)が重点目標となる。

- (1) 安定的な学生の定員確保
- (2) 学生の主体的学びを促すカリキュラムの構築
- (3) 手厚い学生指導体制の整備
- (4) 学部の特色の打ち出し

3-4-2 本年度の活動

具体的重点目標として掲げた(1)～(4)について、本年度の活動は以下のとおりであった。

(1) 安定的な学生の定員確保策について

コロナ禍の状況で、思うような受験準備ができない学生を考慮し、入試で以下の2つの施策を実施した。

- ① 総合型選抜で「マニフェスト入試」を実施。入学を希望する専攻のカリキュラムを事前に調べたうえで、入学後の学習計画書を作成・提出。面接の上、合否判定を行った。
- ② 英語の英検資格や、外国人留学生の日本留学試験及び日本語能力試験を受験できず、スコアを提出できない学生への対応として、Zoomによるオンライン面接で語学能力の審査を実施した。

(2) 学生の主体的学びを促すカリキュラムの構築

- ① コロナ禍により中止となった留学プログラムのかわりに、オンライン国際連携教育(COIL)を、米国・ミドルテネシー大学、ポートランド州立大学、インド・Shiv Nadar 大学との間で実施した。
- ② オンライン英会話の受講を奨励し、それを単位化することで、学生の自主的学習の機会を設けた。
- ③ 学生の自習習慣化促進策として、時間割に空き時間を設け、主体的学習を促した。また、空き時間の利用状況について、アンケート調査を実施し、実態把握を行った。

(3) 手厚い学生指導体制の整備

退学者抑制策の一つとして、担任体制の強化を掲げ、以下のとおり施策を行った。

- ①新入生対象に、初年次必修科目として「スタートアップセミナー」を集中形式で開講。大学生活に関するオリエンテーションや履修相談等を行った。コロナ禍によるオンライン(Zoom 使用)での実施のため、全て専攻ごとの実施となった。学部共通のプログラムは実施できなかった。
- ②国際学科国際交流・国際協力専攻では、1 学期末と 2 学期末に、7 名の専任教員が専攻所属 1 年生全員をオンラインで面談(Zoom 使用)。大学での 4 年間の学びの計画や、将来の希望、学習における不安などについての相談対応を行った。
- ③国際学部日本学・国際コミュニケーション専攻では、2 学期終了後に 5 名の専任教員が専攻所属の 1 年生全員をオンラインで面談(Zoom 使用)。1 年間の成績表をもとに、修得単位の確認と、2 年次の履修指導を含む相談対応を行った。
- ④グローバルビジネス学科グローバルビジネス専攻では、必修科目「基礎ゼミナール」をホームルームとした担任制を実施し、学生の学習状況の把握につとめた。また、2 学期末には、2 年次以降のコース別の履修について、オンラインによるオリエンテーションを実施し、資料として各コースの説明動画も作成するなど、きめ細やかな履修指導を行った。

(4) 学部の特色の打ち出し

学内外に、国際学部の特色を発信していくための施策として、以下のことを実施した。

- ①学生の主体的学びの姿勢を評価し表彰する制度として、「国際学部“知の冒険者”賞」を設置した。2020 年度は、学業成績上位 10 位までの学生及び外部語学試験等(TOEIC、BJT ビジネス日本語能力テスト等)での高得点取得者の計 15 名を表彰した。学部専任教員及び学生多数が集う中、本学校舎あすなろ iFloor にて授賞式を行った。
- ②地元特定高校との高大教育連携を積極的に実施した。具体的に 2020 年度には、県立松戸国際高校及び、県立千葉北高校との間で、SDG s に関する講義等を行った。特に、千葉北高校の英語授業の一環として企画された SDGs に関する英語プレゼンテーションコンテストについて、国際学部教員を派遣して特別講義を行うとともに、高校生のプレゼンテーションについてのアドバイスや、コンテストの審査も行った。
- ③主体的学びのサポート及び手本となるような TA、SA、学生リーダー等の養成について、ワーキンググループを立ち上げて検討し、PBL 的活動の中心となって活躍する学生リーダーの育成に焦点を絞り、彼らの活躍する場を設けて、学内外にその姿を発信していくことを確認した。2021 年度はその制度化と試行を行う方針を決める。

3-4-3 評価

(1) 安定的な学生の定員確保

学生募集は苦戦を強いられた。コロナ禍の状況で、受験生が国際系学部を敬遠したことも苦戦の要因ではあるが、募集戦略の失敗があったと考える。特に、新たに設けた「マニフェスト入試」は、新聞紙面などでも注目された新しいタイプの入試ではあったが、受験生への告知が徹底できず、受験生に認知されていなかった。広報との協力により、学部の特色を示す魅力的な学生募集の形を考える必要がある。

(2) 学生の主体的学びを促すカリキュラムの構築

2020 年度は、とにかくオンライン対応に追われた 1 年だった。全ての授業をオンライン化するための教員

へのサポートや、履修する学生のケアを徹底するのが精いっぱい、学部として計画していたことの多くが実施できなかった。特に、学生同士の交流や、PBL 的活動を行うことができず、個人単位での学びのスタイルが基本となってしまった。今後、いかにして学生同士の交流や共学の機会を設けていけるかが大きな課題となる。

(3) 手厚い学生指導体制の整備

新型コロナウイルス対応に追われた結果、中期計画に掲げていた学部全専攻での全員面談実施を徹底することができなかった。具体的には国際学科国際交流国際協力専攻のみ、当初の計画通り 2 回の全員面談を実施。国際学科日本学国際コミュニケーション専攻は、2 学期終了後に 1 回のみ全員面談を行った。グローバルビジネス学科グローバルビジネス専攻では、全員面談は行わず、従来型の担任制度をベースに学生ケアを行った。今後、学生指導体制の強化を計画に即した形で実現していくことが課題となる。

(4) 学部の特色の打ち出し

国際学部の学びの特色を発信していく方法として、新しい高大教育連携の形を模索した。単に出張講義を行うといった従来型の高大連携とは異なり、特定の近隣高校との間で話し合い、高校の授業(カリキュラム)の中に入り込んでいく新たな連携のスタイルを構築できたと考える。今後、このスタイルで、新たな教育連携先となる高校を開拓し、連携ネットワークを広げていきたい。

3-4-4 課題及び改善・向上方策

2020 年度の活動実績、及びその評価・課題を踏まえて、2021 年度は、以下のことを実施する。

(1) 安定的な学生の定員確保

- ①年内入試(総合型選抜入試、指定校推薦入試)の制度見直しを行う。具体的には、「マニフェスト入試」を、「課題プレゼン型Ⅱ期」に変更。課題プレゼン型入試を年内に 2 回実施することで、国際学部が掲げる主体的学びを志向するモチベーションの高い学生の確保を目指す。
- ②多様な国・地域から外国人留学生を獲得するための新たな策として、オンライン日本語講座を設計。特定の国外指定校との間でこの講座を開講し、日本語能力試験(JLPT)N2 程度の日本語力を身に付けさせてから学部入学させる、新たな指定校推薦入試のカタチを模索。その実現可能性を探る。(2021 年度はこの講座の試行を予定。)

(2) 学生の主体的学びを促すカリキュラムの構築

- ①クォーター制(4 学期制)スタイルの開講科目を導入して、週 2 回開講の授業を増やすことで、学生が集中して学習できる体制を整備すること。
- ②時間割設定と授業運営方法の工夫により、学生に時間割の“隙間時間”を利用した自習を促すこと。これにより、主体的学習を前提とする専門科目の履修スタイルの定着を目指す。
- ③グローバルビジネス学科グローバルビジネス専攻では、「基礎ゼミナール」を基幹科目の「経済原論／Principle of Econ.」「経営学概論／Principles of Business」と紐づける形をとることで、4 年間の学びの基礎となる専門知識習得のフォローアップを行う。
- ④グローバルビジネス学科グローバルビジネス専攻 2 年次以降の英語学習体制について検討を行う。

(3) 手厚い学生指導体制の整備

- ①国際学科における新担任制度を強化する。具体的には、1・2年生全員を、学科所属専任教員で分担する。2年間継続で担任を務めることで、早期の学習的躓きを発見し、退学抑制につとめる。また、1年生は、年2回(学期ごとに)、2年生は1学期末(終了後)に、それぞれ履修指導も含む全員面談を実施する。
- ②グローバルビジネス学科では、履修コースと結びついた担任制をとる。具体的には、1年生の担任は「基礎ゼミナール」(基幹専門科目のフォローアップを行うクラス)の担当者がつとめ、2年次の担任は「グローバル基礎演習」(コース別の演習クラス)の担当者がつとめる。

(4) 学部の特徴の打ち出し

- ①さらなる高大教育連携の強化を目指す。具体的には、国際交流・国際協力専攻では、ユネスコスクールとの間での教育連携を強化する。日本学・国際コミュニケーション専攻は、外国人留学生を派遣してダイバシティ教育(多文化共生の学び)を行うプログラムを高校に提案していく。グローバルビジネス専攻は、商業系高校に対しグローバルビジネスに関する学びのプログラムを提案し、新たな教育連携の可能性を探る。
- ②学生リーダー養成のシステム構築について、ワーキンググループを設置して、リーダー養成講座や、学生が活動する場(機会)の提供について検討を行う。
- ③国際学部主催、産経新聞の協力を得て、プレゼンテーションコンテストを開催して、学生スタッフの活躍する場(機会)として活用する。「日本」を世界とつないで、何ができるか?というテーマで、国際学部が考える「グローバル」のあるべき姿を内外に発信する。

3-1~3-4 学部の教育

内部質保証のためのチェックリスト

- ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準を適切に定めているか
- 単位認定など、成績評価の公平性のための工夫(GPAなどの活用)をしているか
- カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか
- カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか
- シラバスを適切に整備しているか
- CAP 制の運用、教室外学修の指示など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか
- 「教養教育」を卒業要件に適切に含めているか
- アクティブ・ラーニングなど、授業内容や授業方法に工夫している科目があるか
- 教授方法の改善(FD)を進めるために組織体制を整備し、運用しているか
- 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか
- 教育目標(DPを含む)を達成するためのカリキュラムマップが設定されているか
- カリキュラムマップに沿った学修がなされているかを検証しているか
- 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を点検・評価しているか

3-5 言語教育研究科

3-5-1 目的・目標

- (1) 2020年度は新カリキュラムへの完全移行の年度であるため、完全移行に向けた体制整備をおこなう。
- (2) 学部と大学院の連携による「日本語教育プロフェッショナルコース」(学士課程+修士課程5年コース)を開始する。
- (3) 特別研究以外のすべての博士前期課程科目を学部との共通科目として開講する。
- (4) 教員・学生の研究活動(セミナー・研究会等)への参画を促進する。

3-5-2 本年度の活動

- (1) 新カリキュラムへの完全移行が行なえた。
- (2) 学部と大学院の連携による「日本語教育プロフェッショナルコース」に1名の学部4年生の参加があった。
- (3) 学部との共通科目となった大学院科目は、多くの学部生が履修し、大学院の学修環境に触れる機会を提供した。
- (4) 各学期末に学生アンケートを実施し、授業内容、教育研究環境、指導体制を改善するための情報収集を行った。
- (5) 大学院生のメーリングリストを利用して研究会やセミナーの情報を提供し、参加を促した。

3-5-3 評価

新カリキュラムへの移行を大きな問題なく完了できた。また、「日本語教育プロフェッショナルコース」を開始することができた。学部との共通科目としての開講も、問題なく実施することができた。

3-5-4 課題及び改善・向上方策

今後とも、優秀な学部生を多く大学院に呼び込み、また学部共通科目となった大学院科目における教育を充実させるためのFD活動を積極的に行う。新カリキュラムとなり、学期ごとの開講科目が少なくなっている分、学生には授業時間以外の時間を効果的に使わせることが課題である。授業以外に学生が自主的に学習を行うようなしかけについて検討する。

3-6 経済研究科

3-6-1 目的・目標

- (1) 優秀な学部生が履修する学部のアドバンスト科目を、課題や成績評価を高度化して修士課程の大学院生が履修する形で2020年度以降のカリキュラムを構成した。こうした科目が適正に運営されるよう、担当教員間での情報共有を図っていく。
- (2) 入学者の質の向上を図るとともに、修了者の水準を向上させる。
- (3) 教員の研究指導能力を高めるとともに、経済研究科全体として学生の研究指導に関わるようにして行く。

3-6-2 本年度の活動

- (1) 学部と相乗りする形でのカリキュラムは新しい試みであったが、問題無く運営できた。

- (2) 2020 年度修士入学者の学力は高く、これまでに開催された研究発表会を見ると研究への取り組みも良好である。また、博士課程に在籍していた 1 名が博士号を取得し、その研究成果は学会誌に発表された。
- (3) 多くの教員が参加して、学生の研究報告会を 6 回開催した。また、2020 年度修了者の中で、1 名の修士論文が投稿論文として刊行された。

3-6-3 評価

- (1) 学部との相乗り科目については、学部生と大学院生のレベル差(学部生の方が高い場合も低い場合もある)に対応するために、通常の授業以上に教員の負担が重いとの声がある。
- (2) 修了者が自分の研究成果を活かして就職するなど、修了後の進路に大学院に在籍したことのメリットが現れるようになっている。また、入試の難化により志願者が激減し、更にコロナ禍にあって留学生の進学が困難となる中、2021 年度について修士 1 名、博士 1 名の入学者を確保した。
- (3) 研究指導を担当しない教員も、研究指導にこれまで以上に関わるようになった。

3-6-4 課題及び改善・向上方策

- (1) 学部との相乗り科目の今後の運用について FD を開催し、大学院のカリキュラム編成について改善を図っていく。
- (2) 難化した入試の下で、一般入試のさらなる志願者の確保、ならびに特別推薦志願者の確保に努める必要がある。
- (3) 若手教員が研究指導を担当するようにしたいが、既に学部での授業などの負担が大きいため、科目担当などの調整を学部と計画的に行っていく必要がある。

3-7 学校教育研究科

3-7-1 目的・目標

- (1) 完成年度を迎えた研究科を円滑に運営し、道德教育、研究の世界的な拠点としての基盤を構築することを目標とし、内外に研究科の研究、教育成果の発信を多様な形で行い、その機会の維持と増加を目指す。
- (2) 3 つのポリシー(DP、CP、AP)に則った研究科の運営を行うことを目指して、教職協働の体制を構築し、安定且つ柔軟な運営を行い、その体制の拡充と一層の連携の強化を図る。
- (3) 内外に研究科の存在を発信すべく、研究成果や教育情報を積極的に周知、公開し、十分な回数を重ねることができたが、更にその増加と新たな媒体の開拓を行う。

3-7-2 本年度の活動

- (1) 内外に研究科の研究、教育成果の発信を目的とした「道德教育学セミナー」を 2 回実施した。
- (2) 内外に研究科の研究、教育成果の発信を目的とした「大学院説明会」を 5 回実施し、より多くの参加者獲得のために新規の媒体などで広報するなどした。
- (3) 大学院生の研究進捗の把握と今後の研究指導の充実に向け、「修士論文中間報告会」を 1 学期末に実施した。
- (4) 大学院生の研究成果の発信・報告の場として、修士 2 年生対象の「修士論文発表会」を年度末に実施した。
- (5) 内外に研究科の研究、教育情報の発信を目的とし、研究科が母体となって創設した「麗澤道德教育学会」第 2 回大会を開催した。

- (6)内外に研究科の研究、教育情報の発信を目的とした『道德教育学研究』（麗澤道德教育学会）の創刊号を発行することができた。
- (7)研究科の運営体制の基盤構築のため、「運営委員会」及び「研究科委員会」を10回、「FD委員会」を1回実施した。

3-7-3 評価

- (1)文部科学大臣から認可を経た設置計画を順調に履行し、無事に完成年度を迎えた。
- (2)教育課程編成・実施方針(CP)、入学者受け入れ方針(AP)に基づいた授業及び研究指導と入学者選考が実施できた。
- (3)大学院生の実際の学修状況や研究進捗を踏まえた、研究指導、学修支援の体制を教職協働で整備できたが、現職教員である大学院生という特有のニーズに応じ得る教育体制の実現可能性を検討する。
- (4)文部科学大臣から認可を経た設置計画に基づいて、2期生に当たる修了者を輩出したが、今後もきめ細やかな研究指導体制を維持する。
- (5)「道德教育学セミナー」では、内部はもとより外部からの参加者も多数得たため、継続実施の活動とする。
- (6)「修士論文中間報告会」実施を今年度から1年生にも課したことで、研究意識の早期向上が図れたため、継続実施の活動とする。
- (7)「修士論文発表会」を実施し、研究活動の総まとめが行えたことから、継続実施の活動とする。
- (8)「麗澤道德教育学会」第2回大会を開催し、修了生も含めた多数の参加者を得たことから、継続実施の活動とする。
- (9)「運営委員会」「研究科委員会」「FD委員会」を実施し、円滑な運営を行うことができたため、今後も定期的に開催する。

3-7-4 課題及び改善・向上方策

- (1)完成年度を経ての設置計画の履行状況について教職員間の確認を行ったが、研究科の将来目標やビジョンをより明確化した形で共有すべく、2020年度は1回の開催であったFD委員会の回数を増やし、安定的な運営に繋げる。
- (2)完成年度を経ての開講科目の履修状況や授業内容、方法も含めたカリキュラムの点検を行ったが、その具体的な改善と発展に関して運営委員会を中心に検討していくこととする。
- (3)教育研究環境の充実化に向けて図書雑誌資料の整備を行なったが、さらなる研究力向上のために一層の拡充を図ることとする。
- (4)「大学院説明会」では、より多くの参加者獲得のために新規の媒体などで広報するなどしたが、そのタイミングや時期については検討する。
- (5)『道德教育学研究』（麗澤道德教育学会）の創刊号を発行したが、更なる会員の増加を図るべく広く送付・贈呈する。

3-8 大学 IT ソリューションセンター

3-8-1 目的・目標

大学 IT ソリューションセンターは、学士課程における情報教育及び情報機器を利用する教育・研究に関する

る FD を統括するとともに、情報教育システムの企画・運営等、また情報基盤システムの設計・運用管理等を行うことで、本学の教育・研究の向上に寄与することを目的としている。

大学 IT ソリューションセンターは、教育活動の支援に関する具体的な指針として、以下の目標を設定している。

- (1) 本学学士課程を中心とする情報教育の基本的計画を立案し、情報教育の実施にあたって調整を行う。
- (2) 情報システムに関連する学部プロジェクトの運営を支援することによって、情報機器を利用した教育に関する FD を促進する。
- (3) 教育用ソフトウェア及びコンテンツの開発・企画・運用を行うことによって、効果的な情報教育システム環境を維持する。また中期計画の施策として、ノート PC 必携化の推進に必要な ICT を活用した授業及びクラス運営の定着化及び IT に精通した SA の育成環境の整備を行い、各種 IT 資格取得の支援をする。

3-8-2 本年度の活動

- (1) 情報系ゼミの教育支援の一環として情報関係の研究成果を発表する場として、今年度も情報系卒論発表会を開催した。
- (2) MOS (Microsoft Office Specialist) の学内試験を 4 回実施した。コロナ禍で前期休講となり、後期も遠隔中心の授業実施状況の中での対面実施となったことで、試験の実施回数は昨年度よりも減少した。
- (3) ティーチング・アシスタント (TA) 制度を継続して運用した。
- (4) ヘルプデスクによる利用者サービスを継続して提供した。
- (5) コース管理システム (Moodle) の運用を行い、教員のコンテンツの作成及び授業運営を支援した。また、日本 Moodle 協会 (Moodle Association of Japan) に継続加入し情報収集と学外との教育研究の成果の共有の場を確保した。
- (6) P 検 (ICT プロフィシエンシー検定) の学内団体試験を 5 回実施した。コロナ禍で P 検対策の授業は前期休講となり、後期も遠隔中心の授業実施状況の中での対面実施となったことで、団体試験の実施回数は昨年度よりも減少した。
- (7) 大学 ICT 推進協議会、私立大学キャンパスシステム研究会などの活動に参加した。大学 IT ソリューションセンターのメンバーに加え、コンティンジェンシー・プラン作成チームの花田准教授を加えたメンバーで、大学 ICT 推進協議会 2020 年度年次大会 (12 月 9 日～11 日 オンライン開催) において、「大学におけるオンライン授業の満足度についての分析」をテーマとした研究発表を一般報告セッションにて行った。
- (8) 遠隔授業に対応するための FD 講習会を前期 6 日間 (4/16・4/17・4/20～4/24)、後期 5 日間 (9/8・9/10・9/11・9/15・9/17) 開催した (前期講習はコンティンジェンシー・プラン作成チームと共催)。講習に加えて、スムーズな遠隔授業の実施にむけ、教員の個別サポートにあたった。
- (9) タッチタイプ習得ソフトウェアの認定証 (日本データパシフィック社の TypeQuick CERTIFICATE, SILVER LEVER 以上) の一括取得及び交付を行った。
- (10) 2021 年度からの全学におけるノート PC 必携化に向けて、推奨スペックの策定や推奨ノート PC の選定を行い、スムーズな導入に向けての検討を行なった。授業開始前に学生に対するオリエンテーション (Wi-Fi 設定、Microsoft Office のダウンロード・インストール、Gmail へのログインの仕方) を計画した。
- (11) 新型コロナウイルス感染症の拡大による遠隔授業に対応するため、遠隔会議システム Zoom を導入し、全

教員(専任・兼任)にライセンスを付与した。また、遠隔授業の実施にあたって、Zoom 及び教育管理システム Google Classroom の使用方法についての運用方法に関する質疑をメールにて受付し、疑問の解消を図るとともに効果的な運用の支援を行った。

3-8-3 評価

- (1)今年度の卒論発表会は3つのゼミから合計21件(4年生8件、3年生13件)の発表応募があった。コロナ禍のため、オンラインでの開催となったが情報系ゼミの卒業生や一般を含め約50名の聴衆が参加し、会場では多くの質問が寄せられ活発な議論が行われた。また、優秀な研究発表について顕彰(最優秀賞・優秀賞・特別賞・奨励賞)を行い、結果について大学ニュースを通じて一般に公開した。発表者全員の予稿原稿はWebを通して公開しており、卒業論文・研究などに成果を発表し、社会に向けて公開する場として、本発表会の効果は大きいと考える。
- (2)MOS 学内試験は、コロナ禍で後期のみの実施で4回の試験で受験者数は20名、結果15名が合格と2019年度から減少した。
- (3)ティーチング・アシスタント(TA)について、情報科目の遠隔授業でも運用し学生サポートを行った。しかしコロナ禍でコンピュータ教室や自習室での学生サポートは未実施となった。
- (4)継続して安定運用を行うとともに、前期休講及び遠隔授業向けに一部申請サービスのオンライン化を整え、サービス提供を行った。
- (5)2019年度のMoodleに開設された授業コースは前期113、後期51、通年5コースと前年度の70コース、一昨年度の101コースより大幅に増加した。遠隔授業に伴う新規利用者が多く、FD講習の他に個別対応もおこないサポートを実施した。
- (6)2020年度の受験者数はコロナ禍で後期のみの開講、また遠隔授業が多い中、対策授業は教材の関係で対面実施となったため、33名、合格者数は25名(準2級4名、3級21名合格)と、2019年度の受験者数65名、合格者数は54名(準2級13名、3級41名合格)から減少した。しかしながら、合格率は75.8%であり、2019年度の83.0%と比較して若干低下したものの、引き続き高水準を維持している。
- (7)大学ICT推進協議会の年次大会には13年間継続して参加した。2020年度年次大会はコロナ禍の影響もあり、オンライン開催であった。筆者らは「FB1 教育学習支援」のセッションにおいて発表し、本セッションの他の発表者とともに討議を行なった。本研究発表における結論を3点述べる。①時間割に基づいて参加しなければならないリアルタイム型の授業と比べて、資料提示型の授業では学習のペースが掴みにくいことが満足度を下げる大きな要因になっている。②Zoomというツールの使い方には慣れない学生にとっては、リアルタイム型の授業の満足度を下げる要因になっている一方、資料提示型の授業ではこの要素は有意とはなっていない。③SNS利用経験のある学生、すなわちオンライン空間にある程度慣れていない学生にとっては資料提示型の授業はあまり魅力的に映らないと考えられ、資料提示型の授業の満足度を下げる要因になっている(5%水準で有意)一方で、リアルタイム型の授業ではこの要素は有意となっていない。
- (8)コロナ禍による遠隔授業対応のための教員向け情報FD講習を実施した。Zoomの利用講習のほか、CMSシステム(Google Classroom, Moodle)の講習、教材作成や授業運営に関するFDを実施し、多くの教員の参加を得た。講習に併せて教員の授業実施環境の事前調査をおこない、各教員が抱える問題を把握して個別の技術サポートをおこなったほか、教員用オンラインリソースの整備・公開、及び機器の貸し出しをおこない、スムーズな遠隔授業の実施につなげることができた。

- (9) タッチタイプ習得ソフトウェアの認定証(日本データパシフィック社の TypeQuick CERTIFICATE, SILVER LEVER 以上)の一括取得及び交付を年 1 回行った。2020 年度はコロナ禍の影響により、1 年次の情報の授業のほとんどがオンラインで実施された結果、TypeQuick を学内で練習する学生がほとんどいなかった。そのため、英字コース：4 名、ローマ字コース：2 名の計 6 名の申請に留まったが、来年度は学内におけるタッチタイピングスキルアップへの意欲や、TypeQuick 認定証の取得を目指す学生を例年レベルで増やしていきたい。
- (10) ノート PC 必携化について大学 IT ソリューションセンターHP 内に特設サイトを公開し、新入生への情報発信を行い、専用の問い合わせ受付用メーリングリストを開設した。2021 年度が全学での導入の 1 年目となるので、今年度の状況をしっかりと把握することに努める。そして、2022 年度以降の授業開始前のオリエンテーションや情報のクラス運営などを検討していく。
- (11) 1 学期は全授業で、2 学期は 8 割の授業で遠隔型(動画・資料配信型、リアルタイム型)の授業が行われた。6 月中旬に行った学生アンケートによれば、学生の 95%が「スムーズに授業に参加できている」または「まあまあスムーズに授業に参加できている」と回答し、また、75%が「満足している」または「まあまあ満足している」と回答していることから、Zoom や Google Classroom 等に関する FD やメールによる質疑応答など、遠隔授業支援活動に一定の成果があったものと考えられる。また、Google classroom を活用した授業運営が定着した結果、次年度より、ノート PC 必携化による ICT を活用した授業運営の全学化の決定に至った。

3-8-4 課題及び改善・向上方策

- (1) ノート PC 必携化の推進に必要な ICT を活用した授業及びクラス運営の定着化を図り、ノート PC 必携化の効果を向上させる。2020 年度に教員向けに行なった ICT 利用アンケート(回答数：58 人)によれば、98.3%の教員が担当の授業において、Google の各種サービス：例、Classroom や Form、スプレッドシート、カレンダー、YouTube などを用いて、リアクションペーパーやレポートの提出、小テストの実施、反転授業などを行う予定と回答があった。特に、Classroom の利用は利用すると回答した教員の 100%が利用すると回答しており、今後は他のサービスも授業の中で取り入れて教育効果を高める研修を教員対象として行なっていきたい。
- (2) 2024 年度からの新カリキュラム策定、経済学部改組、新学部設置に向けて、データサイエンス教育推進室と連携し、情報教育科目の再構築を検討する。
- (3) Google Classroom においては、Google フォームやドキュメントといった関連するアプリケーションとの連携など、より効果的かつ効率的な授業運営を全教員が実現できるよう支援を継続していく。

3-9 CEC(Center for English Communication)

3-9-1 目的・目標

CEC は、全学における英語教育を担い、各学部の外国語学習の目的を達成し、学生の語学力向上に寄与することを目的としている。

上記の目的を実現するため、CEC は次のとおり目標を設定している。

- (1) 学部のニーズに応える
- (2) 統一され、標準化され、調整されたプログラムの開発
- (3) 研究に基づいた発展的なカリキュラムの設計
- (4) 学習者中心のアクティブ&コミュニケーション言語習得の支援

- (5) 学習者の自立性の育成
- (6) チームベースのアプローチ
- (7) 測定可能な成果の創出

3-9-2 本年度の活動

(1) CEC 運営委員会を開催した。

第1回：11月17日(1. CECの役割と課題の共有、2. バーチャル iFloor について、3. 2021年度 CEC 予算について、4. 2021年度 CEC 教員新規採用の応募状況について、5. 麗澤模擬国連について、6. 今後の時間割について)

第2回：2月26日(1. QQ English について、2. iFloor 出席報告書と iFloor 満足度調査結果について、3. 人事に関する事項、4. CEC & iFloor 中期計画(概要)について、5. 採用・契約更新・昇格の決定について、6. CEC コマ数の上限と予測について、7. 緊急採用の対策について、8. iFloor の感染対策について)

(2) iFloor 満足度調査を2月に実施し、480名の学生より回答を得た。

3-9-3 評価

CEC の組織強化のため、中間管理職的な位置づけとして、シニア講師に4つのポジション(①EFC+EC コース & TOEIC Focus コーディネータ担当、②RWW+Extensive Reading&Writing Center コーディネータ担当、③ Economics & Business administration コース 担当、④ iFloor コーディネータ担当)の導入を検討し、2022年度より順次配置することとなった。また、CEC による英語教育の全学化に伴い、2023年度非常勤講師ゼロ化に向けて、課題の整理を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響により、校舎「あすなろ」2階の iFloor でのイベント等の実施に制限があったため、2学期よりオンライン上で「Virtual iFloor」を展開し、「Wednesday Workshop」、「TOEFL Workshop」や Writing Center でライティング指導などを実施した。

3-9-4 課題及び改善・向上方策

英語教育の全学化に伴い、CEC が3学部の英語科目を担当することとなり、時間割設定が複雑化している現状がある。更なる英語教育効果の向上を目指し、3学部との連携を図り、CEC に求められる各学部の目標の設定及びビジョンに紐づいた CEC 担当授業及び CEC が担うコマ数を適切かつ計画的に配置することを引き続き検討する必要がある。また、iFloor 満足度調査結果より、iFloor を利用したことがある学生の満足度は高い傾向があるものの、iFloor が幅広く十分に利用されているとは言えないのが課題である。継続的に学生のニーズを把握し、英語学修を中心とするフレキシブルなセルフ・アクセスラーニングの場として、学生の自主的な英語学修を支援する仕組みをより一層充実させる必要がある。

3-10 ファカルティ・ディベロップメント

3-10-1 目的・目標

(1) FD 委員会

本学では教育目的の達成状況の点検・評価及び教育内容・方法の研究・改善を積極的に推進し、併せて主体的な授業改善を行っていくため、学長を委員長とする全学 FD 委員会を設置し、全学的な課題について検討を行う。なお、各学部・研究科においても、具体的な課題に沿って FD 活動を展開している。

全学 FD 委員会では、FD 活動に係る情報の収集と提供、教員が主体的に行う授業改善(教育内容・方法の研究・改善)に資するための全学的レベルの FD 活動の企画立案・実施を通じて持続的・組織的な職能開発に取り組む。

(2)FD 研修会

教職員の教育・研究指導能力の向上を図ることを目的に、教職員を対象とした全学的な FD 研修会を年間数回開催できるように取り組む。研修のテーマは、カリキュラム、教育内容・方法、成績評価、学修成果やアクティブ・ラーニング手法など、全学的な観点から選定している。

3-10-2 本年度の活動

(1) FD 委員会

- ①2020 年度は委員会を 5 回開催し、2013(平成 25)年度より実施している、学生による授業改善アンケート結果を共有するとともに、担当教員にフィードバックして、授業内容・方法の改善に反映できる、PDCA サイクルを回す仕組みを構築した。また、アンケート項目を再検討し、CP で設定した学修成果について検証できるようにした。
- ②学生の意見、要望への対応として、授業改善アンケートの自由記述欄における改善を求めるコメントのうち、特に大学として対応・措置が必要なものについては、慎重な事実確認を踏まえて、学部長などの責任者により個別に面談を行う対応を行っている。
- ③学修達成度調査を導入した。

2020 年度 FD 委員会活動実績

| | 開催日 | 出席 | 主な内容 |
|---|--------------|------|---|
| 1 | 6 月 11 日(木) | 18 人 | 2020 年度第 1 学期授業改善アンケート |
| 2 | 9 月 17 日(木) | 17 人 | 認証評価 学部 FD 取り組み状況 「授業改善計画書」の運用 |
| 3 | 10 月 1 日(木) | 14 人 | 「授業改善対応」を要する対象の選定 仮称「自己評価・授業改善計画書」 運用(フィードバックスキーム) |
| 4 | 11 月 12 日(木) | 12 人 | 第 1 学期授業改善アンケート結果の公表 第 2 学期授業改善アンケートを記名式に変更する理由 2021 年度 FD 委員会のメンバー |
| 5 | 3 月 24 日(水) | 12 人 | 授業改善対応対象者 |

(2)FD 研修会

- ①2020 年度は新型コロナウイルス流行により教員間授業公開は実施しなかった。しかしオンライン授業のための FD 講習会において、機器の使用手法だけではなく、さまざまな授業のやり方が紹介されたことは、授業公開の代替的役割を果たした。
- ②コロナ禍により実施できなかった留学の代替策として、授業において ICT を用いてオンラインで海外大学との交流をおこなう教育手法である COIL の導入を進めている。2020 年度の取り組みについては、2021 年 2 月 10 日に COIL の実施報告会を実施し、授業担当者による事例の紹介を行った。

3-10-3 評価

授業改善アンケートを活用し、学生の意見のくみ上げと授業内容・方法の改善を図る PDCA サイクルの構築ができたこと。また、学生の意見について、大学として対応・措置が必要なものについて、学部長などの責任において対応できるようにしたことが評価できる。

3-10-4 課題及び改善・向上方策

授業公開は教員の授業力向上に資する機会として位置づけているが、授業公開を利用して見学する件数が減少している。研究授業方式や教員評価との結び付けなどの検討が必要である。

内部質保証のためのチェックリスト

- 教育内容・方法等の改善に資する FD(Faculty Development) を組織的に実施しているか
 - ・FD 委員会の実施
- FD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っているか
 - ・授業改善アンケートの取り組みの見直し
- 学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備しているか
 - ・授業改善アンケートの実施
- 学生の意見を、学修支援の体制改善に反映させているか
 - ・授業改善アンケートに基づく面談の実施

4. 研究活動

4-1 全学共通事項

4-1-1 目的・目標

「知徳一体」の建学の精神に基づき、世界の平和、人類の幸福及び持続可能な社会の実現に貢献するため、研究活動を推進する。また、科学研究費補助事業(科研費)をはじめとする外部研究資金への応募を促進し、研究資金の適切な管理運営に務める。

4-1-2 本年度の活動

(1) 学内研究費

本学の研究を支える研究費としては、一般研究費がある。(「麗澤大学個人研究費規程」参照)

一般研究費は、専任教員(嘱託専任教員を含む)を対象とし、今年度(2020)より、年齢による限度額を定めて支給されている。45歳以下は40万円、46歳から55歳は30万円、56歳以上は25万円とした。なお、45歳以下の若手教員については、外部研究費(科研費等)への申請が条件となっており、今年度に外部研究費に申請しなかった場合、次年度の研究費の額が10万円減額された30万円になる。なお、既に科研費等の研究課題に取り組んでいる場合は、申請したとみなされる。

(2) 研究休暇・海外留学制度

本学は、専任教員に研究費を支給するだけでなく、研究休暇制度及び海外留学制度によって集中的な研究期間を提供している。(「麗澤大学専任教員研究休暇規程」「麗澤大学専任教員海外留学規程」参照)

①研究休暇制度

申請資格は次の3点である。期間は、原則として1学期間(6か月以内)である。特別の事情のある者については、2学期間に延長することを認めることがある。

- 1) 教員として6年以上継続して勤務していること
- 2) 研究休暇開始時の年齢が、60歳未満であること。
- 3) 研究意欲が旺盛で、本学の研究に貢献できる見込みがあること。

過去5年間の実績は次表のとおりである。

| 氏名 | 研究期間 | 研究テーマ |
|----------------|---------------------|--|
| 鈴木 大介(経済学部) | 2016年4月～ 2016年9月 | 粉飾決算のモデル分析とケーススタディ |
| ラウ シン イー(経済学部) | 2017年4月～ 2017年9月 | 2000～2016年の期間中に投稿した学術論文を整理し、麗澤大学出版会(予定)から論文集の本を出版する。 |
| 上村 昌司(経済学部) | 2017年9月～ 2018年3月 | 多国籍企業の資本コスト |

※なお、2018年度～2020年度の該当者なし。

②海外留学制度

海外留学制度には、学園から留学費用の貸与を受けて海外に留学する第1種と、学園以外の機関から留学費用の助成等を受けて海外に留学する第2種とがある。

申請資格は次の4点である。期間は、原則として1年以内である。

- 1) 教員として3年以上勤務していること

- 2) 麗澤大学専任教員海外留学規程又は学校法人廣池学園職員国内留学規程に基づく留学を経験していないこと
- 3) 心身ともに健康であること
- 4) その専攻する分野に関し、優れた研究業績があると認められ、研究意欲が旺盛で、将来本学の教育・研究活動に十分貢献できる見込みのあること

※第1種については、これらに加えて留学開始時の年齢が原則として満45歳以下であること

過去5年間の実績は次表のとおりである。

| 氏名 | 研究期間 | 研究テーマ | 留学先 | 種類 |
|--------------|----------------------|--|------|-----|
| 阿久根 優子(経済学部) | 2016年10月～ 2017年9月 | グローバル化が進む中での農業・食料リンゲージを中心とした持続的な地域経済研究－動学的応用一般均衡モデルを用いて－ | アメリカ | 第1種 |

※なお、2018年度～2020年度の該当者なし。

(3) 外部資金の活用

以上の学内研究費・研究支援制度の他、2020年度は次表のとおり外部資金を活用して研究を進めた。

①科学研究費助成事業(補助金・基金)

a. 研究代表者

(研究種目順)

| | 研究代表者 | 所属 | 研究課題 | 研究種目 | 研究期間 |
|----|-------|----------|---------------------------------------|---------|-------------------|
| 1 | 近藤 彩 | 国際学部 | 外国人労働者の定着と協働を目指す受け入れ環境の構築 | 基盤研究(B) | 2017～ 2020(繰越) |
| 2 | 近藤 彩 | 国際学部 | 外国人労働者の定着促進のための協働型受け入れ環境の構築 | 基盤研究(B) | 2020～2024 |
| 3 | 黒須 里美 | 外国語学部 | 多世代パネルデータを活用した社会的・地理的移動とライフコース研究 | 基盤研究(B) | 2019～2021 |
| 4 | 永田 雅啓 | 経済学部 | 「教育経済学」の新たなフロンティアを目指して－国際貿易理論によるアプローチ | 挑戦的研究萌芽 | 2017～ 2021(延長) |
| 5 | 堀内 一史 | 経済学部 | 米国キリスト教福音派による社会貢献運動:貧困問題への取り組み | 基盤研究(C) | 2019～2021 |
| 6 | 岩澤 知子 | 外国語学部 | 中世諏訪の神仏習合史における「諏訪流神道」の研究 | 基盤研究(C) | 2019～2021 |
| 7 | 馬場 靖憲 | 経済学部 | 日本企業に破壊的イノベーションは可能か:複数ケーススタディ分析 | 基盤研究(C) | 2018～ 2021(延長) |
| 8 | 寺本 佳苗 | 経済学部 | 社会的課題に関わる制度の生成と影響に関する実証研究 | 基盤研究(C) | 2018～ 2021(延長) |
| 9 | 山川 和彦 | 外国語学部 | 観光地の変容と多言語化の連動性に関する研究 | 基盤研究(C) | 2017～2020 |
| 10 | 吉田健一郎 | 経済学部 | 小規模自治体における情報化成熟度の測定と支援モデルの構築 | 基盤研究(C) | 2017～ 2021(延長) |
| 11 | 藤本 幸夫 | 言語研究センター | 日本現存朝鮮古刊本の調査とその語学的・書誌学的研究 | 基盤研究(C) | 2016～2020 |
| 12 | 千葉 庄寿 | 外国語学部 | 形態・統語情報を考慮した多層的語彙ネットワークの抽出とその応用に関する研究 | 基盤研究(C) | 2016～ 2021(延長) |
| 13 | 大野 仁美 | 外国語学部 | グイ語の焦点表示と情報構造 | 基盤研究(C) | 2018～ 2021(延長) |
| 14 | 笹原 健 | 外国語学部 | 言語接触と言語の均質化の諸相:ソルブ語の事例研究 | 基盤研究(C) | 2020～2022 |
| 15 | 山下 美樹 | 国際学部 | ナラティブ交換の対話能力への貢献:オンライン教育による実証研究 | 基盤研究(C) | 2020～2022 |
| 16 | 大越 利之 | 経済学部 | 住宅流通システムの活性化に向けた規制政策:利益相反の理論的・実証的研究 | 基盤研究(C) | 2020～2022 |

| | | | | | |
|----|--------------|-------|--|----------------|-----------|
| 17 | 鈴木 大介 | 経済学部 | 資産・負債アプローチと収益・費用アプローチの統合～リスク概念に基づくモデルの構築 | 基盤研究(C) | 2020～2022 |
| 18 | 冬月 律 | 外国語学部 | 人口減少社会における「不活動・準不活動神社」の実態と地域文化に与える影響 | 若手研究 | 2019～2021 |
| 19 | チジャック オルガ | 外国語学部 | Facework and peer interaction in group work tasks from an emic and an etic perspective | 若手研究 | 2019～2022 |
| 20 | 横田 理宇 | 経済学部 | 中小企業の社会的責任論: ソーシャルキャピタルからのパフォーマンス評価 | 若手研究 | 2019～2021 |
| 21 | 篠藤 涼子 | 経済学部 | 財務報告の意思決定有用性と間接的検証可能性の関連性に関する研究 | 若手研究 | 2019～2021 |
| 22 | 佐藤 繭香 | 外国語学部 | 戦間期における国際的な女性運動と日本 | 若手研究 | 2019～2021 |
| 23 | 池川真里亜 | 経済学部 | 新貿易理論における距離概念の再考: 農業部門における実証研究 | 若手研究 | 2020～2022 |
| 24 | 内尾 太一 | 国際学部 | 尊厳の発現メカニズムの解明: 東日本大震災の復興過程を通じて | 若手研究 | 2020～2022 |
| 25 | 中司 梢 | 外国語学部 | 「モツ」動作を表す中国語動詞に対するビデオを用いた意味研究 | 研究活動 スタート支援 | 2019～2020 |

b. 研究分担者

(研究種目順)

| | 研究分担者 | 所属 | 研究課題 | 研究代表者 | 研究種目 |
|---|-------|-------|---|---------------------------------|---------|
| 1 | 徳永 澄憲 | 国際学部 | 多発的な自然災害リスクを対象とした動学空間経済分析に関する研究 | 渋澤博幸(豊橋技術科学大学工学(系)研究科(研究院)准教授) | 基盤研究(B) |
| 2 | 近藤 彩 | 国際学部 | 中国人日本語学習者のビジネスコミュニケーションの困難点の解明 | 蒙ユン(国立国語研究所日本語教育研究領域プロジェクトフェロー) | 基盤研究(C) |
| 3 | 近藤 彩 | 国際学部 | 外国人社員の異業種協働型ビジネスコミュニケーション研修プログラムの開発研究 | 金 孝卿(早稲田日本語教育センター准教授) | 基盤研究(C) |
| 4 | 佐藤 政則 | 経済学部 | 日銀引受国債発行と国債流通市場—戦前期日本の国債政策の総体的考察 | 永廣 顕(甲南大学経済学部 教授) | 基盤研究(C) |
| 5 | 冬月 律 | 外国語学部 | 伝統宗教の「次世代教化システム」の継承と創造による地域社会の活性化 | 川又 俊則(鈴鹿大学子ども教育学部 教授) | 基盤研究(C) |
| 6 | 池川真里亜 | 経済学部 | 新たな食料品アクセスマップによる超高齢社会での食生活改善に向けた実験的介入研究 | 農林水産省農林水産政策研究所高橋克也総括上席研究官 | 基盤研究(C) |
| 7 | 横田 理宇 | 経済学部 | 持続可能な開発目標の策定に伴う企業の社会的責任の変容 | 田中敬幸(高崎商科大学商学部准教授) | 基盤研究(C) |
| 8 | 内尾 太一 | 国際学部 | 東日本大震災の復興過程に関する公共人類学的研究-レジリエントな社会モデルの構築 | 関谷 雄一(東京大学・大学院総合文化研究科教授) | 基盤研究(B) |

②農林水産政策科学研究委託事業(受託研究)

| 研究代表者 | 所属 | 研究開発題目・研究課題 | 研究期間 |
|-------|------|--|-----------|
| 徳永 澄憲 | 経済学部 | アジアにおける日系食品関連企業の海外進出と国内事業の波及効果に関する定量定期分析 | 2019～2021 |

③スポーツ庁(受託研究)令和2年度武道等指導充実・資質向上支援事業(テーマ3: 指導成果の検証)

| 研究代表者 | 所属 | 研究開発題目・研究課題 | 研究期間 |
|-------|------|----------------------------------|------|
| 豊嶋 建広 | 経済学部 | 「武道種目(空手道)を男女共習で実施する上での成果と課題の調査」 | 2020 |

(4) 学術誌の刊行

本学及び本学関連学会は、本学内外における研究成果発表の場として、学術誌を刊行している。
2020年度は次のとおり発行した。

- ① 『麗澤大学紀要』(第104巻)2021年3月 麗澤大学発行(英文誌名: *Reitaku University Journal*)
- ② 『言語と文明』(第19巻)2021年3月 言語教育研究科発行(英文誌名: *Language & Civilization*)
- ③ 『麗澤経済研究』(第28巻)2021年3月 麗澤大学経済学会発行(英文誌名: *Reitaku International Journal of Economic Studies*)
- ④ 『麗澤学際ジャーナル』(第29巻)2021年3月 麗澤大学経済学会発行(英文誌名: *Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies*)

(5) 教員の表彰

本学には、学術・研究、教育、社会貢献活動の振興・奨励を図るために、顕著な業績をあげた教育を表彰する制度がある。2018年度～2020年度は受賞者なし。

(6) 学会の開催

新型コロナウイルスの影響により、2020年度中に本学を会場として開催予定だった学会は、延期または、Zoom等によるWEB形式となり、本学会場とした学会は、行われなかった。

(7) 研究支援体制の整備

文部科学省により策定された「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(2014年8月26日 文部科学大臣決定)及び「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(2014年2月18日改正)を受けて、研究機関が組織を挙げて不正行為の防止に関わり、不正行為が起こりにくい環境を整備することが強く求められている。

本学では、2015年度にこれらのガイドラインの趣旨に沿った環境整備を行ったところであり、2020年度もその取り組みを継続するとともに、新たに以下の取り組みを実施した。なお、5年に1度開催することとしていた研究倫理研修の実施については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、研修は行わず、日本学術振興会 e-ラーニング(エルコア: elCoRE)の個別受講とした。

- a. 「公的研究費の使用に関する不正防止計画」を確認した。
- b. 以下のとおり、研究倫理研修を実施した。

| | |
|-------|--|
| 受講対象者 | ・専任教員(新任採用者のみ) ・科研費等の公的研究費の研究代表者及び研究分担者 ・学内研究費(特別研究、研究センタープロジェクト)の研究分担者 ・課長職以上の大学事務局職員 ・研究事務担当職員(経理課及び教育研究支援グループ担当者) |
| 実施方法 | 本学指定の e-ラーニング: 日本学術振興会 e-ラーニング(エルコア: elCoRE) 『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編、丸善出版を基とした内容。 アニメーションをメインとした事例で学び考える教材。 |

- c. 科研費等の公的研究費の研究代表者及び研究分担者、研究事務担当職員(経理課及び大学アドミニストレーションオフィス担当者)より、本学の規程等を遵守し、不正を行わないことを明記した誓約書を回収した。
- d. 研究活動及び研究費に関するマニュアルの見直しを行った。

(8) 国際共同研究

例年は、国内外出張等の届け出により確認ができた個々の教員の国際共同研究の内容が、今年度は、新型コロナウイルスの影響により、実態の把握ができなかった。

4-1-3 評価

学内の多様な研究能力を総合化し、その活動を展開することを目的に 2019 年に国際研究所を設置して以来、国際研究所所長と大学アドミニストレーションオフィスとが連携し、外部資金獲得のための研究支援活動を行い、若手教員を中心とした外部資金獲得(主に科研費)に貢献している。

4-1-4 課題及び改善・向上方策

本学における研究活動は、「知徳一体」の建学の精神に基づき、世界の平和、人類の幸福及び持続可能な社会の実現に貢献することを目指しており、個人研究費を整備している。研究費を活用して得られた研究成果は、それぞれの研究者が国内外の学会や学術誌等で発表している。

科研費に代表される外部の競争的資金への応募数や採択件数の増加を目指し、科研費説明会を実施したほか、科研費申請時の締切日を、添削希望者と添削を希望しない者との 2 つ設定し、それぞれが、申請までの期限を有効に活用できるように配慮した。昨年度に続き、馬場国際研究所所長の支援により、若手研究者をはじめとする本学の教員への科研費申請書(研究計画書)の添削体制を構築でき、「研究者による、科研費申請体制」が本学にて実現できたことで、教員からの好評を得た。

次年度以降も引き続き、他大学との情報交換会や外部研修等に参加する等、情報収集を行いながら、本学の研究支援体制の充実に努める。

内部質保証のためのチェックリスト

研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用しているか

- ・麗澤大学 研究活動不正行為防止規程

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/308.html>

- ・麗澤大学 研究倫理規程

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/299.html>

- ・麗澤大学「人を対象とする研究」に関する倫理細則

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/300.html>

- ・麗澤大学 公的研究費取扱規程

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/192.html>

上記の規程以外に、教員マニュアル(教員倫理綱領、研究費、研究活動について)に記載あり。

研究活動のための外部資金の導入の努力を行っているか

- ・麗澤大学 研究活動等取扱規程

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/354.html>

上記規程より抜粋：第 4 条 個人研究費は、4 月 1 日時点の年齢により限度額を定める。45 歳以下の教員は、外部研究費の申請を原則とする。

研究活動への資源配分に関する規則を整備しているか

- ・専任教員への個人研究費を支給している。(年齢による傾斜配分)

- ・麗澤大学 研究活動等取扱規程

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/354.html>

☑設備などの物的支援を行っているか

- ・専任教員には、研究棟に専有の研究室、共用部(会議室、印刷室、共同研究室)を配置している。
- ・かえで校舎内に教員控室を設置し、教員ごとにメールボックスを配置している。

☑RA(Research Assistant)などの人的支援を行っているか

麗澤大学リサーチ・アシスタントに関する規程 (2017～2019年度にRA採用実績あり。)

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/312.html>

4-2 国際研究所

4-2-1 目的・目標

本研究所は、学内の多様な研究能力を総合化し学外にその活動を展開することを目的に2019年5月に設立。昨今の私学助成金が削減される研究環境において、競争的外部資金を積極的に獲得し、学術研究、産学連携、社会連携について広範な展開を可能にする体制の構築を目指している。

今年度も外部資金獲得の1つである科学研究費助成事業への申請数の増加、採択率アップを目指し、若手教員等に積極的な科研費申請の支援を行った。

1)国際研究所としての科研費助成事業への獲得支援

| | |
|---|--|
| 1 | 年間を通し、科研費応募者や科研費採択者、不採択者の相談受付、勉強会等の実施。 |
| 2 | 学内の「科研費説明会」実施時における講演者の選定及び応募書類(研究計画書)説明会の実施。 |
| 3 | 科研費応募書類(研究計画書)の添削希望者への、馬場研究所長の添削及び相談。 |

2)国際研究所内の各研究センターについて

本研究所内には、共同研究組織であるセンターが設置でき、本学の専任教員をセンター長としたプロジェクトチームによる共同研究を行っている。主な研究センターの活動報告については、以下のとおりである。

4-2-2 本年度の活動

4-2-2-1 経済社会総合研究センター

1) 研究プロジェクト：5件の実施

| | | |
|---|-------|---|
| 1 | 佐藤 政則 | 道経一体思想の人物論的考察【継続3年目】 (活動内容：定例研究会の開催7回) |
| 2 | 黒須 里美 | 人口・経済・家族の長期的研究：多世代パネルデータベース構築【継続6年目】 (活動内容：歴史人口学セミナーの開催等) |
| 3 | 籠 義樹 | 持続可能な基礎的インフラの整備・維持管理に関する研究【継続5年目】 (活動内容：研究会の開催7回) |
| 4 | 櫻井 良樹 | 茨城県境町 さしま茶のブランド力向上に関する調査研究【継続4年目】 (活動内容：懇話会1回、書籍編著『幕末・明治の茶業と日米交流—中山元成とG・R・ホールを中心に—』(日本経済評論社、2020年8月、A5判・296頁) 「アメリカに渡った『江戸ウーロン茶』—幕末期の茶業と日米交流—」 (『緑茶通信』47号、39～42頁、2020年9月) 「人とモノを通して日米のつながりを探る」(『評論』219号12～13頁、2020年10月) |
| 5 | 吉田健一郎 | 地域づくりにおけるアクターズネットワークの形成に関する一考察～健康なまちづくり、健康観光地事例として～【継続3年目】 (活動内容：研究会の開催1回) |

4-2-2-2 比較文明文化研究センター

2020年度の活動は、なし。

4-2-2-3 企業倫理研究センター

(1) 『*Learning Inamori Philosophy Japans Most Influential Social Philosophy*』

2020年 4月出版 著者：高 巖

(2) 海外贈賄防止委員会(ABCJ: Anti Bribery Committee Japan)、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ: Global Compact Network Japan)共催

腐敗防止年次フォーラム2020「司法取引・内部通報制度の活用、贈賄防止対策の最前線、コロナ危機下の留意点」を後援(研究員の藤野が第2部モデレーターを担当)

4-2-2-4 言語研究センター

2020年度の活動は、なし。

4-2-2-5 AI・ビジネス研究センター

AIビジネス研究センターでは、研究活動と教育活動の二本柱で活動している。まず、研究活動としては、AIの応用が進む不動産分野への適用研究としての研究成果を取りまとめた清水千弘編著『不動産テック』朝倉書店を出版した。同著の出版には、AIビジネス研究センターの14名の研究員が参加した。更に、同著に基づき、各執筆者による公開研究会を開催した。更に、AIのビジネス領域での活用を積極的に進めている企業の経営者、アナリストなどを招聘して、全6回の公開研究セミナーを開催した。

教育活動としては、「高校生・大学生のための不動産テックコンテスト」を開催した。同コンテストには、麗澤大学に加えて、東京大学、京都大学、東京工業大学、早稲田大学、慶応義塾大学の国内トップ校のほかに、ペンシルバニア大学、ジョンズ・ホプキンス大学、トロント大学など国内外の高校生・大学生が180名参加した。

4-2-2-6 都市・不動産科学研究センター

都市不動産科学研究センターにおいては、研究活動として、国土交通省及び財団法人日本不動産研究所との共同研究として、人口減少地域における不動産価格の予測手法の開発についての研究を実施した。人口減少が進行する縮退する地域では、不動産の取引もまた停滞している。しかし、そのような地域においても、年に一度公表される「公示地価」は決定していかなければならない。そこで、都市不動産科学研究センターでは、「機械学習」の技術を用いて、広域かつ過去の取引価格データを用いて、不動産価格を予測する技術の開発を行った。

また、そのような人口減少等が進む縮退する社会では、空き家問題など、多くの社会問題が露呈してきている。そのような問題に対する政策的な対応を検討するにあたり、東京大学空間情報科学研究センター、ポートランド州立大学ハットフィールド行政大学院パブリックサービス研究・実践センターとの合同公開研究会として「地域未来創造研究会」を開催した。研究会には、50の自治体を超える自治体職員、大学生、研究者、実務家など延べ300名が参加した。公開研究会は、東京大学副学長浅見泰司教授、ポートランド州立大学ハットフィールド行政大学院パブリックサービス研究・実践センター長西芝雅美教授、和歌山大学副学長 足立基浩教授が講演及び進行を務め、元内閣官房地域活性化統合事務局長、国土交通省及び総務省の行政担当者が登壇した。

第1回(研究会)

| | |
|-----|--|
| 日時 | 2020年11月7日(土曜日)10時～12時 |
| テーマ | 「地域未来創造に必要な人材とその育成」 |
| 講演 | 浅見泰司(東京大学大学院工学系研究科教授) |
| パネル | 内田要(麗澤大学・都市不動産研究センター客員教授、元内閣官房地域活性化統合事務局長) |

第2回(研究会)

| | |
|-----|--|
| 日時 | 2020年11月14日(土曜日)10時～12時 |
| テーマ | 「地域未来創造における不動産・建設専門家の役割:空き家バンクと空き家の利活用」 |
| 講演 | 清水千弘(東京大学空間情報科学研究センター特任教授、日本大学教授) 麗澤大学 都市不動産科学研究センター長 |
| パネル | 中田裕人(国土交通省会計課長、麗澤大学都市・不動産研究センター客員教授) |

第3回(研究会)

| | |
|-----|--|
| 日時 | 2020年11月21日(土曜日)10時～12時 |
| テーマ | 「地域未来創造における公務員の役割と住民の役割」 |
| 講演 | 西芝雅美(ポートランド州立大学ハットフィールド行政大学院 パブリックサービス研究・実践センター副センター長・教授) |
| パネル | 黒瀬敏文(総務省大臣官房審議官、麗澤大学都市・不動産研究センター客員教授) |

4-2-2-7 国際地域開発研究センター

農林水産省委託事業を採択し、当センターの客員研究員とともに、調査分析を行った。

本件は、研究分担者として、日本大学生物資源科学部の阿久根優子准教授、本学の池川真里亜助教も加わり、連携して調査分析等が行われた。

【2020年度農林水産政策科学研究委託事業：受託研究1件】

| 研究代表者 | 所属 | 研究開発題目・研究課題 | 研究期間 |
|--------|------|--|-----------|
| 徳永 澄憲 | 経済学部 | 「アジアにおける日系食品関連企業の海外進出と国内事業の波及効果に関する定量定期分析」 | 2019～2021 |
| 研究 分担者 | | 日本大学 生物資源科学部 阿久根 優子准教授 | |
| 研究 分担者 | | 麗澤大学 国際学部 池川 真里亜 助教 | |
| 研究 協力者 | | 沖山 充 客員研究員、國光 洋二 客員研究員 | |

4-2-3 評価

国際研究所体制となった初年度は、科学研究費助成事業への取り組みを強化し、若手教員等に積極的な科研費申請の支援を行った。教員の新規申請件数は2020年度で18件、採択件数は4件で、その採択率は22.2%となり、昨年度の38.8%より低い結果となった。また、各研究センターにおいては、新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、例年に比べ、研究会等の活動が制限され、縮小傾向となった。

4-2-4 課題及び改善・向上方策

科学研究費補助金をはじめとする、外部資金を獲得する研究者は、決して多くはないため、引き続き、本学の専任教員が外部資金を獲得できるよう、支援対策を講じ、「国際研究所」として、多様な外部資金源から、安定的に研究資金を獲得する体制作りをめざす。

4-3 日本語教育コラボレーションセンター

4-3-1 目的・目標

当該センターの教員一人ひとりの研究力の向上を目指すべく、個人の専門領域の研究に着手もしくは継続することを目的とする。

4-3-2 本年度の活動

新規の科研 1 件(科研B)に採択された。継続中の科研 1 件と合わせて研究を進めた。後者のプロジェクトには、センター教員も参加した。

上記の研究で得た知見を、日本語教育、協働学習、教師養成等の観点から、論文、著書、学会発表及び招聘講演等にて発表した。

授業に直結する研究として、コンテンツベースの教材作成、授業運営の方法について検討を行った。また、コロナ禍での遠隔授業実施に伴い、効果的な授業の実施方法、学習活動を研究した。特別聴講生のコース 1 においては、タスクベースの授業をどのように実施するかについて研究を進めた。

4-3-3 評価

コロナ禍であるため、予定していた海外調査ができなかった。そのため、国内でできることを進め、海外の日本語教師養成に関わるプロジェクトはオンラインで行った。

ケース学習などの研究はセンターのコンテンツ授業にも取り入れることができ、学生の関心も非常に高かった。

コンテンツベースの教材作成、授業運営の方法については、学期中や学期末に FD を行った。お互いの実践を共有することで、より効果的な授業が実施できるように工夫を重ねることができた。オンラインでの授業運営の方法についても同様である。

特別聴講生のコース 1 においては、新しい教材を導入して、入門レベルから日本語でコミュニケーションができる能力を効果的に養うことができた。

4-3-4 課題及び改善・向上方策

コンテンツベースの教材作成については、学生の専門性に合わせたテーマや日本語力に合わせた取り組みのバリエーションなどを整理し、モジュール教材として質を高めていく必要がある。

オンラインの授業実施については、新型コロナウイルス感染症収束後も有効な方法として継続して研究を進め、COIL 型教育も含めてその可能性を検討する。

4-4 道德教育推進室(Center for Moral Science and Education)

4-4-1 目的・目標

建学の精神の根幹を成す道德科学に関する教育及び研究を行い、広く社会の道德教育の推進に資することを目的に、下記の教育・研究活動を順次展開する。

- (1) 「道德科学」をはじめとする道德系科目の授業運営支援及び教材開発
- (2) 道德教育の展開の場としての学生活動の支援
- (3) 建学の精神に関する研究とその教授法の開発
- (4) 道德科学に関する研究とその教授法の開発
- (5) 倫理学、道德に関する研究とその教授法の開発
- (6) 研修会・講演会の開催

4-4-2 本年度の活動

- (1) 「道德科学」をはじめとする道德系科目の授業運営支援及び教材開発

2020 年度の新カリキュラムでは、道德系科目群にも大きな変更があり、とりわけ道德系科目の全学共通化を目指した新たな取り組みを開始した。これまで外国語学部 1 年次で行っていた「基礎ゼミナール A・B」(必修科目)は廃止され、経済学部 1 年次「現代社会と道德科学 A・B」(必修科目)は閉講となり、代わりに国際学部グローバルビジネス学科 1 年次生用の科目として「現代社会と道德科学 A・B」が再配置され、内容的にもグローバルビジ

ネス学科を対象とするものに改めて展開することになった。また、国際学部国際学科では、2年次以降の留学希望を実現しやすくするとともに、学科の専門的な学びを進める上での基盤作りとして、2年次の「道德科学A」を1年次後期に前倒しして再配置を行なった。内容的にも国際学科ならではの学びと道德科学の学びとの接続を強く意識し、「文化の多様性と価値—道德科学A」と名称変更して展開した。これらの取り組みはいずれも建学の精神、本学の歴史、倫理・道德の課題などを学ぶ機会を1年次のうちに提供すると同時に、各学部学科の専門的な学びへの接続を視野に含めたものである。

2年次配当の「道德科学A・B」(全学必修)は、1クラス40人規模の構成を改め、学部ごとに1クラスという大規模クラスで展開し、またコロナ禍のなかでオンデマンド授業(録画動画の配信)の形式で進めざるを得なかった。3・4年次では「道德科学研究A・B・C・D」を改定し、経済学部で進めていた「道德経営特論」の対象を全学部に広げて展開するとともに、「新たな時代の道德の探求」「SDGs・ESGと道德」など、本学の道德教育の現代的展開に力点を置いた科目の新設を目指して準備を進めた。

① 道德科学A・B(正課)

2020年度第1学期に「道德科学A」、第2学期に「道德科学B」を各学部1クラスを設けて2年次の必修科目として授業を実施。両学期ともにオンデマンド型授業として実施した。

② 現代社会と道德科学A・B(正課)

国際学部グローバルビジネス学科において、2020年度第1学期に「現代社会と道德科学A」、第2学期に「現代社会と道德科学B」を道德系科目(自由選択科目)としてオムニバス形式で対面で実施する予定だったが、第1学期「現代社会と道德科学A」はコロナ禍の影響により休講とした。第2学期「現代社会と道德科学B」はオンライン型授業で実施し、履修者は合計43名であり、自由選択の1年次の道德系科目としては予想以上の履修者数となった。

③ 文化の多様性と価値—道德科学A(正課)

国際学部国際学科1年次において、2020年度第2学期に「文化の多様性と価値—道德科学A」を同学科用の「道德科学A」(上記①)として開講、オンライン型授業として実施した。

④ 道德経営特論A/経営と道德(正課)

3年次以上の全学共通科目として2020年度第2学期に「道德経営特論A」(「経営と道德」)を開講、実施した。本科目は公益財団法人モラロジー研究所企業センター及び日本道経会の外部講師を中心に『徳づくりの経営』をテキストとして実施してきた講座であり、2020年度はオンライン型授業として実施した。

⑤ 新たな時代の道德の探求(正課)

3年次以上の全学共通科目として2020年度第2学期に「新たな時代の道德の探求」を開講予定であったが、コロナ禍の中で調整が進まず、2021年度第1学期の開講に予定を変更した。

授業運営等に関しては、道德系科目を担当する以下のメンバーによる道德教育推進室会議を実施した(メンバー：江島 顕一、川久保 剛、橋本 富太郎、宮下 和大)

(2) 道德教育の展開の場としての学生生活の支援

これまで1年次では建学の精神や本学の歴史を学ぶために、オリエンテーションキャンプ等、各学部・専攻それぞれの導入的授業のなかで在学生などによる自校学習を道德教育推進室が支援する形で毎年行ってきたが、コロナ禍のなかでスタートした2020年度は各学部のスタートアップカリキュラムの中で道德教育推進室のメンバーである教員が関与する形での自校教育を行なった。

(3) 建学の精神に関する研究とその教授法の開発

(4) 道徳科学に関する研究とその教授法の開発

(5) 倫理学、道徳に関する研究とその教授法の開発

2020年度は新カリキュラム下で新たに開始した「(1)「道徳科学」をはじめとする道徳系科目の授業運営支援及び教材開発」と大きく関わる形で、大規模クラス化での教授法・運営法、更にはコロナ禍のなかでのオンライン・オンデマンド形式での教授法・運営法の検討・開発・実施が中心となった。

(6) 研修会・講演会の開催

道徳教育推進室が関連する研修会・講演会としては大学院・学校教育研究科とのコラボレーションでこれまで進めてきており、それらを継承する形で開催準備を進めてきた。2020年度の主な活動は、中止となったものも含めて、以下のとおりである。

《国内での研修会・講演会等》

(1) 大学主催講座・研修会等

① 教員免許状更新講習

【選択】道徳教育の現状と課題 2020年8月4日(水) ※2020年度は中止

講師：江島頭一 准教授

参加人数：40名(定員40名)

② 第8回高校教員のための「道徳教育講座」 ※2020年度は中止

③ 特別セミナー(大学院学校教育研究科主催)

第1回 道徳教育学セミナー 2020年11月22日(日)オンライン

テーマ：「道徳科の学習指導過程論－魅力と活力ある道徳授業を創るために」

講師：永田繁雄(東京学芸大学教授、日本道徳教育学会会長)

参加者：55名

第2回 道徳教育学セミナー 2020年12月4日(日)オンライン

テーマ：「道徳科の学習指導過程論」

講師：谷田増幸(兵庫教育大学大学院教授、日本道徳教育方法学会会長)

参加者：45名

(2) 柏市大学連携講座

① 柏市教職員研修講座(道徳) 2020年8月7日(金) ※2020年度は中止

講師：江島頭一准教授、広中忠昭講師

テーマ：「『考え、議論する道徳』の実現に向けて」

参加者：65名(柏市内小中学校教員)

4-4-3 評価

国内での研修会・講演会についても、学内での授業においても、新型コロナウイルス感染症の影響によって様々な変更を余儀なくされた一年間であったため、例年通りの評価とは若干異なることを先に述べておきたい。

道徳教育推進室にはその発足当初より、①道徳系科目の全学共通化、②道徳系科目の再編成、という二つ

の課題が与えられてきた。

- ①全学共通化については経済学部で実施してきた「道徳経営特論」を道徳教育推進室が関わる形で全学共通化したことが 2020 年度の重要な変更点であった。オンライン形式となったが、受講者からは積極的な質問が飛び交い、活発な形での再スタートを切ることができたものの、外国語学部から受講した学生は 0 名であった。今後の履修オリエンテーションなどで十分に説明を加え、名実伴う形での全学共通科目へと進めていく必要がある。
- ②道徳系科目の再編成については、新たな取り組みを多数開始することとなったが、これらはその成果を十分に検証しつつ、2024 年度の新カリキュラムへ向けて試行錯誤を進めている途上にある。「道徳科学 A・B」の大規模クラス化は、少数教員による内容の標準化という点では確かに有効であるが、他方で学生各自への細かい配慮が困難な点もあり、成果ベースでしっかりと点検する必要がある。他方でオンライン形式、あるいはオンデマンド形式での発信・配信という試みからは、学生の取り組む姿勢や態度の面でこれまでになかった成果も見えており、各自が PC や動画に向き合うことの利点も確認できた。新設された国際学部での新たな取り組みの核心には、学部や学科の専門的な学びと本学の道徳教育(道徳科学教育)との連動促進ということがあり、本学ならではの道徳教育の方向性を展望していく上でも貴重な挑戦となっており、こちらもその成果を十分に点検しながら振り返る必要があるが、他学部においても同様の取り組みが実施できないか試行錯誤していく必要がある。

4-4-4 課題及び改善・向上方策

繰り返しになるが、全学共通化した「道徳経営特論」への外国語学部及び国際学部の学生の受講の促進に向けて、二年次「道徳科学 A・B」との接続をはかっていく必要がある。これらは学生のキャリア形成に向けた教育とも連動するため、キャリア科目とも連携しつつ進められるように取り組みたい。

5. その他の活動

5-1 国際交流活動

5-1-1 目的・目標

本学における国際交流活動は、創立者廣池千九郎が目指した「人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人材の育成」のため、世界的・国際的識見を備えた有能な人材を養成することを目的としてしている。

2020年度は新型コロナウイルスの世界的流行が国際交流事業に与えた影響は大きく、次のとおり目標を設定し国際交流活動を展開した。

- (1) 新型コロナウイルス感染症に対する留学対応として、留学に替わる国際交流活動の提案及び実施。
- (2) 交換留学派遣数及び私費留学派遣数増加を図る。
- (3) 留学派遣受入及び学生の海外渡航に関する危機管理体制の整備を図る。
- (4) 国際交流に関する学生サービスの向上を図る。

5-1-2 本年度の活動

(1) 留学に替わる国際交流活動の提案及び実施

①海外提携校への留学

コロナ禍の中での留学派遣に向けて、渡航検討会議を4回開催し、留学派遣が可能となる条件を確認、協議を重ねたが、留学派遣は中止となった。

これに付随し、海外短期語学研修、海外短期研修を含むすべての留学派遣プログラムを中止とした。

②オンライン留学プログラムの実施

留学の代替となるプログラムを検討し、海外提携校等が提供するオンラインでの留学プログラムを策定し、以下のとおり参加した。

| 海外提携校等 | プログラム名 | 実施期間 | 参加人数 |
|--------------------|--------------------------------|-----------------|------|
| 南イリノイ大学 | Community Engagement Program | 2020/10/14-11/3 | 10名 |
| セブ島語学学校 QQ English | オンラインキャンパス/スーパーライトコース | 2021/3/1-3/19 | 23名 |
| 南イリノイ大学 | CESL Intensive English プログラム | 2021/2/15-3/12 | 10名 |
| ポートランド州立大学 | Remote Field Study | 2021/3/1-3/12 | 7名 |
| ポートランド州立大学 | English Through Sustainability | 2021/2/8-2/26 | 2名 |
| マレー州立大学 | ESL プログラム | 2021/2/1-2/26 | 2名 |
| 天津財経大学 | 中国語コース | 2021/3/1-3/26 | 3名 |
| 西安外国語大学 | 普通中国語コース | 2021/3/1-3/26 | 1名 |
| 西安外国語大学 | 短期中国語コース | 2021/3/1-3/26 | 2名 |
| 淡江大学 | 中国語センター遠隔授業 | 2021/3/8-3/19 | 1名 |

オンライン留学プログラムは有料で、提携校の学生と一緒に授業を全て受講する必要がある、単位認定も可能である。

③海外提携校からの留学

協定に基づき、海外提携校から本学への2020年度留学プログラムに参加した特別聴講生は、次表のとおりである。受入れについても、全世界的な新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、早期の段階で来日していた学生などの例外を除いて、実質的停止となった。

| 海外留学協定校等 | | 1学期 | 2学期 | 合計 |
|----------|------------------------|-----|-----|----|
| アメリカ | レッドランズ大学 | 0 | 0 | 0 |
| | フィッチバーグ州立大学 | 0 | 0 | 0 |
| | セント・マーチンズ大学 | 0 | 0 | 0 |
| | サンノゼ州立大学 | 0 | 0 | 0 |
| | セイラム州立大学 | 0 | 0 | 0 |
| | マレー州立大学 | 1 | 0 | 1 |
| | ミドルテネシー大学 | 0 | 0 | 0 |
| | ボストン大学 | 0 | 0 | 0 |
| | ハワイ大学 リーワードC.C. | 0 | 0 | 0 |
| | ポートランド州立大学 | 0 | 0 | 0 |
| | オレゴン大学 | 0 | 0 | 0 |
| | 南イリノイ大学 | 0 | 0 | 0 |
| カナダ | ランガラ・カレッジ | 0 | 0 | 0 |
| | プリンス・エドワード島大学 | 0 | 0 | 0 |
| イギリス | リーズ大学ランゲージセンター | 0 | 0 | 0 |
| | ロンドン大学東洋アフリカ学学院 | 0 | 0 | 0 |
| オランダ | フォンティス応用科学大学 | 1 | 0 | 1 |
| ドイツ | イエーナ・フリードリヒ・シラー大学 | 1 | 0 | 1 |
| | ハレ・ヴィッテンベルク・マルチン・ルター大学 | 0 | 0 | 0 |
| | ロストック大学 | 0 | 0 | 0 |
| | レーゲンスブルク大学 | 0 | 0 | 0 |
| | ヴッパータール大学 | 0 | 0 | 0 |
| | ヴィッテン・ヘアデッケ大学 | 0 | 0 | 0 |
| オーストラリア | クイーンズランド大学 | 0 | 0 | 0 |
| | サザンクロス大学 | 0 | 0 | 0 |
| シンガポール | ナンヤン・ポリテクニク | 0 | 0 | 0 |
| タイ | ソクラーナカリン大学プーケット校 | 0 | 0 | 0 |
| | ナレスワン大学 | 0 | 0 | 0 |
| | サイアム大学 | 1 | 0 | 1 |
| | パヤップ大学 | 0 | 0 | 0 |
| | パヤオ大学 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | |
|--------|-----------------|----|---|----|
| 韓国 | 韓国外国語大学校 | 0 | 0 | 0 |
| | 釜山外国語大学校 | 0 | 0 | 0 |
| 台湾 | 淡江大学 | 2 | 0 | 2 |
| | 国立屏東大学 | 0 | 0 | 0 |
| 中国 | 天津財経大学 | 0 | 0 | 0 |
| | 天津理工大学 | 0 | 0 | 0 |
| | 西安外国語大学 | 4 | 0 | 4 |
| フィリピン | パーペチュアル・ヘルプ大学 | 0 | 0 | 0 |
| ベトナム | ホーチミン市人文社会科学大学 | 0 | 0 | 0 |
| インドネシア | タズキアイスラム経済大学 | 0 | 0 | 0 |
| ミクロネシア | カレッジ・オブ・ミクロネシア | 0 | 0 | 0 |
| ラオス | ラオス国立大学 | 1 | 0 | 1 |
| ブータン | | 0 | 0 | 0 |
| チベット | ダライラマ法王日本代表部事務所 | 2 | 0 | 2 |
| 合 計 | | 13 | 0 | 13 |

④COIL プログラムの実施

オンラインを用いた新たな試みとして COIL (Collaborative Online Intercultural Learning) による海外教育機関との協働授業を導入し、本年度 2 学期に以下の科目にて開講した。

| | 海外提携校等 | 本学の対象科目名 |
|--------|--------------------------------|-----------------------------|
| アメリカ | ポートランド州立大学 | Intercultural Communication |
| ドイツ | マールブルク大学 | ドイツ語社会研究 B |
| インドネシア | 日本語教育機関 Duta Mandiri Indonesia | 海外ボランティア演習 |
| フィンランド | ヨウツェノ学院 | 自主企画ゼミナール |

COIL プログラムは無料で、本学の対象科目の一部のコマを提携校が提供する授業で代替するものである。

⑤地域交流 留学生の派遣

例年、高大連携の提携校である千葉県立流山おおたかの森高等学校や柏市等と連携を図りながら、本学外国人留学生と地域の方々との交流を積極的に行っているが、本年度は新型コロナウイルスと感染防止のために交流事業を中止とした。

(2) 交換留学派遣数及び私費留学派遣数増加を図る。

交流活動を活発化させるため、協定校への交換留学の派遣数が増加できるよう、また今回の新型コロナウイルス流行への対応という観点から、協定内容を見直した。

(3) 留学派遣受入及び学生の海外渡航に関する危機管理体制の整備を図る。

本年度はコロナ禍により、留学中の学生の緊急帰国の判断や留学派遣の中止など、近年に例のない対応があったが、学生の安全確保に努め、また学生保護者への説明に注力し、緊急対応への理解を得た。

(4) 国際交流に関する学生サービスの向上を図る。

留学に関するセミナーの実施や、留学生との交流などの機会を以下のとおり設け、国際交流に関わる学生への活動を積極的に展開している。

①Conversation Partnership

来日したばかりの交換留学生を麗澤大学学生がペアとなりサポートを行う。1 Semesterごとに活動を行い、終了時には協働学習発表会を開催した。

詳細は 2-11 外国人留学生支援に記載

②留学事前セミナーは、例年 7 月と 1 月に開催しているが、留学派遣の中止に伴い本年度は中止となった。

③留学事後セミナー開催 7 月 留学から帰国した学生を対象に新たに留学事後セミナーを開催。

「留学×キャリア コロナ禍に負けないキャリア教育」と題し、(株)ベネッセ i-キャリアとユーユーレソル(株)から講師を招いて開催した。参加者 21 名。新型コロナウイルスの影響で留学期間が始まってすぐに緊急帰国となった学生などを含め、想定外の留学経験を前向きにとらえ、キャリア形成につなげるワークショップを実施した。

5-1-3 評価

コロナ禍により、例年の国際交流活動が大きく制約を受け、留学派遣を実施することができなかったが、留学に替わる国際交流の機会を提供できるよう、オンラインを活用した取り組みを行った。特に、オンライン留学プログラムの実施や COIL プログラムなどの取り組みは、参加学生が高い満足度を持ち、今後の交流活動における新たな手法としての展開を期待できる。

5-1-4 課題及び改善・向上方策

留学派遣については、国や社会の動向により大きく左右されるが、今後の情勢を見極め、留学派遣再開時に新たに必要となる事項を検討し、安心できる留学派遣体制を構築する必要がある。あわせて、2020 年度実施したオンラインプログラムの今後の在り方について検証するとともに、今後の留学の在り方やオンライン留学の導入についての検討が必要であり、「グローバル教育推進運営委員会」で検討していく。

内部質保証のためのチェックリスト

- 海外留学派遣、外国人留学生受入れを行っているか
- 国際交流活動を行っているか

5-2 社会的活動

5-2-1 目的・目標

麗澤大学は、社会に開かれた大学として、大学の知的・文化的資源を活かし、広く地域社会に対して学習の機会を提供するとともに、研究成果に基づく社会貢献活動を行うことも目的とし、次のとおり目標を設定している。

- (1) 本学教員及び学外有識者を講師とする特別講演会への地域住民の参加を推進することによって、本学の教育・研究活動に対する理解を促進する。
- (2) 本学教員を中心に各種講座を開催することによって、地域住民に多様な生涯学習の機会を提供する。
- (3) 本学教員が学外審議会・委員会等に委員として参加し、その知見を活かすことを促進する。

5-2-2 本年度の活動

本学専任教員が有識者として 2020 年度に行った社会貢献活動は次表のとおりである。(本学へ依頼のあったもののみを掲載)

| 氏名 | 機関・団体名等 | 名称 | 期間 |
|-------|-----------------|--------------------|-------------------|
| 池川真里亜 | 柏市開発審査会 | 審査委員 | 2020年4月～2022年3月 |
| 岩佐 信道 | 千葉県 | 道徳教育懇談会委員 | 2020年9月～2021年3月 |
| 江島 顕一 | 柏市立教育研究所 | 柏市幼児教育振興審議会 副会長 | 2019年5月～2021年4月 |
| 太田 秀也 | 国土交通省 | 検討会委員 | 2020年7月～2020年12月 |
| 大野 正英 | 柏市 | 情報公開・個人情報保護審議会委員 | 2019年4月～2020年10月 |
| 小野 宏哉 | 柏市 | 審議会委員 | 2020年5月～2021年5月 |
| | | 総合計画審議会委員 | 2020年2月～2021年3月 |
| | | 第二清掃工場運営委員会委員 | 2018年6月～2020年5月 |
| | 牛久市 | 牛久市廃棄物減量等推進審議会 会長 | 2020年3月～2022年3月 |
| 籠 義樹 | 流山市 | 総合計画審議会委員 | 2018年5月～2020年5月 |
| | 柏市 | 空家対策協議会委員 | 2020年12月～2022年11月 |
| | | 都市計画審議会委員 | 2020年10月～2022年9月 |
| | | 第二清掃工場運営委員会 副委員長 | 2020年6月～2022年5月 |
| | 柏商工会議所 | 基本問題検討委員会委員 | 2020年4月～2022年10月 |
| 川上 和久 | 経済産業省 | 外部審査委員会委員 | 2021年2月～2022年3月 |
| 近藤 明人 | 柏市 | 水道事業経営委員会委員 | 2018年10月～2020年10月 |
| | 流山市 | 行財政改革審議会委員 | 2019年9月～2021年9月 |
| 近藤 彩 | 柏市国際交流センター | 非常勤特別職員 | 2020年3月～2021年3月 |
| | 国際交流基金 | 日本語専門家派遣事業検討委員会委員 | 2020年5月～2021年3月 |
| 櫻井 良樹 | 野田市 | 野田市史編さん委員会委員 | 期限なし |
| | 柏市教育委員会 | 柏市史編さん委員会参与 | 2020年7月～2022年6月 |
| 下田 健人 | 柏市 | ホテル等建築審議会委員 | 2020年8月～2022年7月 |
| 鈴木 大介 | 柏市 | 下水道事業経営委員会委員 | 2020年10月～2022年10月 |
| 鈴木 明雄 | 公益財団法人教科書研究センター | 教科書の使い方に関する調査委員会委員 | 2020年4月～2023年3月 |
| | 文部科学省初等中等教育局 | 審査委員 | 2020年4月～2021年3月 |
| 高 巖 | 国民生活センター | 理事長選考委員会 委員長 | 2020年8月 |
| | 消費者庁 | 委員 | 2020年10月～2021年3月 |

| | | | |
|-------|---------|------------------------------------|-----------------------|
| | 経済産業省 | 経済産業政策局 知的財産政策室委員 | 2019年12月～2020年7月 |
| 野林 靖彦 | 柏市教育委員会 | 柏市学校評議員 | 2020年4月～2021年3月 |
| 松田 徹 | 警察庁 | 外国語技能検定委員会専門委員 | 2020年10月～2020年11月 |
| 望月 正道 | 文部科学省 | 英語教育強化事業委員 | 2020年4月 |
| 森 秀夫 | 柏市 | 教育委員 | 2018年10月～2022年9月 |
| 山下 美樹 | 千葉県 | 2020年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA 推進会議委員 | 2014年12月～期限なし |
| 吉田健一郎 | 柏市 | 産業振興会議委員 | 2019年1月～2021年1月 |
| | | プロポーザル方式選定委員会 | 2020年8月～選定業者との契約締結日まで |

なお、大学図書館の地域への開放は、試験期間を除き従来から行ってきた。今年度は新型コロナウイルス流行に伴い、開放を停止した。

5-2-3 評価

前年度に引き続き、本学教員が多くの学外審議会・委員会等に積極的に参加した。

5-2-4 課題及び改善・向上方策

知見を様々な分野で活かすと共に社会貢献に寄与することができた。今後も、より一層の活動促進を図りたい。

内部質保証のためのチェックリスト

地域社会の審議会・委員会などに参加し、知見を活用しているか

5-3 生涯教育活動

5-3-1 目的・目標

「豊かなアクティブ・シニアライフ」をキーワードとし、高度知識社会への対応をはじめ、ゆとりある豊かなライフスタイルを構築するための学習機会を提供するとともに、地域社会におけるコミュニケーション基地としての役割を果たしていくことを目的とする。

大学運営の一翼を担うものとして、収支バランスの改善に向け、現行の生涯学習講座・特別講演会の企画内容、集客状況を精査し、より一層の質的向上を図るとともに、施設運用の有効活用について検討する。

広報活動の運用を見直し、より効果的な手法について調査検討のうえ、実施する。

5-3-2 本年度の活動

「生涯学習講座」は、語学、文化・教養、政治、経済、国際関係、健康、スポーツ、生き方など幅広い分野で52講座を企画した。「特別講演会」は、前期に武藤 正敏 氏(外交評論家、元在大韓民国特命全権大使)、竹田 恒泰 氏(作家)、汀 夏子 氏(女優、元宝塚歌劇団雪組トップスター)の学外講師3名の計3回シリーズで企画した。しかし、新型コロナウイルスの感染が広がりを見せたため、受講生の大半が高齢者であることと講師の安全を考慮し、4月2日付にて、前期講座の開催中止を決定した。後期は、受講定員が400名となる「特別

講演会」の企画は見送り、「生涯学習講座」においても講座数や受講定員を縮小したうえで開催期間を短くするなど、様々な感染拡大防止対策を整え 40 講座を企画したが、7 月に入り首都圏等における感染拡大の状況及び本学の学部や大学院におけるオンライン授業継続の決定を受け、8 月 5 日付けにて、後期の開催中止を決定した。

5-3-3 評価

各分野における著名人を招聘し、豊かなライフスタイル構築を支援する多様な講座を企画し、更には新聞折込による幅広いエリアでの広報活動により、799 人の申し込みを受け付け、その内 115 人は新規入会の会員を獲得することができたが、既述のとおり開講中止となった。

5-3-4 課題及び改善・向上方策

対面での講座実施が困難な状況が続き、オンラインでの実施を検討したが、高齢の受講生に対してのシステムや人的サポートが困難であること、そして講座の質保証の観点から、実現にはいたらなかった。再開に向けて、多様な講座を企画するだけでなく、多様な学び方も提供できるよう検討を進める。

内部質保証のためのチェックリスト

地域社会におけるコミュニケーション基地としての役割を果たしているか

・ROCK HP <http://rock.reitaku-u.ac.jp/>

5-4 地域連携活動

5-4-1 目的・目標

本学では知徳一体の教育理念に基づき、授業内外で社会連携活動に取り組み、地域連携活動を展開している。近年は正課内授業との協同を中心に展開しており、課題発見解決型学習である PBL を導入し、学生自身が自らを取り巻く社会に触れ、実状を知り、それに対して何ができるか試行錯誤することで、その経験を自らの成長につなげていくことに主眼を置くようになった。この目的を実現するために、以下の目標を設定し、学部や地域連携センターによる支援を受けた活動を実施している。

(1) 新型コロナウイルス感染症に対する「麗澤・地域連携実習」の運営方法等の確立

(2) スタートアップ支援事業の内製化及びブラッシュアップの実現

(3) 地域から提供されるプログラムと教育との連動体制の確立

5-4-2 本年度の活動

2020 年度はコロナ禍により、当初予定している活動が実施できなかったが、オンラインでの活動及び開催時期を変更しての実施となった。これらの地域連携活動を推進のために地域連携センターの運営委員会を年 2 回開催し、各活動の支援に取り組んだ。

第 1 回(メール審議)：1 月 25 日(PBL チャレンジ奨励制度書類審査について)

第 2 回(Zoom)：3 月 9 日(1. 2021 年度「麗澤・地域連携実習」、2. 2021 年度「麗澤スタートアップ支援プログラム」、3. 2021 年度 PBL チャレンジ奨励制度、4. 「経済学基礎演習 A・B」(観光・地域創生専攻 2 年次)の学外連携先)

(1) 新型コロナウイルス感染症に対する「麗澤・地域連携実習」の運営方法等の確立

①この科目は、PBLを体験させるための全学部1年生対象科目であり、科目運営を支援した。柏市及び柏市内の企業より10の課題テーマをいただき、118名(昨年度45名)が履修した。今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況等を鑑み、2学期にオンライン形式(Zoom)で開催した。プロジェクトの課題名は、以下のとおり。

| | | |
|----|-----------|---|
| 1 | 柏市消防局警防課 | スマートフォンアプリを活用したAED運搬システムに必要な救命ボランティアの募集について |
| 2 | 柏市福祉政策課 | 若者の自殺予防を考える |
| 3 | 柏市子育て支援課 | 外国とつながる親子・子どもの状況調査 |
| 4 | 柏市協働推進課 | カシワワカモノプロジェクト |
| 5 | 柏市協働推進課 | 男女共同参画推進事業 |
| 6 | 麗澤校友会 | えんとつ町のペルバス個展開催に向けて |
| 7 | 千代田造花株式会社 | 想いを和紙に描く世界に一つだけの造花サービス |
| 8 | 柏レザー株式会社 | カフェ「PATH TRAVEL&EATS」におけるSNSを活用した集客及び新メニューの開発について |
| 9 | イオンモール柏 | イオンモール柏の地域に根ざした魅力づくり |
| 10 | 有限会社湯島アート | SNSを活用した湯島アートのアクション発信 ～WEBショップとの連携～ |

②学生の自主的な学びを後押しするため、主に柏市内でのPBL活動を支援する「PBLチャレンジ奨励制度」を運用し、申請があった2グループ(①麗澤・地域連携実習千代田造花班/テーマ:「皆様の素敵な思いを形に 花奏～かなで～」、②麗澤・地域連携実習下田グループ/テーマ:「CAFÉ PATH TRAVEL&EATSの新メニュー作成及びSNSを活用したマーケティング」)について、1/25の地域連携センター運営委員会の承認を得て、経済的な支援及び活動の活性化の後押しをした。

(2) スタートアップ支援事業の内製化及びブラッシュアップの実現

2019年度に経済学部ビジョンに基づき、正課外の起業家養成プログラムとして「麗澤スタートアップ支援プログラム」を試行した。この際、外部から講師を招聘した。

2020年度は「麗澤スタートアップ支援プログラム」の内製化に向けて、FD用の動画を作成した。

(3) 地域から提供されるプログラムと教育との連動体制の確立

①柏市企画部企画調整課からの要請に基づき、人口減少などの課題を踏まえ、地域活性化に寄与する「柏市地方創生総合戦略評価委員会」に有識者として職員1名が出席し、2016年度に柏市が策定した柏市地方創生総合戦略の評価を行った。(委員会開催日:12/21)

②大学コンソーシアム東葛総会書面会議に参加した。(8月31日)

③柏市協働推進課からの要請に基づき、地域連携センターと柏高島屋ステーションモールの運営会社である

東神開発株式会社との打合せを行い、地域コミュニティを通じた新コンテンツについて検討を行った。

(10/29)

- ④ 柏商工会議所からの要請に基づき、グラパック・ジャパン株式会社を防災管理委員会事務局(廣池学園 総務部総務課)につなぎ、打合せの日程調整を行った。(11/2)
- ⑤ 三協フロンテア株式会社より、ビジネス英語研修に関する相談があり、関連するグローバルビジネス専攻の教員に相談した。可能性を検討し調整を図ったが、実施に至らなかった。(12月21日)
- ⑥ 特定非営利活動法人柏ソーシャルキャピタル協会が運営する、かしわインフォメーションセンターのアルバイト要請に基づき、学生課と連携し事務調整を支援した。(6/22)
- ⑦ 経済学部経済学科観光・地域創生専攻2年次科目「経済学基礎演習A・B」の学外連携の支援を行った。

5-4-3 評価

今年度の「麗澤・地域連携実習」は、例年履修者は50名程度であるのに対して、2020年度はその2倍以上の118名の履修希望があった。全体講義・グループワーク・ヒアリング調査・受入れ先へのプレゼンテーション・全体成果発表会などを、Zoomを用いてオンラインで行った。オンラインを活用しての実習への学生の意欲や参加した学生の満足度も高かった。

PBLチャレンジ奨励制度は、コロナ禍で行動が制限される中、2組への支援をすることができた。

5-4-4 課題及び改善・向上方策

2020年度はコロナ禍という問題が生じ、学生がヒアリング調査に伺ったり、学生のプレゼンテーションへのフィードバックをいただいたりすることが、これまでのやり方では困難となった。通常1学期に実施していたものを2学期に延期して事態の収束を待ったが、依然として学生の移動を伴う活動は制約されたままだった。しかし、こうした状況だからこそ、アフターコロナにおいても、調査やグループワーク等においてオンラインを効果的に活用していきたい。これまで通りの実習を行うことに意味があると考えた。ことは、これからの学生にとって必要なスキルとなるからである。

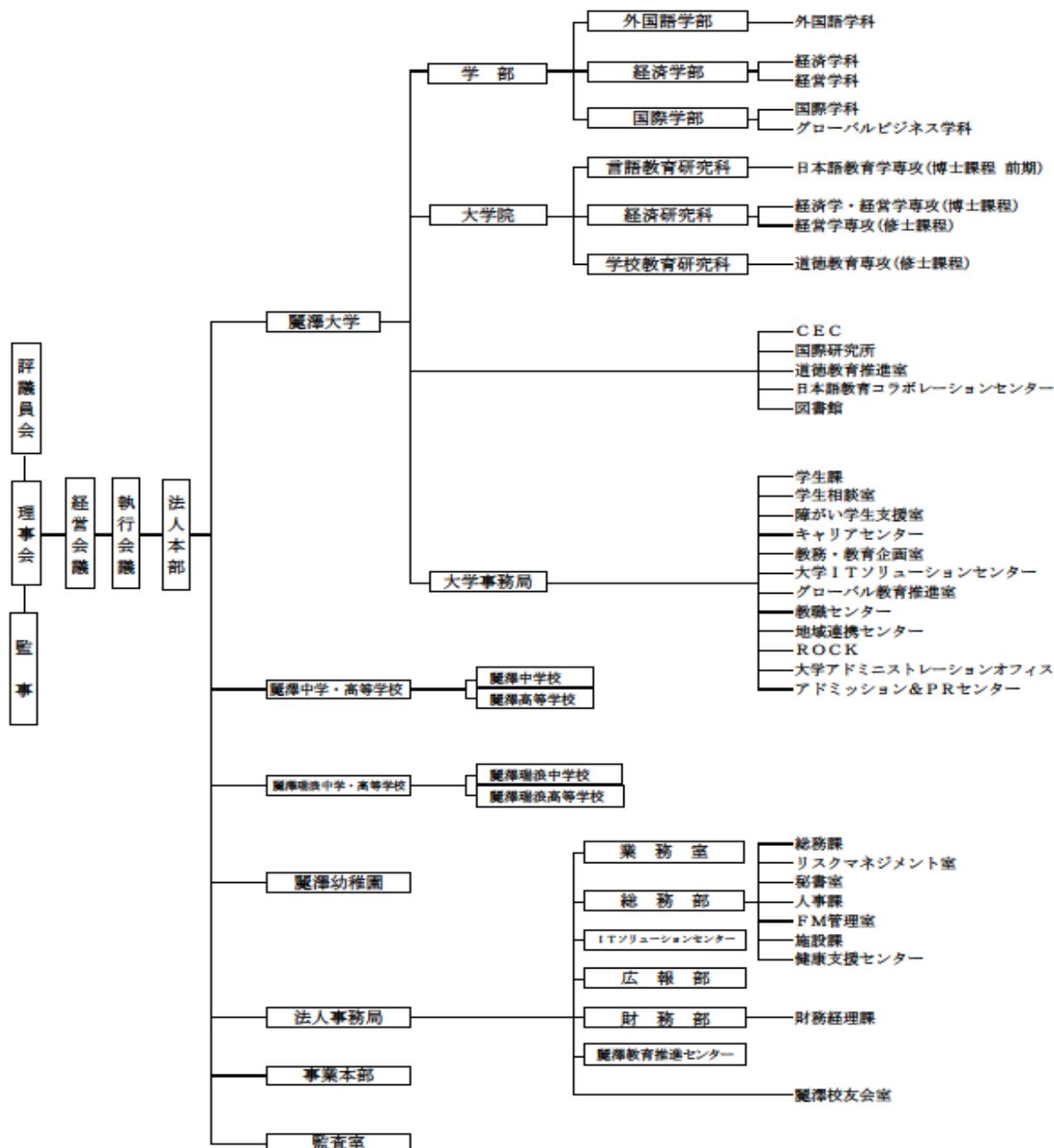
PBLチャレンジ奨励制度は、コロナ禍で活動が制約されたこともあり、2組への支援に終わり、課題を残した。活動範囲を柏市内の活動に限らず、海外まで広げ、オンラインの活用など、学生のPBL活動の経済的支援を図りたい。

6. 経営・管理と財務

6-1 事務組織

(1) 廣池学園組織図

2020年度 学校法人廣池学園 組織図



(2) 学校法人廣池学園役職者一覧表

(2020年4月1日現在)

| 職名 | 氏名 |
|------|-------|
| 理事長 | 廣池 幹堂 |
| 常務理事 | 中川 敏彰 |
| | 竹政 幸雄 |
| | 廣池 英行 |
| | 山崎 裕二 |
| 理事 | 徳永 澄憲 |
| | 西 裕康 |
| | 藤田 知則 |
| | 松浪 進 |
| | 松本 卓三 |
| | 渡邊 信 |
| 監事 | 濱井 利一 |
| | 風澤 俊夫 |

| 職名 | 氏名 |
|----------|--------|
| 事務局長 | 小林 宏明 |
| 事務局次長 | 平野 和芳 |
| 副部長 | 尾崎 謙一郎 |
| 副部長 | 川瀬 達也 |
| 副部長 | 長谷川 善仁 |
| 法人本部長 | 中川 敏彰 |
| 総務部長 | 山崎 裕二 |
| 財務部長 | 山崎 裕二 |
| 麗澤瑞浪事務部長 | 山本 崇之 |

(3) 麗澤大学役職者一覧

(2020年4月1日現在)

| 職名 | 任期 | 氏名 | 就任年月日 | 期 |
|--------------------|----|---------------------|-----------|---|
| 学長 | 4年 | 徳永 澄憲 | 2019年4月1日 | 1 |
| 副学長(教育・研究担当) | 4年 | 渡邊 信 | 2019年4月1日 | 1 |
| 副学長(学生・国際担当) | 4年 | 堀内 一史 | 2018年4月1日 | 2 |
| 学長補佐(産官学連携担当) | 2年 | 馬場 靖憲 | 2020年4月1日 | 1 |
| 学長補佐(将来構想担当) | 2年 | 岩澤 知子 | 2019年4月1日 | 1 |
| 外国語学部長 | 2年 | 千葉 庄寿 | 2020年4月1日 | 1 |
| 経済学部長 | 2年 | 上村 昌司 | 2019年4月1日 | 1 |
| 国際学部長 | 2年 | 野林 靖彦 | 2020年4月1日 | 1 |
| 言語教育研究科長 | 2年 | 近藤 彩 | 2020年4月1日 | 1 |
| 経済研究科長 | 2年 | 籠 義樹 | 2019年4月1日 | 1 |
| 学校教育研究科長 | 2年 | 井出 元 | 2018年4月1日 | 2 |
| CECセンター長 | 2年 | ストラック アン ドリュール.N | 2019年4月1日 | 1 |
| 国際研究所長 | 2年 | 馬場 靖憲 | 2019年4月1日 | 1 |
| 道德教育推進室長 | 2年 | 宮下 和大 | 2019年4月1日 | 1 |
| 日本語教育コラボレーションセンター長 | 2年 | 近藤 彩 | 2019年4月1日 | 1 |
| キャリアセンター長 | 2年 | 中川 敏彰 | 2014年4月1日 | 4 |
| 大学ITソリューションセンター長 | 2年 | 千葉 庄寿 | 2020年4月1日 | 1 |
| 教職センター | 2年 | 渡邊 信 | 2019年4月1日 | 1 |
| 地域連携センター長 | 2年 | 籠 義樹 | 2018年4月1日 | 2 |
| ROCK長 | 2年 | 岩澤 知子 | 2016年4月1日 | 3 |
| 図書館長 | 2年 | 渡邊 信 | 2020年4月1日 | 1 |
| 大学事務局長 | — | 小林 宏明 | 2020年4月1日 | — |

6-2 学内委員会

学内の主要な会議及び委員会の構成は、次のとおりである。

6-2-1 学内管理運営機構

(2020年4月16日現在)

| 名 称 | 議 長 | 構成メンバー | 事務所管 |
|-----------|----------------------------|--|-------------------------------|
| 大学執行部会議 | 徳永澄憲 (副)渡邊 信 (副)堀内一史 | (副学長) 渡邊 信、堀内一史 (学長補佐) 岩澤知子、馬場靖憲(オブザーバー) (学 部 長) 千葉庄寿、上村昌司、野林靖彦 (研究科長) 近藤 彩、籠 義樹、井出 元 (事 務 局) 小林宏明、平野和芳、尾崎謙一郎、川瀬達也、長谷川善仁 | 大学 アドミニスト レーション オフィス |
| 学 長 打 合 せ | 徳永澄憲 | (副学長) 渡邊 信、堀内一史 (学長補佐) 岩澤知子、馬場靖憲(オブザーバー) (学 部 長) 千葉庄寿、上村昌司、野林靖彦 (研究科長) 近藤 彩、籠 義樹、井出 元 (事 務 局) 小林宏明、平野和芳、尾崎謙一郎、川瀬達也、長谷川善仁 | 大学 アドミニスト レーション オフィス |
| 大学事務局会議 | 事務局長 | 大学事務局の副部長及び課長 | 大学アドミニスト レーションオフィ ス |

6-2-2 全学委員会

(2020年4月16日現在)

| 名 称 | 委員長 | 委 員 | 事務所管 |
|--------------|-----------------------------|---|--------------------------------------|
| 学 生 委 員 会 | 堀内 一史 | (外) 佐藤繭香 (経) 鈴木大介 (国) 内尾太一 (事 務 局) 望月正人 | 学生課 |
| 自己点検・認証評価委員会 | 徳永 澄憲 (副)櫻井良樹 | (副学長) 渡邊 信、堀内一史 (学長補佐) 岩澤知子、馬場靖憲 (学 部 長) 千葉庄寿、上村昌司、野林靖彦 (研究科長) 近藤 彩、籠 義樹、井出 元 (事 務 局) 小林宏明、平野和芳、尾崎謙一郎、川瀬達也 長谷川善仁、齋藤亜希子 | 大学 アドミニスト レーション オフィス |
| F D 委 員 会 | 徳永 澄憲 (副)渡邊 信 (副)堀内一史 | (副学長) 渡邊 信、堀内一史 (学長補佐) 岩澤知子、馬場靖憲 (学 部 長) 千葉庄寿、上村昌司、野林靖彦 (研究科長) 近藤 彩、籠 義樹、井出 元 (オブザーバー) 清水千弘 (事 務 局) 小林宏明、平野和芳、尾崎謙一郎、川瀬達也、長谷川善仁 | 教務G 大学 アドミニスト レーション オフィス |
| 入学試験委員会 | 徳永 澄憲 (副)渡邊 信 | (外) 千葉庄寿、佐藤繭香 (経) 上村昌司、鈴木大介 (国) 野林靖彦、内尾太一 (事務局長) 小林宏明 (大学事務局) 川瀬達也、櫻井大士 ★出題委員会 (委員長) 渡邊 信 ※副委員長及び委員は非公表 ★点検委員会 (委員長) 渡邊 信 ※副委員長及び委員は非公表 | アドミッション & PRセンター |
| 研究倫理委員会 | 徳永 澄憲 (副)渡邊 信 | (副学長) 堀内一史 (学 部 長) 千葉庄寿、上村昌司、野林靖彦 (研究科長) 近藤 彩、籠 義樹、井出 元 (事務局長) 小林宏明 (大学事務局) 齋藤亜希子 | 大学 アドミニスト レーション オフィス |
| 紀要編集委員会 | 渡邊 信 | (外) 高本香織 (経) 寺本佳苗 (国) 櫻井良樹 (大学事務局) 岡野 正樹 | 大学アドミニスト レーション オフィス |
| 寮教育委員会 | 堀内 一史 (副)宮下 和大 | (外) 橋本富太郎、邱 璋琪 (経) 江島顕一 (国) 熊野留美子 (大学事務局) 望月正人、韓 基煥、佐坂 和巳 | 学生課 |

6-2-3 臨時委員会

2020年度は臨時委員会の設置なし

6-2-4 プロジェクト

| 名 称 | リーダー | メンバー | 事務所管 |
|--------------|-------|---|-------------------------------|
| SDGs推進プロジェクト | 松島 正明 | (副学長) 渡邊 信、堀内 一史 (学長補佐) 岩澤 知子、 (学部長) 千葉 庄司、上村 昌司、野林 靖彦 (経) 江島 顕一、大越 利之、近藤 明人、寺本 佳苗、吉田 健一郎、 池川 真里亜、横田 理宇、 (国) 松島 正明、山下 美樹、内尾 太一、宮下 和夫、藤野 真也 (オブザーバー) 徳永 澄憲 (大学事務局) 小林 宏明、北澤 泰子、川原 花野、丸 知里 | 大学 アドミニスト レーション オフィス |

6-2-5 付属機関等運営委員会

(2020年4月16日現在)

| 名 称 | 委員長 | 委 員 | 事務所管 |
|--|-------------------------|--|-------------------------|
| C E C 運 営 委 員 会 | ストラック, A.N. (副)上村 昌司 | (副) 渡邊 信、堀内 一史、佐藤 繭香、山下 美樹 (大学事務局) 服部 恵理子 | 教務 教育企画室 |
| グローバル教育推進 運 営 委 員 会 | 堀内 一史 | (日セ) 近藤 彩 (外) 千葉 庄司 (経) 上村 昌司 (国) 野林 靖彦 (大学事務局) 片山 大輔、桑島 智子 | グローバル 教育推進室 |
| 日 本 語 教 育 コ ラ ボ レ ー シ ョ ン セ ン タ ー 運 営 委 員 会 | 近藤 彩 (副)家田 章子 | (副) 堀内 一史、(経研) 籠 義樹 (外) 佐藤 繭香 (経) 鈴木 大介 (国) 大関 浩美 (大学事務局) 北澤 泰子 | 教務 教育企画室 |
| 大学ITソリューション セ ン タ ー 運 営 委 員 会 | 千葉 庄司 (副)平野和芳 | (外) 花田 太平 (経) 上村 昌司 吉田 健一郎 (国) 匂坂 智子 (大学事務局) 神田 彰信、森 雅司 | 大学IT ソリューション センター |
| キャリアセンター 運 営 委 員 会 | 中川 敏彰 (副)長谷川善仁 | (外) 千葉 庄司 (経) 上村 昌司 (国) 野林 靖彦 | キャリア センター |
| 教職センター 運 営 委 員 会 | 渡邊 信 (副)森 秀夫 | 望月 正道、齋藤 之誉、江島 顕一、佐藤 良子 (大学事務局) 吉田 保幸 | 教務 教育企画室 |
| 道徳教育推進室 運 営 委 員 会 | 宮下 和夫 (副)江島顕一 | 川久保 剛、橋本 富太郎、大野 正英 (大学事務局) 吉田 保幸 | 教務・ 教育企画室 |
| 学 生 相 談 室 運 営 委 員 会 | 小林 宏明 (副)吉原 啓 | (外)佐藤 繭香 (経) 鈴木 大介 (国) 宮下 和夫 (大学事務局) 望月 正人、今井 昇 (健康支援センター) 井村 サト子 | 学生相談室 |
| 地域連携センター 運 営 委 員 会 | 籠 義樹 (副)内尾太一 | (外) 花田 太平 (経) 吉田 健一郎 (国) 松島 正明 (大学事務局) 小出 裕三 (学外) 柏市、柏商工会議所、(公財)モラロジー研究所 | 教務・ 教育推進室 |
| 麗澤オープン カ レ ッ ジ 運 営 委 員 会 | 岩澤 知子 | (大学事務局) 小西 真澄 | ROCK |
| 図 書 館 運 営 委 員 会 | 渡邊 信 | (外)中山 めぐみ (経) 寺本 早苗 (国) モーガン J.M (大学事務局) 森 雅司 | 図書館 |
| データサイエンス 教 育 推 進 室 (2020年12月5日付設置) | 上村 昌司 | 千葉 庄司、野林 靖彦、吉田 健一郎、内藤 知加恵、 横田 理宇、池川 真里亜、(事務局) 梶田 徳子 | 教務 教育企画室 |

6-2-6 外国語学部委員会

| 名 称 | 委員長 | 委 員 | 事務所管 |
|--------------------|-------|--|-------------------------------|
| 運営委員会 | 千葉庄寿 | 副学部長：清水 麗 教務主任：佐藤 繭香 専攻長：ストラック A.N、花田 太平、奥野 保明、齋藤 貴志 オブザーバー：家田 章子 | 大学 アドミニスト レーション オフィス |
| 教務・カリキュラム 検討委員会 | 佐藤 繭香 | 田中 俊弘、日影 尚之、高本 香織、花田 太平、草本 晶、 シュツテレ、H、齋藤 貴志、温 琳、橋本 富太郎 | 教務・ 教育企画室 |

6-2-7 経済学部委員会

| 名 称 | 委員長 | 委 員(五十音順) | 事務所管 |
|-------|-------|--|---------------------------|
| 運営委員会 | 上村 昌司 | 教務主任：鈴木 大介 教務副主任：寺本 佳苗 専攻長：大越 利之、近藤 明人、豊嶋 建広、鈴木 大介 | 大学アドミニスト レーション オフィス |
| 教務打合せ | 上村 昌司 | 鈴木 大介、寺本 佳苗 | 教務 教育企画室 |

6-2-8 国際学部委員会

| 名 称 | 委員長 | 委 員(五十音順) | 事務所管 |
|--------------------|-------|--|-------------------------------|
| 運営委員会 | 野林 靖彦 | 教務主任：内尾 太一 教務副主任：宮下 和大 専攻長：松島 正明、大関 浩美、山下 美樹 堀内 一史、近藤 彩、櫻井 良樹、篠藤 涼子、匂坂 智子、 藤野真也、 | 大学 アドミニスト レーション オフィス |
| 教務・カリキュラム 検討委員会 | 内尾 太一 | 宮下 和大、大関 浩美、櫻井 良樹、匂坂 智子、篠藤 涼子、 家田 章子、藤野 真也 | 教務・ 教育企画室 |

6-2-9 言語教育研究科委員会

| 名 称 | 委員長 | 委 員 (50音順) | 事務所管 |
|-----------------------|-------|-------------|-------------------|
| 運 営 委 員 会 | 近藤 彩 | 大関 浩美、黒須 里美 | 教務・教育企画室 (大学院) |
| 人 事 委 員 会 (博士後期課程) | 近藤 彩 | 大関 浩美、黒須 里美 | |
| 『言語と文明』 編 集 委 員 会 | 大野 仁美 | 櫻井 良樹、千葉 庄寿 | |
| 広 報 委 員 会 | 近藤 彩 | 大関 浩美、黒須 里美 | |
| F D 委 員 会 | 近藤 彩 | 大関 浩美、杉浦 滋子 | |
| カリキュラム委員会 | 近藤 彩 | 大関 浩美、黒須 里美 | |

6-2-10 経済研究科委員会

| 名 称 | 委員長 | 委 員 (50音順) | 事務所管 |
|-----------|------|--|-----------------------|
| 運 営 委 員 会 | 籠 義樹 | 大場 裕之、小野 宏哉、上村 昌司、近藤 明人、佐藤 政則、 下田 健人、中野 千秋、堀内 一史、ラウ シン イー | 教務・教育企 画室 (大学院) |
| 人 事 委 員 会 | 籠 義樹 | 大場 裕之、小野 宏哉、上村 昌司、佐藤 政則、下田 健人、 高 巖、高辻 秀興、徳永 澄憲、中野 千秋、ラウ シン イー | |
| F D 検 討 会 | 籠 義樹 | 小野 宏哉、高 巖、高辻 秀興、中野 千秋 | |

6-2-11 学校教育研究科委員会

| 名称 | 委員長 | 委員 (50音順) | 事務所管 |
|---------|-----|--|-------------------|
| 運営委員会 | 井出元 | 江島 顕一、川久保 剛、鈴木 明雄、富岡 栄 | 教務・教育企画室 (大学院) |
| 人事委員会 | 井出元 | 岩佐 信道、江島 顕一、川久保 剛、鈴木 明雄、富岡 栄 | |
| F D 委員会 | 井出元 | 岩佐 信道、江島 顕一、川久保 剛、鈴木 明雄、高橋 史朗、富岡 栄、橋本 富太郎、堀内 一史、山下 美樹、中山 理 | |

内部質保証のためのチェックリスト

学長がリーダーシップを適切に発揮するための補佐体制が整備されているか

- ・ 規程 第2編 大学 > 第1章 学則 麗澤大学学則

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/99.html>

教学マネジメントを構築しているか

- ・ 「Reitaku Vision 2035」「麗澤大学中期目標」
- ・ 「麗澤大学内部質保証の方針」(体制図)

副学長を置く場合、その組織上の位置付け及び役割が明確になっており、機能しているか

- ・ 規程 第2編 大学 > 第1章 学則 麗澤大学学則 第6条

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/99.html>

- ・ 麗澤大学教職員組織の役職者

https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/images/3-1%20.pdf

教授会などの組織上の位置付け及び役割が明確になっており、機能しているか

- ・ 規程 第2編 大学 > 第2章 会議・委員会 麗澤大学会議規程

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/349.html>

教授会に意見を聴くことを必要とする重要な事項を学長があらかじめ定め、周知しているか

- ・ 年度初めに3学部合同教授会を開催し、学長が方針説明を行う
- ・ 規程 第2編 大学 > 第1章 学則 麗澤大学学則 第10条

<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/99.html>

意思決定において、法人及び大学の各管理運営機関の意思疎通と連携を適切に行っているか

- ・ 常務懇談会、執行会議、経営会議、理事会・評議員会を開催
- ・ 「全学委員会委員等」(一覧表)
- ・ 「麗澤大学内部質保証の方針」(体制図)

教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか

- ・ 廣池学園教職員アンケート

- ・「Reitaku Vision 2035」「麗澤大学中期目標」の進捗の確認等、常務理事・大学執行部・教職員で懇談を行っている。

法人及び大学の各管理運営機関が相互チェックする体制を整備し、適切に機能しているか

- ・第1編 法人 > 第3章 総務 > 第4節 監 査 学校法人廣池学園監事監査規程
<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/268.html>
- ・第1編 法人 > 第1章 基本 学校法人廣池学園寄附行為
<http://www.kitei.ds.reitaku-u.ac.jp:10001/hiroike/doc/rule/2.html>
- ・「麗澤大学内部質保証の方針」(体制図)

内部質保証のための組織体制を整備しているか

- ・「全学委員会一覧」「自己点検・認証評価委員会」
- ・「麗澤大学自己点検・評価システムとPDCAサイクルの仕組み」(公式サイト「大学の方針」内で公表)
<https://www.reitaku-u.ac.jp/images/180ddd1d27c847845e5cdf7cc081b1432e34fb92.pdf>

内部質保証に関する全学的な方針を明示しているか

- ・「内部質保証の方針」を、大学公式サイト「大学の方針」内で公表。
<https://www.reitaku-u.ac.jp/images/b5d9e4f4534644f0fae933b7445d9ac5ae6fb66b.pdf>

内部質保証のための責任体制が明確になっているか

- ・「内部質保証の方針」
- ・「自己点検委員・認証評価委員会」を設置し、内部質保証のための恒常的な組織体制を整備し、責任体制は明確にしている。以下、認証評価「基準6 内部質保証」より抜粋。
「大学執行部会議」での方針決定を受け、「自己点検・認証評価委員会」が自己点検の方針や方法を作成するとともに、各学部長(学部教授会、学部運営委員会)・研究科長(研究科委員会)・大学事務局長に指示して点検を行い、結果をとりまとめ、点検結果の検証を行うというシステムを構築し運用することを通じて、内部質保証を機能させている。
- ・自己点検・認証評価委員会」の構成員は、学長(委員長)、副学長、学長補佐、学部長、研究科長、大学事務局長、大学事務局次長、大学事務局副部長、その他学長が推薦する者であり、内部質保証の中心的役割を担うことになった。以上のとおり内部質保証のための恒常的な組織体制は整備できている。
- ・「麗澤大学学則第1条の2」「麗澤大学大学院学則第3条」
教育研究水準の向上をはかり、その目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うことに努める」と規定している。毎年、学則及び大学院学則に基づき、自ら組織的かつ定期的な点検・評価を行っている。

内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価を行う仕組みがあるか

- ・「自己点検・認証評価委員会」の毎年度点検・評価活動を行っている。以下、認証評価「基準6 内部質保証」より抜粋。

その方法は、「自己点検・認証評価委員会」が主として評価体制、評価対象、評価項目等の全体の枠組みや方向性を確認・決定する。実施にあたっては、各学部・研究科及び各部署等が、それぞれ有するエビデンスに基づき詳細に点検・評価を行い、最終的に「自己点検・認証評価委員会」が内容を精査し、『麗澤大学年報』に取りまとめる手順で進めている。

- ・『麗澤大学年報』の記述には、平成 26(2014)年度より「課題及び改善・向上方策」という項目を各記述単位に加え、平成 29(2017)年度よりは「視点別評価」(あるいは「評価」)という項目を加え、各年度における点検・評価を定期的に行うようにしている。
- ・令和 2(2020)年度より『麗澤大学年報』を過去に遡って検討・評価する作業を加えることを通じて、内部質保証に取り組んでいる。
- ・令和 2(2020)年度より「自己点検・認証評価委員会」が作成した「内部質保証のためのチェックシート」を用いて、現状を把握する作業も実施している。
- ・これらの結果を「自己点検・認証評価委員会」がまとめて『麗澤自己点検・評価報告書』とし、学長に報告するとともに、学長から上位組織である学校法人本部に報告し、『麗澤大学年報』とともに公表している。
- ・大学公式サイト
「自己点検・取組」>「大学期間別認証評価及び自己点検・評価」>「麗澤大学年報」「麗澤自己点検・評価報告書」を掲載 <https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity/141/>

エビデンスに基づく、自己点検・評価を定期的実施しているか

「自己点検・認証評価委員会」の毎年度点検・評価活動を行っている。

自己点検・評価の結果を学内で共有し、社会へ公表しているか

- ・本学教職員はもとより、本学の保護者・卒業生・地域住民等のステークホルダーに対して、広く自己点検・評価結果を継続的に発信している。
- ・以下のとおり、大学公式サイトに掲載。
「自己点検・取組」>「大学期間別認証評価及び自己点検・評価」>「麗澤大学年報」「麗澤自己点検・評価報告書」を掲載 <https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity/141/>

現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか

- ・「全学委員会一覧」「自己点検・認証評価委員会」
- ・恒常的かつ必要に応じたデータの収集。分析等の取組を行っている。以下、認証評価「基準 6 内部質保証」より抜粋。
- ・具体的な調査・分析は、学部・研究科、事務局の各部署がそれぞれの改善計画に基づいて行い、IR 機能を統括する自己点検・認証評価委員会、FD 委員会、学生委員会などへ報告し、各委員会は実行のための提言を学長に行う。また、令和 3(2021)年 1 月には大学事務局による IR プロジェクトを設置。
- ・各部署では、「学生による授業改善アンケート」、「学生満足度アンケート」(48 頁の 2-9-1 参照)、「留学支援アンケート」、「留学後アンケート」などの調査を毎年定期的に行っている。
- ・大学公式サイト「教育情報の公開」に「資格の取得状況」や「授業アンケート結果」を掲載 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/

- ☑三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善に反映されているか 大学 A0
- ・「授業改善アンケート」
 - ・「自己点検・授業改善計画書」
 - ・三つのポリシーを踏まえて点検・評価をし、改善に努めている。以下、認証評価「基準 6 内部質保証」より抜粋。
 - ・本学では自己点検・評価の結果を活用し、PDCA サイクルが機能するよう、教職員が一丸となって、全学的かつ恒常的な自己点検・評価に努めている。

「麗澤大学内部質保証の方針」(体制図)
 - ・「自己点検・認証評価委員会」は、「大学執行部会議」の指示に基づき、「各学部・各研究科・事務局」に自己点検を指示。この際、自己点検方法も指示する。この際に、三つのポリシー、麗澤大学中期計画等を踏まえた「内部質保証のためのチェックシート」と「過去 5 年間の『麗澤大学年報』評価・改善チェックシート」を用いる。
 - ・令和元(2019)年度には、これまでの長期計画(平成 29(2017)年度策定「麗澤大学 Vision 2027」)をブラッシュアップして「Reitaku University Vision 2035」を定めるとともに、麗澤大学中期計画(令和 2(2020)年度～令和 4(2022)年度)を策定し、具体的な方針を定めた。
 - ・令和 3(2021)年度は年度初めに、「Reitaku University Vision2035」及び「中期計画」に関して PDCA サイクルを確実に回すとともに、全ての教職員に情報を共有し、教育活動に理解を深めるために、一連の「中期計画 2020 年度の総括」と「2021 年度の重点事業等」報告会を開催した。
- ☑自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果を踏まえた中長期的な計画に基づき、大学運営の改善・向上のために内部質保証の仕組みが機能しているか
- ・「Reitaku University Vision 2035」「麗澤大学中期計画」に基づき、教職員が一丸となって、全学的かつ恒常的な自己点検・評価に努め、内部質保証の仕組みが機能している。以下、認証評価「基準 6 内部質保証」より抜粋。
 - ・本学では自己点検・評価の結果を活用し、PDCA サイクルが機能するよう、教職員が一丸となって、全学的かつ恒常的な自己点検・評価に努めている。
 - ・「麗澤大学内部質保証の方針」(体制図)
 - ・以前から学校法人全体の取り組みとして、「事業計画書」及び「事業報告書」『麗澤大学年報』を作成する際にも、PDCA サイクルが機能するよう努めていた。それを改めて明確化したものであるといえる。

【資料 6-3-9 学校法人廣池学園 2021 年度事業計画書】エビデンス集(資料編)資料 F-6

【資料 6-3-10 学校法人廣池学園 2020 年度事業報告書】エビデンス集(資料編)資料 F-7

【資料 6-3-11 Reitaku University Vision 2035】

【資料 6-3-12 麗澤大学中期計画(令和 2(2020)年度～令和 4(2022)年度)】

【資料 6-3-13 全学「中期計画 2020 年度の総括」と「2021 年度の重点事業等」報告会】

【資料 6-3-14 学部「中期計画 2020 年度の総括」と「2021 年度の重点事業等」報告会】

6-3 財務

2020年度の財務情報の公表実績、廣池学園／麗澤大学の財務比率並びに計算書類は、(1)～(9)のとおりである。なお、計算書類の表示金額は単位未満を四捨五入しており、内訳金額の合計と合計欄の金額が一致しない場合がある。

(1)財務情報の公表

【閲覧の方法】

| | |
|-------|---|
| 閲覧の方法 | 廣池学園ホームページに要約を公開し、誰でも自由に閲覧できる。詳細を必要とする場合は、閲覧申請書を総務部総務課に提出し、総務部長の許可を得た上で、総務部総務課員立会いのもと閲覧できる。 |
|-------|---|

【その他の開示方法】

| 年報 | | | 学内広報誌 | | | 大学機関誌 | | | 財務状況に関する報告書 | | | 学内 LAN | | | ホームページ (Website等) | | | その他 (一般向けの 経済誌等) | | | 開示請求があれば対応する | | |
|----|---|---|-------|---|---|-------|---|---|-------------|---|---|--------|---|---|----------------------|---|---|------------------------|---|---|--------------|---|---|
| 資 | 事 | 貸 | 資 | 事 | 貸 | 資 | 事 | 貸 | 資 | 事 | 貸 | 資 | 事 | 貸 | 資 | 事 | 貸 | 資 | 事 | 貸 | 資 | 事 | 貸 |
| 金 | 業 | 借 | 金 | 業 | 借 | 金 | 業 | 借 | 金 | 業 | 借 | 金 | 業 | 借 | 金 | 業 | 借 | 金 | 業 | 借 | 金 | 業 | 借 |
| ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ |

(2)事業活動収支計算書関係比率(廣池学園)

| | 比率 | 計算式 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|----|------------|------------------------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 1 | 人件費比率 | 人件費／経常収入 | 54.88% | 53.78% | 50.30% | 50.15% | 48.87% |
| 2 | 人件費依存率 | 人件費／学生生徒等納付金 | 96.26% | 94.41% | 87.86% | 84.87% | 80.45% |
| 3 | 教育研究経費比率 | 教育研究経費／経常収入 | 32.66% | 29.92% | 29.37% | 30.27% | 30.64% |
| 4 | 管理経費比率 | 管理経費／経常収入 | 16.98% | 15.98% | 17.10% | 15.88% | 15.23% |
| 5 | 借入金等利息比率 | 借入金等利息／経常収入 | 0.00% | 0.00% | 0.00% | 0.00% | 0.00% |
| 6 | 事業活動収支差額比率 | 基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入 | △5.00% | △0.20% | 2.28% | 4.52% | 5.70% |
| 7 | 基本金組入後収支比率 | 事業活動支出／(事業活動収入－基本金組入額) | 112.18% | 119.72% | 101.90% | 95.94% | 97.17% |
| 8 | 学生生徒等納付金比率 | 学生生徒等納付金／経常収入 | 57.01% | 56.96% | 57.25% | 59.09% | 60.75% |
| 9 | 寄付金比率 | 寄付金／事業活動収入 | 6.62% | 8.22% | 10.58% | 10.84% | 9.53% |
| | 経常寄付金比率 | 教育活動収支の寄付金／経常収入 | 6.46% | 8.12% | 10.53% | 10.17% | 9.44% |
| 10 | 補助金比率 | 補助金／事業活動収入 | 16.96% | 16.06% | 14.25% | 13.80% | 15.80% |
| | 経常補助金比率 | 教育活動収支の補助金／経常収入 | 16.41% | 15.98% | 14.18% | 13.78% | 15.41% |
| 11 | 基本金組入率 | 基本金組入額／事業活動収入 | 6.40% | 16.31% | 4.10% | 0.48% | 2.95% |
| 12 | 減価償却額比率 | 減価償却額／経常支出 | 15.13% | 15.28% | 15.17% | 16.02% | 16.95% |
| 13 | 経常収支差額比率 | 経常収支差額／経常収入 | △4.52% | 0.31% | 3.23% | 3.69% | 5.24% |
| 14 | 教育活動収支差額比率 | 教育活動収支差額／教育活動収入計 | △8.57% | △3.18% | 0.04% | 0.58% | 2.19% |

(3)事業活動収支計算書関係比率(麗澤大学)

| | 比率 | 計算式 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|----|------------|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 | 人件費比率 | 人件費／経常収入 | 54.67% | 56.61% | 51.58% | 50.22% | 47.61% |
| 2 | 人件費依存率 | 人件費／学生生徒等納付金 | 71.83% | 73.98% | 64.86% | 61.88% | 58.15% |
| 3 | 教育研究経費比率 | 教育研究経費／経常収入 | 33.72% | 31.30% | 31.22% | 30.49% | 32.58% |
| 4 | 管理経費比率 | 管理経費／経常収入 | 9.82% | 9.30% | 8.22% | 7.49% | 7.95% |
| 5 | 借入金等利息比率 | 借入金等利息／経常収入 | 0.00% | 0.00% | 0.00% | 0.00% | 0.00% |
| 6 | 事業活動収支差額比率 | 基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入 | 2.25% | 2.85% | 9.01% | 12.59% | 11.75% |
| 7 | 基本金組入後収支比率 | 事業活動支出／(事業活動収入－基本金組入額) | 99.16% | 97.15% | 90.99% | 84.45% | 90.26% |
| 8 | 学生生徒等納付金比率 | 学生生徒等納付金／経常収入 | 76.11% | 76.53% | 79.53% | 81.15% | 81.89% |
| 9 | 寄付金比率 | 寄付金／事業活動収入 | 3.71% | 5.16% | 4.62% | 6.69% | 5.73% |
| | 経常寄付金比率 | 教育活動収支の寄付金／経常収入 | 3.67% | 5.07% | 4.56% | 5.67% | 5.63% |
| 10 | 補助金比率 | 補助金／事業活動収入 | 9.62% | 9.38% | 7.19% | 6.01% | 8.64% |
| | 経常補助金比率 | 教育活動収支の補助金／経常収入 | 9.15% | 9.39% | 7.19% | 6.08% | 8.62% |
| 11 | 基本金組入率 | 基本金組入額／事業活動収入 | 1.42% | 0.00% | 0.00% | △3.51% | 2.23% |
| 12 | 減価償却額比率 | 減価償却額／経常支出 | 15.78% | 14.37% | 13.34% | 13.72% | 14.80% |
| 13 | 経常収支差額比率 | 経常収支差額／経常収入 | 1.79% | 2.79% | 8.97% | 11.79% | 11.83% |
| 14 | 教育活動収支差額比率 | 教育活動収支差額／教育活動収入計 | △1.87% | 0.96% | 7.36% | 10.95% | 10.94% |

(4) 貸借対照表関係比率(廣池学園)

| 比率 | 計算式 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|------------------|--------------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 固定資産構成比率 | 固定資産／総資産 | 94.38% | 93.92% | 92.73% | 94.30% | 92.88% |
| 2 有形固定資産構成比率 | 有形固定資産／総資産 | 47.67% | 48.34% | 45.88% | 44.69% | 43.41% |
| 3 特定資産構成比率 | 特定資産／総資産 | 46.11% | 45.00% | 45.06% | 47.75% | 47.66% |
| 4 流動資産構成比率 | 流動資産／総資産 | 5.62% | 6.08% | 7.27% | 5.70% | 7.12% |
| 5 固定負債構成比率 | 固定負債／(総負債＋純資産) | 4.47% | 4.24% | 4.03% | 3.62% | 3.75% |
| 6 流動負債構成比率 | 流動負債／(総負債＋純資産) | 3.82% | 3.92% | 4.04% | 3.87% | 3.75% |
| 7 内部留保資産比率 | (運用資産－総負債)／総資産 | 43.22% | 42.73% | 44.10% | 45.79% | 47.80% |
| 8 運用資産余裕比率 | (運用資産－外部負債)／経常支出 | 3.92年 | 3.90年 | 4.02年 | 4.22年 | 4.55年 |
| 9 純資産構成比率 | 純資産／(総負債＋純資産) | 91.71% | 91.85% | 91.93% | 92.51% | 93.21% |
| 10 繰越収支差額構成比率 | 繰越収支差額／(総負債＋純資産) | △6.88% | △8.99% | △6.84% | △6.30% | △5.83% |
| 11 固定比率 | 固定資産／純資産 | 102.91% | 102.26% | 100.86% | 101.94% | 99.65% |
| 12 固定長期適合率 | 固定資産／(純資産＋固定負債) | 98.13% | 97.75% | 96.63% | 98.10% | 96.50% |
| 13 流動比率 | 流動資産／流動負債 | 147.06% | 155.33% | 180.01% | 147.11% | 189.87% |
| 14 総負債比率 | 総負債／総資産 | 8.29% | 8.15% | 8.07% | 7.49% | 6.79% |
| 15 負債比率 | 総負債／純資産 | 9.04% | 8.88% | 8.77% | 8.10% | 7.29% |
| 16 前受金保有率 | 現金預金／前受金 | 177.33% | 185.62% | 218.02% | 172.19% | 229.43% |
| 17 退職給与引当特定資産保有率 | 退職給与引当特定資産／退職給与引当金 | 101.97% | 104.74% | 98.98% | 100.23% | 100.64% |
| 18 基本金比率 | 基本金／基本金要組入額 | 99.29% | 99.41% | 99.50% | 99.60% | 99.69% |
| 19 減価償却比率 | 減価償却累計額(図書を除く)／ 減価償却資産取得価額(図書を除く) | 51.81% | 52.19% | 52.71% | 54.47% | 56.43% |
| 20 積立率 | 運用資産／要積立額 | 90.07% | 87.06% | 90.61% | 91.36% | 92.24% |

(5) 要積立額に対する金融資産の状況(廣池学園)

(単位：千円)

| | 2016年度 | | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | | 2020年度 | |
|------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 要積立額 | 金融資産 |
| 退職給与引当金 | 2,275,120 | 2,320,000 | 2,215,095 | 2,320,045 | 2,147,974 | 2,126,045 | 1,962,503 | 1,967,000 | 1,671,249 | 1,682,000 |
| 減価償却累計額 | 20,911,620 | 14,095,753 | 21,645,471 | 13,395,753 | 21,277,495 | 13,879,813 | 22,057,230 | 15,786,252 | 22,868,627 | 16,021,394 |
| 2号基本金引当資産 | 496,320 | 496,320 | 496,320 | 496,320 | 496,320 | 496,320 | 348,807 | 348,807 | 348,807 | 348,807 |
| 3号基本金引当資産 | 10,210,000 | 10,210,000 | 10,210,000 | 10,210,000 | 10,210,000 | 10,210,000 | 10,210,000 | 10,210,000 | 10,210,000 | 10,210,000 |
| 4号基本金 | 470,000 | | 470,000 | | 470,000 | | 470,000 | | 470,000 | |
| 借入金 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 未払金・割賦金 | 572,043 | | 490,932 | | 421,961 | | 327,773 | | 276,720 | |
| その他引当特定資産 | | 200,000 | | 190,000 | | 0 | | 0 | | 0 |
| 現金預金 | | 3,198,514 | | 3,479,151 | | 4,211,752 | | 3,277,971 | | 4,113,678 |
| 有価証券 | | 1,280 | | 1,280 | | 1,280 | | 1,280 | | 1,280 |
| 未収入金 | | 75,422 | | 90,837 | | 40,927 | | 39,780 | | 67,219 |
| 計 | 34,935,103 | 30,597,289 | 35,527,818 | 30,183,386 | 35,023,750 | 30,966,137 | 35,376,313 | 31,631,090 | 35,845,403 | 32,444,378 |
| 総資産 | | 59,248,008 | | 59,142,793 | | 59,281,730 | | 59,294,345 | | 59,305,180 |
| 総資産に対する金融資産の割合 | | 51.64% | | 51.03% | | 52.24% | | 53.35% | | 54.71% |
| 4号基本金に対する現金預金の割合 | | 680.53% | | 740.24% | | 896.12% | | 697.44% | | 875.25% |

学生生徒等納付金に係る学生数

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 麗澤大学大学院 | 63名 | 68名 | 84名 | 81名 | 57名 |
| 麗澤大学 | 2,491名 | 2,636名 | 2,768名 | 2,841名 | 2,842名 |
| 麗澤高等学校 | 754名 | 754名 | 738名 | 729名 | 710名 |
| 麗澤中学校 | 429名 | 425名 | 430名 | 434名 | 442名 |
| 麗澤瑞浪高等学校 | 517名 | 494名 | 487名 | 457名 | 417名 |
| 麗澤瑞浪中学校 | 238名 | 228名 | 202名 | 169名 | 172名 |
| 麗澤幼稚園 | 145名 | 137名 | 132名 | 149名 | 174名 |
| 合計 | 4,637名 | 4,742名 | 4,841名 | 4,860名 | 4,814名 |

(6) 事業活動収支計算書(麗澤大学)

(単位：百万円)

| 科 目 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 教育活動収支 | | | | | |
| 事業活動収入の部 | | | | | |
| 学生生徒等納付金 | 2,950 | 3,150 | 3,298 | 3,371 | 3,358 |
| 手数料 | 49 | 60 | 67 | 52 | 51 |
| 寄付金 | 142 | 209 | 189 | 235 | 231 |
| 経常費等補助金 | 355 | 387 | 298 | 252 | 353 |
| 付随事業収入 | 213 | 201 | 197 | 164 | 48 |
| 雑収入 | 27 | 34 | 25 | 39 | 18 |
| 教育活動収入計 | 3,737 | 4,040 | 4,074 | 4,115 | 4,059 |
| 事業活動支出の部 | | | | | |
| 人件費 | 2,119 | 2,330 | 2,139 | 2,086 | 1,952 |
| 教育研究経費 | 1,307 | 1,288 | 1,294 | 1,267 | 1,336 |
| 管理経費 | 381 | 383 | 341 | 311 | 326 |
| 徴収不能額等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 教育活動支出計 | 3,807 | 4,001 | 3,774 | 3,665 | 3,615 |
| 教育活動収支差額 | △ 70 | 39 | 300 | 450 | 444 |
| 教育活動外収支 | | | | | |
| 事業活動収入の部 | | | | | |
| 受取利息・配当金 | 139 | 76 | 72 | 39 | 41 |
| その他の教育活動外収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外収入計 | 139 | 76 | 72 | 39 | 41 |
| 事業活動支出の部 | | | | | |
| 借入金等利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の教育活動外支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外支出計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外収支差額 | 139 | 76 | 72 | 39 | 41 |
| 経常収支差額 | 69 | 115 | 372 | 490 | 485 |
| 特別収支 | | | | | |
| 事業活動収入の部 | | | | | |
| 資産売却差額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の特別収入 | 24 | 4 | 3 | 46 | 6 |
| 特別収入計 | 24 | 4 | 3 | 46 | 6 |
| 事業活動支出の部 | | | | | |
| 資産処分差額 | 5 | 1 | 0 | 7 | 9 |
| その他の特別支出 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特別支出計 | 5 | 1 | 1 | 7 | 9 |
| 特別収支差額 | 19 | 3 | 2 | 39 | △ 3 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | 88 | 118 | 374 | 529 | 482 |
| 基本金組入額合計 | △ 55 | 0 | 0 | 148 | △ 91 |
| 当年度収支差額 | 32 | 118 | 374 | 676 | 391 |
| (参考) | | | | | |
| 事業活動収入計 | 3,900 | 4,120 | 4,149 | 4,200 | 4,107 |
| 事業活動支出計 | 3,812 | 4,003 | 3,775 | 3,671 | 3,625 |

(7) 事業活動収支計算書(廣池学園)

(単位：百万円)

| 科 目 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 事業活動収入の部 | | | | | |
| 学生生徒等納付金 | 4,164 | 4,242 | 4,491 | 4,543 | 4,520 |
| 手数料 | 88 | 94 | 103 | 103 | 86 |
| 寄付金 | 472 | 619 | 826 | 782 | 702 |
| 経常費等補助金 | 1,199 | 1,218 | 1,113 | 1,059 | 1,146 |
| 付随事業収入 | 873 | 842 | 829 | 728 | 531 |
| 雑収入 | 236 | 249 | 233 | 232 | 222 |
| 教育活動収入計 | 7,032 | 7,364 | 7,594 | 7,448 | 7,207 |
| 事業活動支出の部 | | | | | |
| 人件費 | 4,009 | 4,099 | 3,946 | 3,856 | 3,636 |
| 教育研究経費 | 2,385 | 2,280 | 2,304 | 2,328 | 2,279 |
| 管理経費 | 1,241 | 1,218 | 1,341 | 1,221 | 1,133 |
| 徴収不能額等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 教育活動支出計 | 7,635 | 7,598 | 7,591 | 7,405 | 7,050 |
| 教育活動収支差額 | △ 603 | △ 234 | 3 | 43 | 157 |
| 事業活動収入の部 | | | | | |
| 受取利息・配当金 | 273 | 246 | 239 | 228 | 218 |
| その他の教育活動外収入 | 0 | 12 | 11 | 12 | 15 |
| 教育活動外収入計 | 273 | 258 | 250 | 240 | 233 |
| 事業活動支出の部 | | | | | |
| 借入金等利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他の教育活動外支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外支出計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外収支差額 | 273 | 258 | 250 | 240 | 233 |
| 経常収支差額 | △ 330 | 24 | 254 | 284 | 390 |
| 事業活動収入の部 | | | | | |
| 資産売却差額 | 2 | 2 | 40 | 1 | 1 |
| その他の特別収入 | 74 | 19 | 25 | 74 | 50 |
| 特別収入計 | 76 | 21 | 65 | 75 | 51 |
| 事業活動支出の部 | | | | | |
| 資産処分差額 | 113 | 60 | 138 | 8 | 14 |
| その他の特別支出 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特別支出計 | 115 | 60 | 138 | 8 | 14 |
| 特別収支差額 | △ 39 | △ 39 | △ 73 | 67 | 37 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | △ 369 | △ 15 | 180 | 351 | 427 |
| 基本金組入額合計 | △ 472 | △ 1,247 | △ 324 | △ 37 | △ 221 |
| 当年度収支差額 | △ 841 | △ 1,262 | △ 144 | 314 | 206 |
| 前年度繰越収支差額 | △ 3,321 | △ 4,076 | △ 5,316 | △ 4,054 | △ 3,737 |
| 基本金取崩額 | 86 | 22 | 1,405 | 3 | 73 |
| 翌年度繰越収支差額 | △ 4,076 | △ 5,316 | △ 4,054 | △ 3,737 | △ 3,459 |
| (参考) | | | | | |
| 事業活動収入計 | 7,381 | 7,643 | 7,909 | 7,764 | 7,490 |
| 事業活動支出計 | 7,750 | 7,658 | 7,729 | 7,413 | 7,063 |

(8) 資金収支計算書(麗澤大学)

(単位：百万円)

| 収入の部 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 学生生徒等納付金収入 | 2,950 | 3,150 | 3,298 | 3,371 | 3,358 |
| 手数料収入 | 49 | 60 | 67 | 52 | 51 |
| 寄付金収入 | 142 | 209 | 189 | 279 | 231 |
| 補助金収入 | 375 | 387 | 298 | 252 | 355 |
| 資産売却収入 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 付随事業・収益事業収入 | 213 | 201 | 197 | 164 | 48 |
| 受取利息・配当金収入 | 139 | 76 | 72 | 39 | 41 |
| 雑収入 | 28 | 34 | 25 | 39 | 19 |
| 借入金等収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 収入の部合計 | 3,898 | 4,117 | 4,147 | 4,199 | 4,103 |
| 支出の部 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
| 人件費支出 | 2,144 | 2,381 | 2,233 | 2,169 | 2,095 |
| 教育研究経費支出 | 767 | 748 | 823 | 795 | 832 |
| 管理経費支出 | 319 | 344 | 3,064 | 279 | 295 |
| 借入金等利息支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 借入金等返済支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 施設関係支出 | 101 | 99 | 6 | 198 | 38 |
| 設備関係支出 | 98 | 25 | 203 | 161 | 246 |
| 支出の部合計 | 3,429 | 3,596 | 3,572 | 3,601 | 3,505 |

(9) 貸借対照表(廣池学園)

(単位：百万円)

| 科 目 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 固定資産 | 55,917 | 55,545 | 54,970 | 55,914 | 55,082 |
| 流動資産 | 3,331 | 3,597 | 4,312 | 3,380 | 4,223 |
| 資産の部合計 | 59,248 | 59,143 | 59,282 | 59,294 | 59,305 |
| 固定負債 | 2,648 | 2,507 | 2,386 | 2,146 | 1,803 |
| 流動負債 | 2,265 | 2,316 | 2,395 | 2,298 | 2,224 |
| 負債の部合計 | 4,913 | 4,823 | 4,781 | 4,443 | 4,027 |
| 基本金 | 58,411 | 59,636 | 58,555 | 58,588 | 58,737 |
| 繰越収支差額 | △ 4,076 | △ 5,316 | △ 4,054 | △ 3,737 | △ 3,459 |
| 純資産の部合計 | 54,335 | 54,320 | 54,500 | 54,851 | 55,278 |
| 負債及び純資産の部合計 | 59,248 | 59,143 | 59,282 | 59,294 | 59,305 |

資料編

1. 教員の構成

表1-1 専任教員数

2020年5月1日現在

| 学部 | 学科等 | 設置 基準数 | 在 職 者 数 | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|-----------|---------|---|-----|---|----|---|----|---|----|----|----|
| | | | 教授 | | 准教授 | | 助教 | | 講師 | | 合計 | | |
| | | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 計 |
| 外国語 学部 | 外国語学科 | 13 | 11 | 2 | 6 | 5 | 0 | 2 | 0 | 3 | 17 | 12 | 29 |
| | 共通科目 | | 1 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 5 | 7 |
| | 小計 | 13 | 12 | 3 | 7 | 8 | 0 | 2 | 0 | 4 | 19 | 17 | 36 |
| 経済 学部 | 経済学科 | 10 | 10 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 12 | 1 | 13 |
| | 経営学科 | 10 | 5 | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 10 | 1 | 11 |
| | 共通科目 | | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 |
| | 小計 | 20 | 17 | 0 | 5 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 24 | 3 | 27 |
| 国際 学部 | 国際学科 | 6 | 4 | 5 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 7 | 15 |
| | グローバル ビジネス学科 | 10 | 8 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 11 | 5 | 16 |
| | 小計 | 16 | 29 | 2 | 7 | 4 | 2 | 1 | | | 38 | 7 | 45 |

※設置基準数の大学全体の収容定員に応じた専任教員数は24名であり、上表には含めていない。

※大学設置基準第11条における「授業を担当しない教員」は含めていない。

※専任教員一人当たりの学生数

外国語学部 ～ 専任教員数 36人：在籍学生数1,165人=32.4人

経済学部 ～ 専任教員数 27人：在籍学生数1,204人=44.6人

国際学部 ～ 専任教員数 31人：在籍学生数288人=9.3人

表1-2 専任教員数と非常勤教員数との比率の推移

<学部>

2020年5月1日現在

| 区分 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 専任教員 | | | | | | | |
| 外国語学部 | 61 | 61 | 60 | 66 | 62 | 54 | 36 |
| 経済学部 | 51 | 49 | 51 | 53 | 46 | 45 | 27 |
| 国際学部 | — | — | — | — | — | — | 45 |
| 小計 | 112 | 110 | 111 | 119 | 108 | 99 | 108 |
| 構成比率 | 41.8% | 41.4% | 40.5% | 45.8% | 44.4% | 46.3% | 55.4% |
| 非常勤教員 | | | | | | | |
| 外国語学部 | 107 | 111 | 119 | 98 | 97 | 74 | 66 |
| 経済学部 | 49 | 45 | 44 | 43 | 38 | 41 | 21 |
| 国際学部 | — | — | — | — | — | — | 0 |
| 小計 | 156 | 156 | 163 | 141 | 135 | 115 | 87 |
| 構成比率 | 58.2% | 58.6% | 59.5% | 54.2% | 55.6% | 53.7% | 44.6% |
| 合計 | 268 | 266 | 274 | 260 | 243 | 214 | 195 |

<大学院>

2020年5月1日現在

| 区分 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 専任教員 | | | | | | | |
| 言語教育研究科 | 29 | 26 | 26 | 27 | 24 | 22 | 21 |
| 経済研究科 | 35 | 34 | 32 | 33 | 32 | 28 | 23 |
| 学校教育研究科 | — | — | — | — | 12 | 12 | 11 |
| 小計 | 64 | 60 | 58 | 60 | 68 | 62 | 55 |
| 構成比率 | 87.7% | 84.5% | 82.9% | 87.0% | 82.9% | 84.9% | 84.6% |
| 非常勤教員 | | | | | | | |
| 言語教育研究科 | 5 | 5 | 6 | 2 | 1 | 3 | 3 |
| 経済研究科 | 4 | 6 | 6 | 7 | 8 | 2 | 1 |
| 学校教育研究科 | — | — | — | — | 5 | 6 | 6 |
| 小計 | 9 | 11 | 12 | 9 | 14 | 11 | 10 |
| 構成比率 | 12.3% | 15.5% | 17.1% | 13.0% | 17.1% | 15.1% | 15.4% |
| 合計 | 73 | 71 | 70 | 69 | 82 | 73 | 65 |

※専任教員に学部からの兼任教員を含む

表1-3 専任教員年齢構成

2020年5月1日現在

| 学部・大学院 | 学科等 | 30～39歳 | | 40～49歳 | | 50～59歳 | | 60～69歳 | | 70～79歳 | | 計 |
|--------|-------------|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|-----|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 外国語学部 | 外国語学科 | 1 | 3 | 3 | 6 | 8 | 2 | 4 | 1 | 1 | 0 | 29 |
| | 共通科目 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 7 |
| | 小計 | 1 | 4 | 5 | 7 | 8 | 4 | 4 | 2 | 1 | 0 | 36 |
| 経済学部 | 経済学科 | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| | 経営学科 | 2 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| | 共通科目 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 小計 | 2 | 2 | 6 | 1 | 3 | 0 | 13 | 0 | 0 | 0 | 27 |
| 国際学部 | 国際学科 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 | 4 | 3 | 1 | 0 | 0 | 15 |
| | グローバルビジネス学科 | 1 | 1 | 0 | 1 | 4 | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 | 16 |
| | 小計 | 2 | 1 | 2 | 3 | 6 | 7 | 9 | 1 | 0 | 0 | 31 |
| | 言語教育研究科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 経済研究科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 学校教育研究科 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 2 | 0 | 7 |
| | 合計 | 4 | 3 | 9 | 4 | 9 | 7 | 26 | 1 | 2 | 0 | 101 |

表 1-4 職員数と職員構成(正職員・嘱託・パート・派遣別、男女別、年齢別) 2020年5月1日現在

| | | | | | |
|----|-------|-------|-------|------|--------|
| | 正職員 | 嘱託 | パート | 派遣 | 合計 |
| 人数 | 78 | 28 | 18 | 5 | 129 |
| % | 60.5% | 21.7% | 14.0% | 4.6% | 100.0% |

| | 正職員 | | | | | | |
|------|-----|-----------|----|-----------|-----------------|-----------|--------------------------------|
| | 男 | うち 管理職 | 女 | うち 管理職 | 男女 正職員 合計 | 管理職 合計 | 正職員合計 に対する年 齢別の割合 (%) |
| 20歳代 | 1 | 0 | 5 | 0 | 6 | 0 | 7.7% |
| 30歳代 | 11 | 2 | 10 | 1 | 21 | 3 | 26.9% |
| 40歳代 | 17 | 13 | 11 | 5 | 28 | 18 | 35.9% |
| 50歳代 | 12 | 7 | 6 | 3 | 18 | 10 | 23.1% |
| 60歳代 | 5 | 5 | 0 | 1 | 5 | 6 | 6.4% |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0% |
| 合計 | 46 | 27 | 32 | 10 | 78 | 37 | 100.0% |

| | |
|------|--------------------------------|
| 定年 | 65歳 |
| 役職定年 | 課長 60歳、 課長補佐 50歳、 主任 50歳 |
| 選択定年 | 55歳～64歳 |

| |
|-----------------------------|
| 「管理職の定義欄」(記述) 課長補佐・主事補以上 |
|-----------------------------|

2. 学生の構成

2-1 学部

表 2-1-1-1 学生定員及び在籍学生数

()内は女子内数 2020年5月1日現在

| | 学 科 | 入学 定員 | 収容 定員 (A) | 在 籍 学 生 数 | | | | | 充足率 (B/A) | |
|-------------|-------------|----------------------|-----------------|-----------|-----------|----------|-----------|--------------|--------------|--|
| | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 計(B) | | |
| 外国語学部 | 外国語学科 | 英語コミュニケーション専攻 | | | 100 (61) | 102 (73) | 100 (60) | 116 (67) | 418 (261) | |
| | | 英語・リベラルアーツ専攻 | | | 84 (56) | 87(58) | 90(54) | 94 (51) | 355 (219) | |
| | | 英語・英米文化専攻 | | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 15 (5) | 15 (5) | |
| | | 国際交流・国際協力専攻 | | | 0 (0) | 48 (34) | 55 (32) | 61 (45) | 164 (111) | |
| | | ドイツ語・ドイツ文化専攻 | | | 34 (25) | 38 (29) | 32 (21) | 36 (23) | 140 (98) | |
| | | 中国語・グローバルコミュニケーション専攻 | | | 27 (18) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 27 (18) | |
| | | 中国語専攻 | | | 1 (1) | 21 (17) | 24 (17) | 22 (15) | 68 (50) | |
| | | 日本語・国際コミュニケーション専攻 | | | 0 (0) | 50 (37) | 57 (44) | 51(27) | 158 (108) | |
| 外国語学部計 | | 220 | 1,120 | 246(161) | 346(248) | 358(228) | 395(233) | 1,345(870) | 1.20 | |
| 経済学部 | 経済学科 | | | 0(0) | 0 (0) | 1 (0) | 2 (0) | 3 (0) | | |
| | 経済学科 | 経済専攻 | | | 108(23) | 130(19) | 110(17) | 115(16) | 463 (75) | |
| | | グローバル人材育成専攻 | | | 0(0) | 74(26) | 54(28) | 85(38) | 213(92) | |
| | | 観光・地域創生専攻 | | | 29(8) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 29(8) | |
| | 経営学科 | | | 0(0) | 0 (0) | 0 (0) | 3 (0) | 3 (0) | | |
| | 経営学科 | 経営専攻 | | | 60(20) | 89(30) | 93(35) | 128(46) | 370(131) | |
| AI・ビジネス専攻 | | | | 51(9) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | 51(9) | | |
| 会計・ファイナンス専攻 | | | | 0(0) | 33(5) | 28(10) | 38(17) | 99(32) | | |
| スポーツビジネス専攻 | | | | 26(2) | 44 (8) | 59 (7) | 0 (0) | 129(17) | | |
| 経済学部計 | | 220 | 1,120 | 274(62) | 370(88) | 345(97) | 371(117) | 1,360 (364) | 1.21 | |
| 国際学部 | 国際学科 | 日本学・国際コミュニケーション専攻 | | | 40(23) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 40 (23) | |
| | | 国際交流・国際協力専攻 | 80 | 80 | 33(19) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 33 (19) | |
| | グローバルビジネス学科 | グローバルビジネス専攻 | 80 | 80 | 86(45) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 86 (45) | |
| 国際学部計 | | 160 | 160 | 159(87) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 159 (87) | 0.99 | |
| 学部合計 | | 600 | 2,400 | 679 (310) | 716 (336) | 703(325) | 766 (350) | 2,864(1,321) | 1.19 | |

表 2-1-1-2 学部、学科別在籍者数

2020年5月1日現在

| 学部 | 学科 | 在籍者数 (人) | 留学生数 (内数/人) | 社会人入学学 生数(内数/人) | 帰国生徒数 (内数/人) |
|-------|-------------|-------------|----------------|--------------------|-----------------|
| 外国語学部 | 外国語学科 | 1,331 | 61 | — | 0 |
| 経済学部 | 経済学科 | 704 | 50 | — | 0 |
| | 経営学科 | 648 | 113 | — | 0 |
| 国際学部 | 国際学科 | 73 | 23 | — | 0 |
| | グローバルビジネス学科 | 86 | 6 | — | 0 |

表 2-1-2 外国人留学生数

()内は女子内数 2020年5月1日現在

| 学部 | 学科 | 計 | 第1年次 | 第2年次 | 第3年次 | 第4年次 | |
|------------|-------------------|-------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 外国語学部 | 英語コミュニケーション専攻 | 1 (0) | | 1 (0) | | | |
| | 英語・リベラルアーツ専攻 | 2 (0) | 2 (0) | | | | |
| | 国際交流・国際協力専攻 | 1 (1) | | 1 (1) | | | |
| | ドイツ語・ドイツ文化専攻 | | | | | | |
| | 中国語専攻 | | | | | | |
| | 日本語・国際コミュニケーション専攻 | 57 (30) | | 21 (13) | 16 (8) | 20 (9) | |
| 小 計 | | 61 (31) | 2 (0) | 23 (14) | 16 (8) | 20 (9) | |
| 経済学部 | 経済学科 | | | | | | |
| | 経済学科 | 経済専攻 | 30 (7) | 5 (1) | 13 (5) | 9 (1) | 3 (0) |
| | | グローバル人材育成専攻 | 17 (9) | | 8 (2) | 6 (4) | 3 (3) |
| | | 観光・地域創生専攻 | 3 (0) | 3 (0) | | | |
| | 経営学科 | | | | | | |
| | 経営学科 | 経営専攻 | 92 (40) | 5 (4) | 20 (5) | 32 (15) | 35 (16) |
| | | 会計ファインズ専攻 | 19 (10) | | 5 (2) | 7 (2) | 7 (6) |
| AI・ビジネス専攻 | | | | | | | |
| スポーツビジネス専攻 | | 2 (1) | | 1 (1) | 1 (0) | | |
| 小 計 | | 163 (67) | 13 (5) | 47 (15) | 55 (22) | 48 (25) | |
| 国際学部 | 国際学科 | 23 (11) | 23 (11) | | | | |
| | 国際学科 | 日本学・国際コミュニケーション専攻 | 23 (11) | 23 (11) | | | |
| | | 国際交流・国際協力専攻 | | | | | |
| | グローバルビジネス学科 | グローバルビジネス専攻 | 6 (4) | 6 (4) | | | |
| 小 計 | | 29 (15) | 29 (15) | | | | |
| 合 計 | | 253 (113) | 43 (20) | 70 (29) | 72 (30) | 69 (34) | |

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。休学者含む。

表 2-1-3 特別聴講生(提携校・交換留学生)

()内は女子内数

| 提携校名 | 学 部 | | 合計 |
|-----------------------|-------|-----|-------|
| | 1学期 | 2学期 | |
| セント・マーチンズ大学(アメリカ) | | | |
| マレー州立大学(アメリカ) | 1 (1) | | 1 (1) |
| イエーナ大学(ドイツ) | 1 (1) | | 1 (1) |
| ヴッパータール大学(ドイツ) | | | |
| ヴィッテンヘアデッケ大学(ドイツ) | | | |
| フォンティス応用科学大学(オランダ) | 1 (0) | | 1 (0) |
| ヨウツェノ学院(フィンランド) | | | |
| サイアム大学(タイ) | 1 (1) | | 1 (1) |
| パヤップ大学(タイ) | | | |
| パヤオ大学(タイ) | | | |
| ナレースワン大学(タイ) | | | |
| ソクラーナカリン大学プーケット校(タイ) | | | |
| ホーチミン市人文社会科学大学(ベトナム) | | | |
| タズキア・イスラム経済大学(インドネシア) | | | |
| 釜山外国語大学校(韓国) | | | |
| 金剛大学校(韓国) | | | |

| | | | |
|--------------|----|------|---------|
| 又石大学校(韓国) | | | |
| 淡江大学(台湾) | 2 | (1) | 2 (1) |
| 国立屏東大学(台湾) | | | |
| ラオス国立大学(ラオス) | 1 | (1) | 1 (1) |
| 天津財経大学(中国) | | | |
| 西安外国語大学(中国) | 4 | (4) | 4 (4) |
| ブータン特別聴講生 | | | |
| チベット特別聴講生 | 2 | (1) | 2 (1) |
| 合 計 | 13 | (10) | 13 (10) |

表 2-1-4 出身国・地域別留学生数

①学部計 ()内は女子内数 2020年5月1日現在

| 国・地域名 | 学 部 | 特別聴講生 | 合 計 |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 中国 | 141 (62) | 4 (4) | 145 (66) |
| 韓国 | 69 (22) | | 69 (22) |
| 台湾 | 3 (2) | 2 (1) | 5 (3) |
| ベトナム | 23 (18) | | 23 (18) |
| マレーシア | 3 (1) | | 3 (1) |
| タイ | 2 (1) | 1 (1) | 3 (2) |
| 中国(香港) | 3 (1) | | 3 (1) |
| ミャンマー | 1 (0) | | 1 (0) |
| ドイツ | | 2 (1) | 2 (1) |
| アメリカ | | 1 (1) | 1 (1) |
| スリランカ | 2 (2) | | 2 (2) |
| フィンランド | 2 (2) | | 2 (2) |
| モンゴル | 2 (1) | | 2 (1) |
| ウズベキスタン | 1 (0) | | 1 (0) |
| トルコ | 1 (1) | | 1 (1) |
| ラオス | | 1 (1) | 1 (1) |
| チベット | | 2 (1) | 2 (1) |
| 合 計 | 253 (113) | 13 (10) | 266 (123) |

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。

②外国語学部外国語学科 ()内は女子内数 2020年5月1日現在

| 国・地域名 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 合 計 |
|--------|-------|---------|--------|--------|---------|
| 中国 | 1 (0) | 9 (4) | 6 (4) | 12 (5) | 28 (13) |
| 韓国 | | 5 (3) | 7 (3) | 5 (1) | 17 (7) |
| 台湾 | 1 (0) | | | | 1 (0) |
| ベトナム | | 4 (4) | 1 (1) | 1 (1) | 6 (6) |
| マレーシア | | 1 (0) | | | 1 (0) |
| タイ | | 1 (1) | | | 1 (1) |
| 中国(香港) | | 1 (0) | 1 (0) | 1 (1) | 3 (1) |
| ミャンマー | | | 1 (0) | | 1 (0) |
| スリランカ | | 1 (1) | | | 1 (1) |
| フィンランド | | 1 (1) | | | 1 (1) |
| トルコ | | | | 1 (1) | 1 (1) |
| 合 計 | 2 (0) | 23 (14) | 16 (8) | 20 (9) | 61 (31) |

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。

③経済学部経済学科 ()内は女子内数 2020年5月1日現在

| 国・地域名 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|--------|-------|--------|--------|-------|---------|
| 中国 | 5 (1) | 11 (5) | 7 (2) | 4 (1) | 27 (9) |
| 韓国 | 3 (0) | 6 (0) | 7 (2) | | 16 (2) |
| 台湾 | | 1 (1) | | | 1 (1) |
| ベトナム | | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 3 (3) |
| マレーシア | | 1 (0) | | | 1 (0) |
| フィンランド | | | | 1 (1) | 1 (1) |
| モンゴル | | 1 (0) | | | 1 (0) |
| 合計 | 8 (1) | 21 (7) | 15 (5) | 6 (3) | 50 (16) |

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。

④経済学部経営学科 ()内は女子内数 2020年5月1日現在

| 国・地域名 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|---------|-------|--------|---------|---------|----------|
| 中国 | 2 (2) | 15 (3) | 28 (14) | 35 (19) | 80 (38) |
| 韓国 | 1 (0) | 9 (4) | 10 (2) | 5 (2) | 25 (8) |
| 台湾 | | 1 (1) | | | 1 (1) |
| ベトナム | 2 (2) | 1 (0) | | 1 (1) | 4 (3) |
| タイ | | | | 1 (0) | 1 (0) |
| スリランカ | | | 1 (1) | | 1 (1) |
| ウズベキスタン | | | 1 (0) | | 1 (0) |
| 合計 | 5 (4) | 26 (8) | 40 (17) | 43 (23) | 113 (51) |

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。

⑤国際学部国際学科 ()内は女子内数 2020年5月1日現在

| 国・地域名 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|-------|---------|----|----|----|---------|
| 中国 | 5 (1) | | | | 5 (1) |
| 韓国 | 7 (3) | | | | 7 (3) |
| ベトナム | 9 (4) | | | | 9 (4) |
| マレーシア | 1 (1) | | | | 1 (1) |
| モンゴル | 1 (1) | | | | 1 (1) |
| 合計 | 23 (11) | | | | 23 (11) |

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。

⑥国際学部グローバルビジネス学科 ()内は女子内数 2020年5月1日現在

| 国・地域名 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|-------|-------|----|----|----|-------|
| 中国 | 1 (1) | | | | 1 (1) |
| 韓国 | 4 (2) | | | | 4 (2) |
| ベトナム | 1 (1) | | | | 1 (1) |
| 合計 | 6 (4) | | | | 6 (4) |

表 2-1-5 卒業・修了者数

()内は女子内数 2021年3月31日現在

| 学 部 | 学 科 等 | 卒業生数 | 9月卒業等 | 合 計 | 平成29年度 入学者* |
|-----------|------------------------|-----------|--------|-----------|----------------|
| 外国語 学部 | 外国語学科英語コミュニケーション専攻 | 103 (61) | 2 (2) | 105 (63) | 94 |
| | 外国語学科英語・英米文化専攻 | 8 (3) | 2 (1) | 10 (4) | |
| | 外国語学科英語・リベラルアーツ専攻 | 85 (48) | | 85 (48) | 83 |
| | 外国語学科国際交流・国際協力専攻 | 50 (39) | 1 (1) | 51 (40) | 38 |
| | 外国語学科ドイツ語・ドイツ文化専攻 | 32 (22) | 0 (0) | 32 (22) | 29 |
| | 外国語学科中国語専攻 | 15 (12) | 0 (0) | 15 (12) | 15 |
| | 外国語学科日本語・国際コミュニケーション専攻 | 42 (23) | 4 (2) | 46 (25) | 30 |
| | 計 | 335 (208) | 9 (6) | 344 (214) | 289 |
| 経済学部 | 経済学科 | 1 (0) | | 1 (0) | |
| | 経済学科経済専攻 | 98 (16) | 2 (0) | 100 (16) | 96 |
| | 経済学科グローバル人材育成専攻 | 76 (36) | | 76 (36) | 66 |
| | 経営学科 | 1 (0) | | 1 (0) | |
| | 経営学科経営専攻 | 110(40) | | 110(40) | 104 |
| | 経営学科会計ファイナンス専攻 | 32 (15) | | 32 (15) | 31 |
| | 計 | 318 (107) | 2 (0) | 320 (107) | 297 |
| 国際学部 | 日本学・国際コミュニケーション専攻 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 |
| | 国際交流・国際協力専攻 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 |
| | グローバルビジネス専攻 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 |
| | 計 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 |
| 学部合計 | | 653 (315) | 11 (6) | 664 (321) | 586 |

*卒業者のうち、2017年度に入学した者(編入学者を除く)

表 2-1-6 卒業延期

2021年3月31日現在

| 理 由 | 外国語学部 | | | 経済学部 | | | 学部計 |
|---------|---------------|---------------|----|---------------|---------------|----|-----|
| | 卒業予定時期 | | | 卒業予定時期 | | | |
| | 2020年度 1学期 | 2020年度 2学期 | 小計 | 2020年度 1学期 | 2020年度 2学期 | 小計 | |
| 就職活動の継続 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

該当者なし

表 2-1-7 卒業生の進路状況

2021年5月1日現在

| 区分 | 外国語学部 | | | 経済学部 | | | 合計 | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| a. 就職希望者 | 106 | 182 | 288 | 183 | 86 | 269 | 289 | 268 | 557 |
| b. 就職決定者 | 98 | 178 | 276 | 166 | 83 | 249 | 264 | 261 | 525 |
| 内訳 | 企業就職 | 93 | 172 | 265 | 156 | 83 | 239 | 249 | 504 |
| | 公務員 | 3 | 5 | 8 | 10 | 0 | 10 | 13 | 18 |
| | 教員 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 |
| 就職率(b/a) | 92.5% | 97.8% | 95.8% | 90.7% | 96.5% | 92.6% | 91.3% | 97.4% | 94.3% |
| 大学院進学 | 1 | 2 | 3 | 1 | 0 | 1 | 2 | 2 | 4 |
| その他進学 | 5 | 6 | 11 | 2 | 1 | 3 | 7 | 7 | 14 |
| その他* | 19 | 23 | 42 | 27 | 20 | 47 | 46 | 43 | 89 |
| 卒業生数 | 131 | 213 | 344 | 213 | 107 | 320 | 344 | 320 | 664 |

※2020年9月卒業者を含む。

*自営業、外国人留学生の帰国者、結婚、留学準備やその他の進路を目的とする者

表 2-1-8 学籍異動

すべて 2021 年 5 月 1 日現在

① 学部等別・学期別・理由別の退学者数

| 理 由 | 外国語学部 | | | 経済学部 | | | 国際学部 | | | 学部合計 |
|-------------|-------|------|----|------|------|----|------|------|----|------|
| | 1 学期 | 2 学期 | 小計 | 1 学期 | 2 学期 | 小計 | 1 学期 | 2 学期 | 小計 | |
| 経済的理由 | 2 | 1 | 3 | 2 | | 2 | | | | 5 |
| 家庭の事情 | | | | | | | | | | |
| 身体疾患 | | | | | | | | | | |
| 心神衰弱 | | | | | | | | | | |
| 進路変更(他教育機関) | | 7 | 7 | | 5 | 5 | 1 | 1 | 2 | 14 |
| 進路変更(就職) | 2 | 1 | 3 | | 3 | 3 | | | | 6 |
| 学力不足 | 1 | 1 | 2 | 1 | | 1 | | | | 3 |
| 就学意欲の低下 | 4 | 4 | 8 | 3 | 4 | 7 | 2 | 1 | 3 | 18 |
| 個人留学 | | | | | | | | | | |
| ワーキングホリデー | | | | | | | | | | |
| 大学院飛び入学 | | | | | | | | | | |
| 一身上の都合 | | | | | | | | | | |
| 在学年限超過 | | | | | | | | | | |
| 在留資格不許可 | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | 2 | | 2 | | | | 2 |
| 合 計 | 9 | 14 | 23 | 8 | 12 | 20 | 3 | 2 | 5 | 48 |

①-2 学科別・学年別の退学者数

| 学部 | 学科 | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 合計 |
|-------|---------------------|------|------|------|------|----|
| 外国語学部 | 外国語学科 | 5 | 3 | 8 | 7 | 23 |
| 経済学部 | 経済学科 | 1 | 3 | 6 | 2 | 12 |
| | 経営学科 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| 国際学部 | 国際学科 | 2 | | | | 2 |
| | グローバル ビジネス学 科 | 3 | | | | 3 |
| 合 計 | | 13 | 8 | 16 | 11 | 48 |

② 学部等別・学期別・理由別の除籍者数

| 理 由 | 外国語学部 | | | 経済学部 | | | 国際学部 | | | 学部合計 |
|------------|-------|------|----|------|------|----|------|------|----|------|
| | 1 学期 | 2 学期 | 小計 | 1 学期 | 2 学期 | 小計 | 1 学期 | 2 学期 | 小計 | |
| 学費未納 | 8 | 4 | 12 | 8 | 9 | 17 | | | | 29 |
| 在留資格/査証不交付 | | | | | | | | | | |
| 入学辞退 | | | | | | | | | | |
| 入学延期 | | | | | | | | | | |
| 修了単位未修得 | | | | | | | | | | |
| 死亡 | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 8 | 4 | 12 | 8 | 9 | 17 | | | | 29 |

②-2 学科別・学年別の除籍者数

| 学部 | 学科 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 合計 |
|-------|-------------|-----|-----|-----|-----|----|
| 外国語学部 | 外国語学科 | 2 | 2 | 2 | 6 | 12 |
| 経済学部 | 経済学科 | | 3 | | 3 | 6 |
| | 経営学科 | 1 | 2 | 4 | 4 | 11 |
| 国際学部 | 国際学科 | | | | | |
| | グローバルビジネス学科 | | | | | |
| 合計 | | 3 | 7 | 6 | 13 | 29 |

③学部等別・学期別・理由別の休学者数

| 理由 | 外国語学部 | | | 経済学部 | | | 国際学部 | | | 学部合計 |
|-------------|-------|-----|----|------|-----|----|------|-----|----|------|
| | 1学期 | 2学期 | 合計 | 1学期 | 2学期 | 合計 | 1学期 | 2学期 | 合計 | |
| 経済的理由 | | | | | | | | | | |
| 家庭の事情 | | 2 | 2 | 4 | 3 | 7 | 1 | | 1 | 10 |
| 身体疾患 | 1 | 1 | 2 | | | | | | | 2 |
| 心神衰弱 | 2 | 2 | 4 | | 1 | 1 | | | | 5 |
| 進路変更(他教育機関) | | 1 | 1 | 1 | | 1 | | | | 2 |
| 進路変更(就職) | 1 | | 1 | 1 | | 1 | | | | 2 |
| 学力不足 | 3 | 1 | 4 | 1 | | 1 | | | | 5 |
| 就学意欲の低下 | 2 | 13 | 15 | 2 | 3 | 5 | | 2 | 2 | 22 |
| 兵役のため | | | | 1 | 2 | 3 | | 1 | 1 | 4 |
| 個人留学 | | 1 | 1 | 1 | | 1 | | | | 2 |
| ワーキングホリデー | | | | | | | | | | |
| 合計 | 9 | 21 | 30 | 11 | 9 | 20 | 1 | 3 | 4 | 54 |

④学部等別・学期別の再入学者数

| | 外国語学部 | | | 経済学部 | | | 国際学部 | | | 学部計 |
|----|-------|-----|----|------|-----|----|------|-----|----|-----|
| | 1学期 | 2学期 | 小計 | 1学期 | 2学期 | 小計 | 1学期 | 2学期 | 小計 | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

⑤学部等別・学期別の復籍者数

| | 外国語学部 | | | 経済学部 | | | 国際学部 | | | 学部計 |
|----|-------|-----|----|------|-----|----|------|-----|----|-----|
| | 1学期 | 2学期 | 小計 | 1学期 | 2学期 | 小計 | 1学期 | 2学期 | 小計 | |
| 合計 | 3 | 4 | 7 | 4 | 3 | 7 | | 1 | 1 | 15 |

⑥学部等別・学期別の留年者

| 学部 | 学科 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 合計 |
|-------|-------------|-----|-----|-----|-----|----|
| 外国語学部 | 外国語学科 | | | | 24 | 24 |
| 経済学部 | 経済学科 | | | | 16 | 16 |
| | 経営学科 | | | | 19 | 19 |
| 国際学部 | 国際学科 | | | | | |
| | グローバルビジネス学科 | | | | | |
| 合計 | | | | | 59 | 59 |

⑦転部・転科・転専攻

2020年度 合格者なし

⑧編入学

| 外国語学部(2年次) | | | | 外国語学部(3年次) | | | | 学部計 | |
|-------------------|-----------------|-------|----|-----------------------|---------------------|---------------------|---------------------------|-----|----|
| 外国語学科 | | | 小計 | 外国語学科 | | | | | 小計 |
| 英語 コミュニケーション専攻 | 国際交流・ 国際協力専攻 | 中国語専攻 | | 英語 コミュニケーション 専攻 | 英語 リハビリアート専 攻 | 国際交流・ 国際協力専 攻 | 日本語・国際 コミュニケーション専 攻 | | |
| 2 | 4 | 2 | 8 | 6 | 1 | 2 | 3 | 12 | 20 |

※ダブルディグリーも含む。

| 経済学部(2年次) | | 経済学部(3年次) | | 学部計 |
|-----------|----|-----------|----|-----|
| 経営学科 | 小計 | 経営学科 | 小計 | |
| 経営専攻 | | 経営専攻 | | |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |

表 2-1-9 科目等履修生・聴講生数

| 科目等履修生 | | 小計 | 聴講生 | | 小計 | 合計 |
|--------|------|------|--------|------|--------|--------|
| 1学期 | 2学期 | | 1学期 | 2学期 | | |
| 5(1) | 3(1) | 6(2) | 13(10) | 0(0) | 13(10) | 19(12) |

表 2-1-10 大学独自の奨学金給付・貸与状況(授業料免除制度)(前年度実績)

29 頁の 2-6-2 経済的支援参照

表 2-1-11 学生の課外活動への支援状況(前年度実績)

30 頁の 2-6-3 課外活動支援、45 頁の 2-8-3 課外活動施設参照

表 2-1-12 学生相談

25 頁の 2-6-1 学生生活支援、36 頁の 2-7 学生相談を参照

表 2-1-13 成績評価基準

| 点数区分 | 評価の表示方法 | 合否 |
|---------|---------|-----|
| 100~90点 | S | 合格 |
| 89~80点 | A | |
| 79~70点 | B | |
| 69~60点 | C | |
| 59~40点 | D | 不合格 |
| 39~0点 | E | |

評価ごとのおおよその割合を次のとおり設定する。この割合には不合格者を含まない。

〈目途〉 S(90点以上) : 10%±5% A(80~89点) : 20%±5% B(70~79点) : 50%±5% C(60~69点) : 20%±5%

〈上限〉 S+A の合計を 35%以内とする。

〈対象〉 この基準は履修者 30 名以上のクラスに適用する

GPA

素点 100 点を GP の最高点 4.0 点とし、素点 60 点の GP を 1.0 点として換算する。素点を一定幅で GP に換算すると順位の逆転が起るので、本学では独自の換算表を利用している。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(各科目の GP} \times \text{単位数)の合計}}{\text{履修登録科目の単位数合計}}$$

換算表

| 素点 | 評価 | 変換点 GP | 素点 | 評価 | 変換点 GP | 素点 | 評価 | 変換点 GP | 素点 | 評価 | 変換点 GP |
|----|----|--------|----|----|--------|----|----|--------|-----|----|--------|
| 60 | C | 1.000 | 70 | B | 1.750 | 80 | A | 2.500 | 90 | S | 3.250 |
| 61 | C | 1.075 | 71 | B | 1.825 | 81 | A | 2.575 | 91 | S | 3.325 |
| 62 | C | 1.150 | 72 | B | 1.900 | 82 | A | 2.650 | 92 | S | 3.400 |
| 63 | C | 1.225 | 73 | B | 1.975 | 83 | A | 2.725 | 93 | S | 3.475 |
| 64 | C | 1.300 | 74 | B | 2.050 | 84 | A | 2.800 | 94 | S | 3.550 |
| 65 | C | 1.375 | 75 | B | 2.125 | 85 | A | 2.875 | 95 | S | 3.625 |
| 66 | C | 1.450 | 76 | B | 2.200 | 86 | A | 2.950 | 96 | S | 3.700 |
| 67 | C | 1.525 | 77 | B | 2.275 | 87 | A | 3.025 | 97 | S | 3.775 |
| 68 | C | 1.600 | 78 | B | 2.350 | 88 | A | 3.100 | 98 | S | 3.850 |
| 69 | C | 1.675 | 79 | B | 2.425 | 89 | A | 3.175 | 99 | S | 3.925 |
| | | | | | | | | | 100 | S | 4.000 |

表 2-1-14 修得単位状況 2021 年 3 月 1 日現在

① 1 年次

| 学部 | 学科 | 0 単位 | | 1-10 単位 | | 11-20 単位 | | 21-30 単位 | | 31-40 単位 | | 41-50 単位 | | 51 単位以上 | |
|-------|-------------|------|---|---------|---|----------|---|----------|----|----------|----|----------|----|---------|---|
| | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 外国語学部 | 外国語学科 | 2 | 1 | 5 | 2 | 5 | 2 | 22 | 9 | 122 | 51 | 83 | 35 | 0 | 0 |
| 経済学部 | 経済学科 | 0 | 0 | 4 | 3 | 11 | 8 | 9 | 7 | 97 | 74 | 11 | 8 | 0 | 0 |
| | 経営学科 | 4 | 3 | 5 | 4 | 8 | 6 | 19 | 14 | 95 | 70 | 4 | 3 | 0 | 0 |
| 国際学部 | 国際学科 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 4 | 6 | 36 | 52 | 27 | 39 | 0 | 0 |
| | グローバルビジネス学科 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 4 | 10 | 12 | 63 | 77 | 5 | 6 | 0 | 0 |

② 2 年次

| 学部 | 学科 | 0 単位 | | 1-10 単位 | | 11-20 単位 | | 21-30 単位 | | 31-40 単位 | | 41-50 単位 | | 51 単位以上 | |
|-------|-------|------|-----|---------|-----|----------|-----|----------|---|----------|----|----------|------|---------|-----|
| | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 外国語学部 | 外国語学科 | 1 | 0.5 | 4 | 1 | 8 | 2.5 | 16 | 5 | 166 | 51 | 109 | 34 | 19 | 6 |
| 経済学部 | 経済学科 | 0 | 0 | 3 | 1.5 | 8 | 4 | 11 | 6 | 92 | 49 | 72 | 39 | 1 | 0.5 |
| | 経営学科 | 0 | 0 | 1 | 0.5 | 5 | 3 | 11 | 7 | 59 | 39 | 71 | 46.5 | 6 | 4 |

③ 3 年次

| 学部 | 学科 | 0 単位 | | 1-10 単位 | | 11-20 単位 | | 21-30 単位 | | 31-40 単位 | | 41-50 単位 | | 51 単位以上 | |
|-------|-------|------|-----|---------|-----|----------|---|----------|------|----------|----|----------|------|---------|-----|
| | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 外国語学部 | 外国語学科 | 0 | 0 | 8 | 2 | 17 | 5 | 59 | 16 | 187 | 51 | 84 | 23 | 11 | 3 |
| 経済学部 | 経済学科 | 0 | 0 | 3 | 2 | 5 | 3 | 17 | 10.5 | 94 | 57 | 45 | 27 | 1 | 0.5 |
| | 経営学科 | 3 | 1.5 | 8 | 4.5 | 5 | 3 | 12 | 6.5 | 112 | 60 | 43 | 23.5 | 2 | 1 |

④ 4年次

| 学部 | 学科 | 0単位 人 % | | 1-10単位 人 % | | 11-20単位 人 % | | 21-30単位 人 % | | 31-40単位 人 % | | 41-50単位 人 % | | 51単位以上 人 % | |
|-------|-------|------------|-----|---------------|------|----------------|------|----------------|----|----------------|---|----------------|-----|---------------|-----|
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 外国語学部 | 外国語学科 | 0 | 0 | 176 | 49 | 118 | 32.5 | 44 | 12 | 18 | 5 | 5 | 1.3 | 1 | 0.2 |
| 経済学部 | 経済学科 | 0 | 0 | 114 | 59 | 45 | 23.5 | 15 | 8 | 10 | 5 | 6 | 3 | 3 | 1.5 |
| | 経営学科 | 4 | 2.5 | 97 | 58.5 | 27 | 16 | 15 | 9 | 13 | 8 | 9 | 5.5 | 1 | 0.5 |

※4年次生には5年次以上の留年者を含む。

表 2-1-15 年間履修登録単位数の上限と進級、卒業(修了)要件(単位数)

| | 学部・学科 年次 | 外国語学部 | 経済学部 | | 国際学部 | |
|------------------------------------|---|-------------------------|------|------|------|-------------|
| | | 外国語学科 | 経済学科 | 経営学科 | 国際学科 | グローバルビジネス学科 |
| 年間履修登録単位数の 上限 | 1年次 | 48 | 40 | 40 | 40 | 40 |
| | 2年次 | 48 | 48 | 48 | | |
| | 3年次 | 48 | 48 | 48 | | |
| | 4年次 | - | - | - | | |
| 進級の要件 (単位数) | 1年次 | - | - | - | | |
| | 2年次 | - | - | - | | |
| | 3年次 (2016カリ キュラムよ り 外国語学部 は「基礎演 習科目」、 ※経済学部 は「基礎科 目」6単 位、「基礎 専門科目」 16単位、 「共通科 目・道徳」4 単位、「共 通科目・教 養」10単 位を全て満 たす) | 英語コミュニケーション専攻 24(18) | ※40 | ※40 | | |
| | | 英語・リベラルアーツ専攻 24(18) | | | | |
| | | 国際交流・国際協力専攻 21 | | | | |
| | | ドイツ語・ドイツ文化専攻 24(18) | | | | |
| | | 中国語専攻 20(15) | | | | |
| 日本語・国際コミュニケーション(日本語を第一とする者) 21 | | | | | | |
| 日本語・国際コミュニケーション(日本語を第一としない者) 15 | | | | | | |
| 卒業の要件 (単位数) | | 124 | 124 | 124 | 124 | |

2-2 大学院

表 2-2-1 学生定員及び在籍学生数

2020年5月1日現在

| 研究科 | 専攻 | 入学定員 | 収容定員(A) | 在籍学生数 | | | | 充足率(B/A) |
|---------|------------|------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 計(B) | |
| 言語教育研究科 | 日本語教育学専攻D | - | 6 | - | 0 | 4 (3) | 4 (3) | 0.66 |
| | 比較文明文化専攻D | - | 3 | - | - | 3 (1) | 3 (1) | 1.00 |
| | 日本語教育学専攻M | 6 | 12 | 6 (4) | 10 (7) | 16 (11) | 16 (11) | 1.33 |
| | 計 | 6 | 21 | 6 (4) | 10 (7) | 7 (4) | 23 (15) | 1.09 |
| 経済研究科 | 経済学・経営学専攻D | 3 | 9 | 0 | 1 (1) | 1 (0) | 2 (1) | 0.22 |
| | 経済学専攻M | - | 3 | - | 1 (1) | - | 1 (1) | 0.33 |
| | 経営学専攻M | 10 | 20 | 7 (5) | 9 (5) | - | 16 (10) | 0.80 |
| | 計 | 13 | 32 | 7 (5) | 11 (7) | 1 (0) | 19 (12) | 0.59 |
| 学校教育研究科 | 道德教育専攻M | 6 | 12 | 6 (2) | 9 (5) | - | 15 (7) | 1.25 |
| | 計 | 6 | 12 | 6 (2) | 9 (5) | - | 15 (7) | 1.25 |
| 大学院合計 | | 25 | 65 | 19 (11) | 30 (19) | 8 (4) | 57 (34) | 0.87 |

()内は女子内数。 聴講生は含まない。

うち社会人学生数(社会人選抜で入学した者)：言語教育研究科 1名、学校教育研究科 6名

言語教育研究科日本語教育学専攻 D、比較文明文化専攻 D 及び経済研究科経済学専攻 M は募集停止。

言語教育研究科比較文明文化専攻 M 及び英語教育専攻 M は廃止。

表 2-2-2 出身国・地域別留学生数

()内は女子内数 2020年5月1日現在

| 国・地域名 | 大学院 |
|--------|---------|
| 中国 | 27 (15) |
| 台湾 | 2 (1) |
| ベトナム | 1 (1) |
| コンゴ共和国 | 1 (1) |
| スリランカ | 1 (1) |
| インドネシア | 1 (1) |
| 中国(香港) | 1 (0) |
| インド | 1 (1) |
| 小計 | 35 (21) |

表 2-2-3 学位授与数等

2021年3月31日現在

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 学位 | 学位授与数 | 単位取得退学 | 計 |
|---------|-----------|--------|-------------------|-------|--------|----|
| 言語教育研究科 | 日本語教育学専攻 | 博士課程前期 | 修士 (文学) | 9 | | 9 |
| | | 博士課程後期 | 博士 (文学) | | | |
| | 比較文明文化専攻 | 博士課程後期 | 博士 (文学) | 1 | | 1 |
| 計 | | | | 10 | | 10 |
| 経済研究科 | 経済学専攻 | 修士課程 | 修士 (経済学) | 1 | | 1 |
| | 経営学専攻 | 修士課程 | 修士 (経営学) | 6 | | 6 |
| | 経済学・経営学専攻 | 博士課程 | 博士 (経済学) (経営学) | 1 | | 1 |
| | 計 | | | | 8 | |
| 学校教育研究科 | 道德教育専攻 | 修士課程 | 修士 (教育学) | 5 | | 5 |
| | 計 | | | | 5 | |
| 大学院合計 | | | | 23 | 0 | 23 |

表 2-2-4 修了者の進路状況

2021年5月1日現在

| 区分 | 言語教育研究科 | | | 経済研究科 | | | 学校教育研究科 | | | 合計 | | | |
|----------|---------|-------|-------|--------|-------|-------|---------|--------|-------|-------|-------|-------|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| a. 就職希望者 | 0 | 8 | 8 | 2 | 5 | 7 | 3 | 2 | 5 | 5 | 15 | 20 | |
| b. 就職決定者 | 0 | 2 | 2 | 2 | 4 | 6 | 2 | 2 | 4 | 4 | 8 | 12 | |
| 内訳 | 企業就職 | 0 | 1 | 1 | 1 | 4 | 5 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 | 6 |
| | 公務員 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 教員 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 2 | 4 | 3 | 6 | |
| 就職率(b/a) | 0.0% | 25.0% | 25.0% | 100.0% | 80.0% | 85.7% | 66.6% | 100.0% | 80.0% | 57.9% | 53.3% | 60.0% | |
| 大学院進学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| その他進学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| その他* | 2 | 6 | 8 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 4 | 7 | 11 | |
| 修了者数 | 2 | 8 | 10 | 3 | 5 | 8 | 3 | 2 | 5 | 8 | 15 | 23 | |

※2020年9月修了者を含む。

*自営業、外国人留学生の帰国者、結婚など

表 2-2-5 学籍異動

退学者数・除籍者数・中退率

2020年5月1日現在

| | 研究科 | 専攻 | 課程 | 学位 | 入学者数 | 退学 除籍者数 | 中退率 % | |
|---------------|----------|----------|----------|------|------|------------|----------|------|
| 平成30年度 入学生 | 言語教育研究科 | 日本語教育学専攻 | 博士前期 | 修士 | 9 | | | |
| | | | 博士後期 | 博士 | 2 | | | |
| | | 比較文明文化専攻 | 博士前期 | 修士 | 3 | 1 | 0.3 | |
| | | | 博士後期 | 博士 | 3 | 1 | 0.3 | |
| | 英語教育専攻 | | 修士 | 修士 | 2 | | | |
| | 言語教育研究科計 | | | | | 19 | 2 | 0.1 |
| | 経済研究科 | 経済学専攻 | | 修士課程 | 修士 | 5 | | |
| | | | | 修士課程 | 修士 | 13 | 1 | 0.07 |
| | | | | 博士課程 | 博士 | 1 | | |
| | | 経済研究科計 | | | | | 19 | 1 |
| 学校教育研究科 | 道徳教育専攻 | | 修士課程 | 修士 | 7 | | | |
| | | 学校教育研究科計 | | | | | 7 | 0 |
| 令和元年度 入学生 | 言語教育研究科 | 日本語教育学専攻 | 博士前期 | 修士 | 8 | | | |
| | | | 博士後期 | 博士 | 0 | | | |
| | | 言語教育研究科計 | | | | | 8 | 0 |
| | 経済研究科 | 経営学専攻 | | 修士課程 | 修士 | 8 | | |
| | | | | 博士課程 | 博士 | 1 | | |
| | | 経済研究科計 | | | | | 9 | 0 |
| | 学校教育研究科 | 道徳教育専攻 | | 修士課程 | 修士 | 8 | | |
| | | | 学校教育研究科計 | | | | | 8 |

留年者数

2020年5月1日現在

| 研究科 | 専攻 | 課程 | 学位 | 在籍学生数 | | | |
|-------------|-----------|------|----|-------|-----|-----|---|
| | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 計 |
| 言語教育 研究科 | 日本語教育学専攻 | 博士前期 | 修士 | | 2 | | 2 |
| | | 博士後期 | 博士 | | | 2 | 2 |
| | 比較文明文化専攻 | 博士前期 | 修士 | | | | 0 |
| | | 博士後期 | 博士 | | | 1 | 1 |
| | 言語教育研究科計 | | | 0 | 2 | 3 | 5 |
| 経済 研究科 | 経済学専攻 | 修士課程 | 修士 | | 1 | | 1 |
| | 経営学専攻 | 修士課程 | 修士 | | 1 | | 1 |
| | 経済学・経営学専攻 | 博士課程 | 博士 | | | | 0 |
| | 経済研究科計 | | | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 学校教育 研究科 | 道德教育専攻 | 修士課程 | 修士 | | 1 | | 1 |
| | 学校教育研究科計 | | | 0 | 1 | | 1 |

※長期履修者含む

表 2-2-6 研究生・科目等履修生・聴講生

| 研究科 | 科目等履修生 | | | 聴講生 | | | 合計 |
|---------|--------|-----|----|-----|-----|----|----|
| | 1学期 | 2学期 | 小計 | 1学期 | 2学期 | 小計 | |
| 言語教育研究科 | 2 | 2 | 4 | | | 0 | 4 |
| 経済研究科 | | | 0 | | | 0 | 0 |
| 合計 | 2 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 |

表 2-2-7 成績評価基準

| 点数区分 | 評価の表示方法 | 可否 |
|---------|---------|-----|
| 100～90点 | S | 合格 |
| 89～80点 | A | |
| 79～70点 | B | |
| 69～60点 | C | |
| 59～40点 | D | 不合格 |
| 39～0点 | E | |

3. 施設・設備

表 3-1 用途別校地面積一覧

| 用途区分 | 面積(m ²) | 所在地 | 権利の所属 |
|-------|---------------------|----------------|-------|
| 校舎敷地 | 68,475.08 | 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1 | 自己所有 |
| 運動場用地 | 24,773.00 | 〃 | 〃 |
| その他 | 41,514.00 | 〃 | 〃 |
| 合計 | 134,762.08 | | |

表 3-2-1 校舎等面積一覧

| 建物区分 | 面積(m ²) | 室数 | 構造 | 用途 |
|----------------------------|---------------------|-----------------|-------------------------|-------------|
| 校舎かえで | 10,144.84 | 教室 30 | 鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺 6 階建 | 講義室・事務室 |
| 校舎あすなろ | 5,975.88 | 教室 33 | 鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建 | 講義室・事務室 |
| 校舎あすなろ守衛所 | 9.17 | — | 鉄筋コンクリート陸屋根平屋 | 守衛所 |
| 生涯教育プラザ | 6,243.26 | 教室 17 研究室 31 | 鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根 5 階建 | 講義室・研究室・事務室 |
| 生涯教育プラザ守衛所 | 18.53 | — | 鉄筋コンクリート陸屋根平家建 | 守衛室 |
| 学生会館ひいらぎ | 1,888.95 | — | 鉄骨造アルミニウム板葺 2 階建 | 食堂 |
| 研究室 ALSC | 2,119.28 | 教室 7 研究室 48 | 鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建 | 講義室・研究室・事務室 |
| 研究室 BEE | 4,183.44 | 研究室 76 | 鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建 | 研究室・事務室 |
| 図書館 | 6,228.15 | 席数 321 | 鉄筋コンクリート造地下 2 階地上 4 階建 | 図書館 |
| 第 1 体育館 | 3,378.15 | — | 鉄筋コンクリート造 2 階建 | 体育館 |
| 武道館(高校と共用) | 1,764.25 | — | 鉄骨鉄筋コンクリート鉄板葺 3 階建 | 武道館 |
| 学生寮 A 棟 | 2,019.37 | 寮室数 48 | 鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき 3 階建 | 寄宿舎 |
| 学生寮 B 棟 | 1,964.81 | 寮室数 72 | 鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき 3 階建 | 寄宿舎 |
| 学生寮 C 棟 | 2,604.18 | 寮室数 96 | 鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき 4 階建 | 寄宿舎 |
| 学生寮 D 棟 | 3,671.77 | 寮室数 114 | 鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建 | 寄宿舎 |
| スチューデントプラザ はなみずき(学生ホール) | 577.73 | — | 鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平家建 | 学生会館 |
| スチューデントプラザ はなみずき(ゴミ置場) | 6.25 | — | 鉄筋コンクリート造亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建 | 学生会館 |
| 合計 | 52,798.01 | | | |

表 3-2-2 附属施設の概要(図書館除く)

| 名称 | 面積の合計(m ²) | 専用・共用の別 | 収容人数(総数) 該当箇所のみ記載 | 開館時間等 (該当する場合のみ記載) | スタッフ数 該当する場合のみ記載 | | 主な用途 |
|------|------------------------|---------|----------------------|-----------------------|---------------------|-----|------|
| | | | | | 常勤 | 非常勤 | |
| 該当なし | | | | | | | |

表 3-2-3 図書館の開館状況

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 開館時間 | 月曜日～金曜日：9:00～18:45 |
| 休館日 | 土曜日・日曜日、国民の祝日、入学式、学位記授与式、入学試験日、長期休暇中他 |
| 年間開館日数 | 240日 |

表 3-2-4 情報センター等の状況

| 情報センター等の名称 | 座席数 | コンピュータ台数 | 開館時間等 | 開館日数週当たり | スタッフ数 |
|-------------------------|-----|----------|----------------------------|----------|-------|
| 大学 IT ソリューションセンターヘルプデスク | 3 | 4 | 平日 9:30～18:00 (短縮開室日あり) | 5 | 2 |

表 3-3 コンピュータ設備 ※大学 IT ソリューションセンターの設置 PC のみ記載

表 3-3-1 校舎かえで

| 教室・施設名 | 台数 | 計 365 台 |
|--------------------------|----|---------|
| 1301 教室 | PC | 58 |
| 1302 教室 | PC | 34 |
| 1303 教室 | PC | 60 |
| 1304 教室 | PC | 1 |
| 1307 教室 | PC | 34 |
| 1308 教室 | PC | 74 |
| 1403 教室 | PC | 1 |
| 1404 教室 | PC | 1 |
| 1405 教室 | PC | 1 |
| 1406 教室 | PC | 1 |
| 1407 教室 | PC | 1 |
| 1408 教室 | PC | 1 |
| 1409 教室 | PC | 1 |
| 1410 教室 | PC | 1 |
| 1412 教室 | PC | 1 |
| 1413 教室 | PC | 1 |
| 1501 教室 | PC | 1 |
| 1502 教室 | PC | 1 |
| 1503 教室 | PC | 1 |
| 1504 教室 | PC | 1 |
| 1505 教室 | PC | 1 |
| 1601 教室 | PC | 1 |
| 1602 教室 | PC | 1 |
| 1603 教室 | PC | 1 |
| 印刷専用端末 | PC | 8 |
| キャリアセンター | PC | 3 |
| 学長室・副学長室・学部長室 | PC | 8 |
| 教員控室 | PC | 4 |
| 大学 IT ソリューションセンター・ヘルプデスク | PC | 8 |
| 貸出用ノート | PC | 36 |
| 予備 | PC | 19 |

表 3-3-2 ALSC・BEE

表 3-3-4 校舎あすなる

| 教室・施設名 | 台数 | 計 15 台 |
|----------------|----|--------|
| Media Zone | PC | 9 |
| Writing Center | PC | 2 |
| 2503 教室 | PC | 1 |
| 2504 教室 | PC | 1 |
| 2505 教室 | PC | 1 |
| 2508 教室 | PC | 1 |

表 3-3-5 生涯教育プラザ

| 教室・施設名 | 台数 | 計 59 台 |
|-------------------|----|--------|
| 1 階 PC ルーム | PC | 31 |
| 日本語教育コラボレーションセンタ | PC | 6 |
| 4・5 階ブラウジング | PC | 16 |
| 大学 IT ソリューションセンター | PC | 6 |

表 3-3-6 共同利用資源

| 共同利用資源名 | 台数 | 計 36 台 |
|---------------|-----|--------|
| PC 資源配布サーバ | サーバ | 1 |
| PC ログ管理用サーバ | サーバ | 1 |
| 印刷管理サーバ | サーバ | 3 |
| ネットワークカメラサーバ | サーバ | 2 |
| メーリングリストサーバ | サーバ | 1 |
| TypeQuick | サーバ | 1 |
| AmiVoice サーバ | サーバ | 1 |
| Moodle サーバ | サーバ | 1 |
| バックアップサーバ | サーバ | 2 |
| アカウント管理サーバ | サーバ | 2 |
| 認証サーバ | サーバ | 2 |
| 共用ファイルサーバ | サーバ | 1 |
| 認証ゲートウェイ | サーバ | 2 |
| アンチウイルスゲートウェイ | サーバ | 2 |
| 統合脅威管理 | サーバ | 2 |
| リモートアクセス(VPN) | サーバ | 1 |

| 教室・施設名 | 台数 | 計 9 台 |
|---------------|----|-------|
| ALSC 事務室・印刷室 | PC | 7 |
| BEE 印刷室、客員教授室 | PC | 2 |

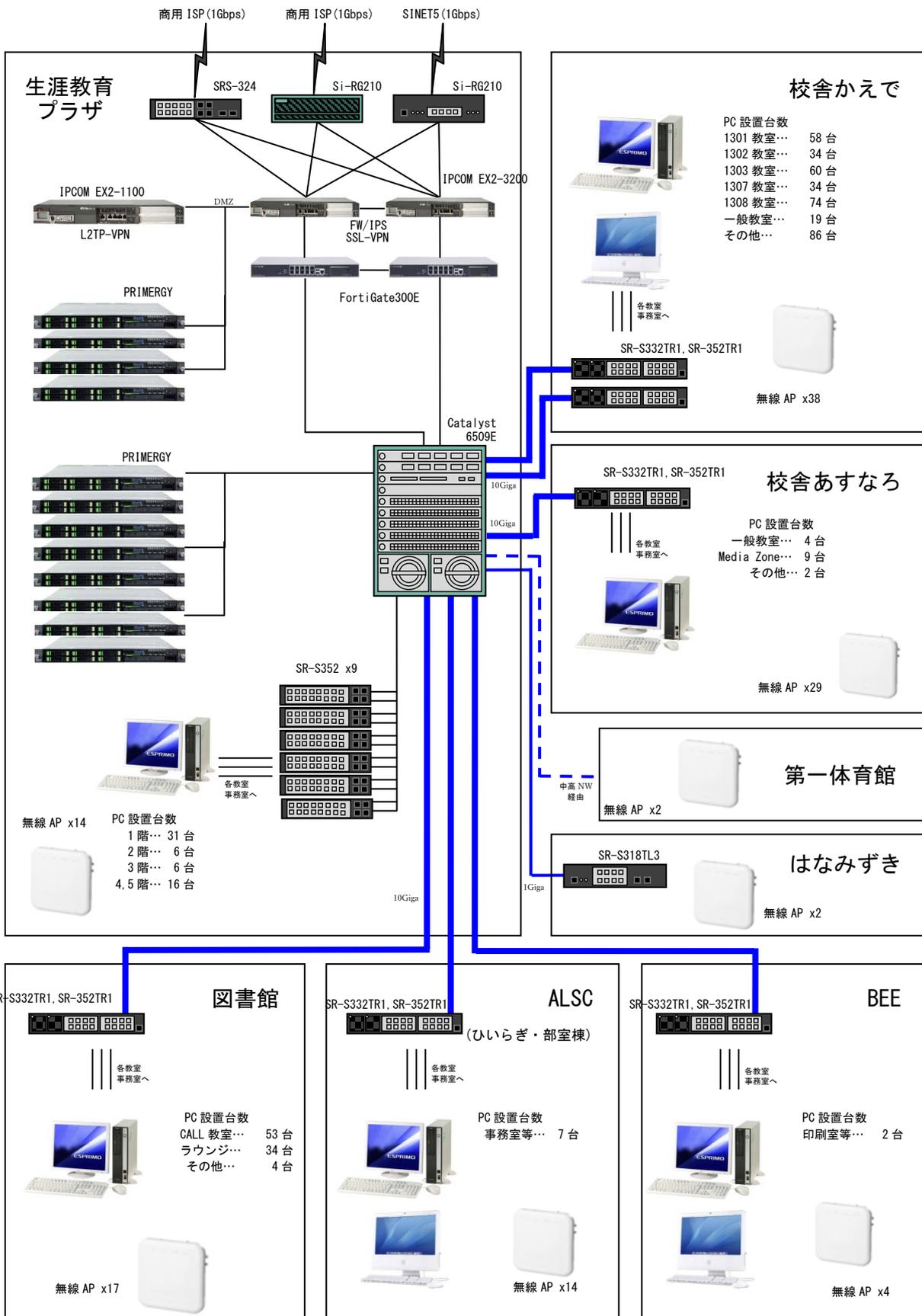
表 3-3-3 図書館

| 教室・施設名 | 台数 | 計 91 台 |
|--------------|----|--------|
| 3 階 CALL 教室 | PC | 53 |
| 3 階グループ学習室 A | PC | 1 |
| 3 階グループ学習室 B | PC | 1 |
| 3 階グループ学習室 C | PC | 1 |
| 3 階 AV ホール | PC | 1 |
| 4 階ラウンジ | PC | 34 |

| | | |
|-------------------|-----|---|
| Web サーバ | サーバ | 2 |
| プロキシサーバ | サーバ | 2 |
| DNS サーバ | サーバ | 2 |
| メール中継サーバ | サーバ | 1 |
| Gsuite アカウント連携サーバ | サーバ | 1 |
| 管理 WS サーバ | サーバ | 1 |
| ストレージシステム | サーバ | 1 |
| 汎用サーバ | サーバ | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |

| | | |
|--------------|--------------|---------------|
| PC : 計 539 台 | サーバ : 計 36 台 | プリンタ : 計 42 台 |
|--------------|--------------|---------------|

情報ネットワーク構成図



コンピュータ利用状況

| | |
|-------------|-----------|
| 登録ユーザ数 | 4,620 |
| 総ファイル容量[MB] | 5,236,177 |

プリンタ印刷枚数

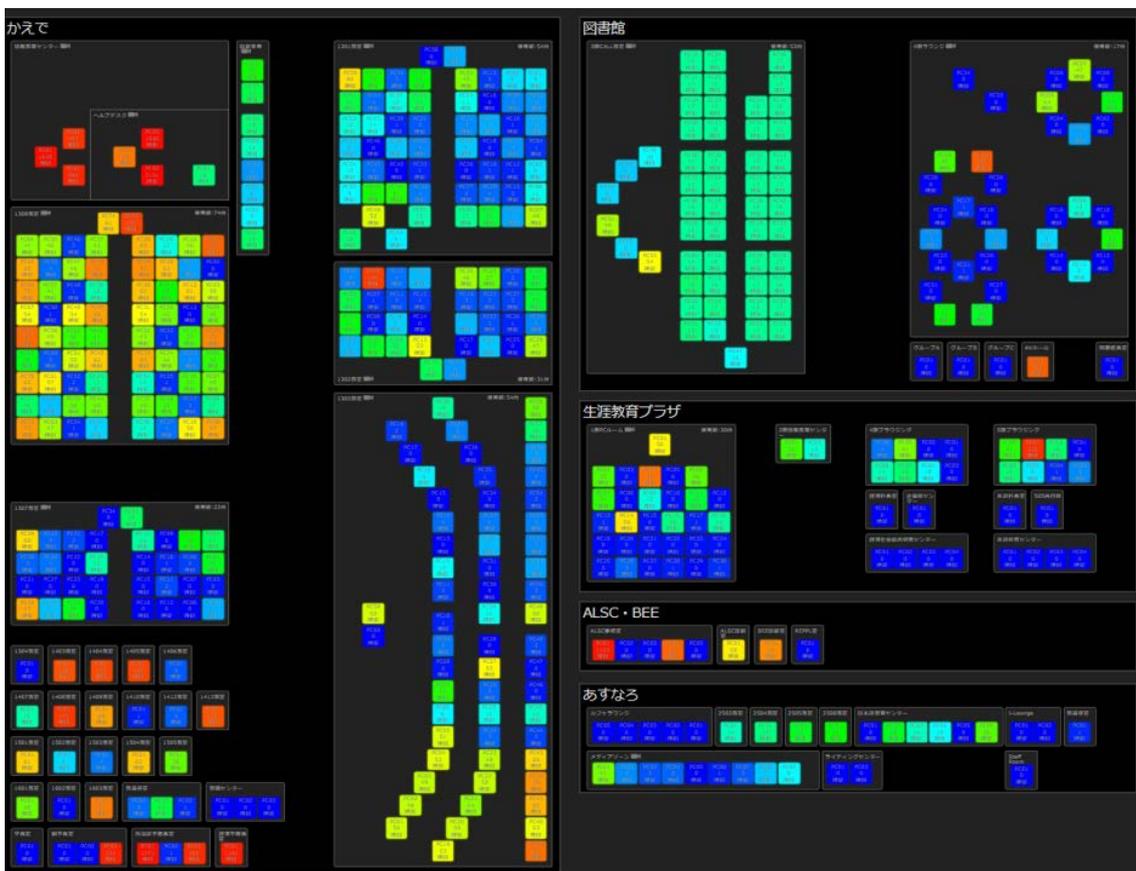
| | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | |
| 27,596 | 6,327 | 13,991 | 16,421 | 27,665 | 37,768 | |
| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 33,849 | 31,195 | 33,042 | 39,751 | 22,239 | 30,767 | 320,807 |

ヘルプデスク利用件数

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|----|-----|-------|
| 申請 | 相談 | 整備 | 忘れ物 | 障害 | その他 | 合計 |
| 866 | 869 | 121 | 15 | 17 | 5 | 1,893 |

PC 利用統計及びヒートマップ

| | | |
|------------|-------------|------------------------|
| PC 合計利用時間* | 21,607 [時間] | ※貸出用 PC 等除く 498 台の利用時間 |
| PC 平均利用時間 | 43 [時間/台] | |



PC 教室 通常授業数ヒートマップ

年間の授業コマ数 30 コマに対する使用コマ数を下記に示す。

: 0~9 コマ
 : 10~19 コマ
 : 20~30 コマ

1301 教室

| 時 限曜日 | 1 限 | 2 限 | 3 限 | 4 限 | 5 限 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 月 | 0 | 0 | 15 | 0 | 0 |
| 火 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 木 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

1307 教室

| 時 限曜日 | 1 限 | 2 限 | 3 限 | 4 限 | 5 限 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 火 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 木 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

1302 教室

| 時 限曜日 | 1 限 | 2 限 | 3 限 | 4 限 | 5 限 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 月 | 0 | 0 | 15 | 0 | 0 |
| 火 | 15 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 木 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

1308 教室

| 時 限曜日 | 1 限 | 2 限 | 3 限 | 4 限 | 5 限 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 月 | 0 | 15 | 15 | 15 | 0 |
| 火 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水 | 0 | 0 | 0 | 15 | 0 |
| 木 | 0 | 15 | 0 | 0 | 0 |
| 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

1303 教室

| 時 限曜日 | 1 限 | 2 限 | 3 限 | 4 限 | 5 限 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 月 | 0 | 0 | 15 | 0 | 0 |
| 火 | 0 | 15 | 0 | 0 | 0 |
| 水 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 木 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

CALL 教室

| 時 限曜日 | 1 限 | 2 限 | 3 限 | 4 限 | 5 限 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 火 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 木 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

4. 2021 年度入試結果及び入学状況

表 4-1 外国語学部

| 入試区分 | 専攻名 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 合格倍率 | 入学者数 |
|----------------------------|---|------------|-------------------|-------------------|-------------------|------------|------------------|
| 総合型選抜/学校推薦型選抜 (年内実施分) | 英語コミュニケーション | | 68 (47) | 68 (47) | 58 (42) | 1.2 | 55 (40) |
| | 英語・リハ ^レ ラルアーツ | | 31 (20) | 31 (20) | 30 (19) | 1.0 | 24 (15) |
| | ト ^イ ツ語・ヨーロッパ | | 13 (12) | 12 (11) | 11 (11) | 1.1 | 9 (9) |
| | 中国語・グ ^ロ バ ^ル コミュニケーション | | 14 (7) | 14 (7) | 13 (6) | 1.1 | 11 (4) |
| | 小 計 | 110 | 126 (86) | 125 (85) | 112 (78) | 1.1 | 99 (68) |
| 一般選抜選抜/学校推薦型選抜 (年明け実施分) | 英語コミュニケーション | | 583 (335) | 544 (309) | 297 (177) | 1.8 | 50 (29) |
| | 英語・リハ ^レ ラルアーツ | | 403 (229) | 368 (202) | 355 (194) | 1.0 | 28 (17) |
| | ト ^イ ツ語・ヨーロッパ | | 226 (124) | 205 (109) | 201 (106) | 1.0 | 9 (5) |
| | 中国語・グ ^ロ バ ^ル コミュニケーション | | 158 (115) | 143 (102) | 140 (99) | 1.0 | 13 (9) |
| | 小 計 | 110 | 1370 (803) | 1260 (722) | 993 (576) | 1.3 | 100 (60) |
| 全入試合計 | 英語コミュニケーション | 80 | 651 (382) | 612 (356) | 355 (219) | 1.7 | 105 (69) |
| | 英語・リハ ^レ ラルアーツ | 80 | 434 (249) | 399 (222) | 385 (213) | 1.04 | 52 (32) |
| | ト ^イ ツ語・ヨーロッパ | 30 | 239 (136) | 217 (120) | 212 (117) | 1.0 | 18 (14) |
| | 中国語・グ ^ロ バ ^ル コミュニケーション | 30 | 172 (122) | 157 (109) | 153 (105) | 1.0 | 24 (13) |
| | 合 計 | 220 | 1496 (889) | 1385 (807) | 1105 (654) | 1.3 | 199 (128) |

() 内は女子内数

表 4-2 外国語学部編入学試験

| 編入学試験区分 | 専攻 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 合格倍率 | 入学者数 | |
|------------|------------|---|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------|
| 合計 | 2年次 | 英語コミュニケーション | 若干名 | 6 (2) | 6 (2) | 5 (2) | 1.2 | 4 (2) |
| | | 英語コミュニケーション | | 6 (2) | 6 (2) | 5 (2) | 1.2 | 4 (2) |
| | | 英語・リハ ^レ ラルアーツ | | 7 (1) | 7 (1) | 7 (1) | 1.0 | 7 (1) |
| | | ト ^イ ツ語・ト ^イ ツ文化 | 若干名 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | | 中国語・グ ^ロ バ ^ル コミュニケーション | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | 小 計 | | 13 (3) | 13 (3) | 12 (3) | 1.1 | 11 (3) | |
| | 3年次 | 英語コミュニケーション | 若干名 | 4 (2) | 4 (2) | 3 (2) | 1.3 | 2 (1) |
| | | 英語・リハ ^レ ラルアーツ | | 5 (2) | 5 (2) | 5 (2) | 1.0 | 5 (2) |
| | | 国際交流・国際協力 | | 2 (1) | 2 (1) | 2 (0) | 1.0 | 2 (1) |
| | | ト ^イ ツ語・ト ^イ ツ文化 | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | | 中国語 | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (1) | — | 0 (0) |
| | | 日本語・国際コミュニケーション | | 7 (3) | 7 (3) | 2 (1) | 3.5 | 1 (1) |
| | | 日本語・国際コミュニケーション (ダブルディグリー) | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| 小 計 | | 18 (8) | 18 (8) | 12 (6) | 1.5 | 10 (5) | | |

() 内は女子内数

表 4-3 経済学部

| 入試区分 | 学科名 | 専攻 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 合格倍率 | 入学者数 |
|---------------------------|------|-------------------------|------|------------|------------|------------|------|----------|
| 総合型選抜/学校推薦型選抜/ (年内実施分) | 経済学科 | 経済専攻 | 約55 | 52 (7) | 52 (7) | 47 (7) | 1.1 | 46 (6) |
| | | 観光・地域創生専攻 | | 13 (3) | 13 (3) | 12 (3) | 1.1 | 12 (3) |
| | 経営学科 | 経営専攻 | 約55 | 38 (8) | 38 (8) | 27 (8) | 1.4 | 26 (8) |
| | | AI・ビジネス専攻 スポーツビジネス専攻 | | 17 (7) | 17 (7) | 14 (7) | 1.2 | 14 (7) |
| | 小計 | | 約110 | 143 (29) | 143 (29) | 119 (28) | 1.2 | 115 (25) |
| 一般選抜/学校推薦型 (年明け実施分) | 経済学科 | 経済専攻 | 約55 | 692 (136) | 647 (124) | 315 (59) | 2.1 | 43 (4) |
| | | 観光・地域創生専攻 | | 274 (79) | 250 (72) | 124 (35) | 2.0 | 8 (2) |
| | 経営学科 | 経営専攻 | 約55 | 621 (136) | 576 (123) | 286 (60) | 2.0 | 22 (6) |
| | | AI・ビジネス専攻 スポーツビジネス専攻 | | 390 (88) | 359 (80) | 185 (36) | 1.9 | 23 (3) |
| | 小計 | | 約110 | 2126 (469) | 1973 (427) | 981 (202) | 2.0 | 98 (15) |
| 外国人留学生の合計 (内数) | 経済学科 | 経済専攻 | 約10 | 11 (4) | 10 (4) | 1 (0) | 10.0 | 0 (0) |
| | | 観光・地域創生専攻 | | 13 (4) | 12 (4) | 2 (1) | 6.0 | 0 (0) |
| | 経営学科 | 経営専攻 | 約10 | 22 (8) | 21 (8) | 6 (2) | 3.5 | 2 (0) |
| | | AI・ビジネス専攻 スポーツビジネス専攻 | | 8 (3) | 8 (3) | 1 (0) | 8.0 | 1 (0) |
| | 小計 | | 約20 | 62 (21) | 59 (21) | 13 (4) | 4.5 | 5 (1) |
| 全入試合計 | 経済学科 | 経済専攻 | 110 | 755 (147) | 709 (135) | 363 (66) | 2.0 | 89 (10) |
| | | 観光・地域創生専攻 | | 300 (86) | 275 (79) | 138 (39) | 2.0 | 20 (5) |
| | 経営学科 | 経営専攻 | 110 | 681 (152) | 635 (139) | 319 (70) | 2.0 | 50 (14) |
| | | AI・ビジネス専攻 スポーツビジネス専攻 | | 415 (98) | 384 (90) | 200 (43) | 1.9 | 38 (10) |
| | 合計 | | 220 | 2331 (519) | 2175 (477) | 1113 (234) | 2.0 | 218 (41) |

※ () 内は女子内数

表 4-4 経済学部編入学試験

| 編入学試験区分 | 学科名 | 専攻 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 最終合格者数 | 合格倍率 | 入学予定者数 | |
|---------|-----|------|--------------------------|------|-------|--------|-------|--------|-------|
| 合計 | 2年次 | 経済学科 | 経済専攻 | 若干名 | 1 (1) | 1 (1) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | | | 観光・地域創生専攻 | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | | 経営学科 | 経営専攻 | | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 1.0 | 1 (0) |
| | | | AI・ビジネス専攻 スポーツビジネス専攻 | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | | 小計 | | | 2 (1) | 2 (1) | 1 (0) | 2.0 | 1 (0) |
| | 3年次 | 経済学科 | 経済専攻 | 若干名 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | | | グローバル人材育成専攻 | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | | 経営学科 | 経営専攻 | | 1 (0) | 1 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | | | 会計ファイナンス専攻 スポーツビジネス専攻 | | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |
| | | 小計 | | | 1 (0) | 1 (0) | 0 (0) | — | 0 (0) |

※ () 内は女子内数

表 4-5 国際学部

| 入試区分 | 学科名 | 専攻名 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 合格倍率 | 入学者数 |
|------------------------------------|-------------|-----------------|------|------------|------------|-----------|------|----------|
| 総合型選抜/学校推薦型選抜/ 留学生入試 (年内実施分) | 国際学科 | 日本学・国際コミュニケーション | 40 | 12 (6) | 12 (6) | 10 (5) | 1.2 | 9 (5) |
| | | 国際交流・国際協力 | | 20 (16) | 20 (16) | 18 (15) | 1.1 | 15 (12) |
| | グローバルビジネス学科 | グローバルビジネス | 40 | 23 (14) | 22 (13) | 20 (12) | 1.1 | 20 (12) |
| | 小計 | | 80 | 55 (36) | 54 (35) | 48 (32) | 1.1 | 44 (29) |
| 一般選抜/留学生/ 学校推薦型選抜 (年明け実施分) | 国際学科 | 日本学・国際コミュニケーション | 40 | 357 (198) | 326 (182) | 318 (180) | 1.0 | 26 (12) |
| | | 国際交流・国際協力 | | 362 (215) | 335 (201) | 220 (138) | 1.5 | 19 (9) |
| | グローバルビジネス学科 | グローバルビジネス | 40 | 387 (201) | 355 (184) | 342 (178) | 1.0 | 37 (12) |
| | 小計 | | 80 | 1106 (614) | 1016 (567) | 880 (496) | 1.2 | 82 (33) |
| 全入試合計 | 国際学科 | 日本学・国際コミュニケーション | 80 | 369 (204) | 338 (188) | 328 (185) | 1.0 | 35 (17) |
| | | 国際交流・国際協力 | | 382 (231) | 355 (217) | 238 (153) | 1.5 | 34 (21) |
| | グローバルビジネス学科 | グローバルビジネス | 80 | 410 (215) | 377 (197) | 362 (190) | 1.0 | 57 (24) |
| | 合計 | | 160 | 1161 (650) | 1070 (602) | 928 (528) | 1.2 | 126 (62) |

() 内は女子内数

表 4-6 国際学部編入学試験

| 編入学試験区分 | | 学科名 | 専攻名 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 合格倍率 | 入学予定者数 |
|---------|-----|-------------|------------------|------|--------|-------|-------|-------|--------|
| 合計 | 2年次 | 国際学科 | 日本文学・国際コミュニケーション | 若干名 | 4 (1) | 4 (1) | 4 (1) | 1.0 | 3 (1) |
| | | | 国際交流・国際協力 | | 3 (1) | 3 (1) | 2 (1) | 1.5 | 2 (1) |
| | | グローバルビジネス学科 | グローバルビジネス | | 3 (1) | 3 (1) | 3 (1) | 1.0 | 3 (1) |
| | | 合計 | 10 (3) | | 10 (3) | 9 (3) | 1.1 | 8 (3) | |

※ ()内は女子内数

表 4-7 言語教育研究科

① 博士前期課程 (I 期)

| 専攻名 | 選抜区分 | 募集人員 | 出身区分 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者 |
|-----------|------|---------------|-------|-------|-------|------|-----|
| 日本語教 専 | 一般 | Ⅱ期と合 計 6 名 | 本学出身者 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 1 (1) | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | 計 | 1 (1) | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 社会人 | | 本学出身者 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | 計 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 特別推薦 | | 本学出身者 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | 計 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | 合計 | 6 名 | 1 (1) | 0 - | 0 - |

※ ()内は女子内数

② 博士前期課程 (Ⅱ期)

| 専攻名 | 選抜区分 | 募集人員 | 出身区分 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者 |
|-----------|------|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 日本語教 専 | 一般 | Ⅰ期と合 計 6 名 | 本学出身者 | 1 (1) | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | 計 | 1 (1) | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 社会人 | | 本学出身者 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | 計 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 特別推薦 | | 本学出身者 | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) |
| | | | その他 | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) |
| | | | 計 | 2 (2) | 2 (2) | 2 (2) | 2 (2) |
| 合計 | 6 名 | 3 (3) | 2 (2) | 2 (2) | 2 (2) | | |

※ ()内は女子内数

表4-8 経済研究科

① 博士課程

| 専攻名 | 選抜区分 | 募集人員 | 出身区分 | 志願者 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|--------------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 経済学・経営 専攻 | 一般 | 約3名 | 本院出身者 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) |
| | 特別推薦 | | 本院出身者 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| 合計 | | 3名 | | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) |

※()内は女子内数

② 修士課程(I期)

| 専攻名 | 選抜区分 | 募集人員 | 出身区分 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| 経営学専 | 一般 | 約7名 | 本学出身 | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 特別推薦 | | 本学出身 | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| 合計 | | | | 2 (1) | 2 (1) | 2 (1) | 1 (0) |

※()内は女子内数

③ 修士課程(II期)

| 専攻名 | 選抜区分 | 募集人員 | 出身区分 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 経営学専 | 一般 | 約3名 | 本学出身 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 特別推薦 | | 本学出身 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| 合計 | | | | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |

※()内は女子内数

表4-9 学校教育研究科

① 修士課程(I期)

| 専攻名 | 選抜区分 | 募集人員 | 出身区分 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|------------|----------------|------|------|------|------|------|------|
| 道德教育 専攻 | 一般選抜 | 約3名 | 本学出身 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 特別選抜 (社会人) | | 本学出身 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 特別選抜 (現職教員) | | 本学出身 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| 合計 | | 3名 | | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |

※()内は女子内数

② 修士課程(II期)

| 専攻名 | 選抜区分 | 募集人員 | 出身区分 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|------------|----------------|------|------|------|------|------|------|
| 道德教育 専攻 | 一般選抜 | 約3名 | 本学出身 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 特別選抜 (社会人) | | 本学出身 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | 特別選抜 (現職教員) | | 本学出身 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| | | | その他 | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |
| 合計 | | 3名 | | 0 - | 0 - | 0 - | 0 - |

※()内は女子内数

5. 就職支援

表 5-1 インターンシップ

1 短期インターンシップ 受入企業・団体 (企業名 50 音順)

| | 受入企業名 | 受入期間(括弧内は実働日数) | 受入人数 |
|---|-----------------------|------------------------|------|
| 1 | 我孫子市役所 | 8月27日(実働1日間) | 1名 |
| 2 | 流山市役所 | 8月24日～8月28日 (実働5日間) | 2名 |
| 3 | 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 | 2月18日(実働1日間) | 2名 |

表 5-2 就活サポーター(学生)による支援活動 RUCS

| 内 容 | 対象年次 | 開催・実施日 | 参加者数 |
|------------------------------------|-------|--------|------|
| YouTube 動画作成： 就活サポーターの紹介 | 3年次以下 | 11月 | 66名 |
| YouTube 動画作成： 業界・企業研究 | 3年次以下 | 12月 | 54名 |
| YouTube 動画作成： 就活サポーターなんでも相談会の案内 | 3年次以下 | 2月 | 64名 |
| 就職活動等に関する相談会の実施(第1回) | 3年次以下 | 10月 | 6名 |
| 就職活動等に関する相談会の実施(第2回) | 3年次以下 | 11月 | 13名 |
| 就職活動等に関する相談会の実施(第3回) | 3年次以下 | 12月 | 16名 |
| 就職活動等に関する相談会の実施(第4回) | 3年次以下 | 1月 | 8名 |
| 就職活動等に関する相談会の実施(第5回) | 3年次以下 | 2月 | 5名 |

表 5-3 就職指導・ガイダンス関連活動

| 内 容 | 対象年次 | 開催・実施日 | 参加者数 |
|------------------------------------|-------|-------------------|-------------|
| 留学生対象キャリアガイダンス(4年次) | 4年次 | 5月8日 | 12名 |
| 留学生対象キャリアガイダンス(1～3年次) | 4年次以下 | 1月9日 | 168名 |
| 日本での就活おさらい、留学生対象合同面接会の案内と参加のための登録会 | 4年次 | 5月8日 | 11名 |
| 職業適性検査 (GPS) | 3年次 | 8月中に実施 | 404名 |
| 合同企業セミナーの歩き方 | 3年次 | 1月14日(全3年生に向けて配信) | 全3年生 へ配信 |
| グローバル企業研究会 | 3・2年次 | 通年実施(毎週木曜日) | 54名 |
| 求人紹介フェア | 4年次 | 9月5日 | 17名 |
| 筆記試験対策 直前講座 | 3年次 | 2月25日 | 79名 |

表 5-4 業界・企業・職種研究関連活動

| 内 容 | 対象年次 | 開催・実施日 | 参加者数 | 参加企業数 |
|-------------|------|--------|------|-------|
| 個別企業説明会[1] | 4年次 | 6月23日 | 6名 | 1社 |
| 個別企業説明会[2] | 4年次 | 6月23日 | 8名 | 1社 |
| 個別企業説明会[3] | 4年次 | 8月27日 | 6名 | 1社 |
| 個別企業説明会[4] | 4年次 | 9月8日 | 6名 | 1社 |
| 個別企業説明会[5] | 4年次 | 9月9日 | 2名 | 1社 |
| 個別企業説明会[6] | 4年次 | 9月10日 | 7名 | 1社 |
| 個別企業説明会[7] | 4年次 | 9月11日 | 9名 | 1社 |
| 個別企業説明会[8] | 4年次 | 9月14日 | 3名 | 1社 |
| 個別企業説明会[9] | 4年次 | 9月15日 | 1名 | 1社 |
| 個別企業説明会[10] | 4年次 | 9月16日 | 4名 | 1社 |
| 個別企業説明会[11] | 4年次 | 9月18日 | 4名 | 1社 |

| | | | | |
|--------------------------|-----|--------|------|-----|
| 個別企業説明会[12] | 4年次 | 9月23日 | 1名 | 1社 |
| 個別企業説明会[13] | 4年次 | 9月24日 | 11名 | 1社 |
| 個別企業説明会[14] | 4年次 | 9月25日 | 3名 | 1社 |
| 個別企業説明会[15] | 4年次 | 9月28日 | 3名 | 1社 |
| 個別企業説明会[16] | 4年次 | 9月29日 | 10名 | 1社 |
| 個別企業説明会[17] | 4年次 | 9月30日 | 3名 | 1社 |
| 個別企業説明会[18] | 4年次 | 10月2日 | 9名 | 1社 |
| 個別企業説明会[19] | 4年次 | 10月5日 | 3名 | 1社 |
| 個別企業説明会[20] | 4年次 | 10月6日 | 1名 | 1社 |
| 個別企業説明会[21] | 4年次 | 10月7日 | 2名 | 1社 |
| 個別企業説明会[22] | 4年次 | 10月8日 | 1名 | 1社 |
| 個別企業説明会[23] | 4年次 | 10月9日 | 3名 | 1社 |
| 個別企業説明会[24] | 4年次 | 10月12日 | 5名 | 1社 |
| 合同企業セミナー[1] | 3年次 | 2月1日 | 228名 | 15社 |
| 合同企業セミナー[2] | 3年次 | 2月3日 | 222名 | 15社 |
| 合同企業セミナー[3] | 3年次 | 2月5日 | 225名 | 15社 |
| 合同企業セミナー[4] | 3年次 | 2月8日 | 213名 | 14社 |
| 合同企業セミナー[5] | 3年次 | 2月10日 | 200名 | 15社 |
| 合同企業セミナー[6] | 3年次 | 2月12日 | 220名 | 15社 |
| 合同企業セミナー[7] | 3年次 | 2月15日 | 193名 | 14社 |
| 合同企業セミナー[8] | 3年次 | 2月17日 | 185名 | 14社 |
| 合同企業セミナー[9] | 3年次 | 2月19日 | 190名 | 15社 |
| 合同企業セミナー[10] | 3年次 | 2月22日 | 183名 | 15社 |
| 合同企業セミナー[11] | 3年次 | 2月24日 | 180名 | 15社 |
| 合同企業セミナー[12] | 3年次 | 2月26日 | 204名 | 15社 |
| お悩み相談会(Zoom座談会) | 4年次 | 5月21日 | 3名 | |
| WEB模擬面接会 | 4年次 | 5月28日 | 2名 | |
| LINE相談会 | 4年次 | 6月10日 | 26名 | |
| TDK(株)テクニカルセンター一般職 学内説明会 | 4年次 | 6月23日 | 22名 | |
| LINE相談会 | 4年次 | 7月10日 | 23名 | |
| アシックスジャパン学内限定オンライン説明会 | 4年次 | 8月27日 | 4名 | |
| 留学生就職ガイダンス(全学年対象) | 4年次 | 11月5日 | 51名 | |
| 内定獲得のためのロードマップ作成講座 | 4年次 | 11月17日 | 16名 | |
| 留学生対象オンキャンパスインターンシップ | 4年次 | 11月26日 | 13名 | |
| 卒業生とのオンライン懇談会(SMC株式会社) | 4年次 | 1月14日 | 16名 | 1社 |
| 埼玉県警察官 国際捜査官(中国語)セミナー | 4年次 | 1月20日 | 8名 | 1社 |

表 5-5 就職試験対策関連活動

| 内容 | 対象年次 | 開催・実施日 | 参加者数 |
|----------|------|---------------------|-------|
| SPI 対策講座 | 全学年 | 全 10 回 11月17日～1月26日 | ※256名 |

※全日程の合計

表 5-6 コロナ禍における就職活動支援活動(YouTube 配信)

| 内 容 | 対象年次 | 配信月 | 再生回数 |
|--------------------------|------|-----|------|
| 就活の現状について(ライブ配信) | 4年次 | 4月 | 258 |
| 業界研究会「IT業界」 | 4年次 | 4月 | 132 |
| 今後の就活の見通しと対策 | 4年次 | 4月 | 82 |
| 寄せられた質問への回答 | 4年次 | 5月 | 56 |
| 履歴書の書き方とポイント | 4年次 | 5月 | 85 |
| 今後の動きやキャリアセンターサイトの紹介 etc | 4年次 | 5月 | 53 |
| 人事目線の面接対策 | 4年次 | 5月 | 64 |

| | | | |
|------------------------------------|------|------|----|
| 面接強化週間 1 日目「自己紹介」&「なぜそれを選んだの?」の答え方 | 4 年次 | 5 月 | 47 |
| 面接強化週間 2 日目「自己PR」の答え方 | 4 年次 | 5 月 | 21 |
| 面接強化週間 3 日目「学生時代頑張ったこと」の答え方 | 4 年次 | 5 月 | 20 |
| 面接強化週間 4 日目「志望動機」&「やりたい業務」の答え方 | 4 年次 | 5 月 | 30 |
| 面接強化週間 5 日目「就活の軸」の答え方&「緊張したとき」の対策 | 4 年次 | 5 月 | 26 |
| 求人紹介(マリンフーズ、日本ケミコン、TDK) | 4 年次 | 6 月 | 49 |
| 求人紹介(理想科学工業、中村自工、ユー・エス・エス) | 4 年次 | 6 月 | 35 |
| インターンシップの探し方 | 3 年次 | 7 月 | 86 |
| インターンシップは何社参加する? | 3 年次 | 7 月 | 29 |
| IS の ES の志望動機 | 3 年次 | 7 月 | 13 |
| 新卒採用について | 3 年次 | 7 月 | 28 |
| 銀行の種類 | 3 年次 | 7 月 | 31 |
| キャリア形成演習にメリット | 3 年次 | 7 月 | 64 |
| おススメのアニメ紹介 | 3 年次 | 7 月 | 59 |
| おススメの本紹介 | 3 年次 | 7 月 | 21 |
| 来年の就活に備えろ! 4 月~6 月期企業の赤字ラッシュ | 3 年次 | 8 月 | 27 |
| 証券会社の種類 | 3 年次 | 8 月 | 12 |
| 改めてコロナ対策を(インターンシップ通勤時など) | 3 年次 | 8 月 | 22 |
| 証券会社の業務 | 3 年次 | 8 月 | 13 |
| 令和の大学生がやっておくことシリーズ①情報発信 | 3 年次 | 8 月 | 33 |
| 銀行の業務 | 3 年次 | 8 月 | 48 |
| 就職活動本番が 1 ヶ月早まるかも? | 3 年次 | 8 月 | 10 |
| 上場と非上場ってなに? | 3 年次 | 9 月 | 21 |
| 筆記試験対策が手についてない皆さんへ | 3 年次 | 9 月 | 21 |
| 企業情報を集めるときに使えるサイトについて | 3 年次 | 9 月 | 24 |
| キャリア形成演習に参加する皆さんへ | 3 年次 | 9 月 | 34 |
| おススメの漫画について(フラジャイル) | 3 年次 | 9 月 | 7 |
| 令和の大学生がやっておくべきことシリーズ②(プログラミング) | 3 年次 | 9 月 | 33 |
| 玉手箱ってなに? | 3 年次 | 9 月 | 10 |
| 3 回のキャリア形成演習を終えて | 3 年次 | 9 月 | 10 |
| 筆記試験の見分け方 | 3 年次 | 9 月 | 7 |
| 個別説明会開始します! | 4 年次 | 9 月 | 8 |
| 活動中の皆さんへ→求人コンシェルジュサービスの紹介 | 4 年次 | 9 月 | 36 |
| 個別説明会参加企業の紹介② | 4 年次 | 9 月 | 35 |
| 個別説明会参加企業の紹介③ | 4 年次 | 9 月 | 48 |
| 業界は絞るという幻想 | 3 年次 | 10 月 | 10 |
| ニッチな金融業界について | 3 年次 | 10 月 | 8 |
| 令和の大学生がやっておくべきシリーズ③(教養) | 3 年次 | 10 月 | 6 |
| おススメの漫画について(風雲児たち) | 3 年次 | 10 月 | 6 |
| 資産運用について①投資の鉄則 | 3 年次 | 10 月 | 7 |
| 11/17 スタート! 筆記試験対策講座について | 3 年次 | 11 月 | 28 |
| 鬼滅の刃の映画を観ました | 3 年次 | 11 月 | 6 |
| 売上高? 営業利益? 経常利益? ってなに? | 3 年次 | 11 月 | 7 |
| 計画された偶然(ブランドハプンスタンスセオリー) | 3 年次 | 11 月 | 17 |

表 5-7 就職相談室等の状況

| 名称 | スタッフ数 | 開室日数週当たり | 開室時間 | 備考 |
|------|-------|----------|----------------|-----------|
| 個人面談 | ※15 名 | 5 日 | 9:00~16:30(平日) | ※土・日曜日は開室 |

※スタッフ数は 3 月 31 日時点のもの

麗澤大学年報
2020 年度

編 集 麗澤大学自己点検・認証評価委員会
発 行 麗澤大学
〒277-8686 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1
TEL : 04-7173-3601(代表)
